秋田県文化財調査報告書196集

諏訪台C遺跡発掘調査報告書

－釈迦内地区農免農道整備事業－

1990・3

秋田県教育委員会

秋田県埋蔵文化財センター

諏訪台Ｃ遺跡発掘調査報告書

－釈迦内地区農免農道整備事業－

１９９０・３

秋田県教育委員会

序

本報告書は、大館市釈迦内地区農免農道整備事業に先立ち発掘調査を実施した大館市大茂内にある諏訪台Ｃ遺跡の調査結果をまとめたものであります。

諏訪台Ｃ遺跡はこの農道路線上の分布調査によって明らかになったものです。調査の結果、縄文時代後期初頭を中心とした遺物、弥生時代初頭の住居跡、平安時代の住居跡とそれらに伴って多くの遺物が発見されました。

中でも弥生時代初頭の住居跡は、秋田県北部でははじめて検出されたもので、それから出土した土器とともに注目されています。

今回発掘調査した地域は、広い遺跡の中で農道によって破壊された部分だけの調査であります。したがって多くの貴重な埋蔵文化財はまだ、この道路の両側に保存されています。

この報告書が今後この遺跡の保護に利用されることはもちろん、さらに広く活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本調査に御協力をいただきました秋田県農政部北秋田農林事務所・大館市教育委員会をはじめ関係各位に対し、深く感謝申し上げます。

平成２年３月15日

秋田県教育委員会

教育長　橋　本　顕　信

例　言

1．本報告書は、釈迦内地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．本報告書の執筆分担は、第１～３章・第４章第４節・まとめ２を利部修が、第４章第１節～３節・まとめ１は和泉昭一が担当した。

3．本報告書の編集は利部・和泉が行なった。

4．本報告書の作成にあたり以下の方々や機関から助言を得た。記して謝意を表する。
板橋範芳、工藤竹久、須藤 隆、高橋亜貴子、中野 宥、中村五郎、奈良昌毅、成田誠治、林 謙作、弘前市教育委員会、藤田弘道、松本建速、村越 潔（敬省略、五十音順）

5．第５章「自然科学的分折」のうち、第１節の熱残留磁気測定については秋田大学鉱山学部助教授、西谷忠師先生に執筆をお願いした。^{14}Ｃ測定については学習院大学年代測定室に、火山灰測定をパリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。また、石質の鑑定を秋田県立博物館学芸主事佐々木厚氏にお願いした。

6．土色および土器の表記は、農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に拠った。

凡　例

1．遺構実測図は、1/60を基本としたが、それ以外のものもある。

2．遺物の実測図は1/3・1/4を基本とし、1/4のものは（　）付けで表記したものもである。

3．遺構・遺物には以下のような略記号を付してある。
ＳＩ‥竪穴住居跡、ＳＢ‥建物跡、ＳＺ‥炉跡、ＳＮ‥焼土遺構、ＳＲ‥土器埋設遺構、ＳＱ‥集石、ＳＫＦ‥フラスコ状土坑、ＳＫ‥土坑、ＳＸ‥不明遺構、Ｐ‥柱穴、Ｓ‥礫、Ｋ‥鉄製品、Ｓ１‥石製品

4．挿図中のスクリーントーン・シンボルマークは以下のように使用した。

スクリーントーン

- 地　　山
- 十和田ａ降下火山灰
- 白頭山火山灰・磨面
- 焼土・ベンガラ

シンボルマーク

- 土　器・土製品
- 石　器・石製品
- 鉄製品

序
例言・凡例
目　次
挿図目次
表目次
図版目次

目　次

第１章　はじめに……1
　第１節　調査に至るまで……1
　第２節　調査の組織と構成……1
第２章　遺跡の立地と環境……3
　第１節　遺跡の位置と立地……3
　第２節　歴史的環境……4
第３章　発掘調査の概要……7
　第１節　遺跡の概観……7
　第２節　調査方法……11
　第３節　調査経過……12
第４章　調査の記録……13
　第１節　縄文時代の遺構と遺物……13
　　１．竪穴住居跡……13
　　２．建物跡……16
　　３．炉跡……16
　　４．焼土遺構……20
　　５．土器埋設遺構……21
　　６．フラスコ状土坑……21
　　７．土坑……24
　第２節　弥生時代の遺構と遺物……37
　　１．竪穴住居跡……37
　　２．焼土遺構……46
　　３．集石……50
　第３節　平安時代の遺構と遺物……50
　　１．竪穴住居跡……50
　　２．不明遺構……54
　第４節　出土遺物……58
　　１．土器・土製品……58
　　２．石器・石製品……72
第５章　自然科学的分析……141
　第１節　熱残留磁気測定……141
　第２節　^{14}C年代測定……145
　第３節　火山灰分析……146
まとめ　……149
　　１．検出遺構について……149
　　２．Ⅳ群土器について……151

挿　図　目　次

第１図　諏訪台Ｃ遺跡周辺の地形と路線計画図……2
第２図　諏訪台Ｃ遺跡の位置と周辺の遺跡……5
第３図　遺跡基本土層図・土層と遺構の関係模式図……8
第４図　遺構配置図と時代別遺構・遺物分布図……9・10
第５図　ＳＩ68竪穴住居跡……14
第６図　ＳＩ76竪穴住居跡……15
第７図　ＳＢ37建物跡・ＳＮ77焼土遺構……17
第８図　ＳＺ炉跡(1)・ＳＮ焼土遺構(1)……22
第９図　ＳＺ炉跡(2)・ＳＲ土器埋設遺構……23
第10図　ＳＫＦフラスコ状土坑・ＳＫ土坑(1)……32
第11図　ＳＫ土坑(2)……33
第12図　ＳＫ土坑(3)……34
第13図　ＳＫ土坑(4)……35
第14図　ＳＫ土坑(5)……36
第15図　ＳＩ28竪穴住居跡……38
第16図　ＳＩ33竪穴住居跡……40
第17図　ＳＩ34竪穴住居跡……41
第18図　ＳＩ60竪穴住居跡……43・44
第19図　ＳＩ61竪穴住居跡……47・48
第20図　ＳＮ焼土遺構(2)……51・52
第21図　ＳＱ集石……53
第22図　ＳＩ18竪穴住居跡……55
第23図　ＳＩ18竪穴住居跡カマド……56
第24図　ＳＩ32竪穴住居跡・ＳＸ51不明遺構……57

第25図　縄文土器分類模式図……59
第26図　Ⅳ群土器分類模式図……63・64
第27図　遺構内出土遺物(1)……75
第28図　遺構内出土遺物(2)……76
第29図　遺構内出土遺物(3)……77
第30図　遺構内出土遺物(4)……78
第31図　遺構内出土遺物(5)……79
第32図　遺構内出土遺物(6)……80
第33図　遺構内出土遺物(7)……81
第34図　遺構内出土遺物(8)……82
第35図　遺構内出土遺物(9)……83
第36図　遺構内出土遺物(10)……84
第37図　遺構内出土遺物(11)……85
第38図　遺構内出土遺物(12)……86
第39図　遺構内出土遺物(13)……87
第40図　遺構内出土遺物(14)……88
第41図　遺構内出土遺物(15)……89
第42図　遺構内出土遺物(16)……90
第43図　遺構内出土遺物(17)……91
第44図　遺構内出土遺物(18)……92
第45図　遺構外出土土器(1)……93
第46図　遺構外出土土器(2)……94
第47図　遺構外出土土器(3)……95
第48図　遺構外出土土器(4)……96
第49図　遺構外出土土器(5)……97
第50図　遺構外出土土器(6)……98
第51図　遺構外出土土器(7)……99
第52図　遺構外出土土器(8)……100
第53図　遺構外出土土器(9)……101
第54図　遺構外出土土器(10)……102
第55図　遺構外出土土器(11)……103
第56図　遺構外出土土器(12)……104
第57図　遺構外出土土器(13)……105
第58図　遺構外出土土器(14)……106
第59図　遺構外出土土器(15)……107
第60図　遺構外出土土器(16)……108
第61図　遺構外出土土器(17)……109
第62図　遺構外出土土器(18)……110
第63図　遺構外出土石器(1)……111
第64図　遺構外出土石器(2)……112
第65図　遺構外出土石器(3)……113
第66図　遺構外出土石器(4)……114
第67図　遺構外出土石器(5)……115
第68図　遺構外出土石器(6)……116
第69図　遺構外出土石器(7)……117
第70図　遺構外出土石器(8)……118
第71図　諏訪台Ｃ遺跡遺構配置略図……144
第72図　交流消磁による残留磁化強度の変化……144
第73図　交流消磁による磁化方位の変化……144
第74図　諏訪台Ｃ遺跡の測定結果……144
第75図　諏訪台Ｃ遺跡鉱物組成ダイアグラム……148
第76図　弥生時代の竪穴住居跡配置図……151

表　目　次

第１表　諏訪台Ｃ遺跡と周辺の遺跡一覧表……6
第２表　土器観察表(1)……119
第３表　土器観察表(2)……120
第４表　土器観察表(3)……121
第５表　土器観察表(4)……122
第６表　土器観察表(5)……123
第７表　土器観察表(6)……124
第８表　土器観察表(7)……125
第９表　土器観察表(8)……126
第10表　土器観察表(9)……127
第11表　土器観察表(10)……128
第12表　土器観察表(11)……129
第13表　土器観察表(12)……130
第14表　土器観察表(13)……131
第15表　土器観察表(14)……132
第16表　土器観察表(15)……133
第17表　土器観察表(16)……134
第18表　土器観察表(17)……135
第19表　土器観察表(18)……136
第20表　石器観察表(1)……137
第21表　石器観察表(2)……138
第22表　石器観察表(3)……139
第23表　石器観察表(4)……140
第24表　諏訪台Ｃ遺跡古地磁気測定結果……143
第25表　諏訪台Ｃ遺跡鉱物組成……148

図 版 目 次

図版１．１　調査前近景（南東▷北西）
　　２　調査後近景（南東▷北西）
図版２．１　ＳＩ68完掘（東▷西）
　　２　ＳＩ76完掘（北西▷南東）
図版３．１　ＳＢ37完掘（東▷西）
　　２　ＳＢ37・ピット５完掘（北東▷南西）
　　３　ＳＢ37・ピット３土層断面（北▷南）
図版４．１　ＳＺ02完掘（南西▷北東）
　　２　ＳＺ03完掘（西▷東）
　　３　ＳＮ06確認（西▷東）
　　４　ＳＺ19土層断面・遺物出土状況（南▷北）
　　５　ＳＺ19完掘（南▷北）
　　６　ＳＮ22土層断面（南▷北）
　　７　ＳＺ27土層断面（南▷北）
　　８　ＳＺ41遺物出土状況・完掘（南西▷北東）
図版５．１　ＳＺ48遺物出土状況（北東▷南西）
　　２　ＳＺ48完掘（北西▷南東）
　　３　ＳＺ53完掘（北▷南）
　　４　ＳＮ57土層断面（北西▷南東）
　　５　ＳＮ59(右)・ＳＫ58(左)確認（北西▷南東）
　　６　ＳＺ62完掘（北▷南）
　　７　ＳＮ65土層断面（北東▷南西）
　　８　ＳＺ75土層断面・完掘（北東▷南西）
図版６．１　ＳＫＦ42完掘（北東▷南西）
　　２　ＳＫＦ44完掘（東▷西）
　　３　ＳＫＦ67土層断面・完掘（北東▷南西）
図版７．１　ＳＲ05土層断面（南西▷北東）
　　２　ＳＫ01(左)・ＳＫ17(右)完掘（西▷東）
　　３　ＳＫ04確認・遺物出土状況（南▷北）
　　４　ＳＫ04完掘（西▷東）
　　５　ＳＫ07完掘（東▷西）
　　６　ＳＫ08完掘（南西▷北東）
　　７　ＳＫ09(右)・ＳＫ10(左)完掘（東▷西）
　　８　ＳＫ11完掘（南西▷北東）
図版８．１　ＳＫ12(奥)・ＳＫ13(手前)完掘(南西▷北東)
　　２　ＳＫ14完掘（北▷南）
　　３　ＳＫ15完掘（南西▷北東）
　　４　ＳＫ16完掘（西▷東）
　　５　ＳＫ20遺物出土状況・完掘（東▷西）
　　６　ＳＫ21完掘（北東▷南西）
　　７　ＳＫ23遺物出土状況（南西▷北東）
　　８　ＳＫ23完掘（南西▷北東）
図版９．１　ＳＫ24完掘（北東▷南西）
　　２　ＳＫ25遺物出土状況・完掘（南▷北）
　　３　ＳＫ26完掘（南▷北）
　　４　ＳＫ29遺物出土状況・完掘（東▷西）
　　５　ＳＫ30完掘（南▷北）
　　６　ＳＫ31完掘（北西▷南東）
　　７　ＳＫ35完掘（南西▷北東）
　　８　ＳＫ36遺物出土状況（南西▷北東）
図版10．１　ＳＫ38遺物出土状況（南▷北）
　　２　ＳＫ39(右)・ＳＫ40(左)完掘（南西▷北東）
　　３　ＳＫ54完掘（北西▷南東）
　　４　ＳＫ55完掘（北▷南）
　　５　ＳＫ58遺物出土状況（北西▷南東）
　　６　ＳＫ63完掘（北東▷南西）
　　７　ＳＫ64完掘（北東▷南西）
　　８　ＳＫ66土層断面・完掘（北東▷南西）
図版11．１　ＳＫ69遺物出土状況（南▷北）
　　２　ＳＫ69完掘（北東▷南西）
　　３　ＳＫ70土層断面・遺物出土状況（南西▷北東）
　　４　ＳＫ71完掘（西▷東）
　　５　ＳＫ72完掘（北東▷南西）
　　６　ＳＫ73完掘（西▷東）
　　７　ＳＫ74完掘（南東▷北西）
　　８　ＳＫ79完掘（西▷東）
図版12．１　ＳＩ28完掘（西▷東）
　　２　ＳＩ28遺物出土状況(1)（西▷東）
　　３　ＳＩ28遺物出土状況(2)（南西▷北東）
図版13．１　ＳＩ33完掘（南西▷北東）
　　２　ＳＩ34完掘（北東▷南西）
図版14．１　ＳＩ33土層断面（南▷北）
　　２　ＳＩ33埋設土器精査状況（南東▷北西）
　　３　ＳＩ34石囲炉土層断面・完掘（東▷西）
図版15．１　ＳＩ60完掘（南西▷北東）
　　２　ＳＩ60遺物出土状況(1)（南西▷北東）
　　３　ＳＩ60遺物出土状況(2)（南東▷北西）
　　４　ＳＩ60土器埋設炉土層断面（西▷東）
　　５　ＳＩ60土器埋設炉掘り方完掘（西▷東）
図版16．１　ＳＩ61完掘（北東▷南西）
　　２　ＳＩ61土器埋設炉土層断面（南西▷北東）
　　３　ＳＩ61石囲炉完掘（北西▷南東）

4　ＳＩ61壁溝・ベンガラ土層断面（西▷東）
5　ＳＩ61遺物出土状況(1)（北西▷南東）
図版17．1　ＳＩ61遺物出土状況(2)（南東▷北西）
2　ＳＩ61遺物出土状況(3)（南東▷北西）
3　ＳＩ61遺物出土状況(4)・
灰白色粘質土検出状況（北▷南）
図版18．1　ＳＮ45確認（南東▷北西）
2　ＳＮ47(左)・ＳＮ56(右)土層断面（東▷西）
3　ＳＮ52遺物出土状況（東▷西）
4　ＳＮ56炭化栗出土状況(1)（東▷西）
5　ＳＮ56炭化栗出土状況(2)（北東▷南西）
6　ＳＱ43完掘（西▷東）
7　ＳＱ49完掘（南西▷北東）
8　ＳＱ50完掘（北東▷南西）
図版19．1　ＳＩ18完掘（西▷東）
2　ＳＩ32完掘（西▷東）
図版20．1　ＳＩ18カマド内遺物出土状況（西▷東）
2　ＳＩ32白頭山火山灰検出状況（東▷西）
3　ＳＸ51遺物出土状況（南東▷北西）
図版21．　出土遺物(1)
図版22．　出土遺物(2)
図版23．　出土遺物(3)
図版24．　出土遺物(4)
図版25．　出土遺物(5)
図版26．　出土遺物(6)
図版27．　出土遺物(7)
図版28．　出土遺物(8)
図版29．1　遺構内出土遺物(1)
2　遺構内出土遺物(2)
図版30．1　遺構内出土遺物(3)
2　遺構内出土遺物(4)
図版31．1　遺構内出土遺物(5)
2　遺構内出土遺物(6)
図版32．1　遺構内出土遺物(7)
2　遺構内出土遺物(8)
図版33．1　遺構内出土遺物(9)
2　遺構内出土遺物(10)
図版34．1　遺構内出土遺物(11)
2　遺構内出土遺物(12)
図版35．1　遺構内出土遺物(13)
2　遺構内出土遺物(14)
図版36．1　遺構内出土遺物(15)
2　遺構内出土遺物(16)
図版37．1　遺構外出土土器(1)
2　遺構外出土土器(2)
図版38．1　遺構外出土土器(3)
2　遺構外出土土器(4)
図版39．1　遺構外出土土器(5)
2　遺構外出土土器(6)
図版40．1　遺構外出土土器(7)
2　遺構外出土土器(8)
図版41．1　遺構外出土土器(9)
2　遺構外出土土器(10)
図版42．1　遺構外出土土器(11)
2　遺構外出土土器(12)
図版43．1　遺構外出土土器(13)
2　遺構外出土土器(14)
図版44．1　遺構外出土土器(15)
2　遺構外出土土器(16)
図版45．1　遺構外出土土器(17)
2　遺構外出土土器(18)
図版46．1　遺構外出土土器(19)
2　遺構外出土土器(20)
図版47．1　遺構外出土土器(21)
2　遺構外出土土器(22)
図版48．1　遺構外出土土器(23)
2　遺構外出土土器(24)
図版49．1　遺構外出土土器(25)
2　遺構外出土土器(26)
図版50．1　遺構外出土土器(27)
2　遺構外出土土器(28)
図版51．1　遺構外出土土器(29)
2　遺構外出土石器(1)
図版52．1　遺構外出土石器(2)
2　遺構外出土石器(3)
図版53．1　遺構外出土石器(4)
2　遺構外出土石器(5)
図版54．1　遺構外出土石器(6)
2　遺構外出土石器(7)
図版55．1　遺構外出土石器(8)
2　遺構外出土石器(9)
図版56．1　遺構外出土石器(10)
2　遺構外出土石器(11)
図版57．　文様・調整技法
図版58．1　成形・調整技法
2　ＳＮ56出土炭化栗

第１章　はじめに

第１節　調査に至るまで

釈迦内地区農道整備事業は、大館市釈迦内地区周辺の地域活性化のために昭和62年４月に計画が策定され、平成３年３月完成を目処に実施されている。工事区域は、市街地北東の大茂内字上瘤木台から北西方向に延び商人留字清水沢に至る、幅約10m総延長2,641mの路線である。

この工事に先立って北秋田農林事務所土地改良課では、昭和63年２月秋田県教育委員会教育長あてに、路線内における埋蔵文化財の有無の調査を依頼した。調査の結果、新しく諏訪台Ｃ遺跡を確認。そこで秋田県教育委員会では、同年10月大茂内地区の台地を中心に範囲確認調査を行なった結果、台地の縁から中央までの約130mの範囲にたくさんの遺構や遺物が検出されたのである。そして、農政部と秋田県教育委員会とで協議し、平成元年５月諏訪台Ｃ遺跡の埋蔵文化財発掘調査を実施することにとなった。

平成元年４月、土地改良課の阿部・森両氏と調査担当が現地で発掘調査区の現状把握と調査に関しての打ち合わせを行った。そこでは、狭い路線内における排土処理の問題等、全面的な協力を約束していただき、本調査を実施したのである。

第２節　調査の組織と構成

所　在　地	秋田県大館市大茂内字諏訪台33外
調査期間	平成元年５月８日～６月30日
調査面積	1,300m²
調査主体者	秋田県教育委員会
調査担当者	利　部　　修（秋田県埋蔵文化財センター　学芸主事）
	和　泉　昭　一（　　同　　非常勤職員）
調査事務担当者	佐　田　　茂（　　同　　主査）
	高　橋　忠太郎（　　同　　主事）
調査協力機関	秋田県農政部北秋田農林事務所
	大館市教育委員会

第１図　諏訪台Ｃ遺跡周辺の地形と路線計画図

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　遺跡の位置と立地（第１図）

大館市は秋田県の北部中央にあり、青森県と県境を画している十和田からは鹿角郡を挟んで南西に位置している。大館盆地は北の白神山地と奥羽脊梁山脈の西側を縦走している出羽丘陵の北端にある山々に囲まれた地域で、沖積低地や沖積段丘となっている。

大館市街地は米代川で分断された沖積地の北東に発達し、さらに市街地は東西に流れる長木川によって南北に二分されている。市街地の西側ではこの長木川に北東から流れ込む下内川があり、これらの３つの河川が市街地を含む大館盆地の開発に大きく関わっている。遺跡が所在する大館盆地北東部の通称長木地区は、沖積地の北東端沖積段丘にあり同時にそこは、長木川、その北の茂内沢、さらに北側の大茂内沢谷口から発達した扇状地ともなっている。この地域の北・東・南側にかけてはそれぞれ高森山・鍋越山・鳳凰山などの山塊が連なり、西側には大館市街地に続く水田が広がっている。遺跡は、小坂鉄道小坂線東代野駅北に接する大茂内集落のさらに北側にあるほぼ平坦な舌状台地上に立地している。

北東部を除く三方が沖積地となっている台地は、遺跡から北東約５㎞の高倉山から南西に延びる高倉山山地の裾野にあたり、広さは約400m×250m標高100～110mである。遺跡はこの台地の北西縁に沿って広範な広がりを示すと考えられるが、調査区ではこの台地の中央から北西縁の中央部に至る幅約10m長さ約130mの範囲である。この調査区を含む台地は杉の植林化が進み、その仕事のために利用する山道が調査区のほぼ中央を横断している。調査初期の段階ではたくさんの抜根跡を確認したので、ある程度継続した植林地であることが判る。この台地は南西方向に極めて緩やかな傾斜を示すが、総じて北西・南東側では４～５ｍの高さで次の沖積段丘に急傾斜で移行し、南側では徐々に緩やかな傾斜を示しながら大茂内集落に移行している。

一方、この台地の地山層は第４紀完新世に形成されたもので、礫を含む扇状地堆積物である。地山上方の土壌は大茂内２統ａとされている褐色の森林土壌であり、泥岩・凝灰岩を母材とした埴質で比較的安定した土である。(註１) また、大館盆地を含む秋田県北東部では、十和田湖に起源をもつ十和田ａが広範に分布しており、大茂内２統ａの内上層に堆積している。

以上、遺跡の立地を大まかに見れば、その位置は安定した土壌である台地の縁辺にあり、同時に、沖積地の末端に選地していると言える。このことは沖積地での生業と無関係ではないであろう。このように各時代の内容は、上述した地理的環境と深く関わっている。

第２節　歴史的環境（第２図，第１表）

米代川とそれに合流する長木川を中心として形成された大館盆地には、流域ごとに遺跡の分布が認められる。遺跡分布の状況は、大館市街地南側の米代川右岸にある縄文時代中心の地域（26～28・30・31・33・37・39～43・45～48）、その西にある犀川に挟まれた平安時代以降の遺跡（52～56）、さらにその西に晩期の広範な遺跡（67～73・75・76）や中世館跡（60・61・63～65・74）が連なる引欠川左岸の地域がある。[註2] また、市街地の北には平安時代以降の遺跡（14～15・19・20）が点在している下内川右岸地域、そして諏訪台Ｃ遺跡（１）のある、市街地東側の長木川とそれに注ぐ大茂内沢の河川に挟まれた地域とがある。市街地の北には、白沢地区にある平安時代の大集落大館野遺跡や松原地区にある中世矢立廃寺が含まれている。[註3]

諏訪台Ｃ遺跡周辺は、縄文時代前期では茂内遺跡（９）、中期では、諏訪台Ａ遺跡（２）がある。後期では、十腰内土器様式とともに目にアスファルトを使用した土偶が出土した塚の下遺跡（６）や塚の下Ａ遺跡（７）・Ｂ遺跡（８）があり、諏訪台Ｃ遺跡のある台地南側沖積段丘に立地している。晩期では大茂内沢河川右岸沖積地にある大茂内遺跡があげられ、諏訪台Ｃ遺跡晩期出土遺物との関連が考えられる。[註4]

諏訪台Ｃ遺跡からは、縄文・弥生・平安の各時代の土器が出土しているが、特に本遺跡を特徴づけている遺物に弥生時代初頭の土器をあげることができる。弥生時代の遺跡は、大館市軽井沢の鳶ヶ長根Ⅳ遺跡から出土した小坂Ｘ式土器があり、隣接する田代町山田の柏木遺跡からも同期の土壙墓が検出されている。また、諏訪台Ｃ遺跡の近郊に目を移せば、大館市花岡町の粕田遺跡からは砂沢式・二枚橋式期に関わる土器が出土しているほか、[註5] 米代川右岸川口の鳴滝遺跡からは、諏訪台Ｃ遺跡出土土器と類似する弥生初頭と考えられる土器が出土している。[註6]

参考文献

註１　関喜四郎他「大館」『土地分類基本調査』秋田県　1986（昭和61年）

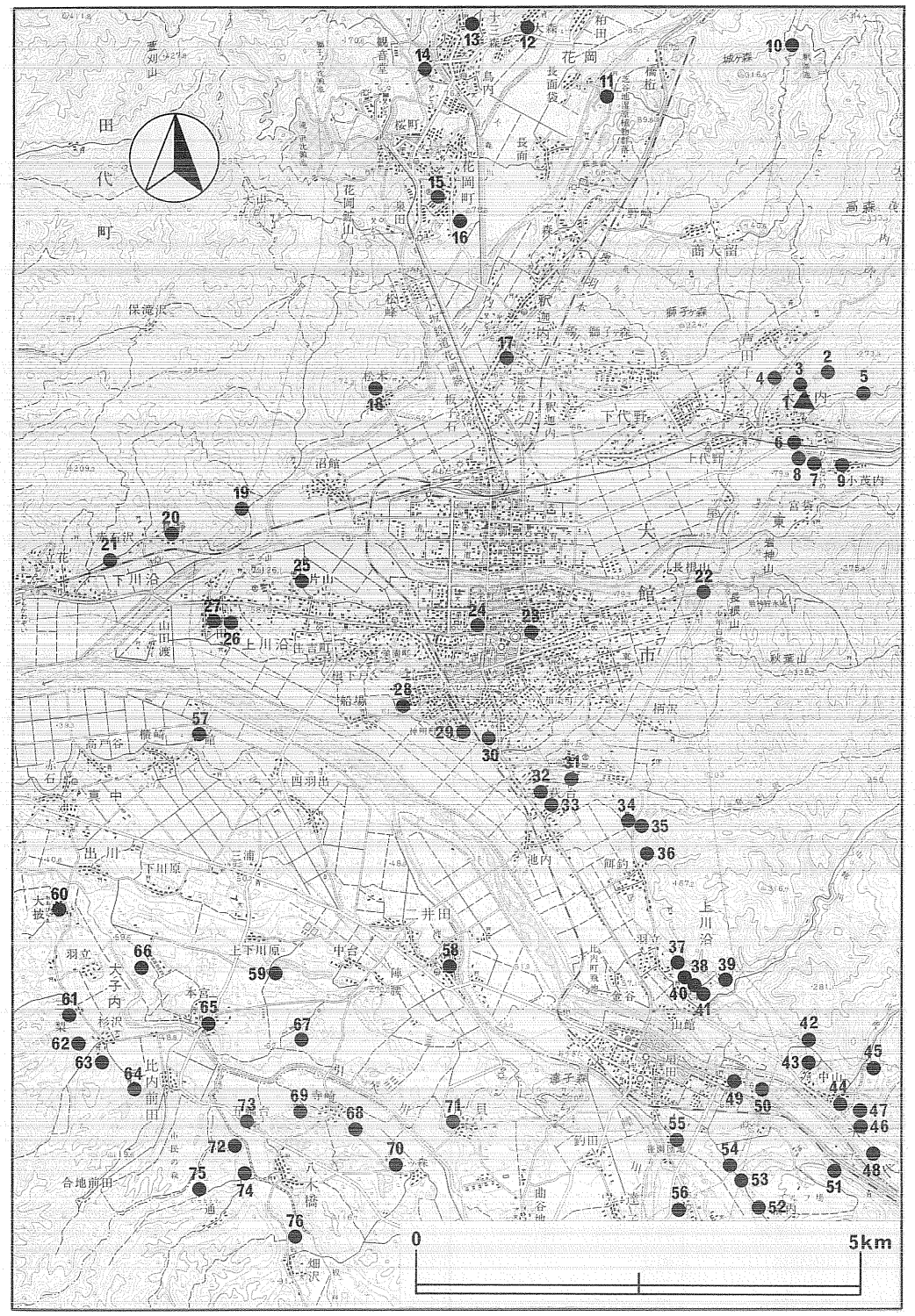
註２　秋田県教育委員会　『国道103号大館南バイパス建設事業による埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』秋田県文化財調査報告書第173集　1988（昭和63年）

註３　大館市教育委員会　『矢立廃寺発掘調査報告書』　1987（昭和62年）

註４　秋田県教育委員会　『塚の下遺跡発掘調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第61集　1979（昭和54年）

註５　大館市史編さん委員会　『大館市史』　第一巻　大館市　1979（昭和54年）

註６　1979年発行の鳴滝遺跡出土の弥生時代土器は、『大館市史』の中で大館市狐森出土土器として写真で紹介されているが、遺跡名については板橋範芳氏の教示を得ている。



第２図　諏訪台Ｃ遺跡の位置と周辺の遺跡

第１表　諏訪台Ｃ遺跡と周辺の遺跡一覧表

番号	遺　跡　名	時　期	番号	遺　跡　名	時　期
1	諏訪台Ｃ遺跡	縄文(前・後・晩期)・弥生・平安	39	山館遺跡	縄文（前・晩期）
2	諏訪台Ａ遺跡	縄文（中期）	40	上ノ山Ⅰ遺跡	縄文（前・晩期）
3	諏訪台Ｂ遺跡	古代	41	上ノ山Ⅱ遺跡	縄文（後・晩期）
4	大茂内遺跡	縄文（晩期）	42	兎沢遺跡	縄文（後期）
5	小茂内沢遺跡	縄文	43	竜毛岱遺跡	縄文（中・後期）・中世
6	塚の下遺跡	縄文（後期）・古代	44	中山遺跡	古代
7	塚の下Ａ遺跡	縄文（後期）	45	桜殿遺跡	縄文（中期）
8	塚の下Ｂ遺跡	縄文（後期）	46	野沢岱Ｃ遺跡	縄文（早・前期）
9	茂内遺跡	縄文（前期）	47	野沢岱Ｄ遺跡	縄文（前期）
10	釈迦湖底遺跡	縄文（前・中・後・晩期）	48	下聖Ⅱ遺跡	縄文（前期）
11	福館・橋桁野遺跡	縄文（前・中期）	49	市川遺跡	古代
12	大森遺跡	縄文（前期）	50	本道端遺跡	縄文（前・中期）
13	本郷下遺跡	縄文（晩期）	51	横沢遺跡	縄文（前期）
14	七ツ館	中世	52	袖ノ沢遺跡	縄文・平安
15	花岡城	中世	53	横沢遺跡	縄文（早・中・後期）・平安
16	女目館	中世	54	大岱遺跡	縄文（前期）・平安
17	釈迦内館	中世	55	長岡城	中世
18	松木遺跡	縄文（前期）	56	真館	中世
19	沼館	中世	57	榧崎館	中世
20	赤石沢遺跡	縄文（中・後・晩期）	58	新田館	平安末～中世
21	押館	中世	59	中台遺跡	縄文（中期）
22	長根山公園遺跡	縄文（晩期）	60	大披館	中世
23	大館城	中世～近世	61	太子内館	中世
24	土飛山遺跡	中世	62	薬子袋遺跡	古代
25	片山館コ遺跡	中世	63	杉沢館	中世
26	芋堀沢遺跡	縄文（前・中期）	64	前田館	中世
27	餅田屋敷添遺跡	縄文（前期）	65	本宮館・本宮Ⅰ遺跡	中世・縄文（中期）
28	太平山遺跡	縄文（晩期）	66	本宮Ⅱ遺跡	縄文（前・中期）
29	小館花館	中世	67	本宮遺跡	縄文（晩期）
30	小館花遺跡	縄文（後・晩期）	68	寺崎Ⅰ遺跡	縄文（晩期）
31	萩の台遺跡	縄文（中期）	69	寺崎Ⅱ遺跡	縄文（晩期）
32	池内Ａ遺跡	古代	70	二ツ森遺跡	縄文（晩期）
33	池内Ｂ遺跡	縄文（前・中・後期）	71	片見遺跡	縄文（晩期）
34	餌釣館	中世	72	五輪台Ⅰ遺跡	縄文（晩期）
35	山王岱遺跡	縄文・平安・中世	73	五輪台Ⅱ遺跡	縄文（晩期）
36	餌釣遺跡	縄文	74	八木橋場	中世
37	羽立遺跡	縄文（晩期）	75	一通遺跡	縄文（晩期）
38	山館	中世	76	畑沢遺跡	縄文（晩期）

第３章　発掘調査の概要

第１節　遺跡の概観（第３・４図，図版１）

諏訪台Ｃ遺跡では、その調査面積が少ないにもかかわらず79の遺構と多量の遺物を検出した。時代は縄文時代で前期（繊維を含む）、後期前葉、晩期全般、弥生時代では初頭、平安時代では、前半代が主体である。時代ごとの内容を概観し基本土層の説明を行う。

縄文時代では、竪穴住居跡２軒・建物跡１棟・炉跡９基・焼土遺構７基・土器埋設遺構１基・フラスコ状土坑３基・土坑40基を検出した。住居跡は周溝をもち、建物跡は不正形の６本柱である。建物跡からは後期の小破片を検出している。石囲炉は７基あり、拳大の石を円くめぐらすものと大型の石をコ状に組んだものとがある。この７基の石囲炉のうち３基には後期の遺物が伴う。土坑は、前期ＳＫ40晩期ＳＫ23・29と遺物の伴わない21基を除くすべてに後期の遺物を含んでいる。縄文土器は、調査区全般から出土し、前期・晩期の土器は中央から北側にかけて多く認められているが、後期の遺物は調査区全域からまんべんなく出土しており、前期、晩期の遺物に比べて数多く分布している。また、後期と判明した遺構も、調査区の中央から北側にかけて多い分布を示している。30cm前後の石が黒色土中に広く認められたのは、これら後期の遺構・遺物の有り方と関係していると思われる。後期の土器は、初頭から十腰内Ｉ式期のものである。

弥生時代では、竪穴住居跡５軒・焼土遺構５基・集石３基を検出した。竪穴住居跡は、調査区の中央に切り合いをもたないで集中する大型の住居跡４軒と北側の端に位置する小型の住居跡とがある。全掘もしくはほぼ全掘できたのはＳＩ28とＳＩ60であり、他は約半分の調査である。住居跡の特色は、炉の不明なＳＩ33を除く４軒の住居跡に壁溝が認められること、４軒から検出された炉には、地床炉・石囲炉・土器埋設炉の種類が認められることである。５基検出された焼土遺構は、ＬＴ・ＭＡ52区に集中している。これらは、ほぼ同一レベルにあり、まとまりのある遺物や炭化物が同一平面で重なり、後述するが住居跡の可能性がある。したがって、焼土遺構のそれぞれは、竪穴住居跡内の焼土としてとらえられる。集石は拳大の石を敷きつめている２基と、20cm前後の石を立て並べてあるものと二種ある。弥生時代の遺物は遺構の密集している調査区中央に集中しているが、その北側と南側にも若干分布している。土器は所謂砂沢式期とその前後の時期である。縄文時代から弥生時代にかけての石器は、定型的な各種の石器以外にアスファルトの付着している剝片石器・スクレイパーなどが出土している。また、土

偶をはじめとする土製品も検出されている。

平安時代以降では、竪穴住居跡２軒・性格不明遺構１基を検出した。住居跡は２軒とも十和田ａを切り込んでおり、ＳＩ32の埋土には別の火山灰が堆積していた。性格不明遺構は、炭化材を十和田ａの直下に検出したものである。遺物は、住居跡とその付近から少量出土している。

次に遺跡の層位について述べることにする。基本層位は調査区西側のＭＢ42ポイント付近の層を基にして述べる。基本層はＩ～Ⅵ層まで分けることができる。

Ⅰ層　黒褐色土（10ＹＲ$^{2}/_{2}$）表土。粘性は少なく軟らかい。十和田ａを少量含む。層厚約10cm。

Ⅱ層　黒色土（7.5ＹＲ$^{2}/_{2}$）粘性・締まり普通。十和田ａを少量含む。層厚約15cm。

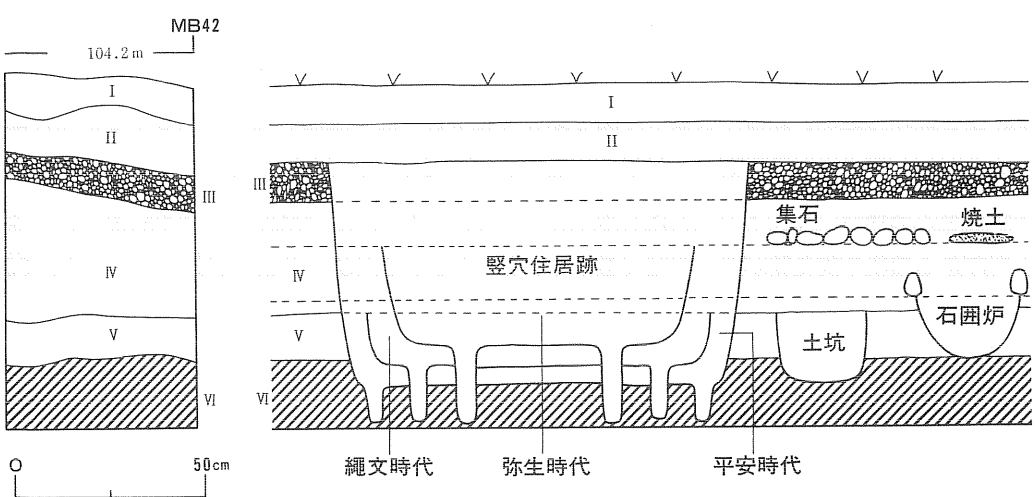
Ⅲ層　十和田ａ。表面は黄褐色、断面は灰白色。粘性はないが締まっている。層厚約10cm。

Ⅳ層　黒色土（7.5ＹＲ$^{2}/_{1}$）粘性は普通でやや締まる。１cm前後の小石を少量含む。弥生・縄文時代の遺物包含層。層厚約30～40cm。

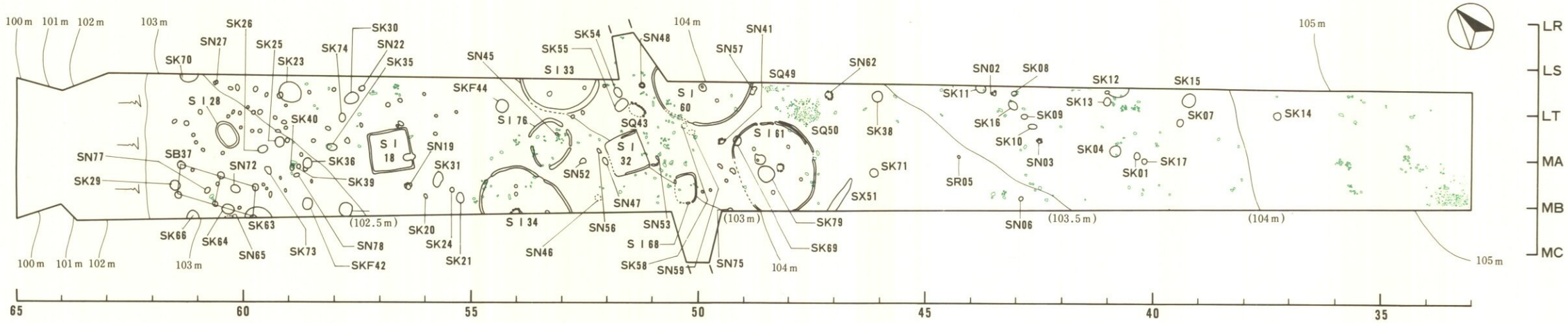
Ⅴ層　褐色土（10ＹＲ$^{4}/_{4}$）漸移層。粘性は普通でやや軟らかい。層厚約10cm。

Ⅵ層　黄褐色土（10ＹＲ$^{5}/_{8}$）砂を多量に含んだ地山土。礫を少量含む。

調査区における地表面から地山面までの厚さはほぼ60～80cmの厚さがあり、ＭＢラインでは33～62にかけて緩やかな傾斜を示している。また、特に調査区中央からその北側の調査区にかけては、東側から西側にかけて地山面が比較的顕著な傾斜を示している。このことは、ＳＩ61の床面において、その東側から西側の床面がⅥ層上面、Ⅴ層、Ⅵ層下位と推移していくことでも良く判る。一方、調査区内における十和田ａは比較的全域にあるものの、調査区南側では安定し、中央部から北側にかけては弥生時代の住居跡を除いて、厚く堆積しているまばらな有り方を示す傾向にある。この状況は耕作土による影響もあるが、先の地形傾斜の有り方と深く関わっていると考えられる。

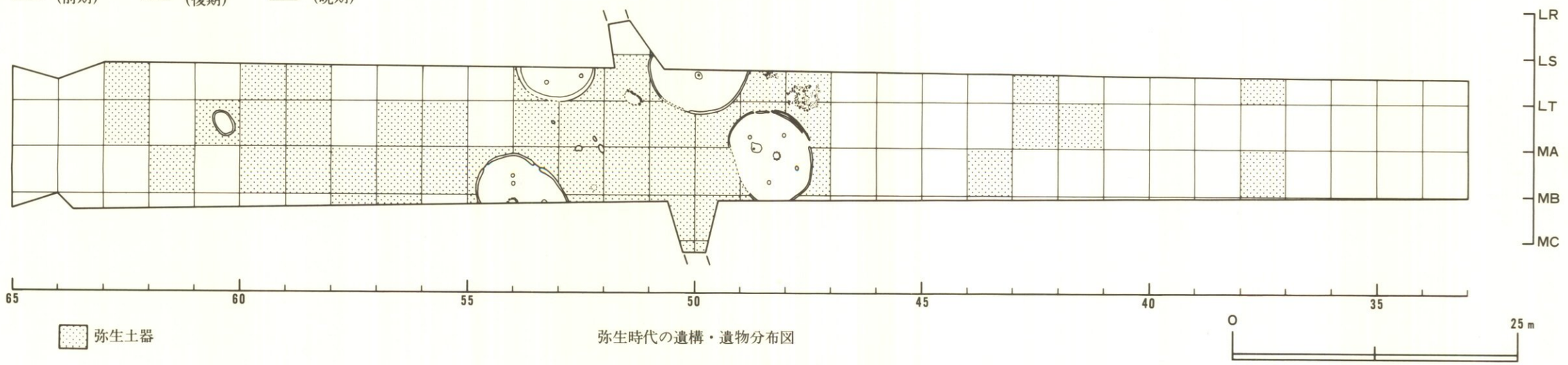


第３図　遺跡基本土層図・土層と遺構の関係模式図



縄文時代の遺構・遺物分布図

縄文土器（前期）　縄文土器（後期）　縄文土器（晩期）



弥生土器

弥生時代の遺構・遺物分布図

第４図　遺構配置図と時代別遺構・遺物分布図

第２節　調査方法（第４図）

発掘調査は、調査区全域を網羅するように４ｍの格子を組むグリッド方式を用いた。基準線は調査区が細長いため方位方向を採用せず、調査区の長軸方向（北西～南東）とそれに直交する方向の各線を利用した。すなわち、調査区の中央に仮原点となるＭＡ50の点を設定し、長軸方向では北の方へ‥20→80‥と算用数字を用い、西の方へは‥ＬＡ→ＬＴ、ＭＡ→ＭＴ‥とアルファベットを用いている。このうちアルファベットの二桁目は、一区画ごとに記号を変える１桁目のアルファベットであるＡ→Ｔまでをまとめた、大区画を意味している。グリッドの呼称は、これらの組合わせによる南東隅の交点の記号で表記した。

遺構名は検出された順番に01、02‥と算用数字を付けたが、その遺構の性格が判明した時点でアルファベットによるＳＩ（竪穴住居跡）などの種類別略記号を冠した。つまり、遺構略号と検出番号の組み合わせが各々の遺構名となる。これらの中には調査の進行にしたがって、その遺構の性格が変わり略記号を変更したもの、また、自然にできた窪地などと判明して番号を抹消したものもある。

遺構の調査にあたっては、掘込み面における平面プラン確認の後、土層観察用の壁を残して掘込み、土層断面図終了後完掘する手順を踏んだ。完掘後は遺構平面図を作成したが、途中で遺物が出土した時はなるべく平面図をつくるように心がけた。また遺構内における遺物と遺構外であっても大きな破片は、実測後、遺構名・グリッド名・出土層位・年月日を記入し、取りあげた。

記録は図面・写真・野帳を必要に応じてその都度活用したが、図面は、平面図・断面図・エレベーション図など基本的には$1/20$で作図することにした。ただし、カマドや集石など細部の表現が必要とされる場合は$1/10$で作図し、さらに、大きな縮尺を必要とする場合はその都度大縮尺を変えてある。

写真撮影は、基本的には35㎜のモノクロとリバーサルフィルムを用い、必要に応じてネガカラーフィルムを使用した。また、遺跡の近景や大型住居跡ではブローニ版を用いた。撮影に際してはなるべく三脚を用い、高所を得るためにローリングタワーを用いている。

野帳では必要事項をメモ取り、日誌に集約することにした。その際に、平面図や断面図が正式に作図されるものであっても、なるべく略図を豊富につくることに留意して日誌を整理した。

最後に調査全般に関わることとして、本調査の排土置場は、調査区の両端に限られるという不便さがあった。そのため頭初からベルトコンベアーを駆使したが、結局、調査を半分づつ行ない調査済の区域の一部を排土置場とした。そのために、調査区全域を一環した流れの調査とはなっていない。

第３節　調査経過

諏訪台Ｃ遺跡の発掘調査は、平成元年４月13日の現場視察の後、５月８日から同年６月30日までで、その間発掘調査に要した日数は延べ43日間である。調査は排土置場の関係から45ライン南側（以下ここでは仮の方位で説明していく）の調査終了後、北側の調査という手順を踏んだ。以下調査の進行にしたがって、調査内容の概略を記することにする。

５月８日　現地で発掘作業の説明を行う。作業員の数は16名、プレハブ内外の整備と調査区の清掃を行い、調査前の撮影を完了する。

５月９日　ベルトコンベアー設置後、45ラインから南側にかけて黒色土中までの粗掘りを開始。河原石や縄文時代後期の土器片と石器などが検出される。

５月11日　ＭＢラインで基本層序を決定する。黒色土中に石組遺構や焼土遺構が確認される。

５月15日　ＬＴ40区北西コーナーに集中する箇所を確認する。

５月17日　黒色土中に点在している大型河原石や、石囲炉、焼土遺構などの全景を撮影する。

５月19日　現在までに土器埋設遺構・焼土・石囲炉・土坑など７遺構が調査されたが、遺構を除く地山面までの掘り下げを開始した。

５月22日　45ライン南側の遺構調査と同時に、北側の粗掘りを開始した。焼土・土坑を数基確認するとともに、縄文時代後期・弥生時代前葉の遺物を検出する。

５月26日　45ライン南側の調査で17遺構が終了し全景写真を撮る。45ライン北側では大湯浮石が半月状に広がる部分２ケ所と、方形を示す部分一ケ所が確認された。

５月29日　ＳＩ18確認写真終了後掘り進めた結果、平安時代の竪穴住居跡と確認できた。

６月２日　長木保育園の園児約20名が見学。

６月５日　十和田ａの広がりをもつ遺構が弥生時代の竪穴であることが判明し、北壁際から壺棺が検出される。同様にＳＩ34も同時代の竪穴であることが示唆された。

６月７日　58ライン北側の地山面精査の結果、多くの柱穴と土坑が検出される。

６月13日　47～51ラインにかけて新たに弥生時代の竪穴住居跡を２軒検出する。２軒ともに炉・壁溝が確認されたほかにＳＩ61では南東壁際に遺物の集中部分を検出する。

６月19日　雨の晴れ間をぬって北西部の粗掘りや土留めの整備を行う。

６月20日　調査区北端で大型柱穴６本を検出する。

６月27日　45ラインより北側の全景写真を撮影する。

６月29日　長木小学校の生徒約60名が見学。

６月30日　現地説明を実施し、約40名が参加した。秋田大学西谷忠師先生によって熱残留磁気のサンプル採取を実施する。本日をもって全調査を終了した。

第４章　調査の記録

第１節　縄文時代の遺構と遺物

１．竪穴住居跡

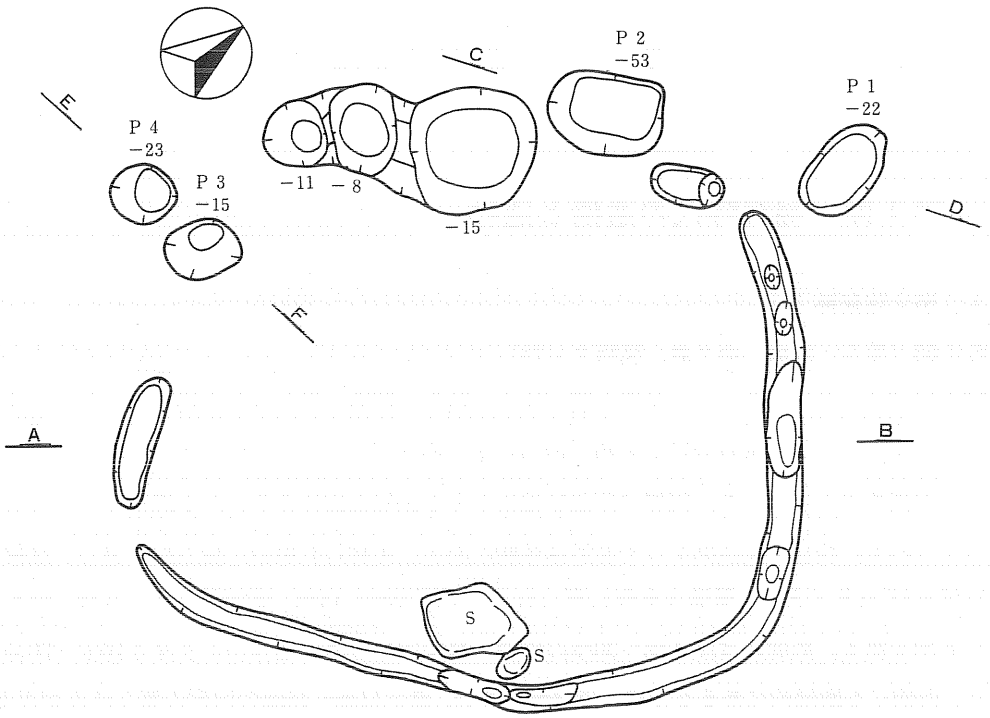
ＳＩ68（第５・27図、第２表、図版２・29）

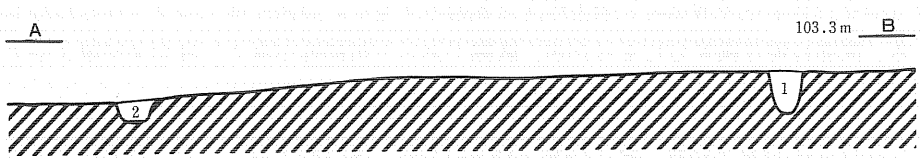
ＭＡ50グリッドに位置する。Ｖ層上面で焼土の散布・壁溝と思われる黒褐色土の落ち込みを検出したが、その後の精査過程でⅥ層（地山）まで掘り下げてしまったため、壁溝と柱穴状のピットを残すのみとなった。実際の床面は地山から８cm程上面にあり、炉も遺存していたものと考えられる。現存する状況から平面形は長軸2.38m、短軸1.87mの不整方形を呈し、長軸方位はＮ－33°－Ｅである。壁溝は東側に見られ、上面幅10cm～14cm、底面幅６cm～９cm、深さ４cm～８cmを測る。底面には径８cm～30cmの円形・長楕円形の落ち込みがあり深さ10cm～20cmを測る。西側にも断続的にあるものの、径24cm～40cm、深さ11cm～15cmの円形の落ち込みが巡る。壁溝・落ち込みの埋土は黒褐色土で地山粒を少量混入するが、西側の落ち込みでは炭化物も若干混入する。床面は掘り過ぎてしまったが、軟弱であった可能性が高く、推定床面積４㎡である。柱穴はプラン内では検出されず、北西隅部・南西隅部のプラン外に隣接する位置で４本検出した。それらは径20cm～37cm、深さ22cm～53cmの円形・楕円形を呈し、埋土は黒色土・黒褐色土である。Ｐ３は埋土・位置から西側に巡る落ち込みに帰属し、Ｐ２は形態・埋土から後世のものと思われる。Ｐ１・４は隅部に隣接する位置にあり、形態・埋土も類似点が多いが、本遺構に伴う柱穴であるかは不明である。

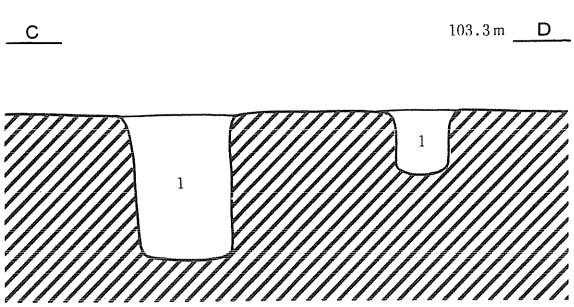
遺物はＰ１の埋土から縄文土器片（Ⅱ・Ⅲ群土器）が出土したが、直接本遺構に伴う出土状況は見られなかった。第27図１・２は深鉢形土器の胴部破片で、１は原体ＬＲを縦位、２は原体ＲＬを斜位に施文されている。３は鉢形土器の口縁部破片で無文地に箆状工具による平行沈線が３条施され、その後丁寧なナデ整形が施されている。

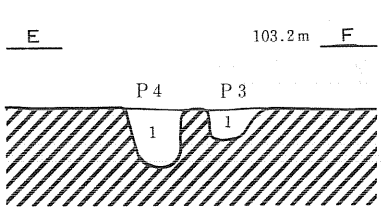
ＳＩ76（第６・27図、第２表、図版２・29）

ＬＴ・ＭＡ52・53グリッドに位置する。確認面はⅥ層上面で、壁は検出されなかったが、壁溝と地床炉をもつ竪穴住居跡である。平面形は長軸4.6m、短軸3.7mの不整円形を呈し、長軸方位はＮ－35°－Ｅである。壁溝は南東・北西・南西側で途切れるが、ほぼ全周していたものと思われる。上面幅14cm～30cm、底面幅８cm～22cm、深さ５cm～12cmを測り、底面はほぼ平坦で、径12cm～20cm、深さ17cm～33cmの円形の落ち込みを伴う。埋土は黒褐色土・暗褐色土で地山粒









1　黒褐色土（10ＹＲ⅔）　粘性強、しまりあり、地山粒７％混入

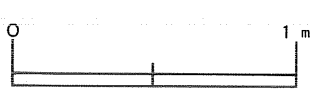
2　黒褐色土（10ＹＲ⅔）　粘性強、しまりあり、地山粒５％混入

Ｐ－１　黒色土（10ＹＲ⅔）　粘性及びしまりあり炭化物３％混入

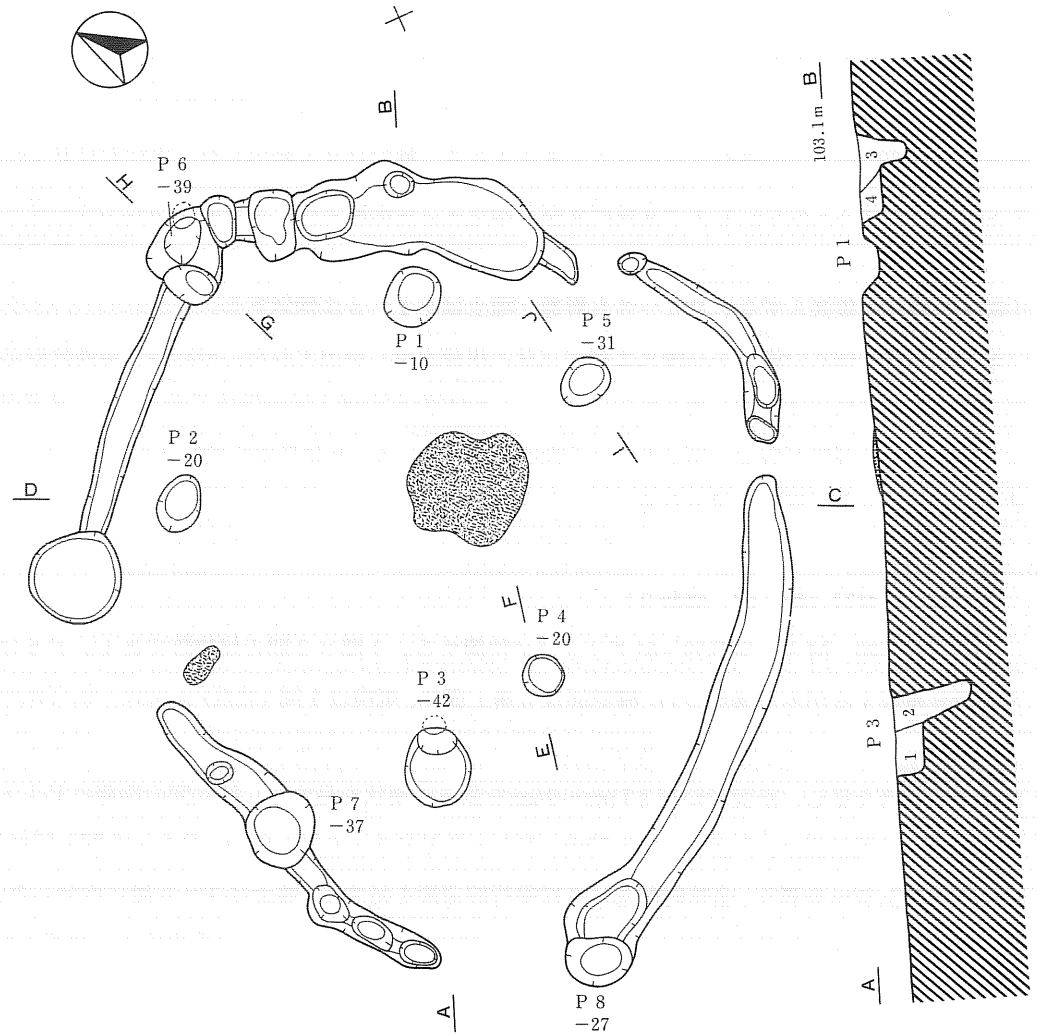
Ｐ－２　黒色土（10ＹＲ⅔）　粘性あり、しまりやや欠ける

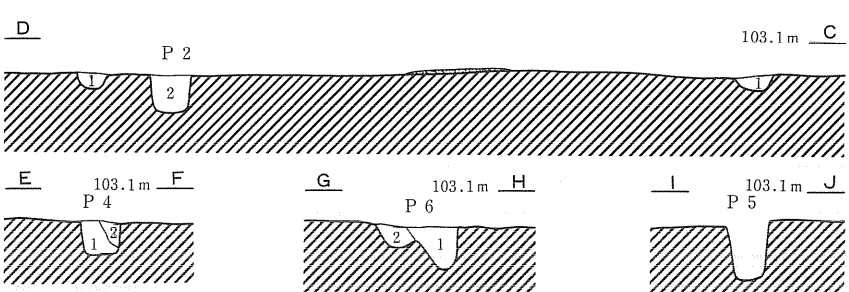
Ｐ－３　黒褐色土（10ＹＲ⅔）　粘性あり、しまり強

Ｐ－４　黒色土（10ＹＲ⅔）　粘性あり、しまり強



第５図　ＳＩ68竪穴住居跡





A～B　1　黒褐色土(10Y R 2/2)　粘性あり、しまりあり、地山ブロック混入
　　2　黒褐色土(10Y R 2/2)　粘性あり、しまりあり、2㎜～3㎜大の小礫３％混入
　　3　黒　色　土(10Y R 2/1)　粘性あり、しまりあり、小礫３％混入
　　4　暗褐色土(10Y R 3/3)　粘性強、しまり強、地山粒７％混入
C～D　1　黒　色　土(10Y R 2/1)　粘性あり、しまりあり、小礫混入
　　2　黒褐色土(10Y R 2/3)　粘性あり、しまりあり、地山粒５％混入
E～F　1　褐　色　土(10Y R 4/4)　粘性あり、しまりあり、炭化物１％、地山粒５％混入
　　2　黒　色　土(10Y R 2/1)　粘性あり、しまりあり、小礫１％混入

G～H
1　黒色土(10Y R 1/1)　粘性あり、しまりあり、地山粒５％、小礫１％混入
2　褐色土(10Y R 4/6)　粘性強、しまり強、地山ブロック多量混入

0　2m

第６図　Ｓ１76竪穴住居跡

を多く混入する。床面は平坦で堅緻であるが、壁溝周辺はやや軟弱である。床面積は12.5m²を測る。炉は中央やや東寄りに位置し、掘り込みや礫を用いない地床炉である。平面形は径60cm～70cmの不整形を呈し、厚いところで床面下３cmまで赤変している。北西隅部で20cm×10cmの焼土を検出したが、炉の機能はなかったと考えられる。柱穴は８本検出した。主柱穴はＰ１～５で、他は壁柱穴である。Ｐ１～５は炉を取り囲むように配置され、全体的には北東側に寄っている。規模は径20cm～33cm、深さ10cm～31cmを測り、埋土は黒色土・黒褐色土の単一層で地山粒・小礫を少量混入する。Ｐ６～８も形態・埋土はＰ１～５に類似する。

遺物は壁溝・柱穴の埋土から縄文土器片（II・III群土器）が出土した。第27図４は深鉢形土器の胴部破片で絡条体Ｒ撚が施されている。５・６は第55図506と同一個体である。５は無文地に入組み状の沈線文が浅目に施され、その後研磨されている。６は推定底径8.0cmで、底面には成形段階のササ葉状圧痕が見られる。

２．建物跡

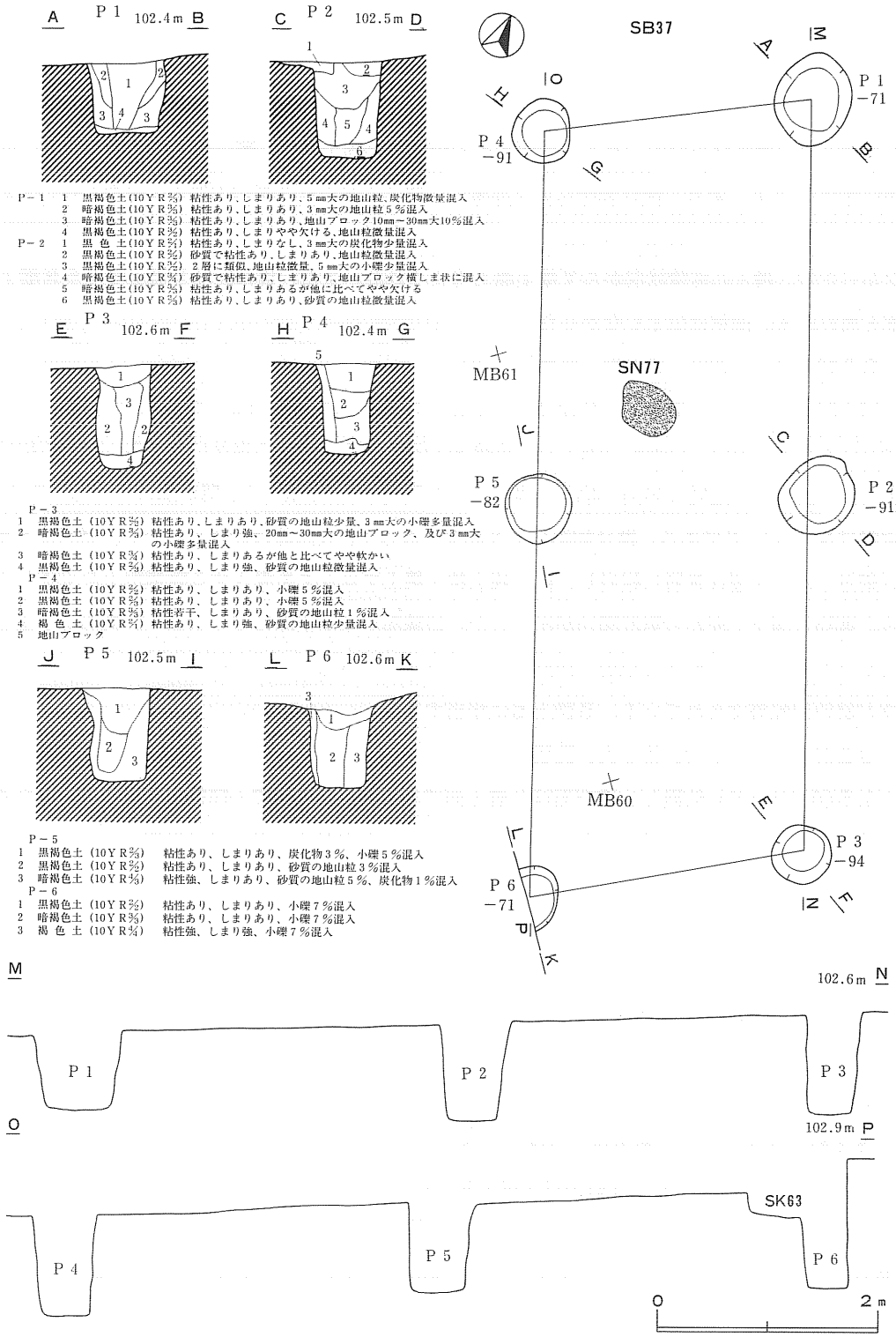
ＳＢ37・ＳＮ77（第７図、図版３）

調査区北西端、ＭＡ・ＭＢ59～61グリッドに位置する。１間×２間の建物跡である。Ｐ６はＳＫ63と重複するが本遺構が古い。確認面はVI層上面で、規模は１間（北西）2.50m～2.55m×２間（北東）6.95m～7.05m、長軸方位はＮ－32°－Ｗである。６本の柱穴は平面形が径55cm～80cmの略円形を呈し、断面形が深さ71cm～94cmを測る円筒状を呈する。柱穴間の距離はＰ１・４とＰ３・６間2.55m、Ｐ２・５間2.50m、Ｐ１・２とＰ５・６間3.68m、Ｐ２・３間3.27m、Ｐ４・５間3.37mを測り、全体的配置はほぼ平行四辺形を呈する。埋土は３～６層に細分した。埋土の堆積状況から柱痕を看取することができ、柱痕に相当する部分では黒褐色土・暗褐色土を呈し、他は地山粒・地山ブロックを多く混入する黒褐色土～褐色土を呈する。また、Ｐ６以外の柱痕は掘り方の底面までは達しておらず、標高101.55m～101.47mを測る比高差８cm内の位置にある。平面的には掘り方の中央からズレている。Ｐ２・５間からやや西寄りに径45cm～60cmの略円形を呈する焼土（ＳＮ77）を検出した。本遺構に伴う地床炉としての機能を想定できるが、積極的根拠はない。遺物は出土しなかった。

３．炉跡

ＳＺ02（第８図、図版４）

ＬＳ43グリッドに位置し、確認面はVI層上面である。径20cm～25cm、深さ５cm程円形に浅く掘り込んだ後、縁辺に25cm～30cm大の亜角礫を２個用いて、掘り込みを持たずに「Ｌ」字状に立て据えた石組炉である。礫は加熱により赤変が著しく、火床面は硬化している。埋土は観察できなかったが、礫の底面レベルから構築面はＶ層上面である。後述するＳＮ03、19、41、53と類似点が多いことから、本遺構東側の攪乱部分に礫を１個配した「コ」の字状を呈する石組



P－1
1　黒褐色土（10ＹＲ3/4）粘性あり、しまりあり、5㎜大の地山粒、炭化物微量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）粘性あり、しまりあり、3㎜大の地山粒５％混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/3）粘性あり、しまりあり、地山ブロック10㎜～30㎜大10％混入
4　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性あり、しまりやや欠ける、地山粒微量混入

P－2
1　黒　色　土（10ＹＲ2/1）粘性あり、しまりなし、3㎜大の炭化物少量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）砂質で粘性あり、しまりあり、地山粒微量混入
3　黒褐色土（10ＹＲ3/2）２層に類似、地山粒微量、5㎜大の小礫少量混入
4　暗褐色土（10ＹＲ3/3）砂質で粘性あり、しまりあり、地山ブロック横しま状に混入
5　暗褐色土（10ＹＲ3/3）粘性あり、しまりあるが他に比べてやや欠ける
6　黒褐色土（10ＹＲ3/3）粘性あり、しまりあり、砂質の地山粒微量混入

P－3
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性あり、しまりあり、砂質の地山粒少量、3㎜大の小礫多量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）粘性あり、しまり強、20㎜～30㎜大の地山ブロック、及び3㎜大の小礫多量混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/3）粘性あり、しまりあるが他と比べてやや軟かい
4　黒褐色土（10ＹＲ2/3）粘性あり、しまり強、砂質の地山粒微量混入

P－4
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性あり、しまりあり、小礫５％混入
2　黒褐色土（10ＹＲ3/3）粘性あり、しまりあり、小礫５％混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/3）粘性若干、しまりあり、砂質の地山粒１％混入
4　褐　色　土（10ＹＲ4/4）粘性あり、しまり強、砂質の地山粒少量混入
5　地山ブロック

P－5
1　黒褐色土（10ＹＲ3/3）　粘性あり、しまりあり、炭化物３％、小礫５％混入
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　粘性あり、しまりあり、砂質の地山粒３％混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/3）　粘性強、しまりあり、砂質の地山粒５％、炭化物１％混入

P－6
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　粘性あり、しまりあり、小礫７％混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）　粘性あり、しまりあり、小礫７％混入
3　褐　色　土（10ＹＲ4/4）　粘性強、しまり強、小礫７％混入

第７図　ＳＢ37建物跡・ＳＮ77焼土遺構

炉の可能性が高い。遺物は出土しなかった。

ＳＺ03（第８図、図版４）

ＬＴ42グリッドに位置し、確認面はⅥ層上面である。15cm～26cm大の亜角礫を３個用いて「コ」の字状に立て据えた石組炉である。相面する二辺間は25cmを測り、開口部は南西側を向く。主軸はＮ－70°－Ｅである。礫は加熱により赤変し、特に上面から内側10cm程までが著しい。埋土は３層に細分した。黒色土・黒褐色土で焼土粒・焼土ブロックを混入する。火床面は検出できなかったが、埋土の堆積状況からＶ層上面と考えられる。また、構築面はＶ層上面からⅣ層下部と思われる。遺物は出土しなかった。

ＳＺ19（第８・27図、第２表、図版４・29）

ＭＡ56グリッドに位置し、確認面はＶ層上面である。径32cm～40cm、深さ４cm程円形に浅く掘り込んだ後、縁辺に12cm～27cm大の亜角礫を４個用いて、「コ」の字状に立て据えた石組炉である。相面する二辺間は36cm～48cmを測り、やや「ハ」の字を呈する。開口部は南西側にあり、主軸はＮ－６°－Ｅである。礫は加熱により赤変が著しく、火床面は硬化している。埋土は５層に細分した。１層はⅣ層に相当し、他は焼土粒・焼土ブロックを混入する暗褐色土を主体とする。遺物は埋土上面から第27図10が出土した。口縁部がほぼ垂直に立ち上がり、胴部から底部にかけて直線的に移行する粗製の深鉢形土器である。口縁部から胴部にかけて原体ＬＲ単節縄文が縦位回転施文されている。Ⅱ群土器に相当する。

ＳＺ27（第８・27図、第２表、図版４・21）

ＬＳ60グリッドに位置し、確認面はＶ層上面であるが、北東側で一部攪乱を受けているため全容は不明である。本遺構は土器埋設炉であるが、土器埋設時の掘り方は看取できなかった。検出時の土器の最大径が約15cmであるため、ほぼその径で掘り込まれたものと考えられる。埋設土器の南西側に径16cm～20cmの不整形を呈する焼土を検出したが、土器を全周する広がりは見られない。焼土を含めて埋土は３層に細分した。２層は焼土粒を少量混入し、締まりが強いことから火床面は２層上面と考えられる。３層は炭化物を多量に含む黒色土である。埋設土器は第27図12であるが、遺存状況が不良であったため底部は復原できなかった。地文に絡条体Ｒ撚が縦方向に回転施文され、内面には煤状炭化物が多量に付着している。Ⅱ群土器に相当する。

ＳＺ41（第８・27図、第20表、図版４・29）

ＬＴ49グリッドに位置し、確認面はＶ層上面である。20cm～30cm大の亜角礫を３個用いて、「コ」の字状に立て据えた石組炉である。相面する二辺間は24cmを測り、開口部は南西側を向く。主軸はＮ－23°－Ｅである。火床面は掘り込みを持たず、焼土が厚い部分で７cm程堆積している。礫は加熱のため著しく赤変し、脆弱なものもある。北東側の１個のみ掘り込みを持つと考えられるが、掘り方を看取することはできなかった。遺物は円盤状石製品（第27図ＳＩ）が１点出

土した。

ＳＺ48（第９・28図、第２表、図版５・21・29）

ＬＳ48グリッドに位置し、確認面はＶ層上面である。長軸61cm、短軸50cmの楕円形に深さ７cm～10cm程掘り込んだ後、10cm～40cm大の円礫・亜角礫を掘り込みの縁辺に配置した石囲炉である。長軸方位はＮ－42°－Ｅである。底面は緩い起伏があり、加熱による赤変・硬化が著しい。壁は南西側が緩く、北東側はほぼ垂直に立ち上がる。礫は掘り込みを持たずに配置され、やや馬蹄形を呈し、加熱による赤変と脆弱が著しい。埋土は２層に細分した。焼土粒・炭化物を混入する暗褐色土・褐色土で３・４層は底面下の赤変範囲である。遺物は確認面のやや上面から横転し押し潰された一括土器（第28図13）とフレイク８点が出土した。13は折り返し口縁をもつ粗製の深鉢形土器で、４単位の山形突起が付されている。器形は底面から直線的に立ち上がり、同上部で緩くくびれ、口縁部にかけて直線的に外傾する。口縁部から胴上部は無文で、胴下部に原体ＬＲ単節縄文が縦位回転施文されている。また、煤状炭化物が口縁から胴下部にかけて付着している。14は別個体であるが出土地点は同一である。地文に原体ＲＬ単節縄文が施され、棒状工具による太目の曲線文が施文される。Ⅱ群土器に相当する。

ＳＺ53（第８・28図、第２表、図版５・29）

ＬＴ・ＭＡ50グリッドに位置し、確認面はⅣ層上面である。北西側が後世の攪乱を受けているため全容は不明である。径50cmの略円形に深さ20cm～23cm掘り込んだ後、20cm～38cm大の亜角礫３個を用いて掘り込みの縁辺部に「コ」の字状に立て据えた石組炉である。相面する二辺間は30cm～55cmを測り、やや「ハ」の字状を呈する。開口部は北西側を向き、主軸はＮ－13°－Ｗである。礫は加熱により若干赤変している。掘り込みの底面は平坦で、火床面としての痕跡を留めない。壁は直線的に開きながら立ち上がる。埋土は３層に細分した。焼土粒・炭化物を混入する黒褐色土が主体であるが、２層は焼土ブロックを多量に混入する褐色土であることから、３層上面が火床面の可能性が高い。遺物は埋土の１層から縄文土器片とフレイク１点が出土した。第28図15～19が出土遺物で、15以外は同一個体である。15は山形突起をもつ口縁部破片で原体ＲＬ単節縄文が施され、16～18は胴部破片で原体Ｌ撚無節縄文が施文されている。19は底部破片で底面が丁寧に研磨され、推定径8.6cmを測る。Ⅱ群土器に相当する。

ＳＺ62（第９図、図版５）

ＬＴ47グリッドに位置し、確認面はＶ層上面である。径55cmの円形に深さ15cm程掘り込んだ後、６cm～39cm大の円礫・亜角礫を掘り込みの縁辺に配置した石囲炉である。底面は緩い起伏があり、加熱により赤変している。壁はほぼ垂直に立ち上がるが、加熱による赤変は見られない。礫は掘り込みをもたずに２cm～３cm間隔で配置されるが、北側では配置されずに開口部を呈する。埋土は３層に細分した。２層は焼土粒を多量に混入する暗褐色土、１・３層は焼土粒

を少量混入する黒褐色土である。遺物は出土しなかった。

ＳＺ75（第９図、図版５）

ＭＢ49グリッドに位置し、確認面はⅥ層上面である。一部調査区外にあたり、また、南東側が後世の攪乱を受けているため全容は不明である。平面形は略円形を呈し、断面形は土鍋状を呈すると思われる。現存する規模は径35cm、深さ８cm～12cmを測る。底面は起伏があり、加熱により赤変・硬化している。赤変範囲は掘り込みの上面にも見られ、10cm～14cm幅で全周すると考えられる。埋土は３層に細分した。１層は炭化物を少量混入する褐色土、２層は焼土で５cmの層厚を測る。３層は混入物の少ない暗褐色土である。掘り込みの北西部縁辺に幅７cm、長さ12cm以上の亜角礫１個を検出したが、ＳＮ62に類似する東側に開口部をもつ石囲炉の可能性がある。遺物は出土しなかった。

４．焼土遺構

ＳＮ06（第４・27図、第２表、図版４・21・29）

ＭＡ42グリッドに位置し、確認面はⅣ層中であるが、後世の攪乱を受けているため全容は不明である。焼土を多量に混入する攪乱土から第27図７～９の縄文土器片（Ⅱ群土器）が出土した。７は９の口縁部破片で、他に同一個体の口縁部破片が７点出土している。７・９は口縁部がほぼ垂直に立ち上がり、直線的に底部まで移行する粗製の深鉢形土器である。口縁部から胴部下半まで原体ＬＲ単節縄文を何かに巻き付けて斜方向に回転施文している。胴部下半は横位のナデ整形が施され、底面には網代圧痕が見られる。底径は10.6cmを測る。８は深鉢形土器の胴部破片で地文に原体ＲＬ単節縄文を縦方向に回転施文してから、棒状工具による曲線文が施されている。沈線はやや太く、深く描かれている。

ＳＮ22（第４・27図、第２表、図版４・21）

ＬＳ57グリッドに位置し、確認面はⅣ層中であるが、後世の攪乱を受けているため全容は不明である。焼土ブロックを多量に混入する攪乱土から第27図11の縄文土器片とフレイク４点が出土した。11は胴上部から底部まで復原できたが、口縁部は不明である。胴部から底部にかけて直線的に移行する器形を呈し、胴部最大径23cm、底径9.6cmを測る粗製の深鉢形土器と思われる。地文に絡条体Ｌ撚が斜方向に回転施文されている。胴部下半には斜位・横位のナデ整形が施され、底面の中央部に網代圧痕が見られる。Ⅱ群土器に相当する。

ＳＮ57（第８図、図版５）

ＬＳ48グリッドに位置し、確認面はⅥ層上面である。北西側がＳＩ60に切られているため全容は不明である。平面形は不整形を呈し、断面形は浅皿形を呈すると思われる。現存する規模は径47cm～67cm、深さ８cmを測る。埋土は４層に細分した。１層は焼土で、他は焼土粒を少量混入する暗褐色土である。遺物は出土しなかった。

ＳＮ59（第４・28図、第２表、図版５・29）

ＬＴ50グリッドに位置し、確認面はＶ層上面である。後世の攪乱を受けているため全容は不明である。焼土ブロックを混入する攪乱土から第28図20の縄文土器片が出土した。20は折り返し口縁を呈する深鉢形土器の口縁部破片で、山形突起が付されている。折り返し口縁部は無文で、口縁部下は原体ＬＲ単節縄文を地文とし、棒状工具による区画文を描いたのち磨消が施されている。磨消は丁寧に行われておらず、部分的に地文を残している。II群土器に相当する。

ＳＮ65（第４図、図版５）

調査区北西端、ＭＢ60グリッドに位置する。大部分が調査区外となっているため全容は不明であるが、調査区外との境界にあたる部分で土層を観察した結果、Ⅵ層上面から焼土の堆積が見られた。一部攪乱を受けているが厚い部分で６cmの堆積があり、幅50cmを測る。遺物は出土しなかった。

ＳＮ78（第４図）

ＭＡ58グリッドに位置し、確認面はⅥ層上面である。平面形は径40cm～50cmの略円形を呈し、焼土の堆積は厚い部分で２cmを測る。遺物は出土しなかった。

５．土器埋設遺構

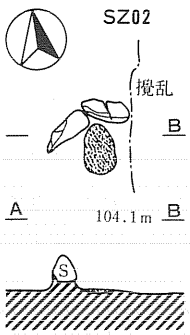
ＳＲ05（第９・28図、第２表、図版７・21）

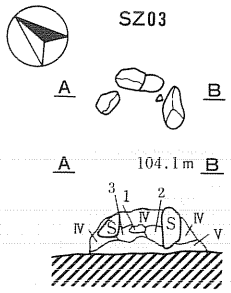
ＬＴ44グリッドに位置し、確認面はＶ層上面である。東側の一部は攪乱を受けているが、掘り方の平面形は不整円形を呈すると思われる。規模は径55cm～66cm、深さ９cm～22cmを測り、土器を据える部分が径22cmのピット状に凹んでいる。壁は緩く立ち上がり、底面は起伏がある。土器は確認時で径20cm～22cmを測り、底部が掘り方底面に接する正位に据えられている。復原後の現存器高が32.3cmあるため本遺構の構築面は確認面から少なくとも10cm程上面のⅣ層中と考えられる。埋土は５層に細分した。土器外周の４・５層は地山粒・小礫を混入し、締まりがかなりある。第28図21が復原した土器である。口縁部形態は不明であるが、胴上部に緩いふくらみをもつ粗製の深鉢形土器である。縄軸絡条体Ｒ撚が斜方向から施文され、軸の原体はＬＲ単節縄文である。胴下部は横位のナデ整形、底面は研磨が施されている。II群土器に相当する。

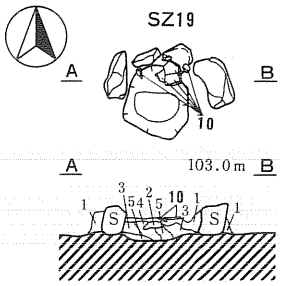
６．フラスコ状土坑

ＳＫＦ42（第10・28・29図、第２・20表、図版６・21・29・30）

ＭＡ・ＭＢ58グリッドに位置し、確認面はＶ層上面である。平面形は円形を呈し、底面から頸部まではふくらみをもち、頸部からほぼ直線的に坑口部へ移行するフラスコ状土坑である。規模は坑口部径93cm、頸部径88cm、坑底部径90cm、最大幅110cm、深さ80cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁は起伏がある。埋土は４層に細分した。黒色土・黒褐色土を主体とし、層厚のある４層は地山ブロックを多量に混入する。他は炭化物を少量混入し、埋土の堆積状況から人為堆

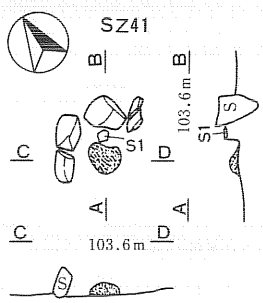


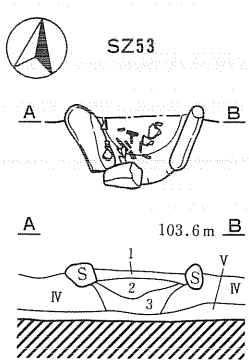


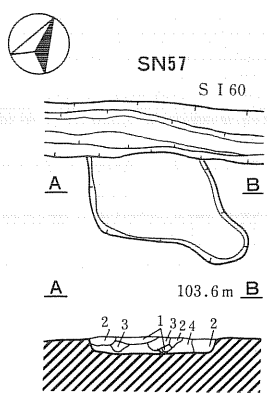


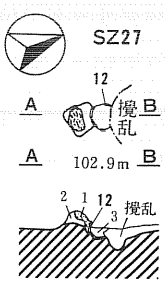
SZ03
1　黒褐色土(10ＹＲ2/3)粘性なし、しまりあり、焼土粒（５ＹＲ4/6赤褐色）50%混入
2　黒褐色土(10ＹＲ3/2)粘性若干、しまりあり、焼土粒１㎜大５%混入
3　黒　色　土(10ＹＲ2/1)粘性若干、しまりあり、焼土粒１㎜大１%混入

SZ19
1　黒褐色土(10ＹＲ2/2)粘性若干、しまりあり、炭化物１㎜～２㎜大１%、地山粒１㎜～２㎜大２%混入
2　暗褐色土(7.5ＹＲ1/3)粘性あり、しまりあり、焼土ブロック(５ＹＲ3/4暗赤褐色）60%混入
3　暗褐色土(10ＹＲ3/3)粘性あり、しまりあり、焼土粒１㎜大２%、地山粒１㎜～２㎜大５%混入
4　暗褐色土(10ＹＲ3/3)粘性あり、しまりあり、焼土粒１㎜大２%、地山粒１㎜～２㎜大５%混入
5　褐　色　土(10ＹＲ4/4)粘性あり、しまりやや欠ける、焼土粒１㎜大若干、地山粒１㎜～２㎜大30%混入





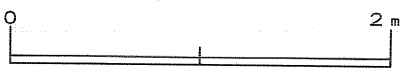




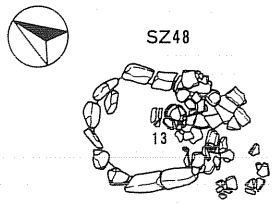
SZ53
1　黒褐色土(10ＹＲ2/2)粘性若干、しまりあり、炭化物１㎜～２㎜大５%、小礫３㎜～５㎜大５%混入
2　暗褐色土(10ＹＲ3/4)粘性若干、しまりあり、焼土ブロック60%、炭化物１㎜大１%、小礫３㎜～５㎜２%混入
3　黒褐色土(10ＹＲ2/2)粘性あり、しまりあり、炭化物１㎜～２㎜大若干、焼土粒１㎜～２㎜大１%、地山粒１㎜～２㎜大５%、小礫３㎜大２%混入

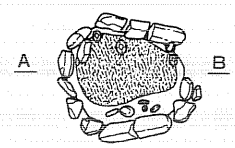
SN57
1　赤褐色土(５ＹＲ4/8)焼土、しまりあり
2　暗褐色土(10ＹＲ3/3)粘性若干、しまりあり、焼土粒１㎜～２㎜大３%混入
3　黒　色　土(10ＹＲ2/1)粘性若干、しまりあり、焼土粒１㎜～２㎜大３%混入
4　褐　色　土(10ＹＲ4/4)粘性若干、しまりあり、焼土粒１㎜～２㎜大２%、地山１㎜～２㎜大１%混入

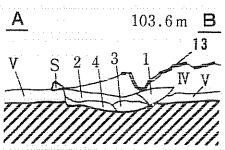
SZ27
1　褐　色　土(7.5ＹＲ4/4)焼土、しまりあり、地山粒２㎜大１%、小礫10㎜～15㎜大１%混入
2　暗褐色土(10ＹＲ3/4)粘性若干、しまりあり、焼土粒１㎜大５%、地山粒１㎜～２㎜大10%混入
3　黒　色　土(10ＹＲ1.7/1)炭化層、粘性なし、しまりやや欠ける、地山粒ブロック状20%混入

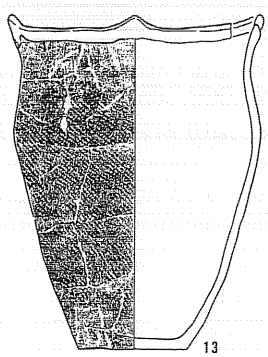


第８図　ＳＺ炉跡(1)・ＳＮ焼土遺構(1)

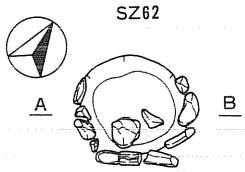


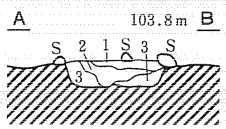




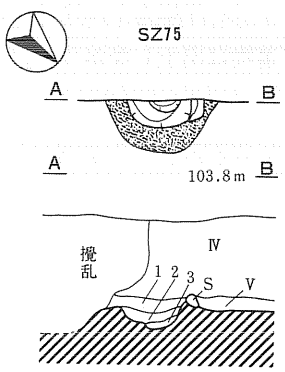


SZ48
1　暗褐色土(10ＹＲ3/3)粘性若干、しまりあり、炭化物１㎜～２㎜大１％、焼土粒１㎜～３㎜大30％、小礫２㎜～５㎜大２％混入
2　褐　色　土(10ＹＲ4/4)焼土・粘性若干、しまり強、炭化物１㎜～２㎜大２％、小礫２㎜～５㎜大５％混入
3　明褐色土(7.5ＹＲ5/6)しまり強、炭化物１㎜～２㎜大、小礫３㎜～５㎜大５％混入
4　橙　色　土(7.5ＹＲ6/8)しまり強、炭化物１㎜～２㎜大１％、小礫５㎜～10㎜大１％混入

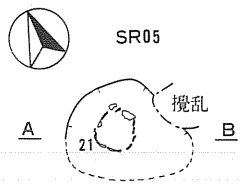


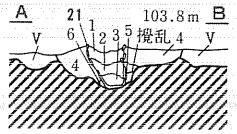


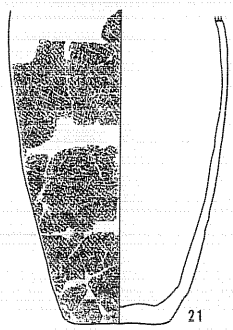
SZ62
1　黒褐色土(10ＹＲ2/2)粘性あり、しまりあり、炭化物１㎜～２㎜大１％混入
2　暗褐色土(7.5ＹＲ3/3)粘性あり、しまりあり、焼土粒（５ＹＲ4/6赤褐色）60％、炭化物１㎜～２㎜大１％、小礫２㎜～４㎜大５％混入
3　黒褐色土(10ＹＲ2/2)粘性あり、しまりあり、焼土粒１㎜大２％、炭化物３㎜～５㎜大５％混入



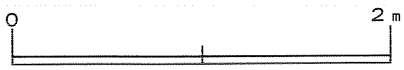
SZ75
1　褐　色　土(7.5ＹＲ4/3)粘性あり、しまり強、炭化物７％、小礫３％混入
2　明褐色土(7.5ＹＲ5/6)粘性あり、しまり強、炭化物３％混入
3　暗褐色土(7.5ＹＲ3/3)粘性あり、しまり強







SR05
1　黒　色　土(10ＹＲ2/1)粘性あり、しまりあり、地山粒１㎜大若干、小礫５㎜大若干混入
2　黒　色　土(10ＹＲ2/1)粘性あり、しまりあり、地山粒１㎜大若干、小礫２㎜大１％混入
3　黒　色　土(10ＹＲ1.7/1)粘性あり、しまりあり、小礫１㎜大若干混入
4　黒褐色土(10ＹＲ3/2)粘性あり、しまり強、地山粒１㎜～２㎜大10％小礫30㎜～40㎜大１％混入
5　暗褐色土(10ＹＲ3/3)粘性あり、しまりあり、地山粒１㎜～２㎜大10％混入



第９図　ＳＺ炉跡(2)・ＳＲ土器埋設遺構

積を呈する。遺物は４層から縄文土器片、石器、フレイクが出土した。第28・29図22～33は大部分がII群土器に相当するが、24～26の３点のみ胎土に繊維を含むＩ群土器である。第29図Ｓ２はスクレイパーである。

ＳＫＦ44（第10・29図、第２・３表、図版６・30）

ＬＳ54グリッドに位置し、確認面はⅥ層上面である。平面形は円形を呈し、底面から頸部までは緩くふくらみをもち、頸部からやや外反しながら坑口部へ移行するフラスコ状土坑である。規模は坑口部径95cm～103cm、頸部径98cm、坑底部径105cm～110cm、最大幅110cm、深さ50cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁は北西側で緩い起伏がある。埋土は５層に細分した。５層は攪乱で、他は埋土の堆積状況から自然堆積を呈する。遺物は縄文土器片・フレイクが埋土上層から多く出土した。第29図34～40で、II群土器に相当する。

ＳＫＦ67（第10図、図版６）

ＭＡ・ＭＢ57グリッドに位置し、確認面はＶ層上面である。南西側が一部調査区外にかかっているため全容は不明である。平面形は円形を呈し、底面から頸部までは直線的に内傾し、頸部からほぼ垂直に坑口部へ移行するフラスコ状土坑である。規模は口坑部・頸部径107cm、坑底部径120cm、深さ40cm～45cmを測り、最大幅は底面にある。底面は緩い起伏があり、壁は北東側に起伏がある。埋土は４層に細分した。黒色土を主体とし、全体的に混入物は少ない。埋土の堆積状況から自然堆積を呈する。遺物は出土しなかった。

７．土坑

ＳＫ01（第10図、図版７）

ＬＴ40グリッドに位置し、ＳＫ17の北側に隣接している。確認面はⅥ層上面である。径50cmの円形を呈し、深さ10cm～18cmを測る。底面は北西部に凹みがあり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は３層に細分でき、自然堆積を呈する。遺物は出土しなかった。

ＳＫ04（第10・29図、第３・20表、図版７・21・30）

ＬＴ40グリッドに位置し、確認面はⅣ層下部である。径75cm～80cmの円形を呈し、深さ23cmを測る。底面は中央にある最大深部に向かって緩く傾斜する。壁は緩い弧状を呈して立ち上がる。埋土は５層に細分でき、自然堆積を呈する。遺物は埋土から縄文土器片、フレイク、凹石が出土した（第29図42～49・Ｓ３）。また、第29図41は確認面の東側で一括出土した粗製の深鉢形土器である。II群土器相当する。

ＳＫ07（第10図、図版７）

ＬＴ39グリッドに位置し、確認面はＶ層上面である。径60cmの略円形を呈し、深さ20cm～24cmを測る。底面は起伏があり、北部に径18cm、深さ５cmの凹みがある。壁は南西側で緩く立ち上がり、他はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は３層に細分でき、自然堆積を呈する。遺物は出土

しなかったが、埋土上層で13cm～25cm大の円礫・亜角礫３個を検出した。

ＳＫ08（第10図、図版７）

ＬＳ43グリッドに位置し、確認面はＶ層上面である。長軸45cm、短軸30cmの楕円形を呈し、深さ12cmを測る。長軸方位はＮ－37°－Ｗである。底面は平坦であるが南部で狭まる傾向にある。壁は東側で緩く、他はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は自然堆積を呈するが、３層は掘り過ぎに相当する。遺物は出土しなかった。

ＳＫ09（第10図、図版７）

ＬＴ42グリッドに位置し、ＳＫ10の北東側に隣接している。確認面はⅥ層上面である。長軸65cm、短軸48cmの楕円形を呈し、深さ37cmを測る。長軸方位はＮ－11°－Ｅである。底面は緩い起伏があり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は３層に細分でき、堆積状況は柱穴状を呈する。遺物は出土しなかった。

ＳＫ10（第10図、図版７）

ＬＴ42グリッドに位置し、ＳＫ09の南西側に隣接している。確認面はⅥ層上面である。長軸78cm、短軸52cmの楕円形を呈し、深さ15cm～22cmを測る。長軸方位はＮ－11°－Ｅである。底面は、中央にある最大深部に向って傾斜する。壁は北東側で垂直に立ち上がり、他は緩い弧状を呈する。埋土は３層に細分でき、自然堆積を呈する。遺物は出土しなかったが、埋土上層から３cm～18cm大の円礫・亜角礫を検出した。

ＳＫ11（第11図、図版７）

ＬＳ43グリッドに位置し、確認面はＶ層上面である。北東側が調査区外にかかっているため全容は不明である。現存する形態から径80cmの不整形を呈し、深さ21cm～28cmを測る。底面は南東側から北西側に緩く傾斜し、最大深部は北西壁下にある。西側に径15cm～29cm大、深さ６cm～14cmを測るピット状の凹みがある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は３層に細分でき自然堆積を呈する。遺物は出土しなかった。

ＳＫ12（第11図・30図、第３表、図版８・30）

ＬＳ40グリッドに位置し、ＳＫ13の東側に隣接している。確認面はⅥ層上面であるが、埋土の堆積状況から構築面はＶ層上面まで捉えられた。北東側が調査区外にかかっているため全容は不明である。現存する形態から南東－北西に長軸をもつ楕円形を呈すると思われる。長軸２m、深さ30cmを測り、底面はかなり起伏がある。壁は南東側でほぼ垂直に、他は緩く立ち上がる。北西部に径42cm、深さ55cmのピットを検出したが、埋土の堆積状況から本遺構より古いピットである。埋土はピットも含めて４層に細分でき、人為堆積を呈する。埋土１層から５cm～28cm大の円礫・亜角礫が多量に、また、縄文土器片、フレイクが少量出土した（第30図50・51）。50は深鉢形土器の胴部破片、51は円盤状土製品で、いずれもⅡ群土器に相当する。

ＳＫ13（第11・30図、第３表、図版８・30）

ＬＳ40・41グリッドに位置し、ＳＫ12の西側に隣接している。確認面はⅥ層上面である。径73cmの円形を呈し、深さ６cm～８cmを測る。底面は平坦で、ほぼ中央に径20cm×25cm、深さ７cmの凹みがある。壁は西側で垂直に、他は緩く立ち上がる。埋土は３層に細分でき、自然堆積を呈する。遺物は埋土から第30図52～54のⅡ群土器が出土した。54はＳＫ14出土土器との接合資料である。

ＳＫ14（第11・30図、第３表、図版８・30）

ＬＳ・ＬＴ37グリッドに位置し、確認面はⅥ層上面である。長軸72cm、短軸57cmの楕円形を呈し、深さ10cm～13cmを測る。長軸方位はＮ－83°－Ｅである。底面は中央に向かって緩く傾斜し、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は３層に細分でき、自然堆積を呈する。遺物は第30図54が埋土から出土した。

ＳＫ15（第11図、図版８）

ＬＳ39グリッドに位置し、確認面はⅥ層上面である。北西側が攪乱を受けているため全容は不明である。現存する形態から径1.0m～1.2mの略円形を呈し、深さ40cmを測る。底面は弧状を呈し、最大深部は北部にある。壁は底面の形状からそのまま移行するが、北側では垂直に立ち上がる。埋土は４層に細分でき、自然堆積を呈する。遺物は出土しなかったが、底面中央部の最下層から10cm大の亜角礫を２個検出した。

ＳＫ16（第11図、図版８）

ＬＳ43グリッドに位置し、ＳＫ08の西側に近接している。確認面はⅥ層上面である。長軸85cm、短軸70cmの楕円形を呈し、深さ10cm～18cmを測る。長軸方位はＮ－11°－Ｗである。底面は緩い起伏があり、南部に最大深部をもつ。壁は北側で垂直に立ち上がり、南側では緩い弧状を呈する。埋土は３層に細分でき、自然堆積を呈する。遺物は埋土から縄文土器片１点が出土したが、遺存状態が不良であったため図示できなかった。胎土に砂粒を多く含み、焼成は普通、無文土器と思われる。

ＳＫ17（第10図、図版７）

ＬＴ40グリッドに位置し、ＳＫ01の南側に隣接している。確認面はⅥ層上面である。径52cmの円形を呈し、深さ８cm～14cmを測る。底面は北西部分で緩く凹んでいる。壁は南側で垂直に立ち上がり、北側では緩い弧状を呈する。埋土は２層に細分でき、自然堆積を呈する。遺物は出土しなかった。

ＳＫ20（第12・30図、第３表、図版８・31）

ＭＡ55・56グリッドに位置し、確認面はⅤ層上面である。長軸56cm、短軸40cmの楕円形を呈し、深さ９cmを測る。長軸方位はＮ－５°－Ｗである。底面は平坦で、壁は緩く立ち上がる。埋

土は黒褐色土の単１層で焼土粒を少量混入する。遺物は確認面の北西部から同一個体の縄文土器片が出土した（第30図55～58)。II群土器に相当する。

ＳＫ21（第12・30図、第３表、図版８・31）

ＭＡ55グリッドに位置し、確認面はＶ層上面である。長軸90cm、短軸75cmの楕円形を呈し、深さ10cm～29cmを測る。長軸方位はＮ－41°－Ｅである。底面は起伏が著しく、南東にある最大深部に向かって傾斜する。壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は４層に細分でき、自然堆積を呈する。遺物は北西側底面から縄文土器片２点が出土した。第30図59は２点の接合資料で、折り返し口縁をもつ粗製の深鉢形土器である。II群土器に相当する。

ＳＫ23（第11・30・31図、第３・４・20表、図版８・21・31・32）

ＬＳ58・59グリッドに位置し、確認面はＶ層上面である。径1.8m～2.0mの円形を呈し、深さ38cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁は緩い弧状に立ち上がるが、南西側では起伏が見られる。底面のほぼ中央と西壁直下で、それぞれ径38cm・30cm、深さ13cm・18cmの円形を呈するピットを検出した。西壁直下のピットは埋土の堆積状況から本遺構より古いが、中央のピットは不明である。埋土は７層に細分した。５～７層は西壁側のピットの埋土で自然堆積を呈し、他は遺物を多量に含む、人為的堆積を呈する。遺物は埋土の１層・２層上部から縄文土器片・弥生土器片・石器・フレイクが出土した（第30・31図60～76、Ｓ４・５)。また、５cm～30cm大の亜角礫も多量に含まれていた。75がⅣ群土器で、他はII・III群土器に相当する。

ＳＫ24（第11・31図、第４表、図版９・21）

ＭＡ55グリッドに位置し、確認面はＶ層上面である。径45cmの円形を呈し、深さ５cm～12cmを測る。底面は起伏が著しく、北側に向かって緩く傾斜する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、北西側は緩い起伏がある。埋土は４層に細分でき、自然堆積を呈する。遺物は確認面よりやや高いレベルで第31図77の一括土器が出土した。口縁部形態は不明であるが、粗製の深鉢形土器で地文に原体ＲＬ単節縄文が施されている。II群土器に相当する。埋土及び遺物の出土状況から構築面は少なくともⅣ層中と考えられる。

ＳＫ25（第12・31図、第４表、図版９・21・32）

ＬＴ59グリッドに位置し、確認面はⅥ層上面である。径82cmの円形を呈し、深さ12cm～19cmを測る。底面は起伏が著しく、西壁直下に最大深部がある。壁は垂直に立ち上がる。埋土は２層に細分でき、自然堆積を呈する。遺物は確認面の南東部で第31図79が出土した。また埋土１層から縄文土器片（78）とフレイクが数点出土し、II群土器に相当する。

ＳＫ26（第12図、図版９）

ＬＴ59グリッドに位置し、ＳＫ25の西側に近接している。確認面はⅥ層上面である。長軸81cm、短軸56cmの楕円形を呈し、深さ23cm～27cmを測る。長軸方位はＮ－74°－Ｗである。底面は

起伏が著しく、北東側から南西側に緩く傾斜する。壁は南西側で垂直に立ち上がり、他は若干外反する。埋土は４層に細分でき、人為堆積を呈する。遺物は出土しなかったが、北東壁南東寄りに並行する位置で、長さ45cm、幅15cmの角礫１個検出した。レベル的にⅣ層中であること、また、埋土の堆積状況から構築面は少なくともⅣ層中と考えられる。

ＳＫ29（第12・31図、第４表、図版９・21）

調査区南西端、ＭＡ61グリッドに位置し、確認面はⅥ層上面である。径１ｍ～1.1ｍの円形を呈し、深さ20cm～32cmを測る。底面は緩い起伏があり、南側から北側へ傾斜する。壁は緩く外反し、東側で弧状を呈する。埋土は３層に細分でき、人為堆積を呈する。遺物は北東壁寄りから完形に近い壺形土器１個体が出土した（第31図80)。出土状況は口縁側が壁を向くやや横倒しの状況を呈し、底面からは９cm程浮いている。Ⅲ群土器に相当する。

ＳＫ30（第12・31図、第４表、図版９・32）

ＬＳ57グリッドに位置し、確認面はⅤ層上面である。長軸140cm、短軸95cmの楕円形を呈し、深さ20cm～34cmを測る。長軸方位はＮ－73°－Ｗである。底面は中央に向かって傾斜するが、西側からの傾斜角が大きい。壁は南西側で垂直に立ち上がり、他は緩く外傾する。埋土は４層に細分でき、自然堆積を呈する。遺物は埋土の２層中からⅡ群土器に相当する縄文土器片（第31図81～86）とフレイク数点が出土した。

ＳＫ31（第13図、図版９）

ＭＡ55グリッドに位置し、確認面はⅤ層上面である。長軸1.47ｍ、短軸1.07ｍの楕円形を呈し、深さ26cm～32cmを測る。長軸方位はＮ－58°－Ｅである。底面は北西側に片寄り、起伏が著しい。壁はほぼ垂直に立ち上がる。南西隅部で径30cm、深さ10cmの円形を呈するピットを検出した。埋土の堆積状況から本遺構が新しい。埋土は５層に細分でき、自然堆積を呈する。遺物は埋土の１層から縄文土器片とフレイクが数点出土した。図示できなかったがⅡ群土器に相当する。

ＳＫ35（第12図、図版９）

ＬＴ57・58グリッドに位置し、確認面はⅥ層上面である。長軸91cm、短軸70cmの楕円形を呈し、深さ５cm～12cmを測る。長軸方位Ｎ－52°－Ｗである。底面は起伏が著しく、北西側に最大深部がある。壁は緩やかに立ち上がる。埋土は２層に細分でき、人為堆積を呈する。遺物は出土しなかったが、確認面・埋土から５cm～40cm大の亜角礫を多数検出した。

ＳＫ36（第12・32図、第４表、図版９・21・32）

ＭＡ58グリッドに位置し、北東側のＳＫ39・40と隣接する。確認面はⅥ層上面である。径85cm～95cmの略円形を呈し、深さ11cm～45cmを測る。底面は中央部に向かって緩く傾斜し、径50cm～60cmの凹みに移行する。凹みの底面は起伏が著しい。壁は凹みの底面から垂直に立ち上が

った後、開口部に向かって大きく開く。埋土は４層に細分でき、人為堆積を呈する。遺物は埋土１層から縄文土器片、フレイクが多数出土した（第32図87～93）。すべてII群土器に相当する。

ＳＫ38（第13・32図、第４表、図版10・21・22・32）

ＬＳ45・46グリッドに位置し、確認面はＶ層上面である。径1.1mの円形を呈し、深さ11cm～25cmを測る。東側は若干張り出しているが、埋土の堆積状況から壁の崩壊と考えられる。底面は中央に向って起伏をもちながら傾斜する。最大深部は中央やや南寄りにある。壁は南側から南西側にかけて垂直に立ち上がり、他は緩く外傾する。埋土は２層に細分でき、人為堆積を呈する。遺物は埋土１層から縄文土器片・フレイクが多数出土した（第32図94～104）。また、３cm～16cm大の円礫・亜角礫も多く含まれ、遺物は中央から南西側にかけて分布する。II群土器に相当する。

ＳＫ39（第12図、図版10）

ＭＡ58グリッドに位置し、ＳＫ36の北西側、ＳＫ40の南東側に隣接する。確認面はVI層上面である。径47cm～52cmの略円形を呈し、深さ12cmを測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は３層に細分でき、自然堆積を呈する。遺物は出土しなかった。

ＳＫ40（第12・32図、第４表、図版10・32）

ＭＡ58グリッドに位置し、北東側のＳＫ36・39と隣接する。確認面はVI層上面である。長軸58cm、短軸47cmの楕円形を呈し、深さ13cm～17cmを測る。長軸方位はＮ－45°－Ｅである。底面は緩い起伏があり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は３層に細分でき、自然堆積を呈する。遺物は埋土２層から第32図105の胴部破片１点が出土した。胎土に繊維を含み、原体ＬＲＬの複節縄文が施文されている。

ＳＫ54（第13図、図版10）

ＬＳ51グリッドに位置し、南側のＳＫ55に隣接している。確認面はＶ層上面である。長軸90cm、短軸75cmの楕円形を呈し、深さ12cm～15cmを測る。長軸方位はＮ－５°－Ｗである。底面は南側に向かって緩く傾斜し、径55cm、深さ26cmを測るピット状の凹みに移行する。壁は全般に緩く外反するが、凹みの北壁は垂直に立ち上がったのち弧状を呈しながら開いている。埋土は５層に細分でき、自然堆積を呈する。遺物は出土しなかった。

ＳＫ55（第13図、図版10）

ＬＳ51グリッドに位置し、北側のＳＫ54に隣接している。確認面はＶ層上面である。長軸1.3m、短軸85cmの楕円形を呈し、深さ18cm～22cmを測る。長軸方位はＮ－82°－Ｗである。底面は緩い起伏があり、壁は緩やかに立ち上がる。埋土は２層に細分でき、自然堆積を呈する。遺物は出土しなかった。

ＳＫ58（第４・33図、第４表、図版５・10・22）

ＬＴ50グリッドに位置し、南側のＳＫ59に隣接している。確認面はＶ層上面であるが後世の攪乱を受けているため全容は不明である。攪乱土から第33図111が出土した。口縁部形態は不明であるが、地文に絡条体Ｒ撚が施文された胴上部にくびれをもつ粗製の深鉢形土器である。II群土器に相当する。

ＳＫ63（第13図、図版10）

ＭＢ59グリッドに位置し、確認面はＶ層上面である。南西側が調査区外であるため全容は不明である。現存する規模は最大径2.4m、深さ10cm～30cmを測り、平面形は不整円形を呈すると思われる。底面は中央に向かって傾斜し、南東側は起伏が著しい。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面中央部南西寄りでＳＢ37のＰ６と重複するが埋土の堆積状況から本遺構が新しい。埋土は暗褐色土の単一層である。遺物は埋土から縄文土器片１点が出土した。図示できなかったが絡条体Ｌ撚を施文した深鉢形土器の胴部破片で、II群土器に相当する。

ＳＫ64（第13図、図版10）

ＭＢ60グリッドに位置し、確認面はVI層上面である。ＳＢ37のＰ５・６間を結ぶ線上にあり、Ｐ５に隣接しているが、新旧関係は不明である。長軸98cm、短軸80cmの楕円形を呈し、深さ12cm～20cmを測る。長軸方位はＮ－52°－Ｗである。底面は中央に向って緩く傾斜し、壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土は２層に細分でき、自然堆積を呈する。遺物は埋土１層からフレイク２点が出土した。

ＳＫ66（第13図、図版10）

調査区北西端、ＭＢ61グリッドに位置し、確認面はＶ層上面である。南西側が調査区外であるため全容は不明である。現存する形態から径105cm、深さ22cmの円形を呈すると思われる。底面はほぼ平坦、壁は垂直に立ち上がる。埋土は２層に細分でき、自然堆積を呈する。遺物は出土しなかった。

ＳＫ69（第14・32・33図、第４表、図版11・22・33）

ＬＴ49グリッドに位置する。ＳＩ61の北側壁溝に切られているため全容は不明である。確認面はＳＩ61の床面Ｖ層上面である。径80cm～85cmの円形を呈し、深さ７cm～10cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁は緩く外傾する。底面北西側にはＳＩ61の壁溝が残存し、本遺構底面との比高差は２cm～４cmを測る。埋土は２層に細分でき。人為堆積を呈する。遺物は確認面・埋土から縄文土器片３個体が出土した（第32・33図106～110)。遺物出土状況から北側の破壊を受けた部分にも広がりがあった可能性が高い。106～110はII群土器に相当する。

ＳＫ70（第14・33図、第４・５表、図版11・33）

調査区北西端、ＬＳ61グリッドに位置し、確認面はＶ層上面である。北東側が調査区外であるため全容は不明である。現存する規模は最大径1.6m、深さ８cm～17cmを測り、平面形は円形

を呈すると思われる。底面は起伏が著しく、中央に最大深部がある。壁は開口部に向かって直線的に開く。埋土は６層に細分でき、人為堆積を呈する。また、埋土の堆積状況から本遺構は少なくともⅣ層中で構築されたと考えられる。遺物は埋土５層の最下層から縄文土器片・フレイクが出土した。また、５層上面の２・３層からは15cm大以上の亜角礫石を４個検出した。第33図112・113は同一個体で、深鉢形土器の胴部破片である。114は異個体であるが、同器種の胴部破片である。Ⅱ群土器に相当する。

ＳＫ71（第14図、図版11）

ＭＡ46グリッドに位置し、確認面はⅥ層上面である。径80cmの不整円形を呈し、深さ56cmを測る。底面は丸底を呈し、壁は北東側でオーバーハング、南西側で緩く外傾し、確認面下12cm～20cmの位置から開口部に向かって強く外反する。埋土は２層に細分でき、自然堆積を呈する。遺物は出土しなかった。

ＳＫ72（第14図、図版11）

ＭＡ60グリッドに位置し、確認面はⅥ層上面である。ＳＢ37のプラン内南東部に位置するが、新旧関係は不明である。長軸85cm、短軸58cmの楕円形を呈し、深さ20cm～32cmを測る。主軸はＮ－31°－Ｗである。底面は南東部で丸底状に凹み、最大深部となる。壁は緩く外傾する。埋土は６層に細分でき、人為堆積を呈する。遺物は図示できなかったが、埋土から縄文土器片（Ⅱ群土器相当）、フレイクが出土した。

ＳＫ73（第14図、図版11）

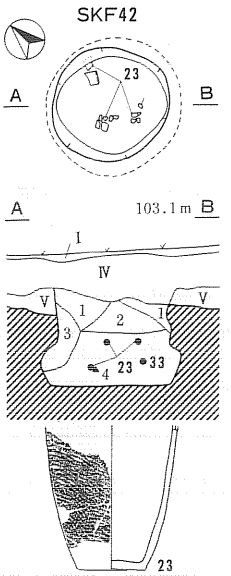
ＭＡ59グリッドに位置し、確認面はⅥ層上面である。長軸65cm、短軸42cm～58cmの不整楕円形を呈し、深さ12cmを測る。長軸方位はＮ－21°－Ｅである。底面は平坦で、壁は緩く外傾する。埋土は自然堆積を呈し、３層に細分したが１・３層は同じと考えられる。遺物は出土しなかった。

ＳＫ74（第14図、図版11）

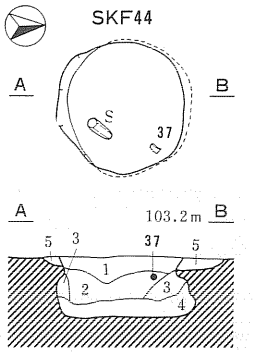
ＬＴ57グリッドに位置し、確認面はⅥ層上面である。径52cm～56cmの略円形を呈し、深さ３cm～10cmを測る。底面は緩い起伏があり、南西側の最大深部に向かって傾斜する。壁は緩い起伏をもちながら外傾する。埋土は黒色土の単一層である。遺物は出土しなかった。

ＳＫ79（第14・33図、第５・20表、図版11・33）

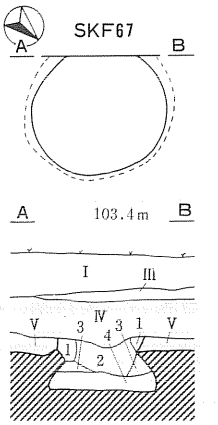
ＭＡ48グリッドに位置し、ＳＩ61石囲炉の西側に隣接している。確認面はＳＩ61の床面で、Ⅴ層上面に相当する。径1.5mの略円形を呈し、深さ18cmを測る。底面は緩い起伏があり、壁は緩く外傾する。底面中央で径18cm～22cmの略円形を呈するベンガラを検出した。底面からは３cm程浮いている。埋土は２層に細分したが、１層はＳＩ61の埋土である。２層は炭化物・小礫を混入し、締まりがかなり強い人為堆積を呈する。遺物は埋土２層から縄文土器片と石鏃４点



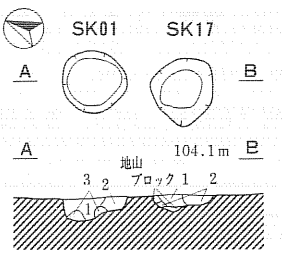
SKF42
1　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 2/3）　粘性あり、しまりあり、地山粒１mm～２mm大10%、炭化物３mm～５mm大２%、小礫３mm－10mm大５%混入
2 黒　色　土（10Ｙ Ｒ 3/1）　粘性あり、しまりあり、炭化物１mm～３mm大２%、地山粒１mm～２mm大２%、小礫５mm～10mm大５%混入
3　黒　色　土（10Ｙ Ｒ 3/1）　粘性あり、しまり強、炭化物１mm～３mm大２%、地山粒１mm～２mm大２%混入
4　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 3/2）　粘性あり、しまりあり、地山ブロック60%混入



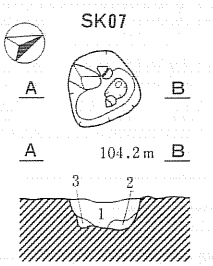
SKF44
1　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 3/2）　粘性あり、しまりあり、５mm～20mm大の小礫５%、地山粒多量混入
2　黒　色　土（10Ｙ Ｒ 1.7/1）　粘性あり、しまりあり、３mm大の小礫、地山粒、炭化物微量混入
3　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 3/2）　粘性あり、しまりあり、５mm～10mm大の小礫５%、地山粒微量混入
4　暗褐色土（10Ｙ Ｒ 3/3）　粘性あり、しまりあり、５mm～20mm大の小礫５%、地山粒及び地山ブロック微量混入
5　暗褐色土（10Ｙ Ｒ 3/1）　粘性あり、しまりなし、攪乱と思われる



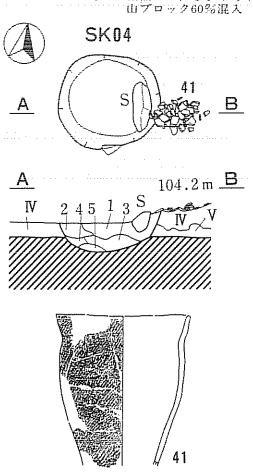
SKF67
1　黒　色　土（10Ｙ Ｒ 3/1）　粘性あり、しまりあり、地山ブロック10%混入
2　黒　色　土（10Ｙ Ｒ 3/1）　粘性あり、しまりあり、
3　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 3/2）　粘性あり、しまりあり
4　暗褐色土（10Ｙ Ｒ 3/3）　粘性あり、しまりあり、小礫・地山粒３%混入



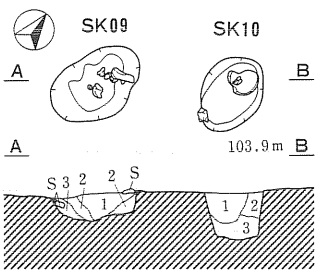
SK01　1　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 3/2）　粘性あり、しまりあり、炭化物１mm大若干、地山粒１mm～２mm大５%、小礫５mm大１%混入
2　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 3/3）　粘性あり、しまりあり、地山粒１mm～２mm大５%、小礫３mm～５mm大混入
3　暗褐色土（10Ｙ Ｒ 3/4）　粘性あり、しまりあり、地山ブロック状60%混入
SK17　1　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 3/2）　粘性あり、しまりあり、地山粒１mm大３%、小礫３mm～５mm大５%混入
2　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 3/3）　粘性あり、しまりあり、地山粒１mm～３mm大10%、小礫10mm大若干混入



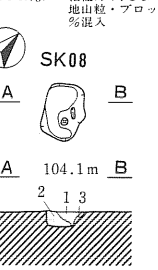
SK07
1　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 3/2）　粘性あり、しまりあり、地山粒１mm～２mm大５%、小礫３mm～10mm大３%混入
2　黒　色　土（10Ｙ Ｒ 3/1）　粘性あり、しまりやや欠ける、地山粒１mm大２%、小礫３mm～５mm大１%混入
3　暗褐色土（10Ｙ Ｒ 3/3）　粘性あり、しまりあり、地山粒・ブロック状10%混入



SK04
1　黒　色　土（10Ｙ Ｒ 3/1）　粘性あり、しまりあり、炭化物２mm大１%、地山粒１mm～２mm大１%混入
2　黒　色　土（10Ｙ Ｒ 3/1）　粘性あり、しまりあり、地山粒１mm大若干混入
3　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 3/4）　粘性あり、しまりあり、地山粒、小礫10%混入
4　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 3/2）　粘性あり、しまりあり、地山粒１mm～２mm大１%、小礫５mm～20mm大２%混入
5　暗褐色土（10Ｙ Ｒ 3/3）　粘性あり、しまりあり、地山粒・ブロック状50%混入



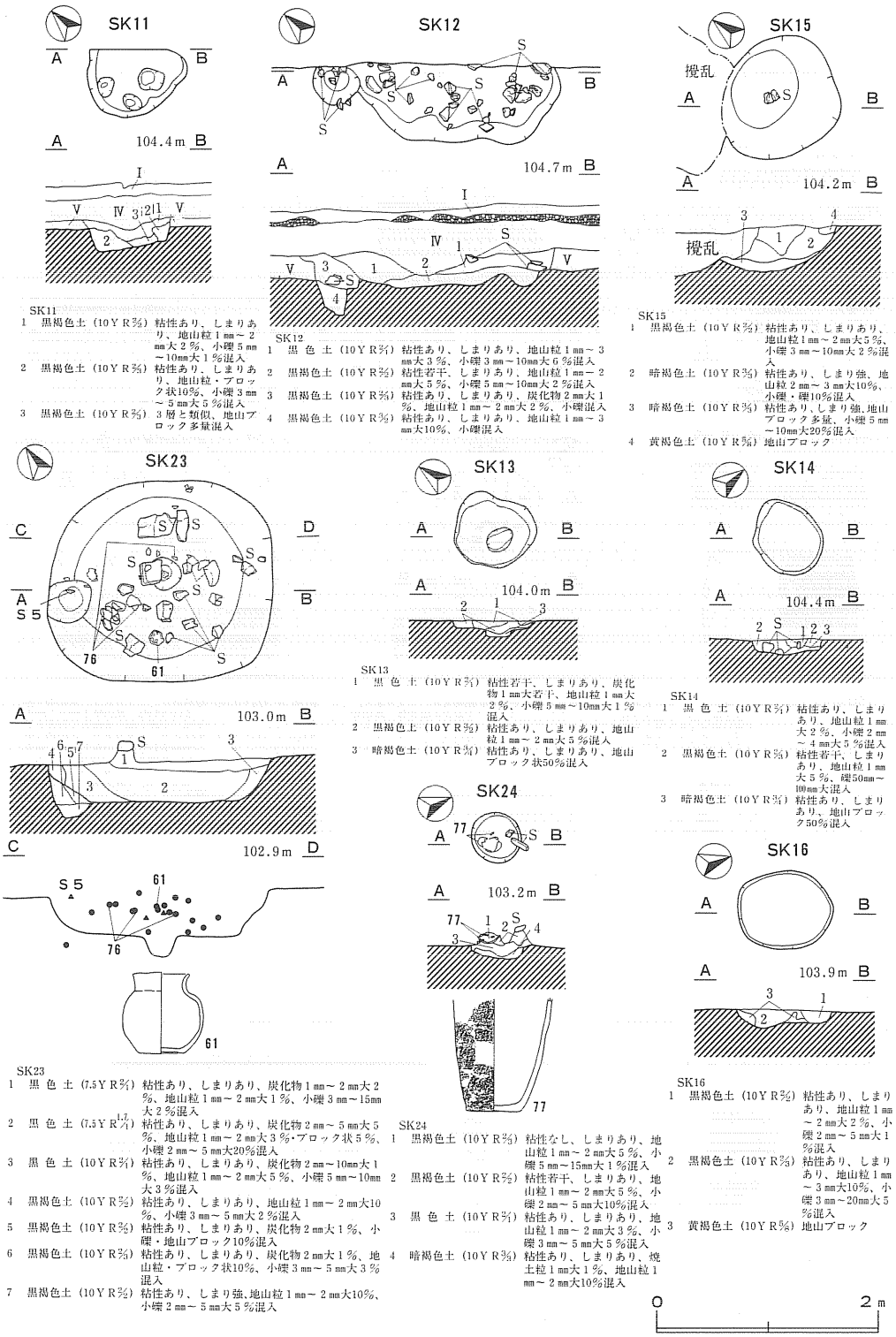
SK09
1　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 3/2）　粘性あり、しまり強、地山粒１mm～２mm大３%混入
2　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 3/2）　粘性あり、しまりあり、地山ブロック30%混入
3　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 3/3）　粘性あり、しまりあり、地山粒１mm～３mm大５%、小礫５mm大１%混入
SK10
1　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 3/2）　粘性あり、しまりあり、地山粒１mm～２mm大１%、小礫３mm～５mm大１%混入
2　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 3/3）　粘性あり、しまりあり、地山粒１mm～２mm大５%、小礫１mm～３mm大１%混入
3　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 3/3）　粘性あり、しまりやや欠ける、地山ブロック50%混入



SK08
1　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 3/2）　粘性あり、しまりあり、地山粒１mm～２mm大５%、小礫３mm～10mm大３%混入
2　黒　色　土（10Ｙ Ｒ 3/1）　粘性あり、しまりやや欠ける、地山粒１mm大２%、小礫３mm～５mm大１%混入
3　暗褐色土（10Ｙ Ｒ 3/4）　粘性あり、しまりあり、地山粒・ブロック状10%混入

0　2m

第10図　ＳＫＦフラスコ状土坑・ＳＫ土坑(1)



SK11
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性あり、しまりあり、地山粒１㎜～２㎜大２％、小礫５㎜～10㎜大１％混入
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性あり、しまりあり、地山粒・ブロック状10％、小礫３㎜～５㎜大５％混入
3　黒褐色土（10ＹＲ3/2）３層と類似、地山ブロック多量混入

SK12
1　黒　色　土（10ＹＲ2/1）粘性あり、しまりあり、地山粒１㎜～３㎜大３％、小礫３㎜～10㎜大６％混入
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性若干、しまりあり、地山粒１㎜～２㎜大５％、小礫５㎜～10㎜大２％混入
3　黒褐色土（10ＹＲ3/1）粘性あり、しまりあり、炭化物２㎜大１％、地山粒１㎜～２㎜大２％、小礫混入
4　黒褐色土（10ＹＲ3/3）粘性あり、しまりあり、地山粒１㎜～３㎜大10％、小礫混入

SK15
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性あり、しまりあり、地山粒１㎜～２㎜大５％、小礫３㎜～10㎜大２％混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）粘性あり、しまり強、地山粒２㎜～３㎜大10％、小礫・礫10％混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/3）粘性あり、しまり強、地山ブロック多量、小礫５㎜～10㎜大20％混入
4　黄褐色土（10ＹＲ5/6）地山ブロック

SK23
1　黒　色　土（7.5ＹＲ2/1）粘性あり、しまりあり、炭化物１㎜～２㎜大２％、地山粒１㎜～２㎜大１％、小礫３㎜～15㎜大２％混入
2　黒　色　土（7.5ＹＲ1.7/1）粘性あり、しまりあり、炭化物２㎜～５㎜大５％、地山粒１㎜～２㎜大３％・ブロック状５％、小礫２㎜～５㎜大20％混入
3　黒　色　土（10ＹＲ2/1）粘性あり、しまりあり、炭化物２㎜～10㎜大１％、地山粒１㎜～２㎜大５％、小礫５㎜～10㎜大３％混入
4　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性あり、しまりあり、地山粒１㎜～２㎜大10％、小礫３㎜～５㎜大２％混入
5　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性あり、しまりあり、炭化物２㎜大１％、小礫・地山ブロック10％混入
6　黒褐色土（10ＹＲ3/3）粘性あり、しまりあり、炭化物２㎜大１％、地山粒・ブロック状10％、小礫３㎜～５㎜大３％混入
7　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性あり、しまり強、地山粒１㎜～２㎜大10％、小礫２㎜～５㎜大５％混入

SK13
1　黒　色　土（10ＹＲ2/1）粘性若干、しまりあり、炭化物１㎜大若干、地山粒１㎜大２％、小礫５㎜～10㎜大１％混入
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性あり、しまりあり、地山粒１㎜～２㎜大５％混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/3）粘性あり、しまりあり、地山ブロック状50％混入

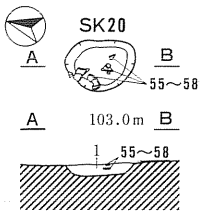
SK14
1　黒　色　土（10ＹＲ2/1）粘性あり、しまりあり、地山粒１㎜大２％、小礫２㎜～４㎜大５％混入
2　黒褐色土（10ＹＲ3/3）粘性若干、しまりあり、地山粒１㎜大５％、礫50㎜～100㎜大混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/3）粘性あり、しまりあり、地山ブロック50％混入

SK24
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）粘性なし、しまりあり、地山粒１㎜～２㎜大５％、小礫５㎜～15㎜大１％混入
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性若干、しまりあり、地山粒１㎜～２㎜大５％、小礫２㎜～５㎜大10％混入
3　黒　色　土（10ＹＲ2/1）粘性あり、しまりあり、地山粒１㎜～２㎜大３％、小礫３㎜～５㎜大５％混入
4　暗褐色土（10ＹＲ3/4）粘性あり、しまりあり、焼土粒１㎜大１％、地山粒１㎜～２㎜大10％混入

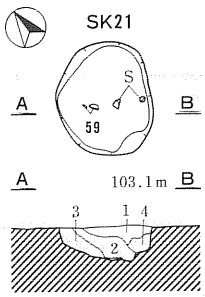
SK16
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性あり、しまりあり、地山粒１㎜～２㎜大２％、小礫２㎜～５㎜大１％混入
2　黒褐色土（10ＹＲ3/3）粘性あり、しまりあり、地山粒１㎜～３㎜大10％、小礫３㎜～20㎜大５％混入
3　黄褐色土（10ＹＲ5/6）地山ブロック

0　2m

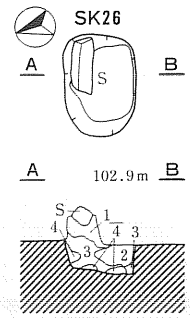
第11図　ＳＫ土坑(2)



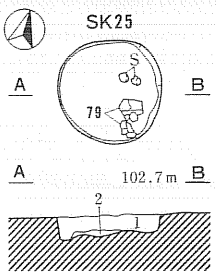
SK20
1　黒褐色土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまりあり、炭化物１mm～２mm大２％、壁土粒１mm大１％、地山粒１mm～２mm大５％、小礫３mm～10mm大１％混入



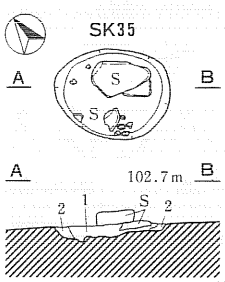
SK21
1　黒褐色土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまりあり、炭化物１mm大１％、地山粒１mm～２mm大５％、小３mm～５mm大１％混入
2　黒　色　土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまりあり、地山粒１mm大３％、小礫３mm～７mm大５％混入
3　黒褐色土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまりあり、地山粒１mm大10％、小礫３mm大１％混入
4　黄褐色土（10Ｙ Ｒ⅝）　地山ブロック



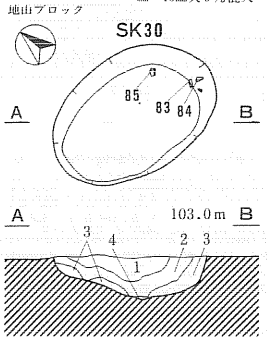
SK26
1　黒褐色土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまりあり、地山粒３mm～10mm大10％、小礫３mm～10mm大５％混入
2　黒　色　土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまりあり、炭化物１mm～３mm大３％混入
3　黒褐色土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまりあり、地山ブロック状20％、小礫３mm～10mm大５％混入
4　地山ブロック



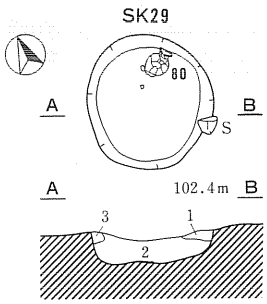
SK25
1　黒　色　土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまりあり、炭化物１mm～２mm大１％地山粒２mm大１％、小礫１mm～５mm大２％混入
2　地山ブロック

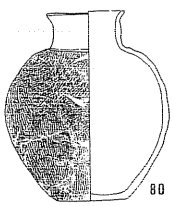


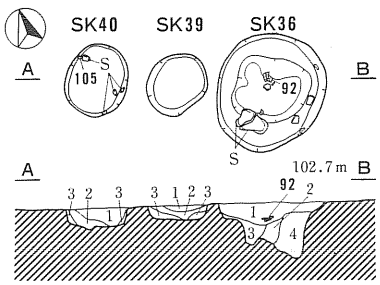
SK35
1　黒褐色土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまりあり、１mm大の炭化物・地山粒５mm大の小礫５％混入
2　暗褐色土（10Ｙ Ｒ¾）　粘性あり、しまりあり、地山ブロック50％混入



SK30
1　黒　色　土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまりあり、炭化物１mm～３mm大10％、地山粒１mm～２mm大２％、小礫３mm～５mm大１％混入
2　黒褐色土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまりあり、炭化物２mm～10mm大20％、地山粒２mm～３mm大５％、小礫２mm～10mm大20％混入
3　黒褐色土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまり強、地山粒１mm～２mm大10％、小礫３mm～５mm大10％混入
4　黒褐色土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまり強、地山ブロック80％混入





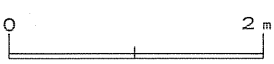


SK36
1　黒　色　土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまりあり、土器片多く混入、３mm～５mmの小礫５％混入
2　黒褐色土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまりなし、１mm以下の地山粒10％混入
3　黒褐色土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまり強、３mm～５mmの小礫５％混入
4　黒　色　土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまりなし、１mm以下の地山粒微量混入

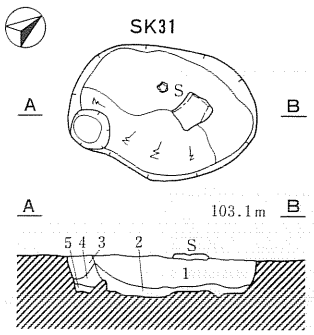
SK39
1　黒　色　土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまりあり、３mm大の小礫・炭化物微量混入
2　黒褐色土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまりあり、２mm大の地山粒・３mm大の小礫５％混入
3　暗褐色土（10Ｙ Ｒ¾）　粘性若干、しまり強、３mm大の小礫10％混入

SK40
1　黒　色　土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまりあり、３mm～５mmの小礫10％、炭化物微量混入
2　黒褐色土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまりあり、３mm大の小礫５％混入
3　暗褐色土（10Ｙ Ｒ¾）　粘性あり、しまり強、地山ブロック50％混入

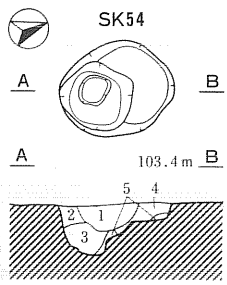
SK29
1　黒褐色土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性若干、しまりあり、地山粒１mm大５％、小礫３mm～５mm大10％混入
2　黒　色　土（10Ｙ Ｒ⅔）　粘性あり、しまりあり、炭化物２mm～５mm大３％地山粒１mm大５％、小礫３mm～10mm大10％混入
3　暗褐色土（10Ｙ Ｒ¾）　粘性なし、しまりやや欠ける、地山粒１mm～２mm大50％、小礫３mm～５mm大10％混入



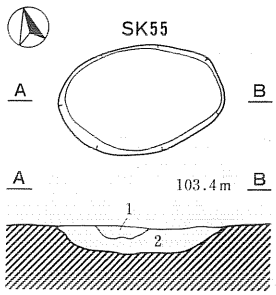
第12図　ＳＫ土坑(3)



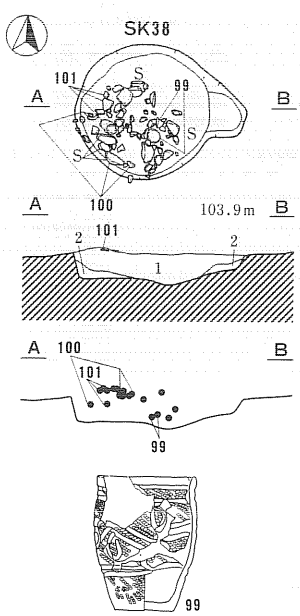
SK31
1　黒 色 土（10Ｙ Ｒ3/1）粘性あり、しまりあり、炭化物１㎜～２㎜大３％、地山粒１㎜～３㎜大５％、小礫３㎜－10㎜大３％混入
2　黒褐色土（10Ｙ Ｒ3/2）粘性あり、しまりあり、地山粒１㎜～３㎜大20％、ブロック状50％、小礫３㎜～10㎜大
3　黒 色 土（10Ｙ Ｒ3/1）粘性あり、しまりあり、地山粒１㎜大２％、小礫３㎜大１％混入
4　黒褐色土（10Ｙ Ｒ3/2）粘性あり、しまりあり、焼土粒１㎜大５％、地山粒１㎜大５％混入
5　黒褐色土（10Ｙ Ｒ3/2）粘性あり、しまりあり、焼土粒３㎜大１％、地山粒３㎜大５％混入



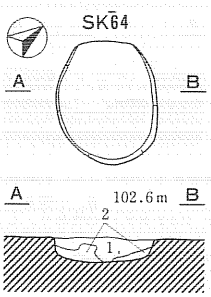
SK54
1　黒褐色土（10Ｙ Ｒ3/2）粘性あり、しまりあり、炭化物１㎜～３㎜大１％、地山粒１㎜～３㎜大10％、小礫３㎜～５㎜大15％混入
2　黒褐色土（10Ｙ Ｒ3/2）粘性あり、しまりあり、炭化物３㎜～10㎜大２％、地山ブロック状50％混入
3　黒 色 土（10Ｙ Ｒ3/1）粘性あり、しまりやや欠ける、炭化物５㎜～20㎜大10％、地山粒１㎜～２㎜大３％、小礫５㎜～20㎜大２％混入
4　黒褐色土（10Ｙ Ｒ3/2）粘性あり、しまりあり、地山粒１㎜～２㎜大５％、小礫５㎜～20㎜大１％混入
5　地山ブロック



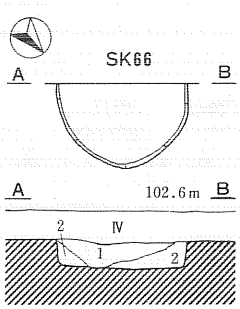
SK55
1　黒褐色土（10Ｙ Ｒ3/2）粘性あり、しまりあり、地山ブロック70％、小礫３㎜～10㎜大３％混入
2　黒 色 土（10Ｙ Ｒ3/1）粘性あり、しまりあり、炭化物２㎜～５㎜大10％、地山粒１㎜～２㎜大３％、小礫３㎜～10㎜大10％混入



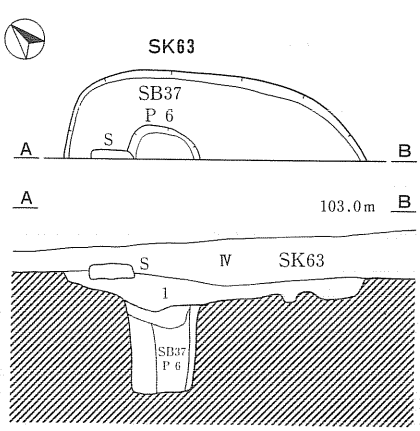
SK38　1　黒褐色土（10Ｙ Ｒ3/2）粘性あり、しまりあり、５㎜～20㎜の小礫多量混入、地山粒微量混入
2　暗褐色土（10Ｙ Ｒ3/4）粘性あり、しまりあり、５㎜大の小礫微量混入地山粒５％混入



SK64　1　黒褐色土（10Ｙ Ｒ3/2）粘性あり、しまりあり
2　褐 色 土（10Ｙ Ｒ4/4）粘性強、しまり強、まだら状に１層を15％混入



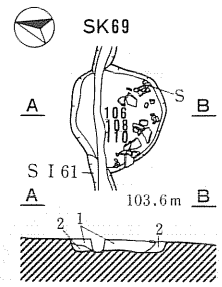
SK66　1　黒褐色土（10Ｙ Ｒ3/2）粘性あり、しまりあり
2　褐 色 土（10Ｙ Ｒ4/4）粘性強、しまり強、小礫３％、地山粒７％



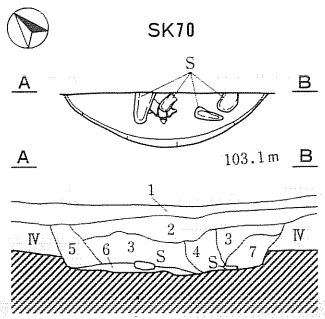
SK63　1　暗褐色土（10Ｙ Ｒ3/3）粘性あり、しまりあり、地山粒２㎜～３㎜大及び小礫２㎜大５％混入

0　2m

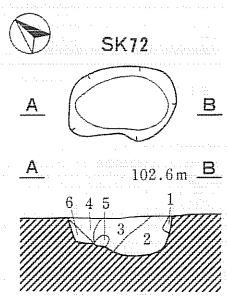
第13図　ＳＫ土坑(4)



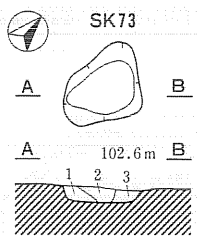
SK69
1　黒 色 土（10Ｙ Ｒ2/1）粘性あり、しまりあり、地山粒１㎜～２㎜大２％混入
2　黒褐色土（10Ｙ Ｒ2/2）粘性あり、しまりあり、地山粒及びブロック状10％混入



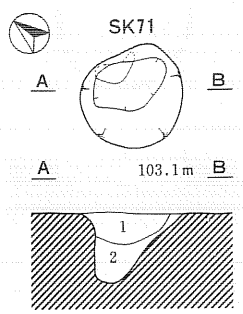
SK70
1　黒 色 土（10Ｙ Ｒ2/1）粘性あり、しまりあり、小礫５％混入
2　黒褐色土（10Ｙ Ｒ2/3）粘性あり、しまりあり、炭化物１％混入
3　黒褐色土（10Ｙ Ｒ3/2）粘性あり、しまりあり、炭化物１％混入
4　暗褐色土（10Ｙ Ｒ3/3）粘性あり、しまりあり、炭化物１％混入
5　黒褐色土（10Ｙ Ｒ2/3）粘性あり、しまりあり、炭化物１％、小礫３％混入
6　暗褐色土（10Ｙ Ｒ3/3）粘性あり、しまりあり



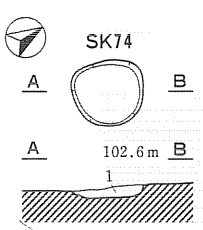
SK72
1　にぶい黄褐色土（10Ｙ Ｒ3/4）粘性強、しまり強、小礫若干混入
2　黒 色 土（7.5Ｙ Ｒ2/1）粘性あり、しまりあり小礫３％混入
3　黒 色 土（10Ｙ Ｒ2/1）粘性あり、しまりあり
4　黒褐色土（10Ｙ Ｒ3/2）粘性あり、しまりあり
5　黄褐色土（10Ｙ Ｒ5/6）粘性強、しまり強、地山ブロック多量混入
6　褐 色 土（10Ｙ Ｒ4/4）粘性あり、しまりあり、小礫少量混入



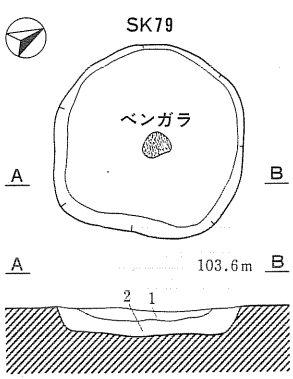
SK73
1　黒 色 土（10Ｙ Ｒ2/1）粘性あり、しまりあり炭化物３％地山粒子３％混入
2　黒褐色土（10Ｙ Ｒ3/3）粘性あり、しまりあり炭化物５％混入
3　黒 色 土（10Ｙ Ｒ2/1）粘性あり、しまりあり



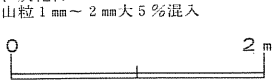
SK71
1　黒 色 土（10Ｙ Ｒ2/1）粘性あり、しまりやや欠ける、炭化物１㎜～２㎜大若干、小礫３㎜～10㎜大５％混入
2　黒 色 土（10Ｙ Ｒ2/2）粘性あり、しまりあり、地山粒及びブロック状５％混入



SK74
1　黒 色 土（10Ｙ Ｒ2/1）粘性あり、しまりやや欠ける、炭化物３％、地山粒３％混入



SK79
1　黒 色 土（10Ｙ Ｒ2/1）粘性若干、しまりあり、炭化物多量混入
2　黒褐色土（7.5Ｙ Ｒ2/2）粘性あり、しまり強、炭化物３㎜－10㎜大30％、小礫３㎜～10㎜大10％、地山粒１㎜～２㎜大５％混入



第14図　ＳＫ土坑(5)

が出土した（第33図115～117、Ｓ６～Ｓ９）。II群土器に相当する。

第２節　弥生時代の遺構と遺物

１．竪穴住居跡

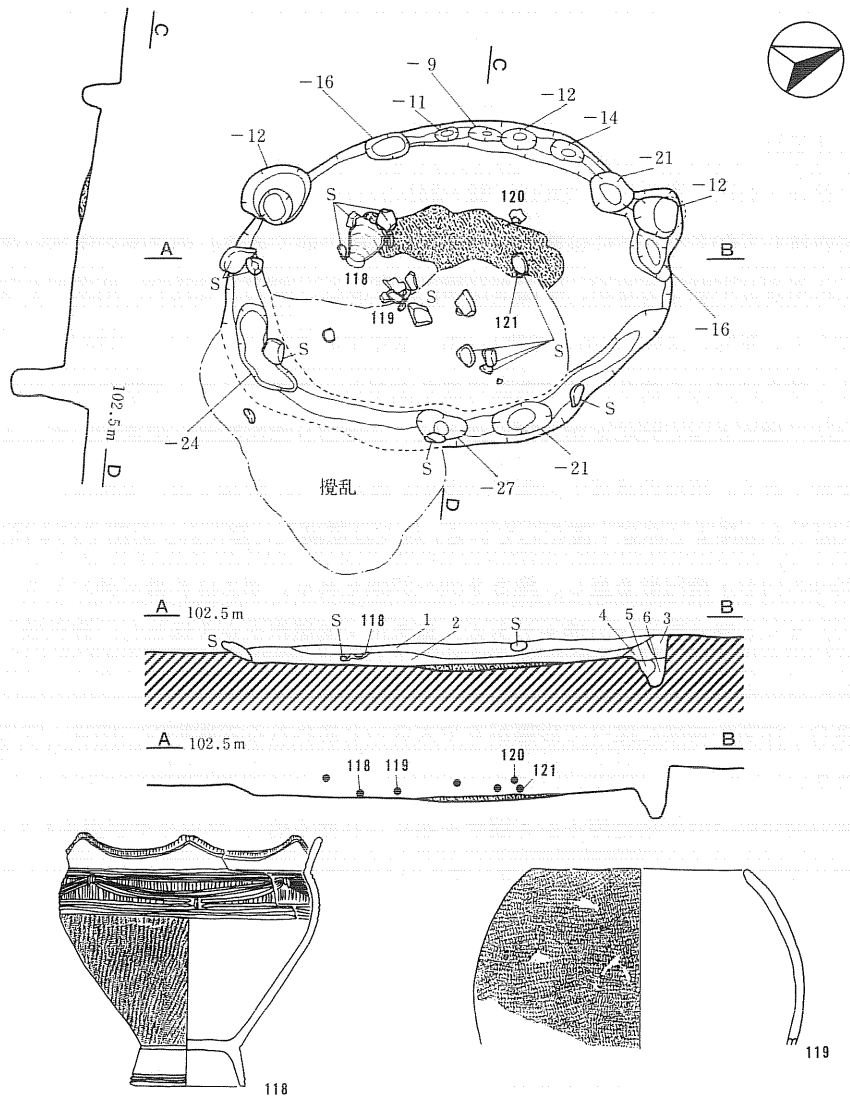
ＳＩ28（第15・34図、第５表、図版12・22・34）

調査区北西端ＬＴ60グリッドに位置し、確認面はVI層上面である。南東側が後世の攪乱を受けているため全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈し、壁溝・壁柱穴・地床炉を有する竪穴住居跡である。規模は長軸2.3m、短軸1.7m、推定床面積2.3m²を測り、長軸方位はＮ－16°－Ｅである。壁高は10cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。壁直下には上面幅９cm～18cm、底面幅３cm～10cm、深さ６cm～21cmを測る溝が巡るが、北東側と南西側で一部途切れている。床面は平坦で堅緻である。床面のほぼ中央部に地床炉が設けられ、長軸１m、短軸32cmの長楕円形を呈し、床面下３cm程まで赤変・硬化している。柱穴は壁溝内に穿たれ、全部で12本検出した。径10cm～30cmの円形・楕円形を呈し、深さ９cm～27cmを測る。埋土は６層に細分でき、自然堆積を呈する。３～６層は壁柱穴の埋土である。黒色土・黒褐色土を主体とし、炭化物、焼土粒を混入する。特に壁溝・壁柱穴の埋土に顕著であったことから本遺構は焼失家屋の可能性が高い。その場合、住居の規模に比べて形態がやや大きいと思われる地床炉の一部は、焼失の痕跡と考えられる。

遺物は第34図118～121の他に埋土から縄文土器片（II群土器）、フレイクが出土した。120以外は炉周辺の床面から出土し、横転し、押し潰された状況を呈する。118は二次焼成の痕跡が著しい台付鉢である。120がII群土器、他はIV群土器に相当する。

ＳＩ33（第16・34図、第５・20表、図版13・14・22・34）

調査区中央ＬＳ52・53グリッドに位置し、確認面はIV層上面である。北東側の約半分が調査区外にかかっているため全容は不明であるが、平面形は円形を呈し、北西壁下に土器埋設遺構を有する竪穴住居跡である。本遺構はIV層上面でIII層（十和田ａ火山灰）の半円状を呈するプランを検出したため、その存在を予想することができた。現存する規模は長径6.9m、短径3.0m、壁高30cm～40cmを測る。壁は緩い弧状を呈し、特に南西側は著しい。床面は緩い起伏をもちながら中央に向かって傾斜し、最大深部で確認面から55cmを測る。柱穴は全部で４本検出した。径33cm～45cmの円形を呈し、深さ11cm～59cmを測る。Ｐ１・２とＰ３・４がそれぞれ形態が類似し、主柱穴はＰ１・２、他は支柱穴である。Ｐ２は径36cm、深さ26cmを測るピット状の凹みと重複するが、埋土の堆積状況からＰ２が新しい。埋土はＰ３を含めて８層に細分した。自然堆積を呈し、１～３層は基本層序のＩ～III層に相当する。４層以下は黒色土・黒褐色土を



ＳＩ28

1	黒褐色土（10ＹＲ2/2）	粘性若干、しまりあり、炭化物１mm～５mm大５％、地山粒１mm～２mm大10％、小礫５mm～20mm大５％混入
2	黒 色 土（10ＹＲ2/2）	粘性若干、しまりあり、炭化物10mm～30mm大10％、地山粒１mm～２mm大５％、焼土粒１mm大２％、小礫３mm～５mm大３％混入
3	黒褐色土（10ＹＲ3/2）	粘性若干、しまりあり、炭化物３mm大１％、地山粒１mm～２mm大10％混入
4	黒褐色土（10ＹＲ3/2）	粘性若干、しまりあり、焼土粒３mm大２％、地山粒２mm大３％混入
5	暗褐色土（10ＹＲ3/3）	粘性若干、しまりあり、炭化物・焼土粒30％混入
6	黒褐色土（10ＹＲ3/2）	粘性若干、しまり欠ける、焼土粒２mm大10％、炭化物１mm大５％、地山粒３mm大10％混入

0　2m

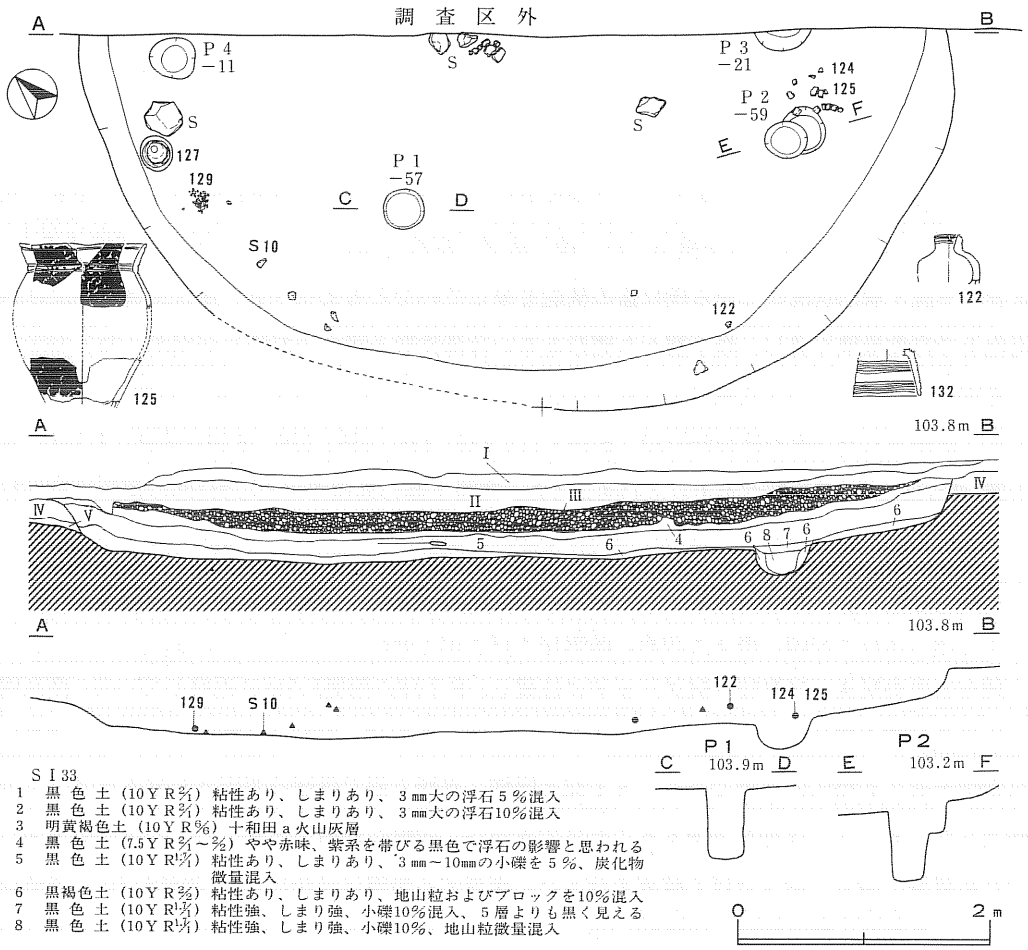
第15図　ＳＩ28竪穴住居跡

主体とするが、床面直上の６層は堆積状況から掘り方の痕跡を留めたものと考えられる。また、埋土の観察から本遺構はⅣ層上面で構築され、Ⅵ層（地山）を10cm～30cm程掘り下げていることが窺える。付属施設として炉は検出しなかったが、北西壁下に土器埋設遺構を検出した。平面形は径25cm～28cmの円形を呈し、深さ20cmを測る。埋設土器は口頸部を欠損する壺形土器で底部は丸底を呈し、掘り方底面からは２cm程浮いている。土器の北東側に隣接して径30cm、厚さ1.5cm～４cmの亜角礫１点を検出した。礫の底面と埋設土器の上面のレベルが一致すること、両者の形態・検出状況などから礫は蓋の機能を果していたと考えられる。埋設土器の埋土は黒褐色土で自然堆積を呈し、最下層から甕形あるいは深鉢形土器の底部破片が出土した。

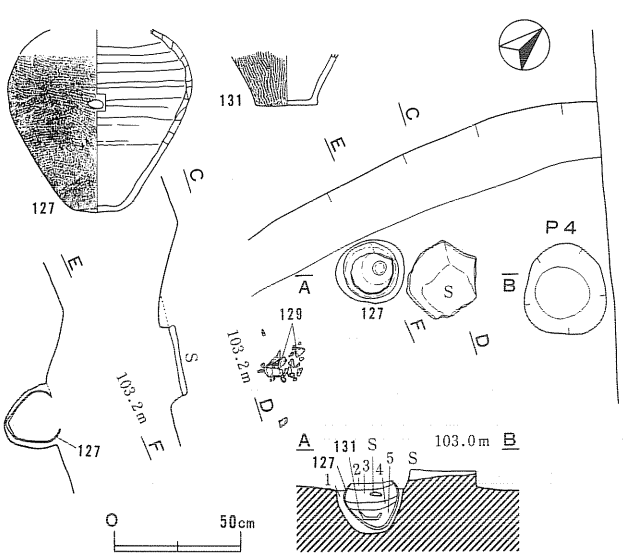
遺物は埋土及び床面から縄文土器片（Ⅱ群土器）、弥生土器片（Ⅳ群土器）、石器、フレイク、チップが出土した（第34図122～132、Ｓ10・11）。122、124、125、129、Ｓ10は床面、127は埋設土器、131は127の埋土から出土している。また、埋設土器の南側で出土した129の周辺にはフレイク・チップが155点散在していた。遺物は全般的に壁際から柱穴までの床面および埋土から出土した。

ＳＩ34（第17・35図、第５・20表、図版13・14・22・34）

調査区中央ＭＡ・ＭＢ52～54グリッドに位置し、ＳＩ33の西側5.5ｍに近接している。南西側の約半分が調査区外にかかっているため全容は不明であるが、平面形は楕円形を呈し、壁溝と石囲炉を有する竪穴住居跡である。ＳＩ33と同様、Ⅳ層上面でⅢ層の半円状を呈するプランを検出したため、その存在を予想することはできたが、明瞭な形態を把握することが困難であったためⅥ層上面まで掘り下げて精査を行った。現存する規模は長径7.9ｍ、短径4.3ｍ、壁高13cm～26cmを測り、推定長軸方位はＮ－90°－Ｗである。壁は南東側で緩く外傾し、北西側ではかなり緩く立ち上がる。壁直下には上面幅13cm～28cm、底面幅５cm～21cm、深さ５cm～16cmを測る溝が巡るが、北西側から北東側にかけて部分的に途切れる。底面及び途切れる部分には径12cm～36cm、深さ６cm～28cmを測る円形の落ち込みを伴う。床面はほぼ平坦であるが、中央に向かって緩く傾斜し、特に東側・南東側からの傾斜が著しい。柱穴は全部で９本検出した。径30cm～50cmの円形を呈し、深さ10cm～45cmを測る。主柱穴はＰ１・３で、他は支柱穴であるが、Ｐ９は埋土の堆積状況から本遺構より古いピットである。本遺構の最大深部である床面中央やや西寄りに石囲炉が付設されている。現存する形態から径1.0ｍ、深さ６cm～16cmの円形を呈する掘り込みの縁辺に16cm～27cm大の亜角礫を配置した石囲炉である。底面中央部は径28cmの丸底状に凹み、加熱のため赤変、硬化している。また礫も赤変が著しく脆弱である。埋土は石囲炉も含めて６層に細分した。自然堆積を呈する黒色土・黒褐色土であるが床面直上の２層はＳＩ33の６層と同様、掘り方の痕跡を留めたものと考えられる。埋土の観察から本遺構はⅣ層上面・Ⅳ層上部で構築され、Ⅵ層（地山）を10cm程掘り下げていることが窺える。

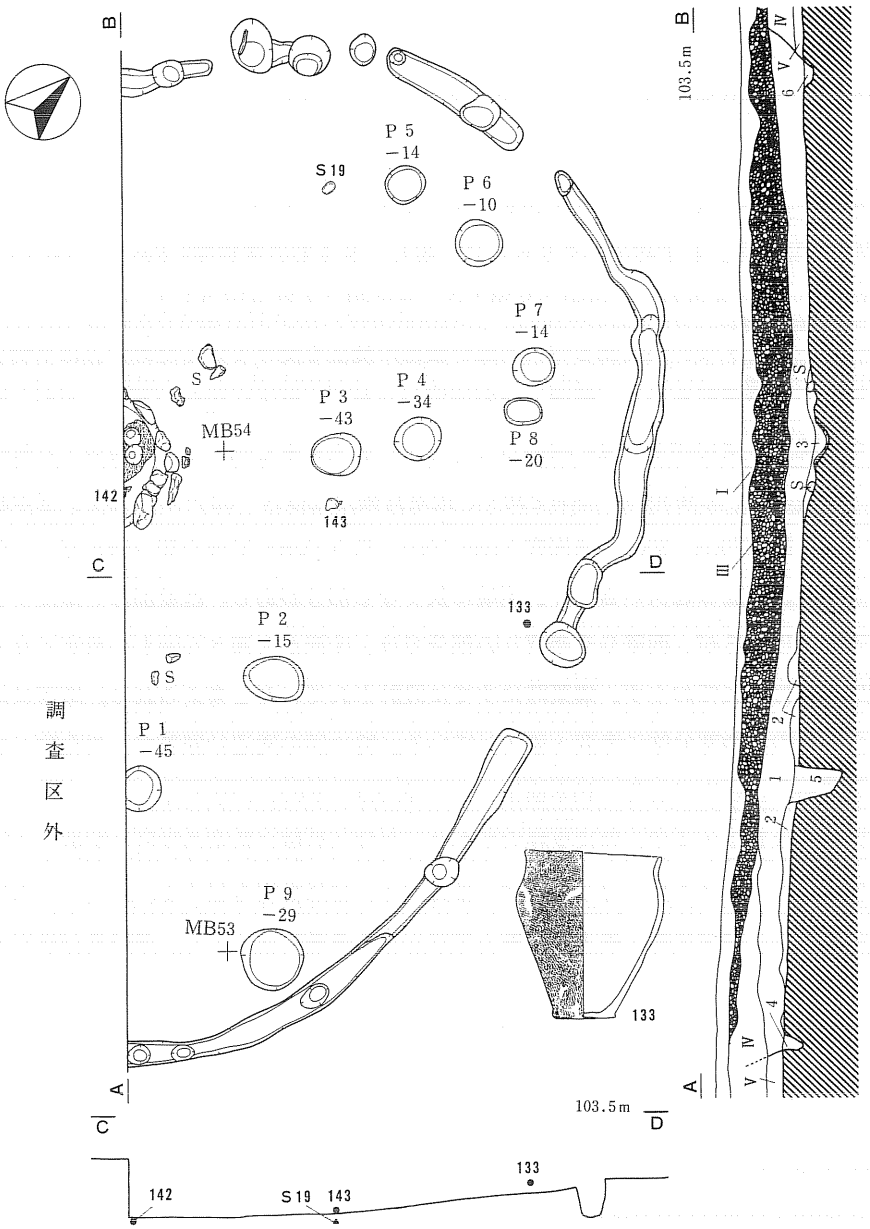


ＳＩ33
1　黒 色 土（10ＹＲ2/1）粘性あり、しまりあり、３㎜大の浮石５％混入
2　黒 色 土（10ＹＲ2/1）粘性あり、しまりあり、３㎜大の浮石10％混入
3　明黄褐色土（10ＹＲ6/6）十和田ａ火山灰層
4　黒 色 土（7.5ＹＲ2/1～3/2）やや赤味、紫系を帯びる黒色で浮石の影響と思われる
5　黒 色 土（10ＹＲ1/1）粘性あり、しまりあり、3㎜～10㎜の小礫を５％、炭化物微量混入
6　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性あり、しまりあり、地山粒およびブロックを10％混入
7　黒 色 土（10ＹＲ1/1）粘性強、しまり強、小礫10％混入、５層よりも黒く見える
8　黒 色 土（10ＹＲ1/1）粘性強、しまり強、小礫10％、地山粒微量混入



ＳＩ33
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性あり、しまりあり、地山粒１㎜～２㎜大及びブロック状30％、小礫５㎜大１％混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/2）粘性若干、しまりあり、地山粒１㎜～２㎜大５％混入
3　黒褐色土（10ＹＲ2/3）粘性若干、しまりあり、地山粒１㎜～２㎜大10％、小礫５㎜～30㎜大20％混入
4　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性あり、しまりあり、炭化物３㎜～５㎜大７％、地山粒１㎜～２㎜大20％、小礫５㎜～20㎜大30％混入
5　黒褐色土（10ＹＲ2/3）粘性若干、しまりあり、地山ブロック10％、小礫３㎜～10㎜大10％混入

第16図　ＳＩ33竪穴住居跡



ＳＩ34
1　黒 色 土（10ＹＲ1.7）粘性あり、しまりあり、３㎜大の炭化物少量、３㎜大の小礫少量、地山粒微量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性あり、しまりあり、５㎜大の地山粒及びブロックを多量、炭化物を微量混入
3　黒褐色土（10ＹＲ2/3）粘性若干、しまりあり、明褐色（7.5ＹＲ5/8）焼土粒１㎜～２㎜大10%、炭化物１㎜～２㎜大１%、小礫２㎜～５㎜大２%混入
4　黒褐色土（10ＹＲ2/2）粘性あり、しまりあり、地山粒３%混入
5　黒褐色土（10ＹＲ2/2）粘性あり、しまりやや欠ける、地山粒７%、小礫３%混入
6　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性あり、しまりあり、地山粒５%、小礫３%混入

0　2m

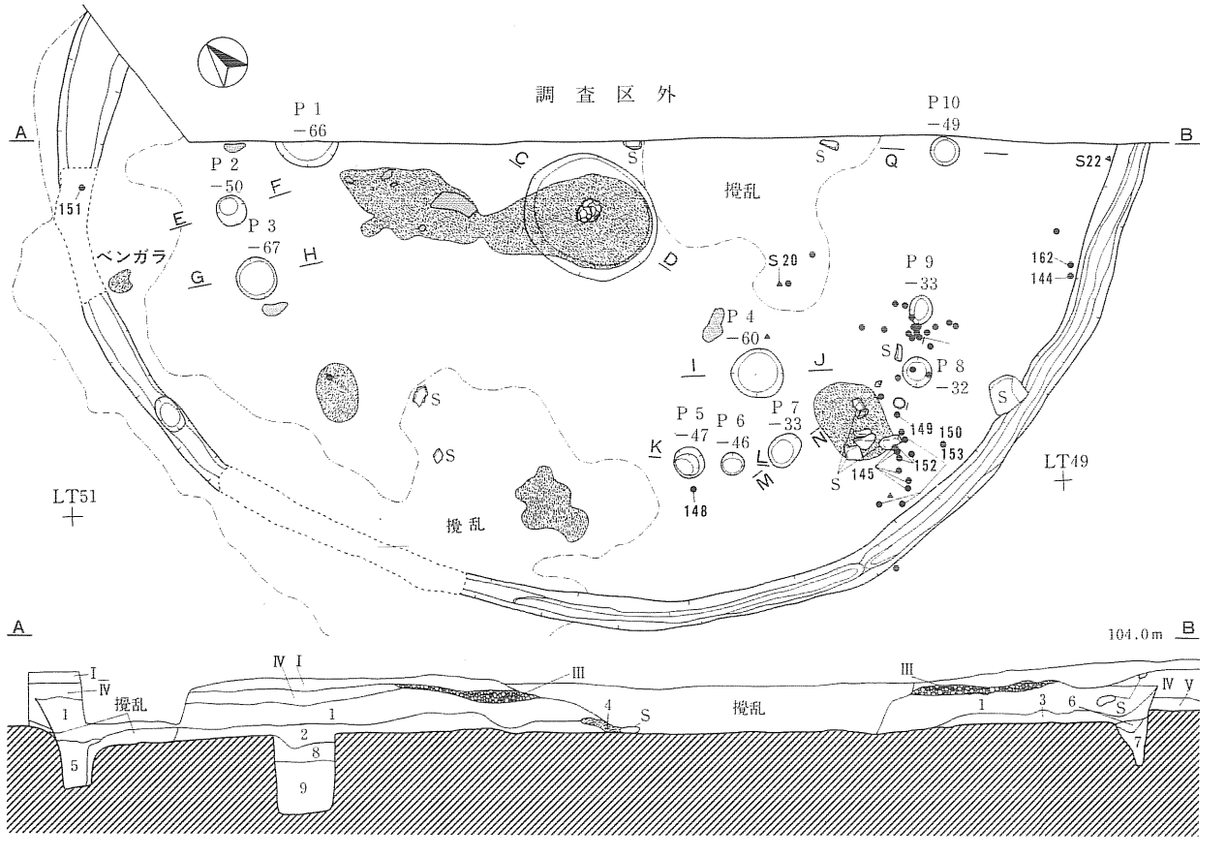
第17図　ＳＩ34竪穴住居跡

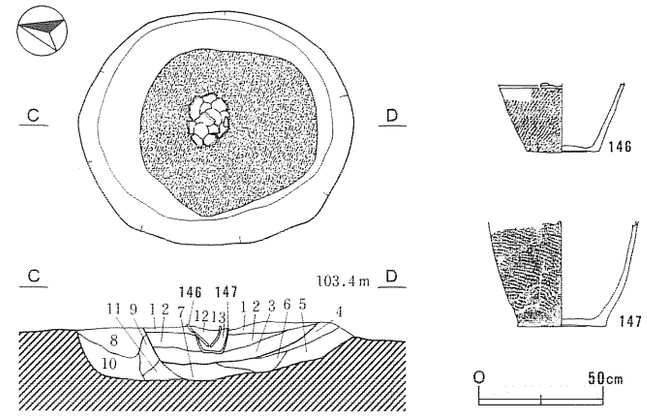
遺物は埋土及び床面から縄文土器片（Ⅱ群土器）、弥生土器片（Ⅳ群土器）、石器、フレイクが出土した（第35図、134～143、Ｓ12～19）。特にフレイクの出土が多く62点を数える。133は完形の甕形土器で、北東壁際に横転し、若干押し潰された出土状況を呈する。133、143、Ｓ19は床面、他は埋土から出土している。

ＳＩ60（第18・35～37図、第５・６・20表、図版15・22・23・35）

調査区中央ＬＳ48～50、ＬＴ49・50グリッドに位置し、ＳＩ33の南東側4.8m、ＳＩ61の北側1.4mに近接している。確認面は北西側でⅤ層上面、南東側でⅥ層上面である。北東側の約半分が調査区外にかかり、また、西壁側と中央南部が後世の攪乱を受けているため全容は不明であるが、平面形は不整楕円形を呈し、壁溝と土器埋設炉を有する竪穴住居跡である。また、埋土及び床面上から焼土・炭化物を多量に検出したことから焼失家屋と判断した。現存する規模は長径8.8m、短径4.0m、壁高30cm～38cmを測り、推定長軸方位はＮ－32°－Ｗである。壁は緩く外傾し、直下に上面幅20cm～30cm、底面幅５cm～10cm、深さ23cm～32cmを測る溝が巡る。断面形は漏斗状を呈し、底面は起伏が著しく、極端に狭くなる部分がある。西壁部分が攪乱を受けているため不明ではあるが、西壁やや南寄りの部分では、床面から深さ５cmと一段高くなっている。埋め戻しは行われておらず、構築時にすでに設計されていたと考えられる。床面はほぼ平坦であり、焼失のため部分的に赤変・硬化している。特に炉の周辺は顕著で、炭化物・焼土が厚く堆積していた。柱穴は全部で10本検出した。径20cm～50cmの円形を呈し、深さ32cm～66cmを測る。主柱穴はＰ１・４で、他は支柱穴であり、主柱の外側に数本の支柱を配置する構造が窺える。埋土はＰ１・基本層を含めて12層に細分でき、自然堆積を呈する。黒色土・黒褐色土を主体とし、１～３は炭化物・焼土粒・焼土ブロックを多量に混入する。壁溝及び柱穴の埋土は、炭化物を混入するものの焼土の混入は少なく全般的に締まりがない。また、埋土の観察から本遺構はⅣ層上部で構築され、Ⅵ層（地山）を10cm程掘り下げていることが窺える。床面中央やや南西寄りで土器埋設炉を検出した。構造は径94cm～110cm、深さ15cm～22cmの略円形に床面を掘り下げ、地山粒を混入した暗褐色土を充塡する。その後、径65cm～72cm、深さ14cmの略円形に再度掘り下げ、中央から北寄りに土器を立て据え、地山土を充塡する。土器は甕か深鉢の底部から胴下半部までで、底面からは10cm浮いている。埋土は13層に細分した。２・３層が地山土の充塡層で、赤変・硬化が著しい。４～11層は暗褐色土の充塡層で、全般的ににぶい色調を呈し、加熱の影響があまり看取できない。１・12・13層は焼失時の痕跡を留める堆積土である。

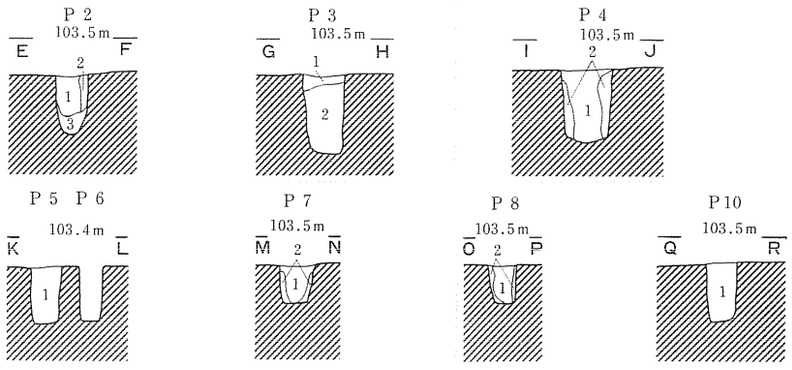
遺物は埋土・床面から弥生土器片、石器（Ⅳ群土器）、フレイクが多数出土した（第35～37図、144～161、Ｓ20～22）。大部分は床面に横転し、押し潰された状況を呈し、特に南壁側Ｐ７～９付近に集中する（145、149、150、152、153、162）。また、この部分の床面直上の２層中から炭





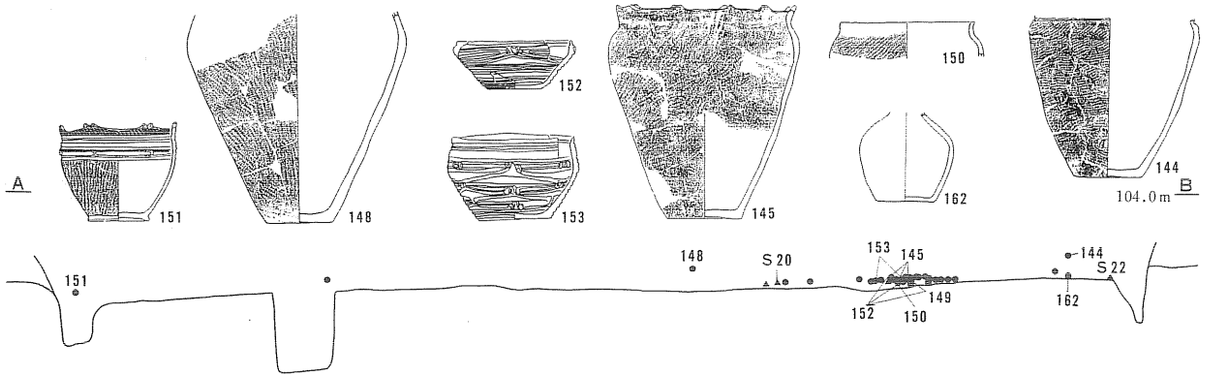
ＳＩ60
（Ｃ－Ｄ）

1	明赤褐色土	(10ＹＲ5/8)	焼土、粘性若干、しまり強
2	明赤褐色土	(5ＹＲ5/8)	焼土、粘性若干、しまり強、小礫７％混入
3	赤褐色土	(5ＹＲ4/8)	焼土、粘性若干、しまり強、小礫７％混入
4	暗褐色土	(7.5ＹＲ3/4)	粘性若干、しまり強、小礫５％混入、炉の周辺にみられる
5	暗褐色土	(7.5ＹＲ3/3)	粘性若干、しまり強
6	暗褐色土	(7.5ＹＲ3/4)	粘性あり、しまりあり、小礫３％混入
7	赤褐色土	(5ＹＲ4/8)	粘性若干、しまり強、小礫３％混入
8	黒褐色土	(7.5ＹＲ3/2)	粘性若干、しまり強、炭化物１％混入
9	褐色土	(7.5ＹＲ4/6)	粘性若干、しまり強、小礫７％混入
10	褐色土	(7.5ＹＲ4/3)	粘性若干、しまり強、サラサラしている
11	明褐色土	(7.5ＹＲ5/6)	粘性あり、しまり強
12	極暗褐色土	(7.5ＹＲ2/3)	粘性あり、しまりあり、炭化物７％混入
13	褐色土	(7.5ＹＲ4/6)	焼土、粘性若干、しまりあり、炭化物１mm大若干混入



ＳＩ60（Ａ－Ｂ）

1	黒色土	(10ＹＲ2/1)	粘性若干、しまりあり、炭化物２mm～５mm大３％、小礫２mm～５mm大10％、焼土粒１mm大一部ブロック状に混入
2	黒色土	(10ＹＲ2/1)	粘性若干、しまりあり、炭化物を多量に混入、焼土粒１mm～２mm大３％、小礫３mm～５mm大５％混入
3	黒褐色土	(10ＹＲ3/2)	粘性若干、しまりあり、炭化物３mm～５mm大２％、地山粒１mm～２mm大５％、小礫３mm大１％混入
4	明褐色土～褐色土	(7.5ＹＲ5/8～4/6)	焼土ブロック
5	黒色土	(10ＹＲ2/1)	粘性あり、しまりあり、地山粒１mm～２mm大及び一部ブロック状20％混入
6	黒色土	(10ＹＲ3/2)	粘性あり、しまり強、小礫３mm～５mm大１％混入
7	黒褐色土	(10ＹＲ3/2)	粘性あり、しまり強、地山ブロック状10％、炭化物１mm～２mm大１％混入
8	黒褐色土	(10ＹＲ3/2)	粘性あり、しまりあり、地山粒１mm～３mm大10％、小礫３mm～５mm大５％混入
9	黒色土	(10ＹＲ2/1)	粘性若干、しまりやや欠ける、地山粒２mm～５mm大１％、ブロック状20％、小礫３mm～５mm大10％混入



ＳＩ60（Ｅ－Ｆ）

1	黒色土	(10ＹＲ2/1)	粘性若干、しまりあり、炭化物２mm～４mm大３％混入
2	黒色土	(10ＹＲ2/1)	地山ブロック多量混入
3	暗褐色土	(10ＹＲ3/3)	粘性あり、しまりやや欠ける、地山粒及びブロック状50％混入

ＳＩ60（Ｇ－Ｈ）

1	黒色土	(10ＹＲ2/1)	粘性若干、しまりあり、炭化物２mm～４mm大３％、地山粒１mm～２mm大１％混入
2	黒褐色土	(10ＹＲ3/2)	粘性あり、しまりやや欠ける、地山粒及びブロック状30％、小礫10mm～30mm大３％混入

ＳＩ60（Ｉ－Ｊ）

1	黒色土	(10ＹＲ2/1)	粘性あり、しまりなし、炭化物１mm～５mm大５％、地山粒１mm～２mm大５％混入
2	黒褐色土	(10ＹＲ3/2)	粘性若干、しまりやや欠ける、地山粒及びブロック状20％混入

ＳＩ60（Ｋ－Ｌ）

1	黒色土	(10ＹＲ2/1)	粘性あり、しまりやや欠ける、炭化物２mm～５mm大７％、地山粒１mm～２mm大及びブロック状50％混入

ＳＩ60（Ｍ－Ｎ）

1	黒色土	(10ＹＲ2/1)	粘性あり、しまりやや欠ける、炭化物１mm～５mm大５％、地山粒１mm～２mm大５％混入
2	黒褐色土	(10ＹＲ3/2)	粘性若干、しまりやや欠ける、地山粒及びブロック状20％混入

ＳＩ60（Ｏ－Ｐ）

1	黒色土	(10ＹＲ2/1)	粘性あり、しまりやや欠ける、炭化物１mm～５mm大５％、地山粒１mm～２mm大５％混入
2	黒褐色土	(10ＹＲ3/2)	粘性若干、しまりやや欠ける、地山粒及びブロック状20％混入

ＳＩ60（Ｑ－Ｒ）　1　黒色土（10ＹＲ2/1）粘性あり、しまりやや欠ける、炭化物３mm～５mm大５％、地山粒１mm～２mm大若干、一部ブロック状２％、小礫３mm～５mm大５％混入

第18図　ＳＩ60竪穴住居跡

化栗が数個出土している。147は炉の埋設土器で、146は147に半ば埋まる状況で出土している。144・148は床面から18cm程浮いているため、本遺構焼失後に流入したものと考えられる。151・162は北西壁溝内から出土したが、攪乱部分であるため、原位置から動いている可能性がある。また、北西壁側で径15cmを測るベンガラを検出したが、攪乱を受けているため遺存状況は極めて不良であった。

ＳＩ61（第19・38～41図、第６・７・20表、図版16・17・23～25・35）

調査区中央ＬＴ・ＭＡ47～49、ＭＢ47・48グリッドに位置し、ＳＩ60の南側1.4mに隣接している。確認面は北東側がⅥ層上面、他はⅤ層上面である。南西側が後世の攪乱を受けており、一部調査区外にあたるため全容は不明であるが、現存する形態から一回建て替えが行われ、また、床面から焼土・焼土ブロック・炭化物を多量に検出したことから、最終的に焼失した竪穴住居跡である。以下、形態・規模について二時期に分けて記述する。

１期　壁構が北東部で内側を巡り、Ｐ９・10・２を径由し、Ｐ11・３の外側を通る不整楕円形を呈する。長軸7.5m、短軸6.3mを測り、長軸方位Ｎ－26°－Ｗである。推定床面積36m²である。壁溝は北東から北西にかけて残存し、部分的に５cm～20cmの幅で途切れる。南側では検出できなかったが、ほぼ全周すると考えられる。現存する規模は上面幅13cm～20cm、底面幅７cm～16cm、深さ6cm～10cmを測る。柱穴はＰ３・５・６・11の４本柱で、径25cm～42cmの円形を呈し、深さ26cm～51cmを測る。Ｐ５・11は壁際に、Ｐ３・６は壁際から50cm～90cm内側に穿たれ、台形状の配置を呈する。

２期　壁構が北部で１期と共有し、北東から南西方向に拡張した不整楕円形を呈する。長軸8.5m、短軸7.4mを測り、長軸方向はＮ－17°－Ｅである。推定床面積50m²である。壁溝は西側が攪乱のため不明であるが、部分的に途切れながら、ほぼ全周すると考えられる。現存では１期との共有部分と東部で途切れ、特に東部では幅50cmの間隔がある。上面幅13cm～23cm、底面幅５cm～13cm、深さ８cm～17cmを測る。柱穴はＰ１～４の４本柱で、径27cm～45cmの円形を呈し、深さ33cm～52cmを測る。壁際から2.6m～3.4m内に穿たれ、台形状の配置を呈する。柱穴の配置形態は１期と同様であるが、西に90度回転させた配置を呈し、拡張にもかかわらず、規模は若干縮小している。基本土層用トレンチで該期の埋土と壁を観察できた。埋土は基本層を含めて５層に細分でき、炭化物を多量に混入する自然堆積を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は23cmを測る。埋土の観察から構築面はⅣ層上面・Ⅳ層上部で、床面はⅤ層上面であることが窺える。

１・２期とも北東部分はⅥ層上面（地山）、他はⅤ層上面が床面で、中央に向かってわずかに傾斜する。中央からやや北東寄りで焼土・炭化物を多量に検出した。その部分では床面の赤変・硬化が著しく、特に炉の周辺は顕著である。炉は２基検出し、中央やや北東寄りに石囲炉、

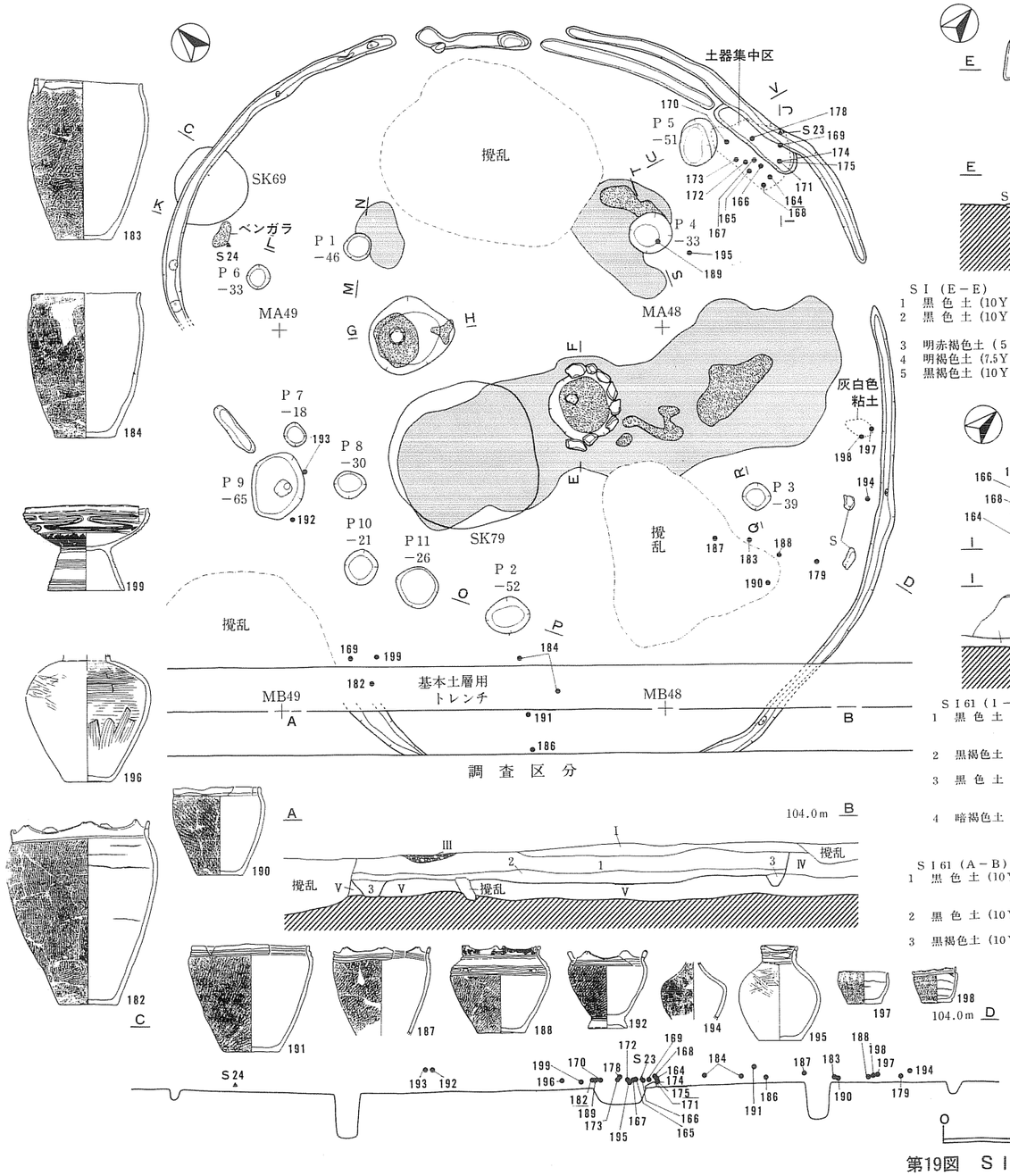
その北西側2.2mに土器埋設炉が付設されている。両者の構築時期が１・２期どちらに帰属するかは不明であるが、遺存状況から少なくとも２期には２基の炉が存在していたと考えられる。石囲炉は径68cm～75cm、深さ12cm～17cmの円形に床面を掘り下げて構築し、掘り込みの縁辺に13cm～21cm大の亜角礫を配置している。礫は全周せず、北西側で開口を呈するが、抜き取りの痕跡は見られない。壁は緩い弧状を呈し、底面は起伏がある。加熱による赤変・硬化が著しく、赤変は底面下５cm程まで達している。埋土は５層に細分した。４層は焼土で厚いところで５cmの堆積がある。１～３層は焼失時の堆積土で、焼土ブロック（３層）・炭化物（１・２層）である。土器埋設炉の構造はＳＩ60と類似する。径90cm、深さ10cm～15cmの略円形に床面を掘り下げ、黒色土を充塡する。その後、径45cm～55cm、深さ16cmの略円形に再度掘り込み、中央部に土器を立て据え、地山土を充塡する。土器は甕か深鉢の底部から胴下半部までで、底部は底面から５cm浮いている。埋土は５層に細分した。５層は黒色土の充塡層で、２・４は地山土の充塡層である。２・４層は加熱による赤変・硬化が著しいが、５層は加熱の影響が看取できない。１・３層及び５層上面の焼土・炭化物は、焼失時の堆積土である。

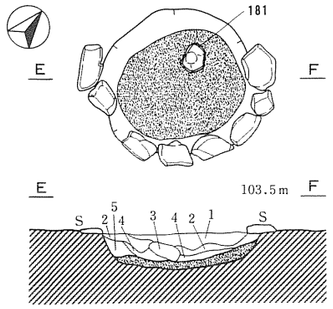
遺物は埋土、床面から縄文土器片（Ⅱ群土器）、弥生土器片（Ⅳ群土器）、石器、フレイクが多数出土した（第38～41図）。特に南部から南西部の壁際から1.8m内の床面で、復原可能な多くの土器が出土している（179・182～184、186～190、195～199）。大部分は床面に横転し、押し潰された状況を呈し、焼土・炭化物を混入する黒色土に覆われていた。197・198は南東壁際の床面から出土したミニチュア土器で、周辺及び土器内には灰白色粘質土が充塡され、Ｐ３南西側から出土した遺物周辺には、炭化栗が数個散在していた。また、Ｐ６の北壁側床面では、幅15cm×30cm、厚さ８cmを測るベンガラを検出したが、この検出状況はＳＩ60に類似するものである。出土土器の中で、特異な状況を呈する一群がある。東部の１期壁溝及びＰ５・２期壁溝に若干またがる状況で、成形・胎土・焼成が共通する土器13個体が出土した（第38図164～178）。１個体（173）以外は全て底部を欠損し、床面に正位・隣位し、わずかに３個体（176～178）のみ押し潰された状況で、炭化物・焼土・黒灰状粒子を混入する黒色土に覆われていた。住居跡検出時にはすでに床面に達しており、詳細な分折を行なえる状況ではなかったが、出土位置・埋土の状況から、調査時には本遺構（焼失時）に伴う土器群と判断した。一方、他の出土土器に比べて焼失時の遺存状況が良好であること、底部を故意に欠損した可能性があること、粗製・半精製土器であるが、土器本来の機能を果した痕跡が見られないことを考慮すれば、本遺構焼失後、東部壁際に意識的に安置した可能性も考えられる。

２．焼土遺構

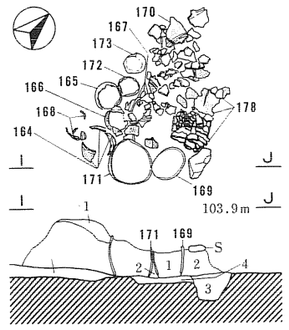
ＳＮ45（第20図、図版18）

ＬＴ53グリッドに位置し、確認面はⅣ層中である。径29cm～32cmの円形を呈し、掘り込みを



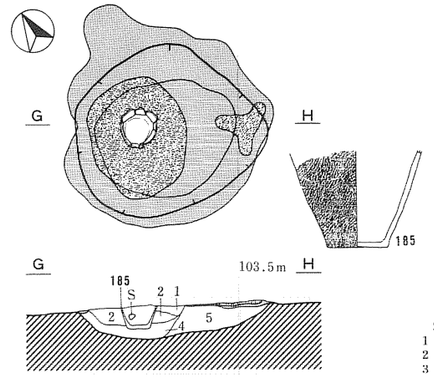


ＳＩ（Ｅ－Ｅ）
1　黒　色　土（10ＹＲ1/2）　炭化物層
2　黒　色　土（10ＹＲ2/1）　粘性あり、しまりあり、焼土粒１㎜～２㎜大５％、炭化物多量混入
3　明赤褐色土（５ＹＲ5/6）　焼土ブロック
4　明褐色土（7.5ＹＲ5/6）　焼土、炭化物１㎜～２㎜大２％混入
5　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　粘性あり、しまりあり、炭化物１㎜～２㎜大１％、焼土粒１㎜大若干混入

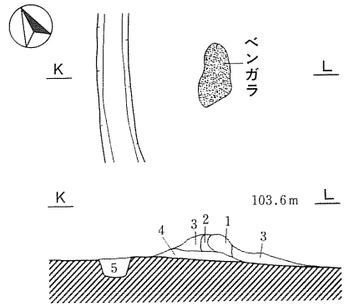


ＳＩ61（１－Ｊ）
1　黒　色　土（10ＹＲ2/1）　粘性あり、しまりあり、炭化物10％褐灰色土（10ＹＲ5/1）５％混入　10
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　粘性あり、しまりあり、炭化物３％混入
3　黒　色　土（10ＹＲ2/1）　粘性若干、しまりあり、炭化物２㎜～５㎜大５％、地山粒中１㎜～２㎜大５％混入
4　暗褐色土（10ＹＲ3/3）　粘性あり、しまり強、炭化物１㎜大１％、地山粒１㎜～２㎜大10％混入

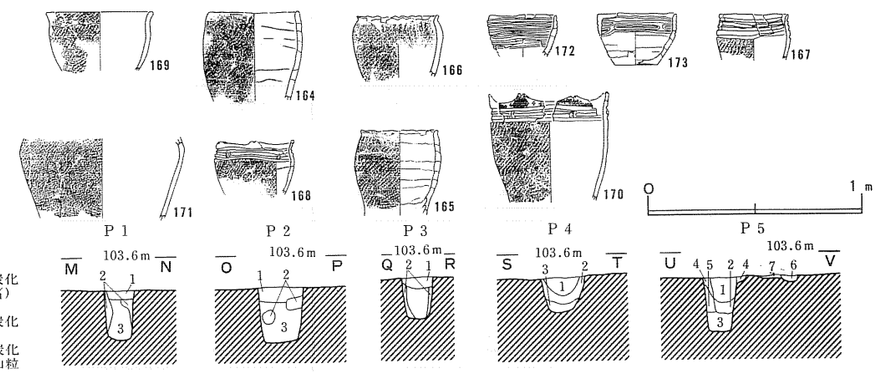
ＳＩ61（Ａ－Ｂ）
1　黒　色　土（10ＹＲ1/2）　粘性あり、しまりあり、炭化物３％混入、Ⅰ・Ⅲ層に近い部分に浮石粒７％混入
2　黒　色　土（10ＹＲ2/1）　粘性あり、しまりあり、２㎜－20㎜大の炭化物多量に混入
3　黒褐色土（10ＹＲ2/2）　粘性あり、しまりあり、地山ブロック状３％混入



ＳＩ61（Ｇ－Ｈ）
1　暗褐色土（7.5ＹＲ3/4）　粘性若干、しまりあり、焼土ブロック70％混入
2　明赤褐色土（５ＹＲ5/6）　焼土、しまり強
3　黒褐色土（10ＹＲ2/3）　粘性若干、しまりあり、焼土粒１㎜大10％、炭化物１㎜～２㎜大２％混入
4　褐　色　土（7.5ＹＲ4/4）　粘性なし、しまり強、赤変著しい
5　黒　色　土（10ＹＲ2/1）　粘性なし、しまりあり、炭化物１㎜～３㎜大１％、地山粒１㎜～２㎜大２％混入



ＳＩ61（Ｋ－Ｌ）
1　暗赤色土（7.5Ｒ3/6）　ベンガラ
2　黒　色　土（10ＹＲ2/1）　ベンガラを多量に混入
3　黒　色　土（10ＹＲ2/1）　粘性若干、しまりあり、炭化物２㎜～５㎜大５％、地山粒１㎜～２㎜大５％混入
4　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　粘性あり、しまりあり、地山粒１㎜～２㎜大10％混入
5　黒　色　土（10ＹＲ2/1）　粘性若干、しまりあり、炭化物２㎜～５㎜大５％、地山粒１㎜～２㎜大５％混入



ＳＩ61（Ｍ－Ｎ）
1　黒色

ＳＩ61（Ｍ－Ｎ）
1　黒　色　土（10ＹＲ2/1）　粘性若干、しまりあり、炭化物２㎜～10㎜大10％、地山粒１㎜～２㎜大２％混入
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　粘性あり、しまりやや欠ける、地山粒１㎜～５㎜大、ブロック状30％混入
3　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　粘性あり、しまりなし、地山粒１㎜～５㎜大５％混入

ＳＩ61（Ｏ－Ｐ）
1　黒　色　土（10ＹＲ2/1）　粘性若干、しまりあり、炭化物２㎜～５㎜大５％、地山粒１㎜～２㎜大３％混入
2　地山ブロック
3　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　粘性あり、しまり欠ける、炭化物３㎜～５㎜大３％、地山粒１㎜～２㎜大10％混入

ＳＩ61（Ｑ－Ｒ）
1　黒　色　土（10ＹＲ2/1）　粘性若干、しまりあり、炭化物２㎜～４㎜大５％、地山粒１㎜～２㎜大１％混入
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　粘性あり、しまりやや欠ける、地山粒１㎜～２㎜大・ブロック状50％、炭化物２㎜大若干混入
3　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　粘性あり、しまりなし、地山粒１㎜～２㎜大10％混入

ＳＩ61（Ｓ－Ｔ）
1　黒　色　土（10ＹＲ2/1）　粘性若干、しまりあり、炭化物多量、地山粒１㎜大若干、焼土粒１㎜～２㎜大１％混入
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　粘性あり、しまりやや欠ける、炭化物２㎜～３㎜大５％、地山粒１㎜～２㎜、地山ブロック状10％混入
3　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　粘性あり、しまりあり、炭化物２㎜大若干、地山粒１㎜～２㎜大２％混入

ＳＩ61（Ｕ－Ｖ）
1　黒　色　土（10ＹＲ2/1）　粘性若干、しまりあり、炭化物２㎜～３㎜大３％、地山粒１㎜～３㎜大５％、小礫３㎜～10㎜大２％混入
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）　粘性あり、しまりあり、地山粒２㎜～５㎜大10％混入
3　褐　色　土（10ＹＲ3/4）　粘性あり、しまり強、地山ブロック多量混入
4　褐　色　土（10ＹＲ3/4）　粘性あり、しまりあり、地山粒１㎜～２㎜大30％混入
5　地山ブロック
6　黒　色　土（10ＹＲ2/1）　粘性若干、しまりあり、炭化物２㎜～５㎜大５％、地山粒１㎜～２㎜大５％混入
7　暗褐色土（10ＹＲ3/3）　粘性あり、しまり強、炭化物１㎜大１％、地山粒１㎜～２㎜大10％混入

第19図　ＳＩ61竪穴住居跡

もたない。焼土は厚いところで３cmを測り、焼土下は焼土粒を少量混入する暗褐色土である。遺物は出土しなかった。

ＳＮ46（第20・42図、第20表、図版25）

ＭＡ52グリッドに位置し、確認面はⅣ層上面である。後世の攪乱を受けているため全容は全く不明である。焼土ブロック・炭化物を多量に混入する攪乱土から弥生土器片が多く出土し、また、ベンガラが付着している石皿を２点出土した（第42図Ｓ25・26）。

ＳＮ47（第20・42図、第７表、図版18・25）

ＬＴ・ＭＡ51・52グリッドに位置し、確認面はⅣ層中である。東側がＳＩ32に切られているため全容は不明である。現存する形態は径55cm～70cmの不整形を呈し、掘り込みをもたない。焼土は厚いところで10cmを測る。遺物は焼土下及び周辺の炭化物を多量に混入する黒褐色土から復原可能な弥生土器３個体が出土した。第42図206～208は押し潰された出土状況を呈し、炭化物、炭化栗が周辺に散在していた。

ＳＮ52（第20・42・43図、第７表、図版18・25・36）

ＬＴ・ＭＡ52グリッドに位置し、ＳＮ47の北西側に近接している。確認面はⅣ層中である。径45cm～56cmの不整形を呈し、掘り込みをもたない。焼土は厚いところで５cmの堆積を測り、焼土下は炭化物を多量に混入する黒色土である。炭化物は周辺でも多く検出している。遺物は弥生土器片の他に、復原可能な弥生土器２個体が出土した（第42・43図209～212）。本遺構の北西側に隣接し、横転して押し潰された出土状況を呈する。また、口縁部付近から炭化栗を数個検出した。

ＳＮ56（第20・43図、第７表、図版18・36・58）

ＬＴ52グリッドに位置し、ＳＮ47の北側に隣接している。確認面はⅣ層中で、径30cmの不整形を呈し、掘り込みをもたない。焼土は３cmの堆積で、焼土下から炭化栗を多数検出した。遺物は第43図213が炭化栗と一緒に出土し、ＳＮ47の206とは同一個体である。

上記の焼土遺構はＳＩ34の東側、径8.0m内に分布し、検出状況に類似点が多い。また、復原可能な弥生土器が周辺から多く出土している。遺構外出土土器として扱ったⅣ群土器の中にも本遺構群に近接する位置から同様な出土状況を呈するものが含まれている（516・530・531・604・606・627・658・662）。この焼土群と遺物を一連の関係とするならば、前述のＳＩ60・61の床面で検出した焼土及び出土遺物に共通し、焼土群は焼失時の痕跡と考えられる。仮に住居跡と想定した場合、基本土層用トレンチで、本遺構の床面・壁溝・柱穴と考えられる土層堆積が看取できる。遺構外出土土器として扱ったⅣ群土器を含めた遺物は、床面と想定するレベルにほぼ一致し、分布域は南東側から南西側に集中する傾向が窺える。また、西側に隣接するＳＩ34とは重複関係を持つと考えられ、土層堆積の観察からは、本遺構が古いと判断される。炉・壁

溝・柱穴は不明であるが、床面（確認面）からⅥ層－地山面まで掘り下げた時点（浅い部分で15cm～20cmを測る）で痕跡を留めないことから、特に柱穴は浅い掘り方を呈したものと考えられる。このような焼土群の検出状況及び遺物の出土状況から、上記の想定が許されるならば、焼失した住居跡の可能性を強く示唆するものとして捉えられる。

３．集石

ＳＱ43（第21・43図、第20表、図版18・25）

ＬＳ・ＬＴ51グリッドに位置する。ＳＩ33とＳＩ60のほぼ中間にあり、確認面はⅣ層上面である。13cm～33cm大の亜角礫10個が径1.85ｍを測る緩い弧状に立て捉えられ、西側に開口している。周辺に４個の礫が散在しているが、本遺構に伴うものかは不明である。弧の内側で径50cm、深さ２cm～10cmを測る不整形の落ち込みを検出したが、埋土の堆積状況から自然的凹みと判断した。遺物は出土しなかったが、集石に石皿が１点含まれていた（第43図Ｓ27)。

ＳＱ49（第21・43図、第７表、図版18・25・36）

ＬＳ48グリッドに位置し、ＳＩ60の南東側に近接している。確認面はⅣ層上面からⅣ層上部である。北東側が調査区外にかかっているため全容は不明であるが、５cm～50cm大以上の円礫・亜角礫が径1.8ｍ内に密集している。遺物は縄文土器片（Ⅱ群土器)、フレイクが数点、礫と同レベルで出土した（第43図214～216)。

ＳＱ50（第21・43図、第７・20表、図版18・36）

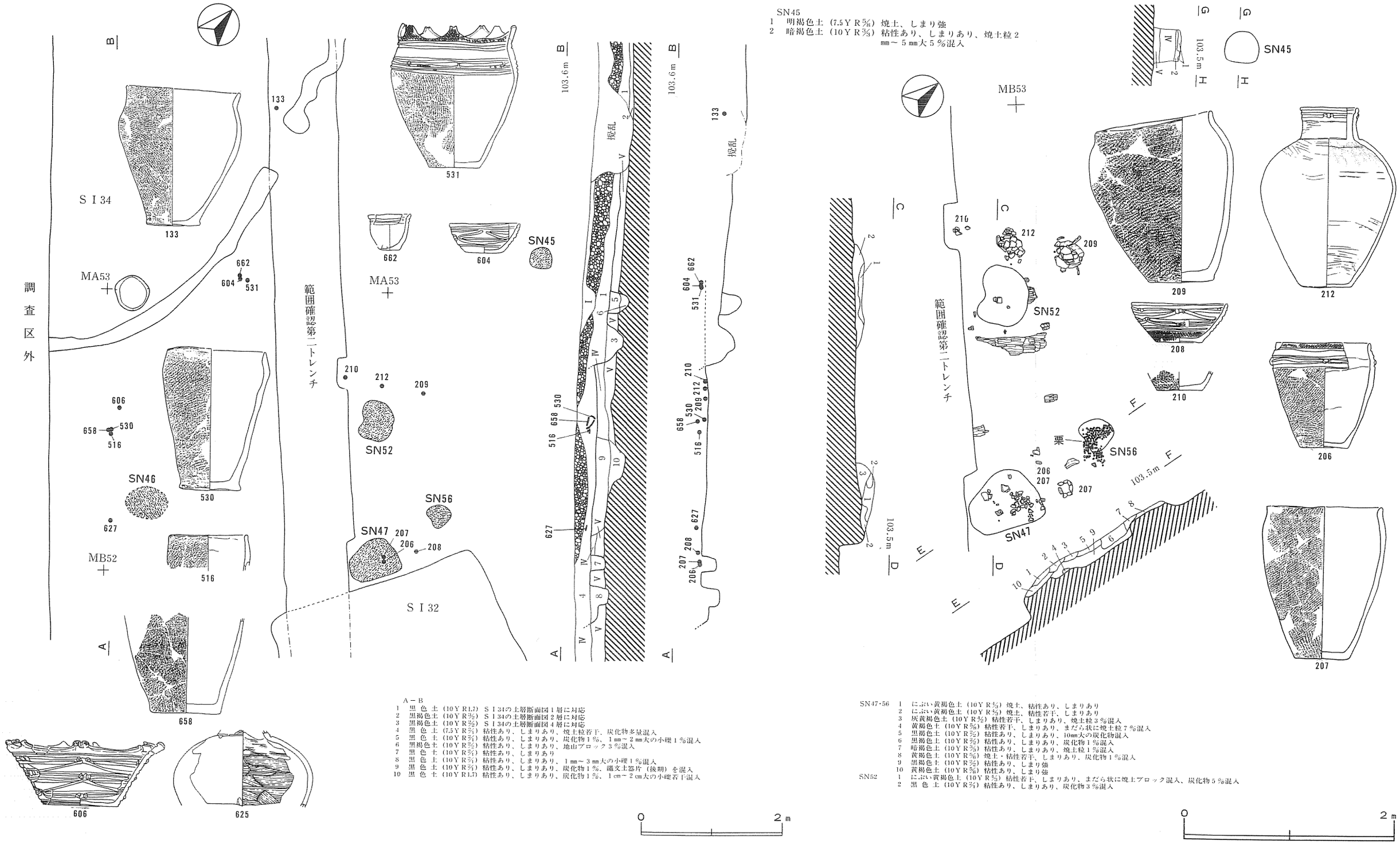
ＬＳ・ＬＴ47グリッドに位置し、ＳＱ43の南側に近接している。確認面はⅣ層上部である。径2.0ｍの略円形を呈し、北側と東側では帯状に若干張り出している。５cm～25cm大の円礫・亜角礫が密集し、部分的に重量・空白のところがある。遺物は礫間に嵌入する状況で弥生土器片数点が出土した（第43図217)。

第３節　平安時代の遺構と遺物

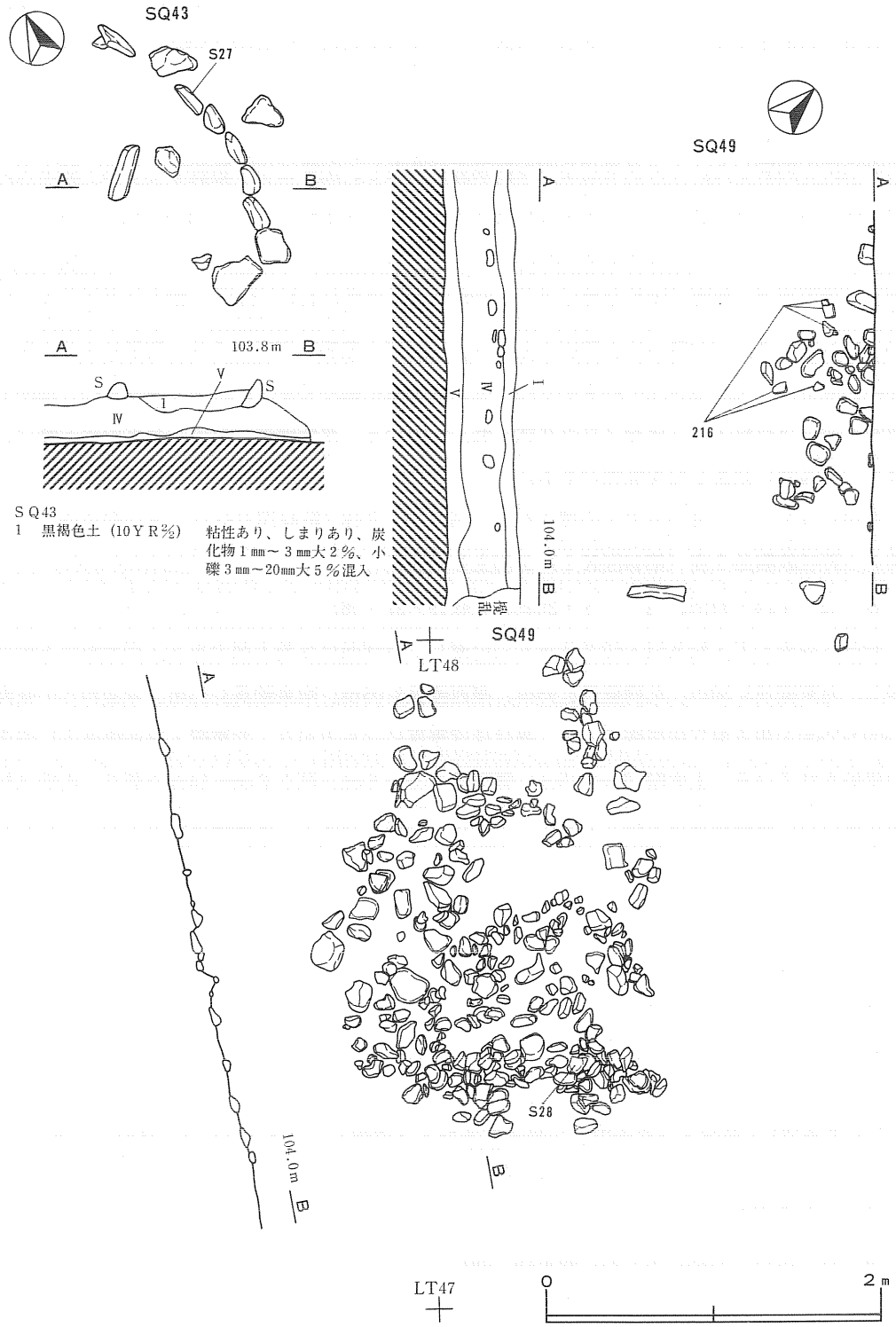
１．竪穴住居跡

ＳＩ18（第22・23・44図、第７表、図版19・20・26・36）

ＬＴ・ＭＡ56・57グリッドに位置し、確認面はⅥ層上面である。平面形は方形を呈し、南東壁長3.56ｍ、北東壁長3.50ｍ、北西壁長3.65ｍ、南西壁長3.41ｍ、床面からの壁高４cm～14cmを測る竪穴住居跡である。主軸方位はＮ－120°－Ｅを向く。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁直下には溝が構築されている。カマドが付設される部分を除いて全周し、上面幅13cm～30cm、底面幅９cm～18cm、深さ５cm～12cmを測る。底面は緩い起伏があり、部分的に径15cm～30cm、深さ10cm～20cmの円形・楕円形を呈するピットが穿たれている。床面は平坦で堅緻である。カマド



第20図　ＳＮ焼土遺構(2)



ＳＱ43
1　黒褐色土（10ＹＲ2/2）　粘性あり、しまりあり、炭化物１㎜～３㎜大２％、小礫３㎜～20㎜大５％混入

第21図　ＳＱ集石

周辺は長軸1.7m、短軸1.3m、深さ６cmの方形状に一段低くなり、良く踏み固められている。床面積は14m²を測る。柱穴は各隅部の壁溝内に計４本穿たれ、径22cm～30cmの円形を呈する。深さはＰ１・２が23cm、Ｐ３・４が30cmである。埋土は７層に細分でき、炭化物・浮石粒を混入する自然堆積を呈する。２層は混入物を含まない明黄褐色土で、調査段階では浮石粒と異なる火山灰と判断した。カマド周辺及び東側隅部に分布し、加熱により脆弱した５cm～30cm大の亜角礫が多く共伴している。カマドは南東壁南寄りに付設されている。長軸1.2m、短軸45cmの楕円形を呈し、床面から10cm程掘り込まれている。長軸方位はＮ－125°－Ｅを向く。底面は燃焼部がほぼ平坦で、赤変・硬化が著しく、煙道部は緩い起伏があり、15°の勾配で立ち上がる。袖部は浮石粒・火山灰を混入する地山土と８cm～25cm大の亜角礫で構築され、加熱により赤変・脆弱が著しい。支脚は検出されなかった。埋土は12層に細分できる。大部分は天井部・袖部の崩壊土で、浮石粒・火山灰をブロック状に混入している。東側隅部で検出した火山灰・礫は、カマド崩壊時に散乱した可能性がある。

遺物はカマド周辺及びカマドの埋土から土師器甕１個体（第44図218）と、南西壁西寄りの床面から釘状鉄製品３点（第44図Ｋ１）が出土した。

ＳＩ32（第24・44図、第７・８・20表、図版19・20・36）

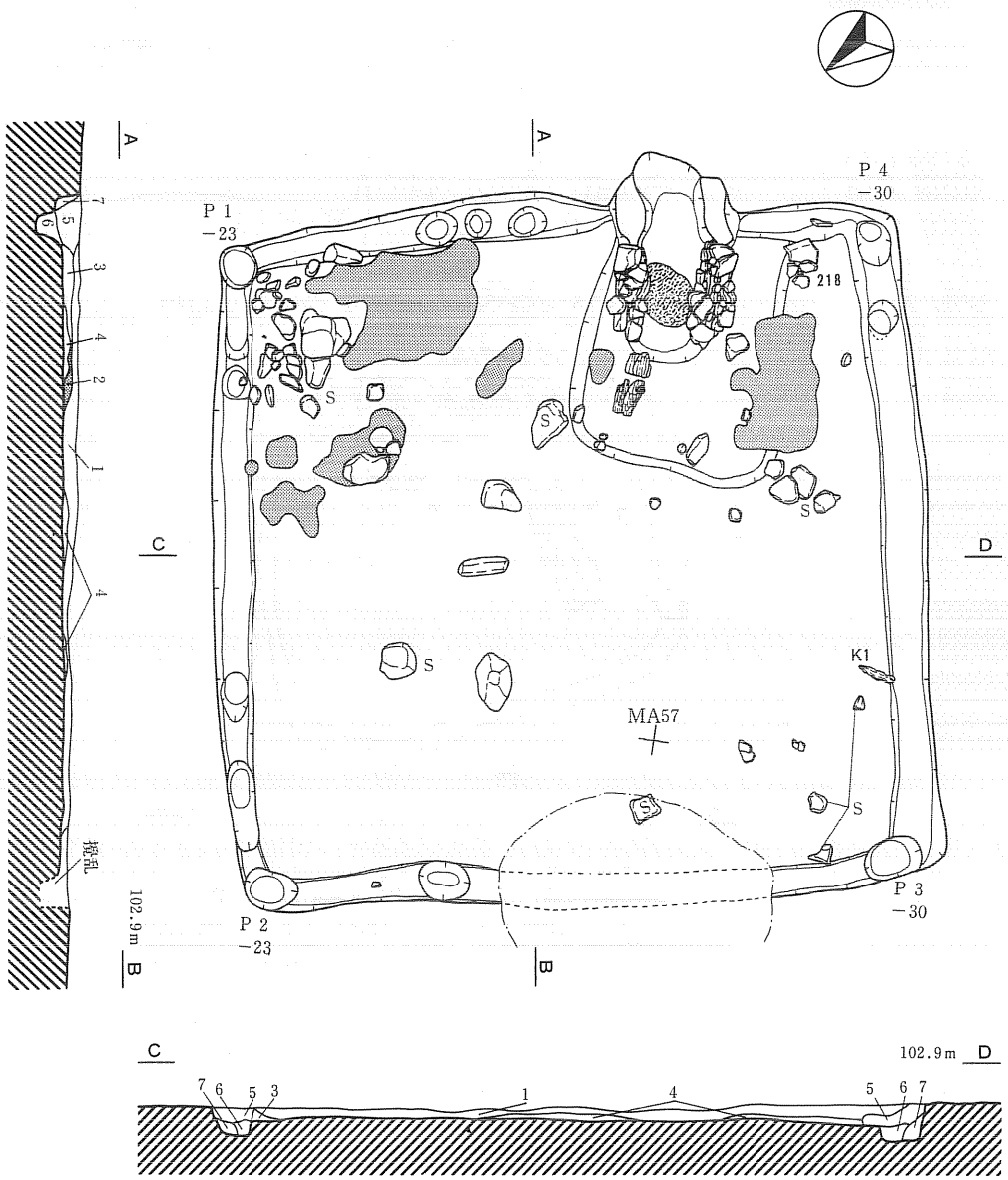
調査区中央ＬＴ・ＭＡ51・52グリッドに位置し、確認面はⅣ層上面である。平面形は方形を呈し、北東壁長3.30m、北西壁長2.95m、南西壁長3.05m、南東壁長3.35m、床面からの壁高25cm～35cmを測る竪穴住居跡である。壁はほぼ垂直に立ち上がり、北東壁・南西壁直下に壁溝が構築されている。上面幅10cm～15cm、底面幅４cm～８cm、深さ３cm～14cmを測り、底面は起伏が著しい。床面はほぼ平坦であるが、それほど堅緻ではなく、床面積は11m²を測る。柱穴は各隅部に計４本穿たれている。径20cm～25cmの円形を呈し、深さ26cm～55cmを測る。カマドは検出されなかった。埋土は４層に細分でき、浮石粒・炭化物を少量混入する黒褐色土の自然堆積を呈する。２層は混入物を含まない明黄褐色土で、ＳＩ18の火山灰と同じであると判断した。北西壁側、東側隅部で検出され、厚いところで10cmの堆積がある。

遺物は埋土３層から縄文土器片（Ⅱ群土器）、弥生土器片（Ⅳ群土器）、石器、フレイクが多量に出土したが（第44図219～226、Ｓ29～Ｓ31）、土師器片等（Ⅴ群土器）は１点も出土していない。本遺構は、前述した弥生時代の焼土群を切って構築しているため、出土遺物の大部分（Ⅳ群土器）は、焼土群に関連するものと思われる。

２．不明遺構

ＳＸ51（第24・44図、第８表、図版20・36）

ＭＡ・ＭＢ46・47グリッドに位置し、確認面はⅣ層上面である。一部調査区外にあたるため全容は不明であるが、長さ3.0m、幅50cmの溝状を呈する浮石留りである。埋土から同規模の炭

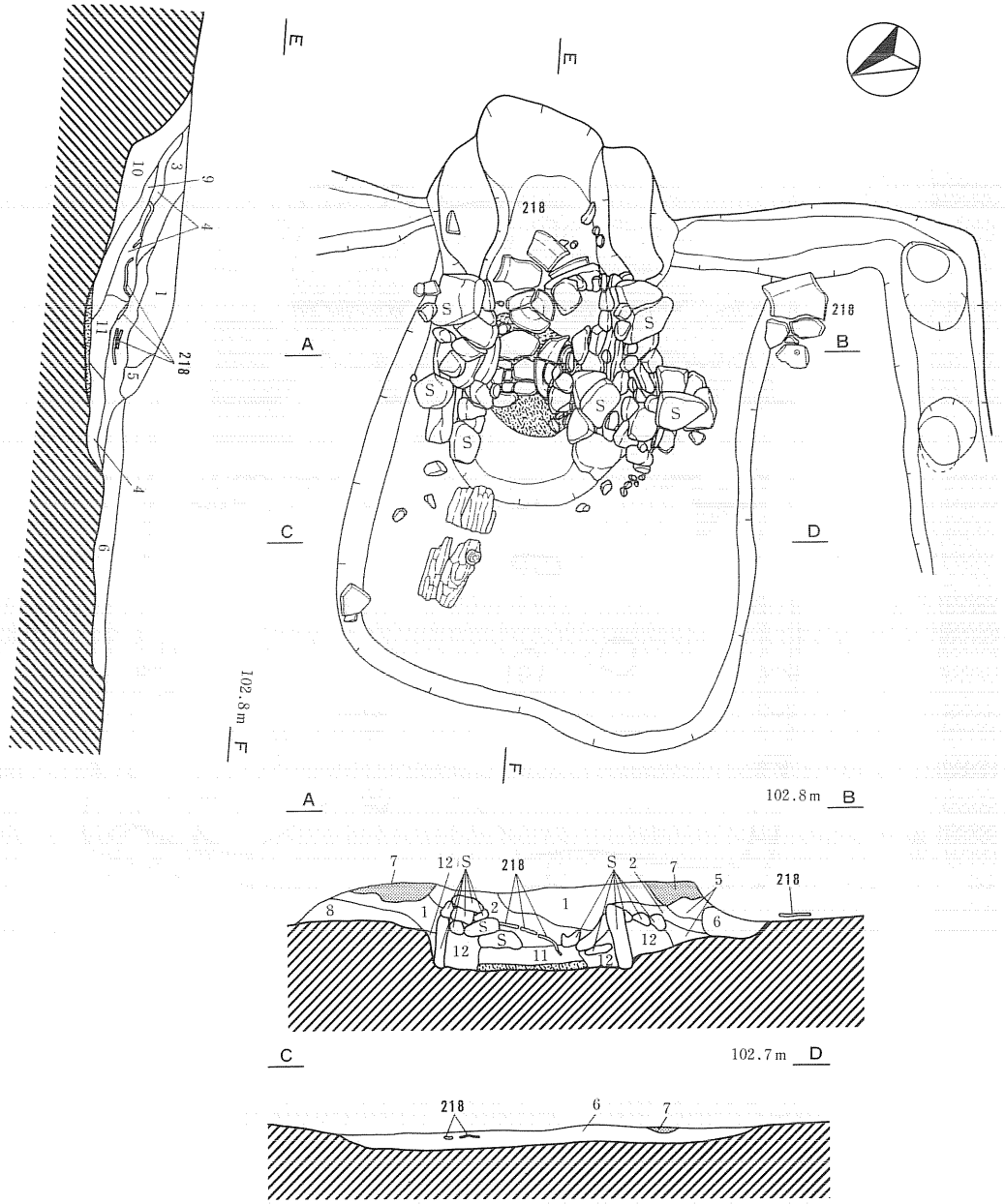


ＳＩ18

1　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 2/2）粘性あり、しまり強、浮石粒１㎜～２㎜大シモフリ状40％混入
2　明黄褐色土（10Ｙ Ｒ 6/6）火山灰、しまりあり、炭化物２㎜大若干混入
3　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 2/2）粘性あり、しまり強、炭化物１㎜～２㎜大１％、浮石粒１㎜～２㎜大10％混入
4　黒　色　土（10Ｙ Ｒ 2/1）粘性あり、しまりあり、炭化物２㎜～５㎜大10％、浮石粒１㎜大５％混入
5　黒褐色土（10Ｙ Ｒ 2/2）粘性あり、しまりあり、浮石粒１㎜～３㎜大５％、地山粒１㎜～２㎜大５％、小礫３㎜～５㎜大２％混入
6　黒　色　土（10Ｙ Ｒ 2/1）粘性あり、しまりあり、浮石粒１㎜大５％、地山ブロック20％、小礫５㎜～10㎜大１％混入
7　黄褐色土（10Ｙ Ｒ 5/8）地山ブロック

0　2ｍ

第22図　ＳＩ18竪穴住居跡

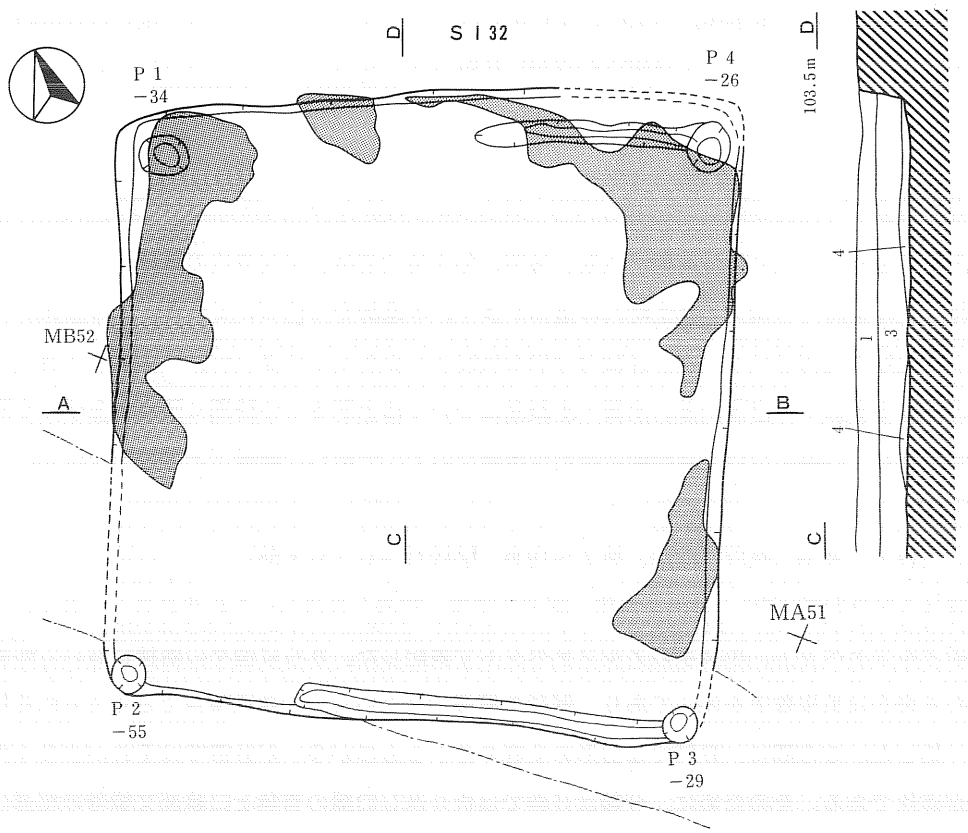


ＳＩ18　カマド

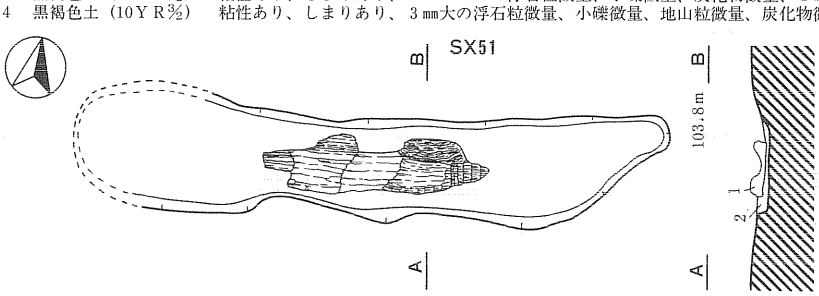
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性若干、しまりあり、火山灰ブロック状10%、浮石粒1㎜～3㎜大10%、炭化物3㎜大1%混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）粘性若干、しまりあり、火山灰30%、浮石粒1㎜～2㎜大3%、炭化物1㎜大1%混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/3）基本的に2層と同様、火山灰60%、浮石粒1㎜～5㎜大5%、炭化物1㎜大1%、焼土粒1㎜～2㎜大1%混入
4　暗褐色土（10ＹＲ3/4）火山灰80%、焼土粒1㎜～2㎜大30%、浮石粒1㎜～2㎜大5%、炭化物1㎜～2㎜大10%混入
5　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性あり、しまりあり、火山灰ブロック状5%、浮石粒1㎜～3㎜大及びブロック状10%混入
6　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性あり、しまりあり、火山灰1㎜～3㎜大5%、浮石粒1㎜～5㎜大10%、炭化物2㎜～3㎜大10%混入
7　明黄褐色土(10ＹＲ7/8)火山灰
8　褐色土（10ＹＲ4/4）粘性あり、しまりあり、火山灰1㎜～2㎜大3%、浮石粒1㎜～3㎜大15%、炭化物3㎜大1%混入
9　黒褐色土（10ＹＲ3/2）粘性若干、しまりあり、火山灰1㎜～2㎜大3%、炭化物2㎜大1%、焼土粒1㎜～2㎜大2%混入
10　黒褐色土（10ＹＲ3/3）粘性若干、しまりあり、地山粒1㎜～2㎜大5%、焼土粒2㎜大1%、小礫7㎜～15㎜大2%混入
11　灰黄褐色土(10ＹＲ4/2)粘性あり、しまり強、浮石粒1㎜大5%、焼土粒2㎜大1%、火山灰混入
12　灰黄褐色土(10ＹＲ4/2)基本的に11層と同様で赤変が著しい

0　2m

第23図　ＳＩ18竪穴住居跡カマド



S I 32
1　黒褐色土（10Y R 3/2）　粘性あり、しまりやや欠ける、３㎜大の浮石粒少量、小礫５％、３㎜大の地山粒少量混入
2　明黄褐色土（10Y R 6/5）火山灰
3　黒褐色土（10Y R 2/2）　粘性あり、しまりあり、１㎜～２㎜の浮石粒微量、小礫微量、炭化物微量、１㎜～２㎜の地山粒微量混入
4　黒褐色土（10Y R 3/2）　粘性あり、しまりあり、３㎜大の浮石粒微量、小礫微量、地山粒微量、炭化物微量混入



SX51　1　炭化物（10Y R 5/1）浮石粒５％混入
　　2　黒色土（10Y R 2/1）粘性あり、しまりあり、浮石粒３％、炭化物１％混入

0　2m

第24図　S I 32竪穴住居跡・S X 51不明遺構

化木を検出したため、倒木後、二次的に浮石粒が混入したものと考えられる。遺物は底面から縄文土器片数点が出土した（第44図228～230)。II群土器に相当する。

第４節　出土遺物

諏訪台Ｃ遺跡では縄文時代前期、後期、晩期、弥生時代前半、平安時代の遺物が出土している。特にこの遺跡では縄文・弥生時代の遺物が多く、本遺跡を特色づけている。この意味からこれら２時期の遺物についてだけ詳細な分類を検討すべきかもしれないが、ここでは諏訪台Ｃ遺跡の全体を把握する意図から、土器・土製品については上記５つの時期に照点を合せた分類を行う。また、石器については時期の特定が困難なので、一括し、器種ごとの説明を行う。

１．土器・土製品（第27～62図、第２～19表、図版21～51・57・58)

分類は大別を時期（群)、類別を器種、細別を文様・技法と表現し、それぞれローマ数字、大文字のアルファベット、小文字のアルファベットで表記した。さらに個々の器種において形態の異なる場合は算用数字を添えてあり、器形の把握できないものは共通項目でとらえられる仲間を一括した。この際に、Ⅳ群では器形の全容の分かるものが多いがII群ではそれが少なく大部分が破片である。そのために、分類はII群では折り返し口縁の有無と口縁部文様帯の相違に主眼をおきⅣ群では形態の変化と文様の有り方に主眼をおいた。また、ミニチュア土器・土製品についても類別分類として一括し、細別分類で形態変化を説明した。以上の基準で分類を進めるが、個々の遺物の説明は、基準となったものや特に説明を必要とするものに限りおこない、個々の破片については遺物観察表によることにした。Ⅰ群からⅤ群はそれぞれ、縄文時代前期、後期、晩期、弥生時代、平安時代を表している。

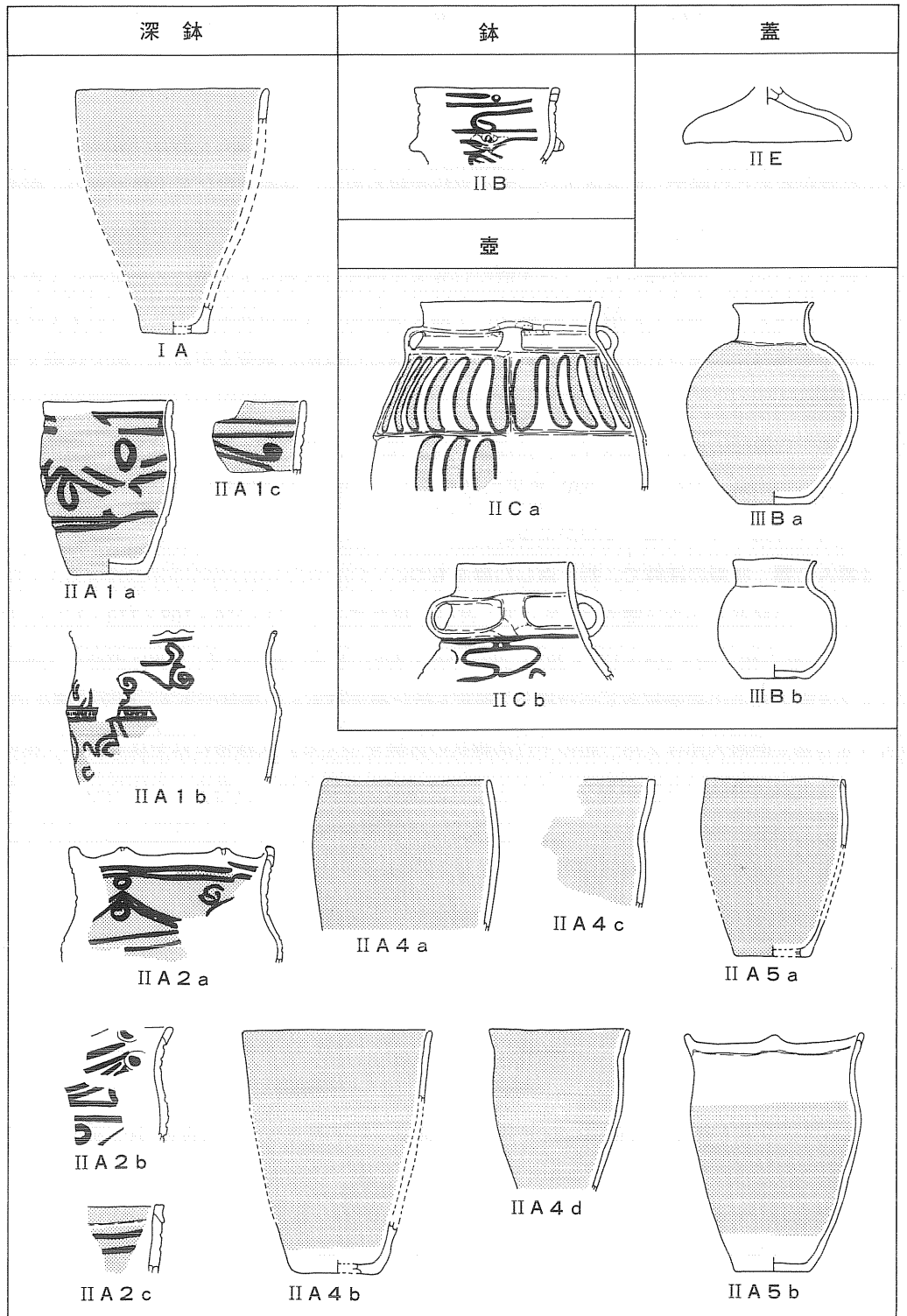
Ⅰ群Ａ類　深鉢で繊維を含む。

ＩＡａ　表面は縄文で、裏面に条痕文をもつ（231～242)。231・232は口縁部でやや外反し、242は底部で底面端部が張り断面が薄い。

ＩＡｂ　表面は縄文で、裏面が無文である（24～26・243～255)。243は口縁部でやや外反する。255は底部で小型である。

II群Ａ１類　精製の深鉢で折り返し口縁をもたない。

IIＡ１ａ　口縁部の地文は縄文で、口唇部直下は無文である（43・45・87・89・91～93・99・228・256～260、262～281)。92・99は小型の深鉢で、92は波状突起をもつ口縁99は平口縁である。頸部は緩やかにすぼまり胴部では中央に最大径がある。92は斜縄文を地文とし口縁部と胴下位に弧状の連結文のある２本一組を中心にした平行沈線の区画があり、そこから派生する波状と



第25図　縄文土器分類模式図　スクリーントーンは縄文を表わしている

渦巻・つり針形文の沈線が横位に展開する。沈線は丸くて太い。99は92と同じような区画を胴中央部を含めて3つ想定され、2つの文様帯に2本一組となる入組状の波状文や渦巻文を横位に展開する。沈線は丸くて太い。

ⅡＡ１ｂ　口縁部の地文は無文である(27・71・74・81・282～285・383・397)。282は2対一組の山形突起をもつ口縁で、口唇直下に一本の平行沈線をもち、胴部上位に最大径をもつ。胴部の最大径部には2本一組の平行沈線をめぐらせ、地文が無文の口縁部と地文が撚糸文の胴部とを区画している。この沈線には、3～4個の竹管文を囲んだ沈線による楕円文が並ぶ。上部文様帯には渦巻文を主体にした横位の沈線文、下部文様帯には沈線が連続する三ケ月形文や横位に展開する渦巻文が施される。沈線は丸くて太い。74は口縁部に刺突文があり、81では縄文を押圧している。

ⅡＡ１ｃ　口縁部の地文は縄文で、口唇部直下にも縄文を施す（72・225・261・286～290)。山形突起をもつ口縁（225・261・289）や平口縁がある。文様は平行沈線文、渦巻沈線文をもつ。沈線は丸くて太いものと細いものがある。

Ⅱ群Ａ２類　精製の深鉢で、折り返し口縁をもつ。

ⅡＡ２ａ　口縁部の地文は縄文で、折り返し部分は無文である（20・106・108・110・137・291～303)。山形口縁（20・108・137・291・292・295・302）と平口縁がある。108は頂部の沈線によって2対一組の山形突起をもつ口縁で、胴部上位に最大径をもつ深鉢である。地文は縄文で、折り返し部と胴最大部は2対一組の平行沈線状の区画をつくる。文様帯にはやはり2本一組の平行する沈線で波状沈線文があり、その上下に沈線による楕円文、渦巻文、Ｃ字形の入組文などを配している。上位平行沈線の一部に端部が丸まる部分が認められる。沈線は丸くて太い。

ⅡＡ２ｂ　口縁部の地文は無文で、折り返し部分も無文である（304～309)。305と306は同一個体で山形状を呈する。平行沈線や渦巻状の沈線文で、沈線は丸いがそう太くない。309の沈線は丸く太いが、他の丸く太い沈線に比べて浅く異質である。

ⅡＡ２ｃ　折り返し部分に文様を施す(310～315)。310・311は同一個体で折り返し部分に縄文、それ以外は平行沈線や渦巻文をもつ。312は折り返し部分は縄文、その他は平行沈線をもつ。313は折り返し部分に楕円沈線文をもち、その中間に2個一対の刺突文をもつ。他は平行沈線をもつ。314は折り返し部分は竹管状の刺突文、その他は平行沈線をもつ。沈線は310・311・313では丸くて細く、312・314・315では丸くて太い。

Ⅱ群Ａ３類　精製の深鉢で、胴部破片を一括する。

ⅡＡ３ａ　斜縄文の地文に沈線を施す（8・14・28～30・35～38・44・50・73・78・83・84・94・102・103・112～114・116・205・214・215・229・316～382)。沈線で文様が施され、平行沈線、斜位方向の沈線文・渦巻文・Ｓ字状を縦・横やそれらの逆にしたような曲線文様などを組

み合わせている。縦位の沈線文はない。沈線は太いものと細いものがある。325・326・329には磨消縄文が認められる。

ⅡＡ３ｂ　撚糸文の地文に沈線を施す(384～396)。文様はＡ3ａ類と同様平行線や曲線文の沈線である。396の撚糸文は格子目をつくる。

ⅡＡ３ｃ　無文に沈線文を施す（398～414)。沈線で文様が施され、平行沈線・斜位方向の沈線・渦巻文・Ｓ字状の曲線文がある。沈線は丸く太いものと細いものがある。

Ⅱ群Ａ４類　精製の深鉢で、折り返し口縁をもたない。

ⅡＡ４ａ　口縁部が内反ぎみに立ち上がる（７・９・10・64・79・415・416・418～421)。地文が縄文のものと撚糸文のもの（７・419）がある。418は口縁端をわずかにつまみだす。

ⅡＡ４ｂ　頸部の抉れがなく口縁部が直線的に立ち上がる(52・55～58・90・95～98・136・141・422～427・429～445)。口縁部が垂直ぎみのもの(429)と、やや外反して立ち上がるもの(427)がある。

ⅡＡ４ｃ　頸部が緩やかに屈曲し、口縁部で直立ぎみに立ち上がる（428)。最大径を口縁部にもち、口唇直下にはナデの痕跡がある。

ⅡＡ４ｄ　頸部が緩やかに屈曲し、口縁部が外反して立ち上がる（15・22・41・47)。口縁部が山形状になるもの（15）と平口縁のものがある。41は口縁部に最大径をもち、口縁部は内弯状の膨みをもつ。口唇直下にナデの痕跡がある。

Ⅱ群Ａ５類　粗製の深鉢で、折り返し口縁をもつ。

ⅡＡ５ａ　胴中央部から口縁部にかけて、内反もしくは直線的に立ち上がる（59・417・446～461)。417は胴中央部やや上位に最大径があり、446ではほぼ中央部である。折り返し部は417ではミガキ、446ではナデを施し、417の縄文は最終の撚りが弱く個々の条が曲線的となる。

ⅡＡ５ｂ　頸部が緩やかに屈曲し、口縁部で直立ぎみとなる（13)。13は山形突起の口縁をもち、口縁で最大径となる。胴部最大径は胴部中央やや上位にあり、そこから下位は縄文、上位は無文となる。

Ⅱ群Ａ６類　深鉢の底部を一括する（12・19・40・76・77・100・101・117・142・143・462～480)。

Ⅱ群Ａ７類　深鉢と考えられるものを一括する（１・２・４・11・16～18・21・23・31～34・39・42・46・48・49・53・54・68・85・86・88・105・107・109・111・115・139・140・211・230)。

Ⅱ群Ｂ類　鉢を一括する（82・481～485)。地文が縄文で沈線をもつもの（483・484)、無文と考えられるもの（482)、地文が無文で細かい沈線文をもつもの（481・485）がある。481は体部中央に垂直に穴のあく把手と口縁部に穿孔部をもつ。481の文様は平行沈線やその先端が入組状

になる。485では楕円状の沈線とその内部に縄文を施すものである。

Ⅱ群Ｃ類　精製の壺である。

ⅡＣａ　磨り消し縄文をもつ(216)。最大径が体部下位にある形態で頸部までは内弯して立ち上がり、頸部は「く」の字を成し口縁部で外反する。頸部には橋状把手を４個もち、その下に隆帯による区画線が縦に走る。またこの区画は胴部上位や把手の装着部を通って頸部にも２本もつ。口縁部と頸部は無文で、体部には横「Ｓ」字形を連続させた沈線をもつ。この部分は磨消縄文手法となる。

ⅡＣｂ　地文は無文で、沈線をもつ（486～488)。最大径を体部にもち、そこから口縁部まで内反して立つが、口縁部で直立ぎみになる。頸部に橋状把手を４個もち、その装着部を通る２本の平行な隆帯をもつ。体部には曲線による沈線が横位に展開している。沈線は丸く細い。

Ⅱ群Ｄ類　台部を一括する（489～491)。492は竹管状の刺突と平行沈線、490は３本の複雑な平行沈線、490は穿孔部をもつ。

Ⅱ群Ｅ類　粗製の蓋(492・493)。492は中央につまみ部をもつが、同心円状のものではなく「一」文字状に突出している。493は扁平なつくりで端部が内反ぎみになる。

Ⅱ群Ｆ類　土製品を一括する（51・104・121・226・494～502)。円盤状土製品（51・104・121・226・407～502)、完形の鉢形ミニチュア土器（494)、土偶（495・496）に分けられる。円盤状土製品は縄文土器の破片を利用している。土偶の496は左足で、495も左足と思われる。

Ⅲ群Ａ類　鉢類を一括する(3・5・6・60・62・63・65～67・69・70・503～507・513・514)。平行沈線をもつもの（３・60・62・503)、入組状三叉文をもつもの（62・504)、三叉状の文様をもつものなどがある（503)。深鉢・鉢の他に、70は台付鉢、503は台付浅鉢と思われる。

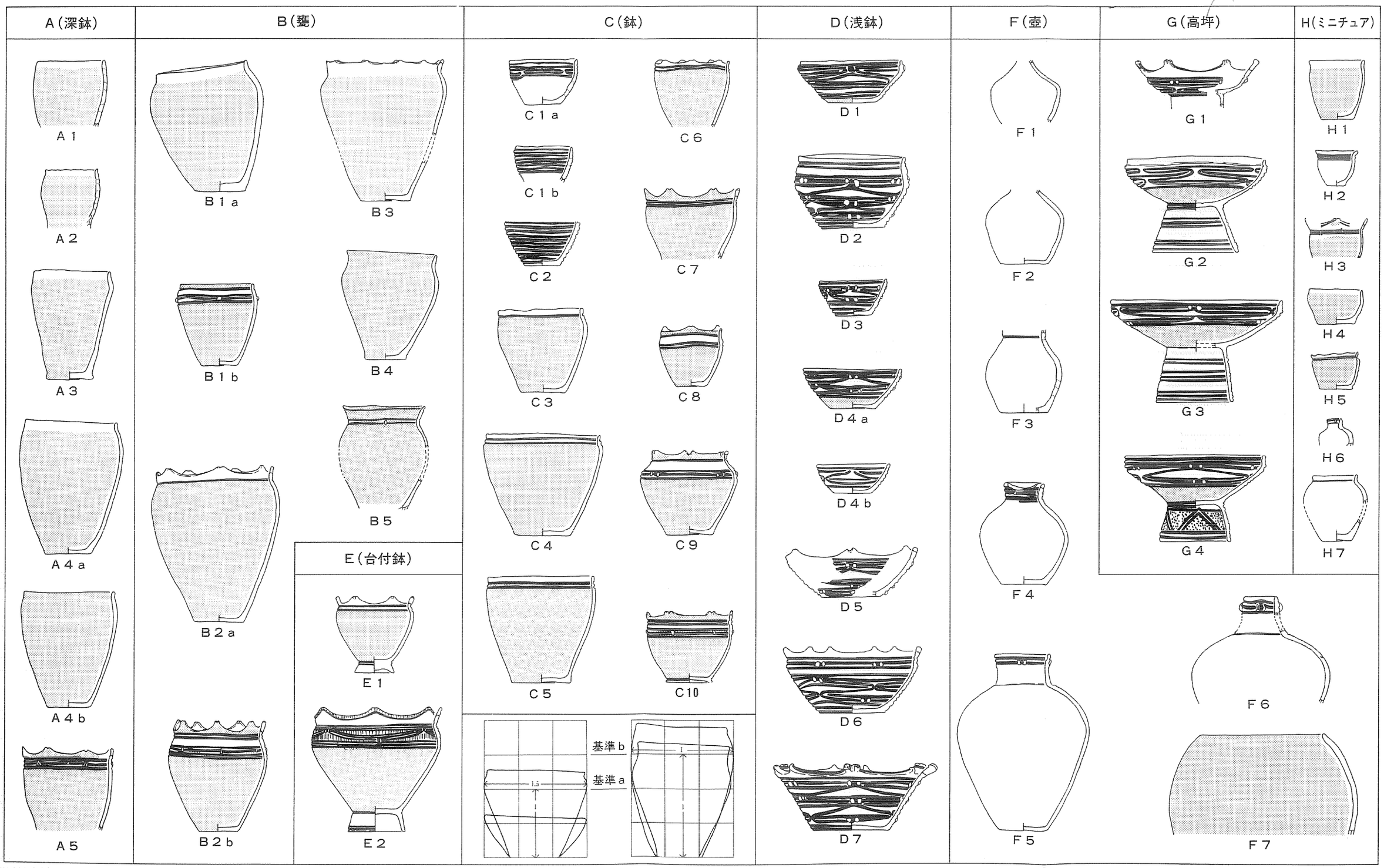
Ⅲ群Ｂ類　壺を一括する。

ⅢＢａ類　体部は縄文で頸部から口縁部は無文である（80)。80は平底の底部で、体部は中央に最大径をもち球形を呈する。頸部は直立して、口縁部は外反する。頸部に浅い平行沈線があり、無文部にはミガキを施す。

ⅢＢｂ類　全面が無文である（61)。61はⅢＢａ類と類似するが、頸部から口縁部が外反し、体部も無文でミガキを施す。

ⅢＢｃ類　壺と考えられる破片を一括した(508・509)。508は体部上部で平行沈線や楕円状の沈線を施し、509は口縁部と思われる。

Ⅲ群Ｃ類　台部・底部を一括する（510～512)。510は台部上位に２本、下位に１本の沈線が施され、511・512の底面はミガキが施されている。



第26図　Ⅳ群土器分類模式図

器種ごとの縮尺はほぼ統一している
スクリーントーンは縄文を表わしている

次に弥生時代の分類を行うが、浅鉢・鉢・深鉢・甕の分類は研究者と地域によって分類基準が異なるために、本遺跡における基準を定めておきたい。ここでは長胴になるものを深鉢もしくは甕として扱い、はじめにこれらと鉢・浅鉢について分類する。すなわち、浅鉢と鉢、鉢と深鉢・甕における深さに対する胴部や体部における最大径の比率を前者では１：1.5、後者では１：１となる基準を設けることにする。この時の最大幅を固定したのが第26図である。この図の中で、おおむね基準ａを下回る場合を浅鉢、基準ａ・ｂ間の場合を鉢、基準ｂを上回る場合を深鉢・甕として考えた。そして深鉢と甕については、細部の形態から次のように分けた。深鉢は頸部で顕著な屈曲がなく口縁部が内傾するもの、甕では頸部が屈曲し口縁部は直立もしくは外反するものとした。

Ⅳ群Ａ類　深鉢である。

ⅣＡ１　口縁部は内傾し胴部のやや上位が最大径となる。胴部には縄文、口縁部には横ナデを施す。164は口唇部で凹凸を示し底部を欠損する。粘土紐の接合が明瞭で、接合痕は内傾を示す。内面はナデを施す。

ⅣＡ２　口縁部には小波状が連続し、口唇部の直下が小さく「く」の字状になる。胴部上位で最大径となる。胴部には縄文、口縁部には横ナデを施す（165・166）。165・166は底部を欠損し、粘土紐の接合が明瞭である。165の接合痕は外傾を示し、166の胴上位には横位の刷毛目状痕跡を認める。内面にはナデを施す。

ⅣＡ３　口縁部は内傾しその直下が最大径となる。底面は横に張り出し、胴部には縄文、口縁部には横ナデを施す（530）。530は胴部上半分と口縁部には炭化物が顕著に付着する。内面は横位のヘラケズリ→ナデを施す。

ⅣＡ４ａ　頸部は緩やかに窪み口縁部は直立する。胴上位に最大径をもつが張りが少ない。胴部には縄文、口縁部にはミガキを施す（183・184）。183は縄文施文以前の刷毛目状痕跡をとどめる。内面は横位のヘラケズリ→ナデを施す。184ではミガキを施す。両方とも縄文施文の後に部分的なナデを施す。

ⅣＡ４ｂ　Ａ４ａとは口縁部にも縄文を施す違いがある（207）。207の内面は丁寧なミガキを施し、全面に炭化物が付着する。

ⅣＡ５　口縁部は波状突起をもつ。口縁部直下に平行沈線と貼瘤をもち、それ以外には縄文を施す（170）。170は底部を欠損している。突起は６単位で波頂部は丸い沈線となる。内面はミガキを施す。沈線は丸く太い。

ⅣＡ６　深鉢と思われるものを一括した（515～529・545～547・556～558）。515は口縁部が小波状に連続し、口縁部ではミガキを施す。縄文施文後部分的にナデを施す。内面には刷毛目状痕

跡をとどめる部分があり、その後にミガキを施している。

Ⅳ群Ｂ類　甕である。

ⅣＢ１ａ　口縁部は短く直立し、胴上位は最大径となり強く張る。口縁部には横ナデ、胴部に縄文を施す（209）。209は縄文を施す前にケズリを行なっていると思われる。施文後は部分的にナデを施す。裏面には丁寧なミガキを施す。

ⅣＢ１ｂ　形態はⅣＢ１ａ類と類似し、口縁部に縄文、頸部から胴部上位に無文帯や沈線、貼瘤を施す違いがある（206）。206は全体的に炭化物が付着している。内面には粘土紐接合痕が認められ、ミガキを施す。沈線は丸く太い。213は底部破片で、206と同一個体である。

ⅣＢ２ａ　口縁部はやや外反し、胴上部が強く張った最大径となる。頸部には１本の沈線をもち、口縁部にはミガキ、胴部には縄文を施す（182）。182の突起は７単位と思われ、波頂部は刺突状の窪みと棒状工具による沈線とがある。内面にはミガキを施す。沈線は丸く太い。

ⅣＢ２ｂ　形態はⅣＢ２ａと類似し、口縁部に縄文、頸部から胴上位にミガキを施した無文帯や平行沈線、貼瘤を施す違いがある（531）。531は本来７つの突起を有していたが、１つが欠けその面が削られている。波頂部は丸い沈線を施し、内面には丁寧なミガキを施す。沈線は丸く太い。

ⅣＢ３　口縁部は長くやや外反し、平坦面と交互に小さな山形突起をもつ。胴上位が最大径となり強く張る。口縁部にはミガキ、胴部には縄文を施す（145）。145の突起は11単位で内面にはミガキを施す。内面には粘土紐接合痕をとどめ、外面胴下半を除くすべてに炭化物の付着がある。また外面にはスリップを施していると思われる。

ⅣＢ４　口縁部は長く外反する。胴部上位に最大径があり底部は突出ぎみとなり底部でわずかに張る。全体に縄文を施す（133）。133の口縁部の縄文は胴部の回転軸方向を90°回転した方向で行う。内面は丁寧なミガキを施す。外面には幅１cmの均一な粘土接合痕が明瞭である。内外面に炭化物が付着し、内面下半は器壁がただれた斑状を呈している。

ⅣＢ５　口縁部は長く外反し、口唇部は緩い波状を呈する。胴部上位に最大径をもつ。全体に縄文を施し、口唇部直下と頸部に平行沈線を施す（125）。125は口縁部と胴上位それから底部の一部を残存するのみである。内面はミガキを施し、内外面は全体に炭化物が付着する。沈線は細く粗雑である。

ⅣＢ６　甕と思われるものを一括した（75・123・134・144・148～150・154・155・177・189・200～202・204・537～539・544・548・549・551～555・560～562・565・571・573・581・584）。149は内面に沈線をもち、口縁部は直立する。沈線は丸く太い。口縁部と内面にはミガキを施しほかは縄文である。571は頸部に縄文を平行に押圧し、胴部は縦位に鋸歯状沈線をもつ。鋸歯状沈線間の幅の狭い部分には縄文を施し、幅の広い部分は無文となる。沈線は細い。

Ⅳ群Ｃ類　鉢である。

ⅣＣ１ａ　口縁部は直立し口縁部直下に最大径をもつ。体部上位に平行沈線と楕円文をもつ(173)。173は底部の半分を欠損し、内面では粘土紐の接合痕が明瞭である。沈線は丸く細い。この土器は分類基準にしたがえば浅鉢とすべきであるが、形態や文様要素からあえて鉢形に分類しておく。

ⅣＣ１ｂ　ⅣＣ１ａとは、体部全面に平行沈線を重畳させる違いがある（172)。172は底部を欠損し、内面では粘土紐の接合痕が明瞭である。沈線は丸く細い。この土器もあえて鉢形にしてある。

ⅣＣ２　体部の外反度が強く、胴上位に最大径があると考えられる。体部全面に平行沈線を施す（180)。180の内面には細い沈線があり、丁寧なミガキを施す。外面沈線は丸く太い。この土器もあえて鉢形にしてある。

ⅣＣ３　口唇部が緩い波状を呈し、口縁部は直立する。体部上位に最大径をもつ。口縁部にはナデ、体部には縄文を施す（190)。190の内面はケズリの後、丁寧なミガキを施す。内外面に炭化物の付着する部分が多い。沈線は丸くやや細い。

ⅣＣ４　口縁部は直立し、頸部にわずかな屈曲をもつ。頸部の直下に最大径をもつ。平行沈線のある頸部や口縁部にはミガキを施し、体部には縄文を施す（191)。191は２本の平行沈線をもち、内面には丁寧なミガキを施す。沈線は丸く太い。

ⅣＣ５　体部上位に最大径をもち、そこから屈曲しない直立した口縁部となる。底部はわずかに張る。口唇部にはミガキ、その直下には２本の平行沈線、体部には縄文を施す（567)。567の内面は刷毛目状痕跡の後にミガキが施され、内外面に炭化物が付着する。沈線は丸く太い。

ⅣＣ６　口縁部は山形突起をもち緩やかに外反し、頸部直下に最大径をもつ。頸部には平行な沈線、体部に縄文、口縁部にミガキを施す（187)。187の口縁部の単位は７で、波頂部に沈線をもつ。内面にはミガキを施す。沈線は丸く太い。

ⅣＣ７　口縁部は波状突起をもつ（568)。568は波頂部に沈線を施し、６単位と考えられ内面は丁寧なミガキを施す。

ⅣＣ８　口縁部は山形突起をもち直立し、体部上位に最大径をもつ。全面に縄文を施した後に頸部と最大部に平行沈線、その間はミガキを施し無文となる（219)。219の突起は４単位と考えられ、内面は丁寧なミガキを施す。沈線は丸くやや細い。

ⅣＣ９　口縁部は緩やかな波状突起をもち、体部上位は強く張り出し最大径となる。頸部から体部上位にかけては平行沈線と無文帯をもち、他には縄文を施す（188)。188の口縁波頂部は６単位で、大きな沈線状の抉れによって２個の丸い波頂部となる。内面は丁寧なミガキを施す。同一部分の内外約半分には炭化物が付着している。沈線は丸く太い。

ⅣＣ10　口縁部は緩やかな波状突起をもち、体部上位で最大径になる。底部は上げ底になる。頸部から体部上位にかけては平行沈線文と無文帯、底部付近で平行沈線をもち、他の部分には縄文を施す(151・569・570・575・578・579・591～594)。151の突起は波頂部で大きくなり沈線状の抉りが入り２つの小突起をつくる。縄文は、体部では縦位、口縁部では斜位に施す。全面黒色塗布の行われた可能性があり、光沢がある。593の底部も同じ状況を呈している。内面には１本の沈線があり、全面に丁寧なミガキを施す。沈線は丸く太い。

ⅣＣ11　鉢と考えられるものを一括した(124・128・135・138・156～160・167～169・171・174～176・178・179・203・222・532～536・540～543・550・559・563・564・566・572・574・576・577・580・582・583・586)。

Ⅳ群Ｄ類　浅鉢である。

ⅣＤ１　体部は直線的に立ち上がり、口縁部直下で最大となる。口縁部は短く直立する。体部には平行沈線、変形工字文、縄文を施し、無文帯をもつ（152)。152は内面に１本の平行沈線があり、縄文を施した部分以外は内外面ともにミガキを施す。コビ状の炭化物が付着している。沈線は丸く太い部分と鋭角的な部分とがある。

ⅣＤ２　体部は直線的に立ち上がり、体部上位で最大径になる。胴部上位で内傾し、口縁部で直立する。口縁部から体部にかけて、平行沈線、変形工字文、貼瘤をもつ（153)。153は内面に１本の平行沈線があり、内外面に丁寧なミガキを施す。また、内外面に黒色塗布の行われた可能性のある痕跡が部分的に認められ、その上に赤色塗布の認められる部分もある。沈線は丸く太い。

ⅣＤ３　体部は内弯ぎみに立ち上がり、口縁部の直下で最大径となる。口縁部は短く直立する。口縁部から体部にかけて、平行沈線、変形工字文、貼瘤をもつ（603)。603は内面に１本の平行沈線を、内外面に丁寧なミガキを施す。沈線は細く、丸い部分と鋭角的な部分がある。

ⅣＤ４ａ　底部から口縁部にかけて内弯して立ち上がる。口縁部から体部にかけて、平行沈線、変形工字文、貼瘤、縄文をもつ（208)。208は内面に浅い沈線状の痕跡を１本もつ。縄文施文部以外にはミガキを施す。沈線は丸く太い。

ⅣＤ４ｂ　Ｄ４ａとは体部下半の縄文と貼瘤をもたない違いがある（604)。604は内面に１本の浅い沈線をもち、全面にミガキを施す。沈線は丸く太い。

ⅣＤ５　口縁部は緩やかな波状突起となり、底面から内弯して立ち上がる。体部には平行沈線、変形工字文、貼瘤をもち、口唇部にも沈線をもつ（221)。221は突起は４単位と思われ波頂部は沈線状になり２つに分かれる。内面には１本の平行沈線をもち、全面にミガキを施す。沈線は丸く太い。

ⅣＤ６　口縁部は緩やかな２個１対の波状突起となり、底部から内弯して立ち上がる。頸部は

わずかに抉られ口縁部は外反する。頸部から体部にかけて平行沈線、変形工字文、貼瘤をつ(605)。605の突起は6単位と考えられ、突起間の口唇部には沈線を施す。内面にも2本の平行沈線を施し、全面にミガキを施す。体部には部分的に光沢のある炭化物が付着しており、これを剝ぐと赤色顔料が認められる。沈線は丸く太い。

ⅣＤ７　口縁部は緩やかな波状突起となり、底部から直線的に立ち上がり口縁で外反する。体部には平行沈線、変形工字文、貼瘤をもつ（606)。606の突起は、牛頭形の突起と沈線で分断する刺突瘤に分けられ、それらが交互に3つづつ配される。突起間には沈線を施す。内外面にミガキを施す。沈線は丸く太い。

ⅣＤ８　浅鉢と考えられるものを一括した(193・217・220・596～602・607～624・640)。598は底部から直線的に口縁に至る形態で、平行沈線、変形工字文、貼瘤と内面口唇部近くに平行沈線をもつ。613は体部上位に最大径をもつもので、口縁部は内傾する。内面に赤色塗布の痕跡がある。217の突起部は沈線により2つに分かれるが、それぞれの頂部にさらに沈線状の窪みを施している。突起間の口唇部には沈線があり、内面にも2条の沈線がある。沈線は丸く太い。640は胎土・焼成・色調のほか施文技法が類似する193と同一個体と考えられる。沈線は断面が三角形を呈し太い。

Ⅳ群Ｅ類　台付鉢である。

ⅣＥ１　口縁部は波状突起となり屈曲する頸部から外反する。体部上位に最大径をもち台裾部は外反する。口縁部直下と台部直上に平行沈線をもち、体部には縄文を施す（192)。192の突起は6単位である。台部は極端に厚く内面は丁寧なミカキを施す。沈線は丸く太い。

ⅣＥ２　口縁部は波状突起となり、屈曲する頸部から外反する。体部上位に最大径をもち台裾部はやや外反する。口縁部の直下、胴部上位、台部に平行沈線、変形工字文、刻目、無文帯をもち、体部に縄文を施す（118)。118の突起は6単位と思われ、波頂部は平坦になる。体部の縄文は縦位である。鉢部内面⅓から口縁部までと外面の胴上位から口縁部はコビ状の炭化物が付着している。内面の下方には器壁がただれた斑状の部分がある。沈線は丸く細い。

ⅣＥ３　台付鉢と考えられるものを一括した（595・646)。

Ⅳ類Ｆ類　壺である。

ⅣＦ１　体部上位に最大径をもち、肩部は碇形状となり細い首に連続する。体部全面にミガキを施す（194)。194は刷毛目状の痕跡を認め、全面にミガキを施す。内面はナデである。

ⅣＦ２　体部上位に最大径をもち、細い首に連続する。体部全面にミガキを施す（162)。162は体部上位で黒色塗布の可能性があり、上に赤色顔料の付着している部分もある。また内面の体部上位全体に赤色顔料が認められ、液状の赤色顔料に壺をさかさにして付け掛けした可能性が考えられる。

ⅣＦ３　体部中央部に最大径をもち、頸部径の広い特徴がある。頸部に沈線、全面にミガキを施す（163）。163は頸部付近の内外と外面底部付近に黒色塗布の行われた可能性があり、光沢を呈している。断面には外傾接合と見られる接合痕がある。沈線は四角に張り太い。

ⅣＦ４　体部中央部に最大径をもち、頸部で屈曲しやや外反して立ち上がる。口唇部は丸みをもち片口をつくっている。頸部には平行沈線を施し、その他にはミガキを施す（195）。195は底部と体部に火襷を認める。口縁部の内外と表面体部の¼に黒斑を認める。沈線は丸く太い。

ⅣＦ５　体部上位に最大径をもち、頸部から口縁部までは直立する（196・212）。212は口縁部から頸部にかけて、平行沈線と貼瘤をもち他はミガキを施す。内面において１本の沈線文をもつ。また、最大部のやや上位から頸部の始まる部分までは、幅約１cmで横に稜をもちながら長さ５cm内外の範囲に指頭圧痕が連続し、かつ放射状に認められる。体部の内面には炭化物が付着している。沈線は断面が三角形を呈し太い。

ⅣＦ６　体部中央部やや上位に最大径をもち、頸部は内傾して口縁部で直立する。口縁部と頸部屈曲部には平行沈線をもち、口縁部では大きな貼瘤とその中に縦位の沈線を施している。外面は全面にミガキを施す（625～627）。すべて同一個体で、沈線は丸くやや細い。

ⅣＦ７　首のない無頸壺で体部の中央部に最大径をもち、そこから口唇部までは内弯して立ち上がる。外部全面には縄文を施す（119）。119は内面に丁寧なミガキを施す。

ⅣＦ８　壺と考えられるものを一括した（127・628～636）。体部上位に変形工字文をもつもの（632・635）や口縁部が波状を呈するものがある。636は大型の壺胴部破片で頸部付近のものと考えられる。縦位の沈線３本が確認でき、その上部に横位の列点文を施す。

Ⅳ群Ｇ類　高坏である。

ⅣＧ１　内弯して立ち上がる体部は上位で丸みを沿び、口縁部では外反する。脚部は円筒状を呈している。体部に平行沈線、変形工字文、貼瘤をもつ他はミガキを施す（637）。637は突起が６単位で、波頂部は刻み状の沈線で２つに分かれる。波頂部間の口唇部には沈線を施す。内面には１条の平行沈線と底部中央に円形の沈線文の痕跡が認められる。沈線は丸くやや細い。

ⅣＧ２　内弯して立ち上がる体部は上位で丸みを沿び最大径となる。口縁部は直立し、脚部は大きく外反する。体部は上位で平行沈線、変形工字文、下位には縄文を施す。脚部には平行沈線と無文帯をもち、縄文施文部以外はミガキを施す（199）。199は脚部に２つの無文帯をもつ。また、内面には１条の沈線と底部中央に円形の沈線がある。縄文は斜位で横位に近い展開を示す。沈線は断面が三角形を呈し太い。

ⅣＧ３　内弯して立ち上がる体部は上位で丸みを沿び最大径となる。口縁部は直立し、脚部はやや外反する。体部は上位で平行沈線、変形工字文、貼瘤をもち、下位には縄文を施す。脚部には、平行沈線と無文帯をもち、縄文施文部以外はミガキを施す（639）。639は脚部に２～３の

無文帯をもつ。内面には一条の平行沈線をもち、全面が黒斑している。縄文は斜位で横位に近い展開を示す。沈線は断面が三角形を呈し太い。

ⅣＧ４　直線的に立ち上がる体部は上位で丸みを沿び最大径となる。口縁部は直立する。脚部はわずかに外反し、中央が少し膨む。文様は体部下位の縄文を除き、平行沈線、変形工字文、貼瘤文、三角文、刺突文を施す（638）。638は脚部で正三角文と逆三角文を交互に配しそれぞれ４単位となり、それら三角文の中に先端の鋭利な工具による刺突文を充塡させる。全面に黒斑がおよび、胎土は粗い。沈線は丸く太い。

ⅣＧ５　高坏と思われるものを一括した（132・161・223・224・641～645・647）。223と224は脚部で平行沈線間に波状文を施している。637は変形工字文をもち、内面体部に沈線、底面にも円形の沈線をもつ。640は口縁部が直立し、その直下に最大径をもつ。平行沈線、貼瘤文があり内面は一条の平行沈線がある。641は突起部の区画が横位に入るものである。647は脚部で細く丸い沈線による平行沈線、変形工字文をもつものである。

Ⅳ群Ｈ類　ミニチュア土器を一括する。

ⅣＨ１　甕形で口縁部はわずかに外反しミガキを施す。胴部には縄文を施す（665）。

ⅣＨ２　甕形で口縁部は外反する。底部は突出し口唇部に２条の浅い沈線をもつ（662）。

ⅣＨ３　甕形で口縁部は外反する。頸部と口唇部直下に沈線文を施す。胴部には縄文を施す。非常に薄いつくりである（666）。

ⅣＨ４　浅鉢形で口縁部は直立しナデを施す。体部には縄文を施す（197）。

ⅣＨ５　鉢形で波状の口縁部をもつ。頸部と底部付近には太い沈線があり、体部には３～４本の細い沈線を施す。体部には縄文をもつ（198）。

ⅣＨ６　壺形で細い頸部をもつ。口縁部には２条の沈線を施す（122）。

ⅣＨ７　壺形で広口を呈している。口縁部はやや外反し、頸部に細くて浅い沈線をもつ（126）。

ⅣＨ８　ミニチュア土器と考えられるものを一括した（663・664）。663は波状の口縁部で、平行沈線をもつ。664は深鉢あるいは甕で、胴部には縄文を施す。底部が厚い特徴がある。

Ⅳ群Ｉ類　底部を一括した（120・129～131・146・147・181・185・186・210・227・585・587～590・648～661）。

Ⅴ群Ａ類　甕である。

ⅤＡ１　底部が比較的小さい砲弾形を呈している。口縁部は外反し、胴中央部に最大径をもつ。口縁部にはヨコナデ、体部にはヘラケズリを施す。底面に木葉文をもつ（218）。

ⅤＡ２　比較的大きな底部破片である（667）。

2．石器・石製品（第27・29・31～35・37・41～44・63～70図、第20～23表、図版25・29・30・33～36・51～56）

本遺跡からは、石鏃、石槍、石錐、石匙、石箆、鋸歯縁石器、スクレイパーの剝片石器と磨製石斧、打製石斧、半円状扁平打製石器、石錘、円盤状石製品、凹石、磨石、石皿などの礫石器が出土した。スクレイパーの中には、定形的なものの他に二次加工を有する剝片を多く含んでいる。また、凹石で磨り面をもつものは凹石として優先的に分類表記してある。

石鏃（S６～S９・S12・S24・S32・S33）S６・S７・S９・S12・S24・S32は有茎、S32は無茎で基部は丸い。S６の基部やS12の基部と背面側縁にはアスファルトが付着している。

石槍（S34・S36・S37）S34には明瞭な基部があり、S37はわずかな抉りをもつ。S34の基部は長さの約⅓があり、基部の末端に抉りをもつ扁平な形態である。S37は磨滅を示すにぶい光沢がある。

石錐（S38）基部に礫皮面をもつ。刃部・基部ともに二方向からの剝離で、背面刃部左側は背面から・右側は腹面から、基部左側は腹面から・右側は背面からそれぞれ二次加工を施す。刃部は磨耗が著しい。

石匙（S39～S41）S39は縦長剝片をS40・S41は横長剝片を素材としている。S39は未製品でつまみ部を欠損し、S41の表面は先行剝離面で平坦面となる。

石箆（S42・S43）S42は全面に二次加工を施した丁寧なつくりで、S43は表面に礫皮面を残す粗雑なものである。S43の両側縁の抉りは素材を生かしたもので、腹面刃部先端はヒンジフラクチャーとなっている。

スクレイパー（S２・S４・S13～S18・S20・S21・S29・S30・S44・S45・S48～S92）スクレイパーを諸特徴によってａ～ｎ類まで分け、それらに該当しないものはｏ類として説明する。ａ類はS44・S45である。縦長剝片の両側縁に二次加工施す。S44は背面の上側縁を中心にアスファルトが付着し、対辺を刃部とした扁平なつくりで、にぶい光沢がある。S45はアスファルトの付着はないが、末端部に二次加工がない、両側縁に二次加工を施す、にぶい光沢をもつ、石材の感じが類似、などの共通点があり同じ類に含めた。ｂ類はS21である。全面に丁寧な二次加工を施す。背面の上側縁の両端にアスファルトが付着し、他の側縁を刃部とした薄手のものである。ｃ類はS48・S49・S55である。縦長剝片で末端部と両側縁に二次加工を施す末端部の丸いものである。S48は丁寧な二次加工を施し、S55は末端部のみ残存する。ｄ類はS13・S51～S54・S90である。縦長剝片の末端部が丸みを沿び、そこと一側縁に二次加工を施す。S13とS54は小型で丁寧なつくりである。S90は末端部が嘴状になっている。ｅ類はS50である。縦長剝片で末端部のみに二次加工を施し丸くなる。未製品と思われる。S56

は破片であるが本類の可能性がある。f類はS16・S60である。縦長剝片で末端部と一側縁に二次加工を施し、末端部が水平になる。g類はS57・S58である。大きい剝片を素材とし全面に二次加工を施す。S57は二側縁と一側縁に、S58は一側縁と二側縁にそれぞれ細かい二次加工と大きな二次加工を施す。h類はS15である。縦長剝片で末端部と両側縁に二次加工を施す。i類はS17・S18・S29・S59・S61～S67である。縦長剝片で両側縁に二次加工を施すもので、特に丁寧なもの（S18・S61・S64～S67）と礫皮面のある粗雑なもの（S17）がある。S62は欠損部が大きいがこの類に含めてある。S66とS67は末端部に石核面をとどめ、S66の背面の剝離の観察から先行剝離は180°転移していることが判る。S61の背面右側刃部とS67の両刃部、腹面にはにぶい光沢がある。j類はS4・S14・S20・S68～S71である。縦長剝片で一側縁にだけ二次加工を施す。礫皮面のつくもの（S69～S71）とそうでないものがある。S70は刃部と表面ににぶい光沢がある。k類はS72～S76である。縦長剝片で末端部が三角状になり、両側縁に二次加工を施す。側縁の二次加工が一方向から施すもの（S72・S73・S75）と方向を違えるもの（S74・S76）とがある。l類はS77・S80である。横長剝片で末端部が三角状になり両側縁に二次加工を施す。m類はS78・S79・S81・S82・S85・S92である。縦長剝片で末端部が三角状になり、一側縁に二次加工を施す。n類はS83・S84・S86である。横長剝片末端部に二次加工を施す。S83は刃部が鋸歯縁状を呈している。o類はS87・S88・S91であり、上述の分類に含まれないものを一括した。S87は縦長剝片で両側縁と末端部、それに正面上部左縁に二次加工を施すもので、上部と末端部が欠損している。S88は縦長剝片で二側縁に二次加工を施すもので、二次加工は一方向と二方向とがある。S91は縦長剝片で二側縁に二次加工をもつが一側縁が鋸歯状を呈している。全面ににぶい光沢をもつ。S89は横長剝片で、末端が大きく抉られた三角状を呈している。三つの縁辺に二次加工を施す。二次加工は末端部と右側縁では腹面から、左側縁では背面から施している。

鋸歯縁石器（S35・S46・S47）素材の厚い剝片の側縁に、大きな鋸歯状の二次加工を施すものである。すべて縦長剝片である。S35は石箆状の形態を呈するもので、この形態では刃部と考えられるところに大きな鋸歯状の二次加工を施し、一応この分類に含めた。S46は末端部背正面左側縁にそれぞれ1、3と大きな二次加工を施す。S47は背面が平坦で、末端部に4つの大きな二次加工を施す。

磨製石斧（S5・S10・S11・S93～S98）S96を除いた他は定角式である。a～e類に分けて考えられる。a類はS10・S94で両側縁が平坦な撥形である。刃部はS10では偏刃に近く、S94では円刃である。S10では片面の左側に3箇所のアスファルト痕跡を認める。S94は片面茎部下方に敲打痕をもつ。b類は両側縁が平坦であるが短冊形に近い形態で、刃部の縦断面は一方に扁じる片刃の円丸である。c類はS95で、両側縁はいくつかの平坦な面を成す短冊形で

ある。刃部は刃こばれが著しい片刃である。茎端には敲打の後調整を施した2つの痕跡面がある。表面茎部の上下・裏面茎部の上位（この場合右に寄る）に敲打状の窪みをもち、正面右側縁の下と左側縁の上に強い擦痕、正面右側縁の上と左側縁の下に弱い擦痕を認める。また、裏面の側縁沿いには、二本の擦痕が中央部に集中するように認められる。これらは、縦斧の装着技法を示すと考えられる痕跡である。d類はS96～S98で両側縁が丸みを浴び、刃部が両面の円刃となる撥形である。S97・S98は全面を磨いているが、S96は茎部の側縁方向に丸味を沿びる曲面と茎部側縁には磨きがない。e類は小型の扁平な石斧で、中央がやや抉れる短冊形に近い形態である。刃部の縦断面はやや偏じた片刃で、円刃となる。

打製石斧（S99）素材が厚く中央部に抉りをもつ形態で、撥形を呈している。刃部の片側に礫皮面を残す。

半円状扁平打製石器（S100）特に顕著な二次加工痕と認められず、底部側縁にも顕著な使用痕は認められない。

打欠石錘（S101・S103）扁平な小型のもの（S100）と大型のもの（S103）に分けられる。S101は二次加工が一方向からのものと両方向からのものとがある。S101では両側縁中央に両方向からの二次加工による抉りがある。また正面左下にも一方向からの二次加工があり、正面右側縁は斜めの素材のもつ抉と対応している。

石製品（S102）底部が平坦な椀形を呈している。口唇部に当る部分は5～7㎜と幅がある。全面が擦られている。

円盤状石製品（S1・S104～S111）径が5㎝前後のもの（S1・S104・S109・S111）、径が4㎝前後のもの（S108・S110）、径が3㎝前後のもの（S105～S107）とに分けられる。両面も縁は磨かれているが、S106のものは特に顕著である。

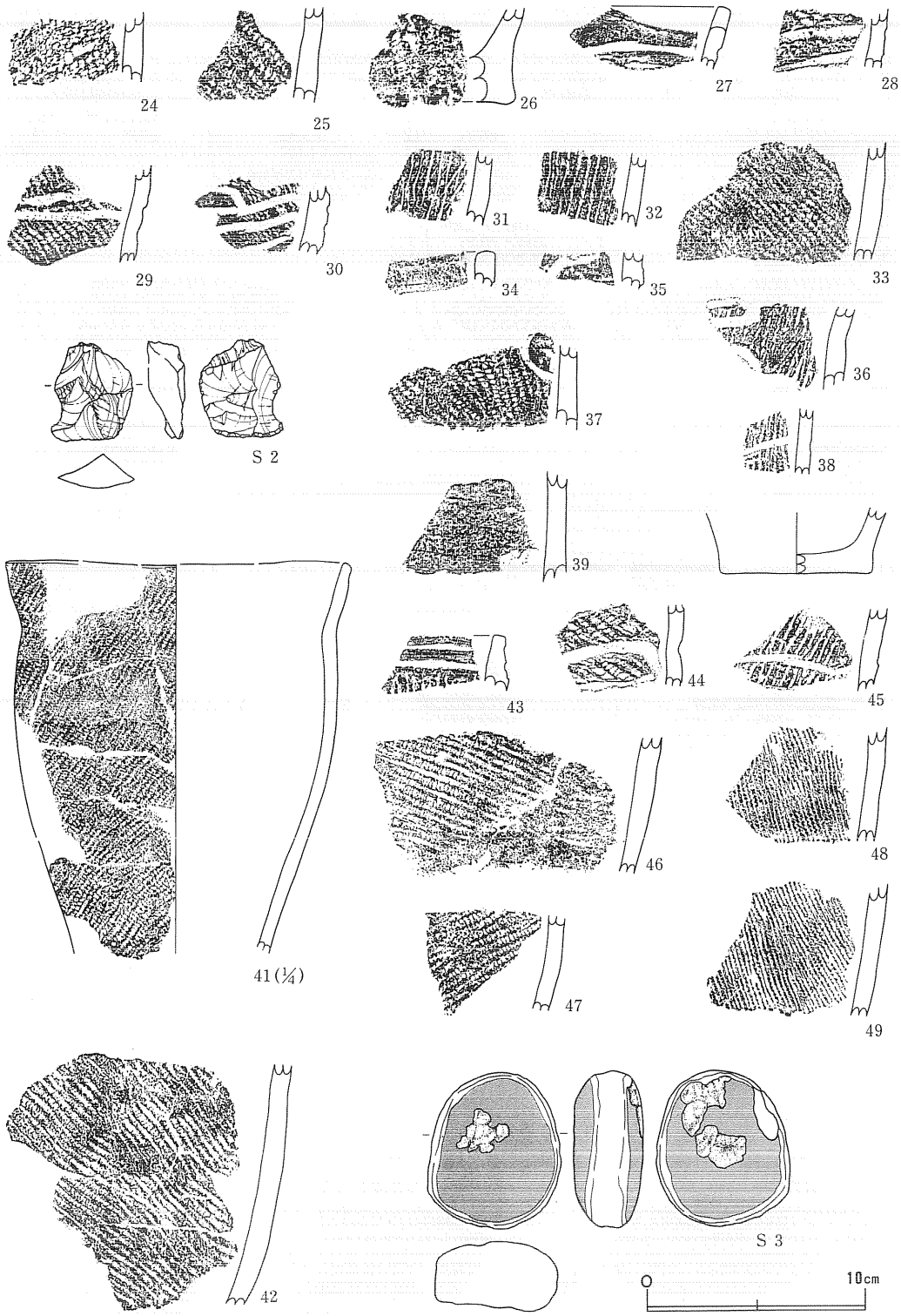
凹石（S3・S22・S23・S31・S112～S124）凹石の中には棒状、楕円形、丸形などさまざまであるが、磨石として使用しているもの（S3・S23・S31・S112～S115）とそうでないもの（S22・S116～S124）とがある。凹部は一面に一つのもの、複数のものがあるが、凹部が片側のもの（S112～S115）と両面のもの（S3・S22・S23・S31・S116～S123）に分けられる。両面に凹部のあるものが多く、凹部が片面のものは磨石として使用している傾向にある。

磨石（S19・S28・S125～S131）磨石の中には丸形、楕円形などがあり、両面使用のもの（S19・S125～S129）と片面使用のもの（S28・S130・S131）がある。両面使用のものが多い。

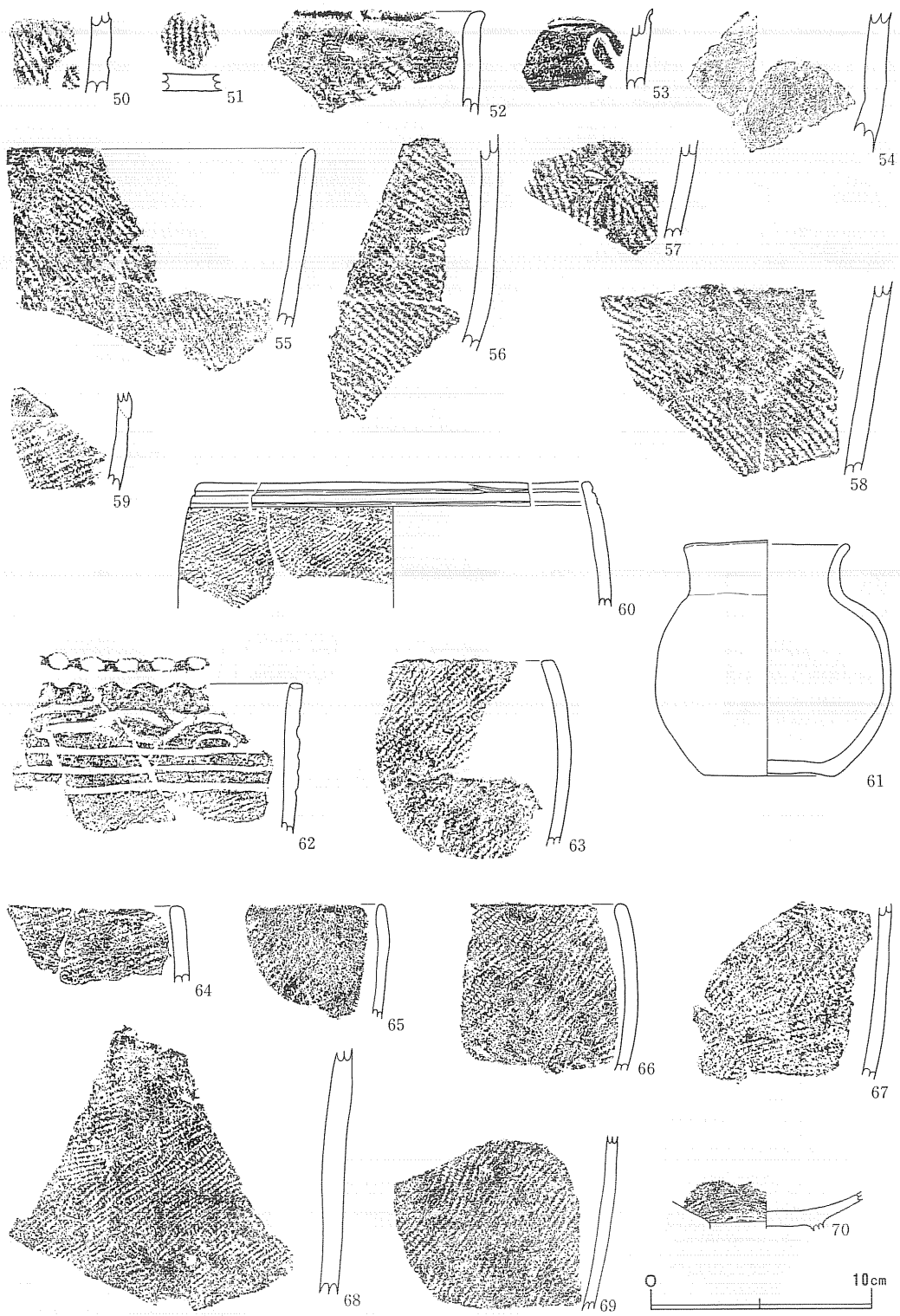
石皿（S132）極度の磨滅状態を示している擦面（上面）は、加工の施さない自然の礫を利用したもので、緩やかな窪みを示している。下面ではわずかに擦られている。

第27図　遺構内出土遺物(1)　S I 68・76　S Z 19・27・41　S N 06・22

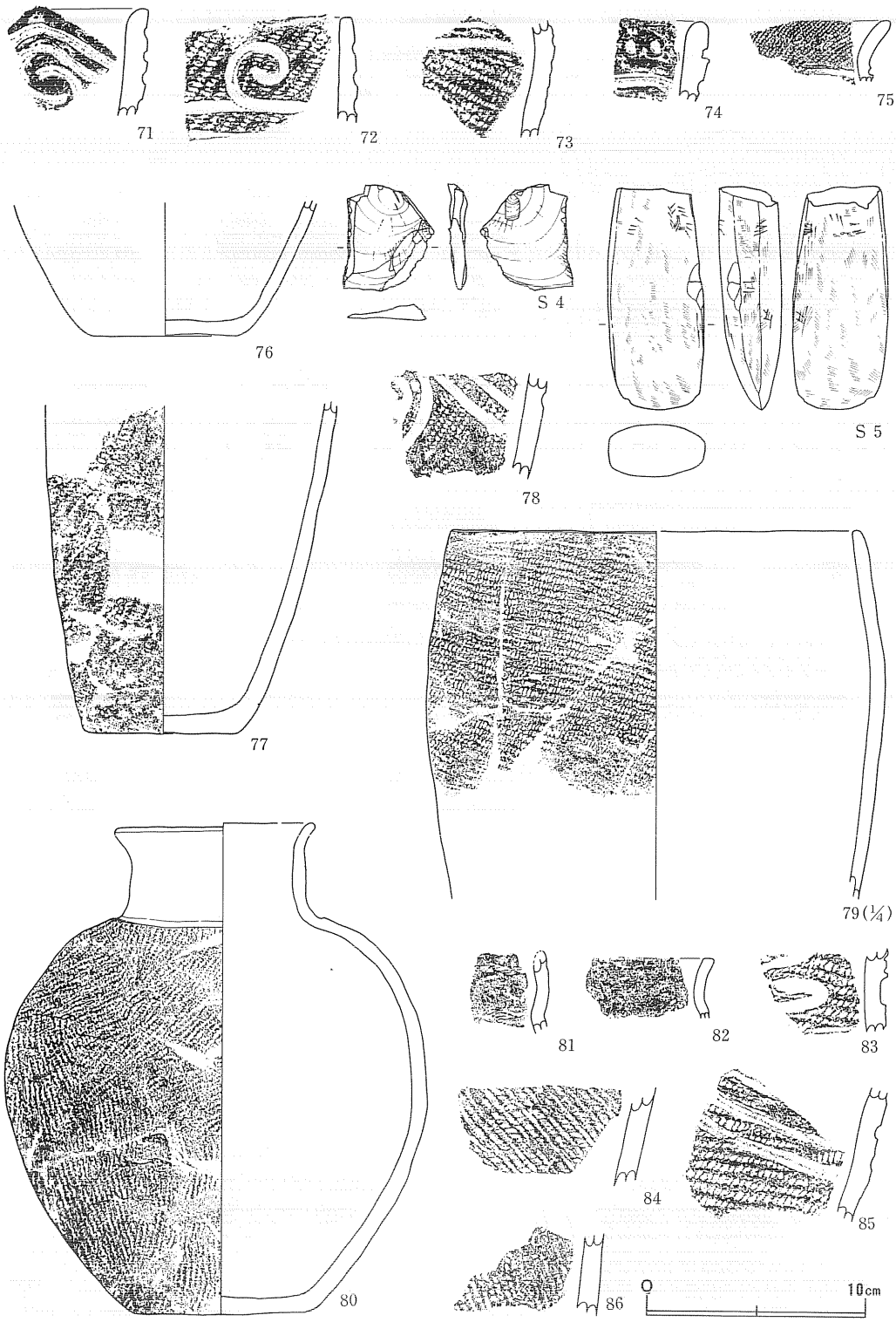
第28図　遺構内出土遺物(2)　ＳＺ48・53　ＳＮ59　ＳＲ05　ＳＫＦ42



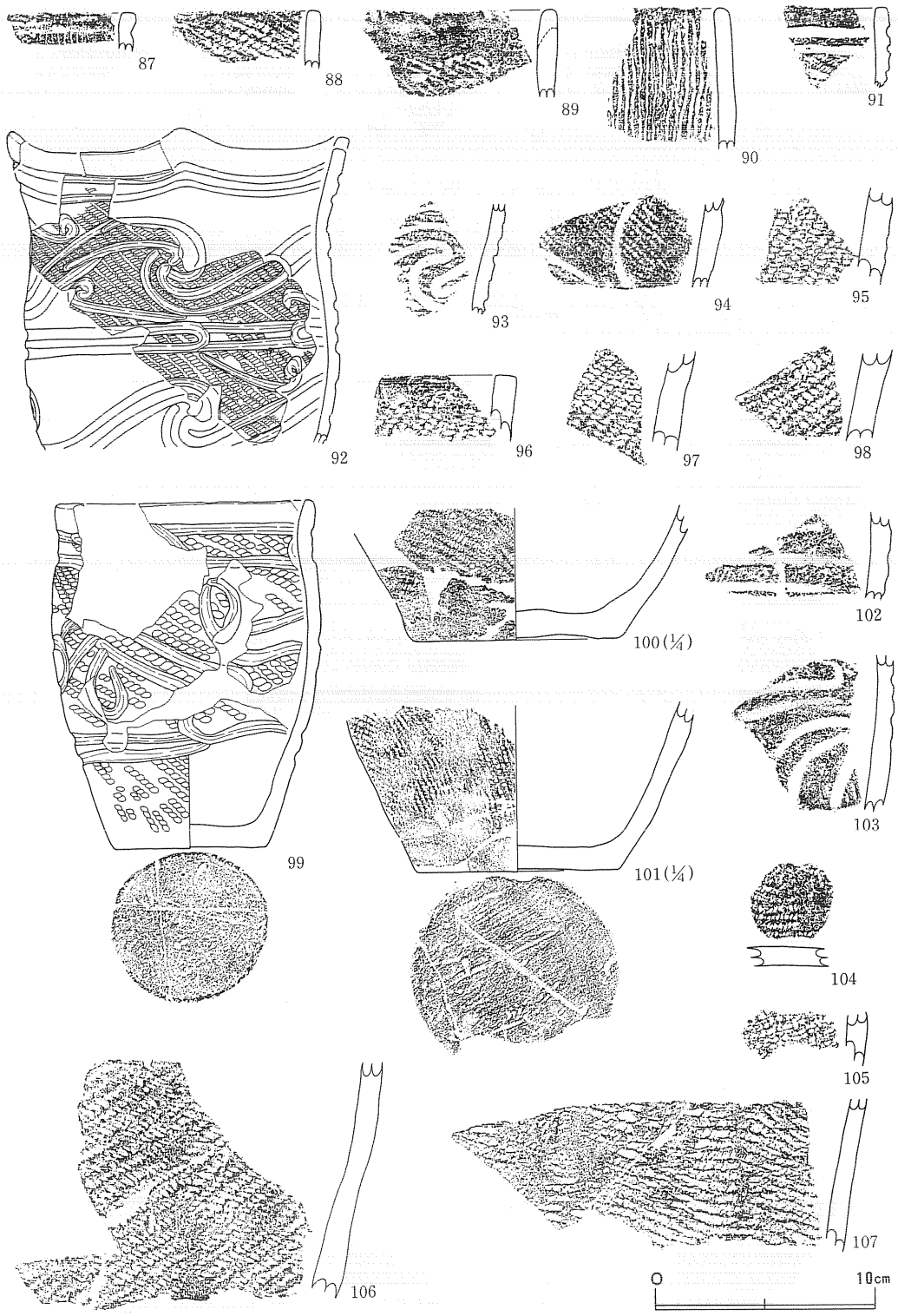
第29図　遺構内出土遺物(3)　ＳＫＦ42・44　ＳＫ04



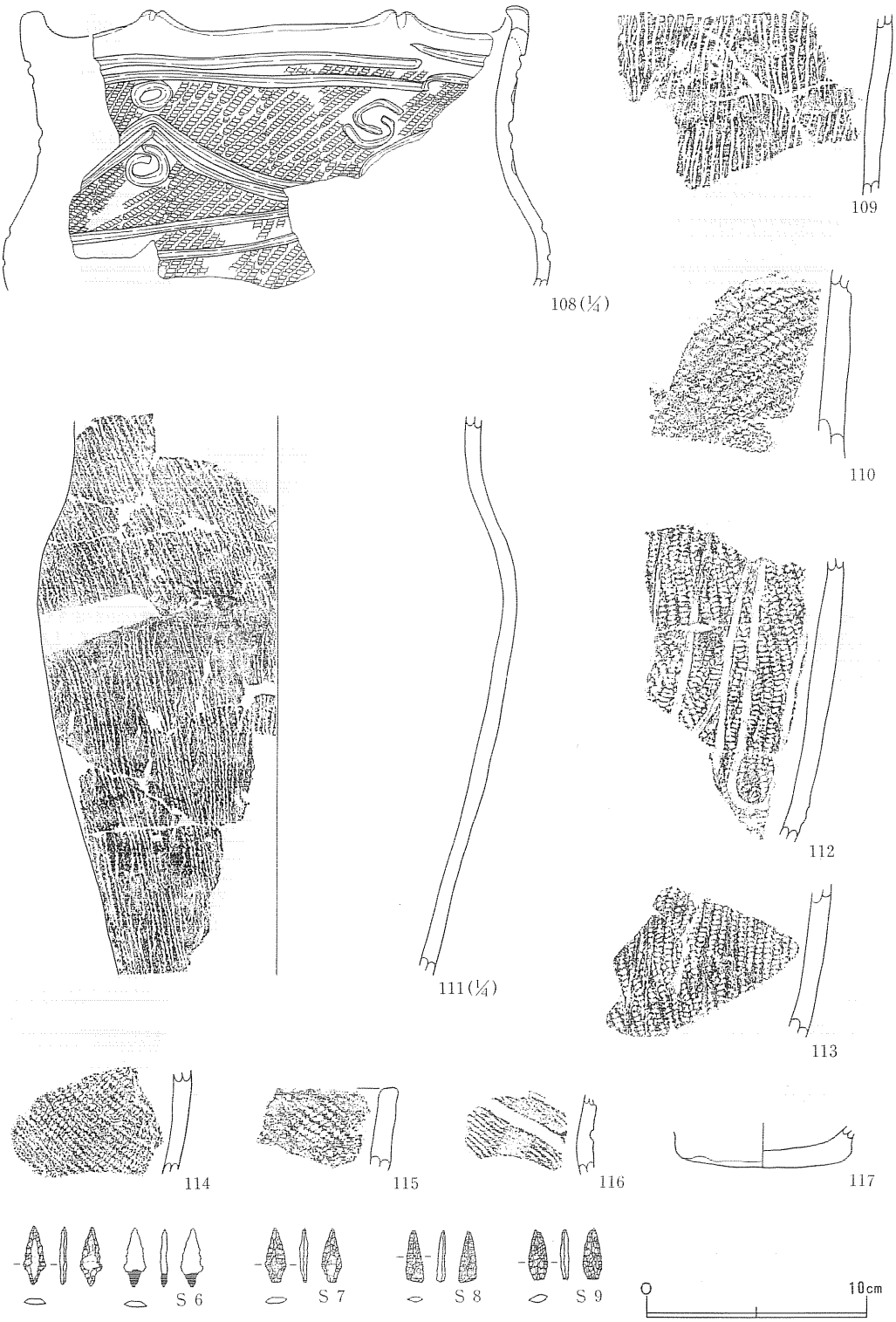
第30図　遺構内出土遺物(4)　ＳＫ12～14・20・21・23



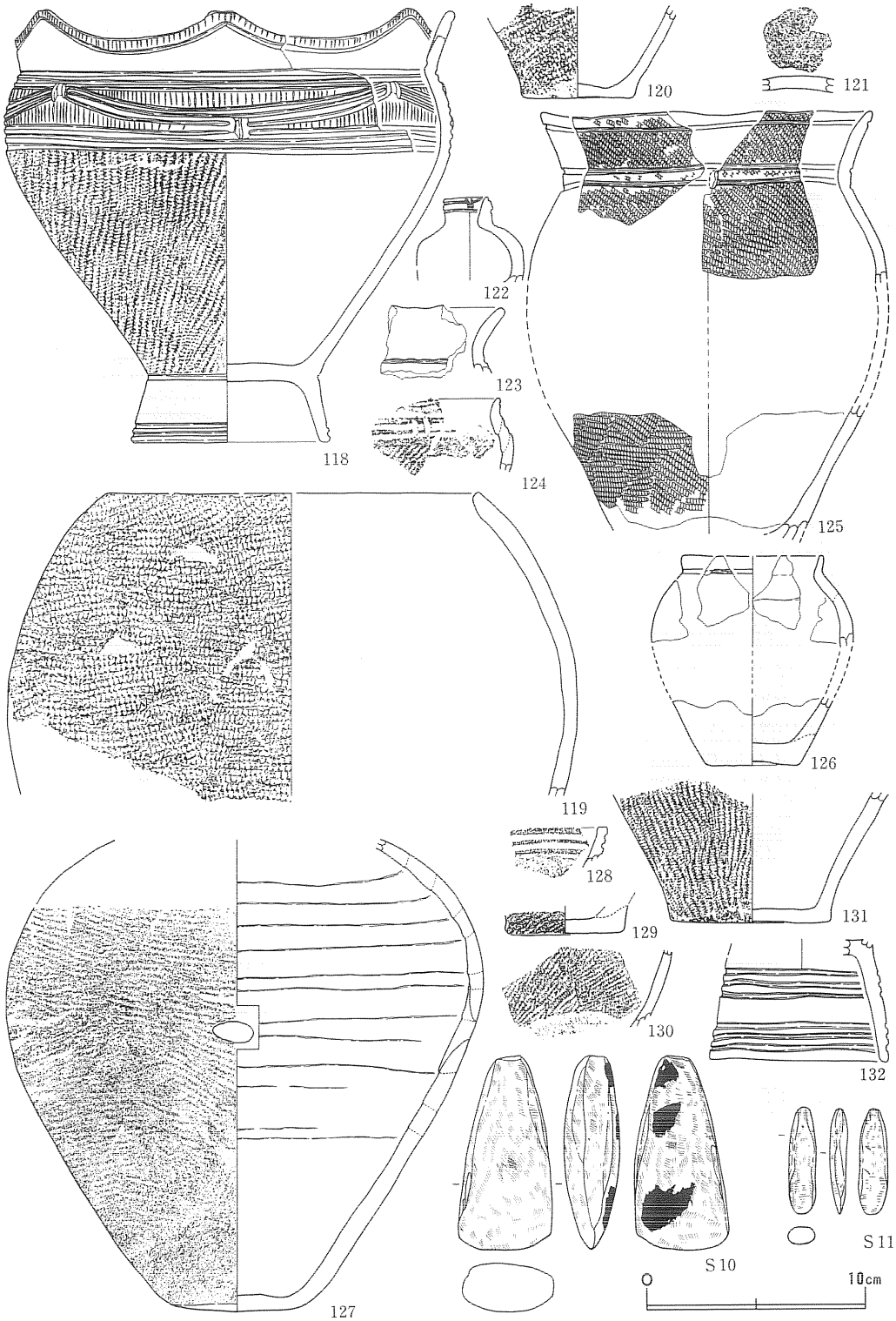
第31図　遺構内出土遺物(5)　ＳＫ23～25・29・30



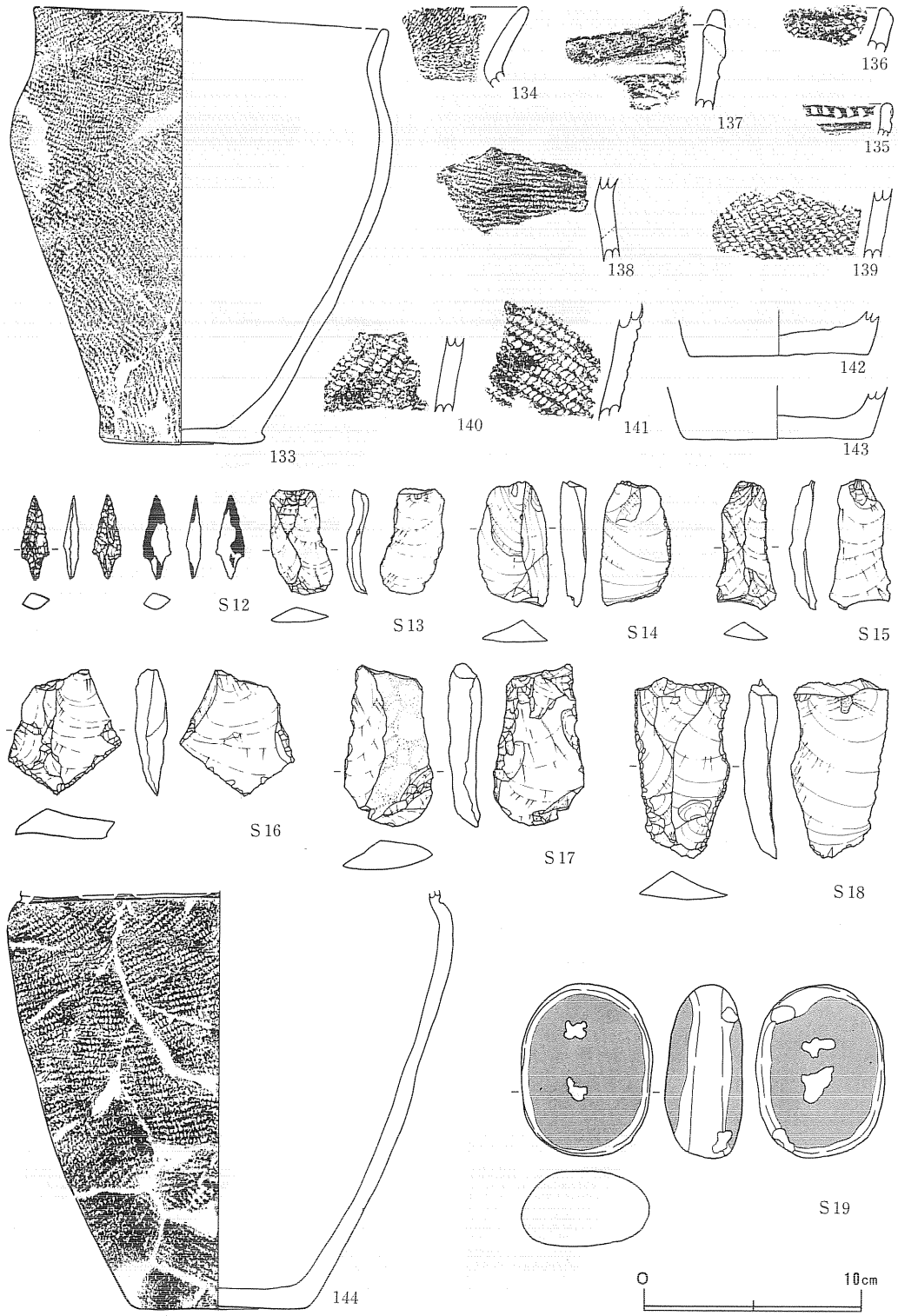
第32図　遺構内出土遺物(6)　ＳＫ36・38・40・69



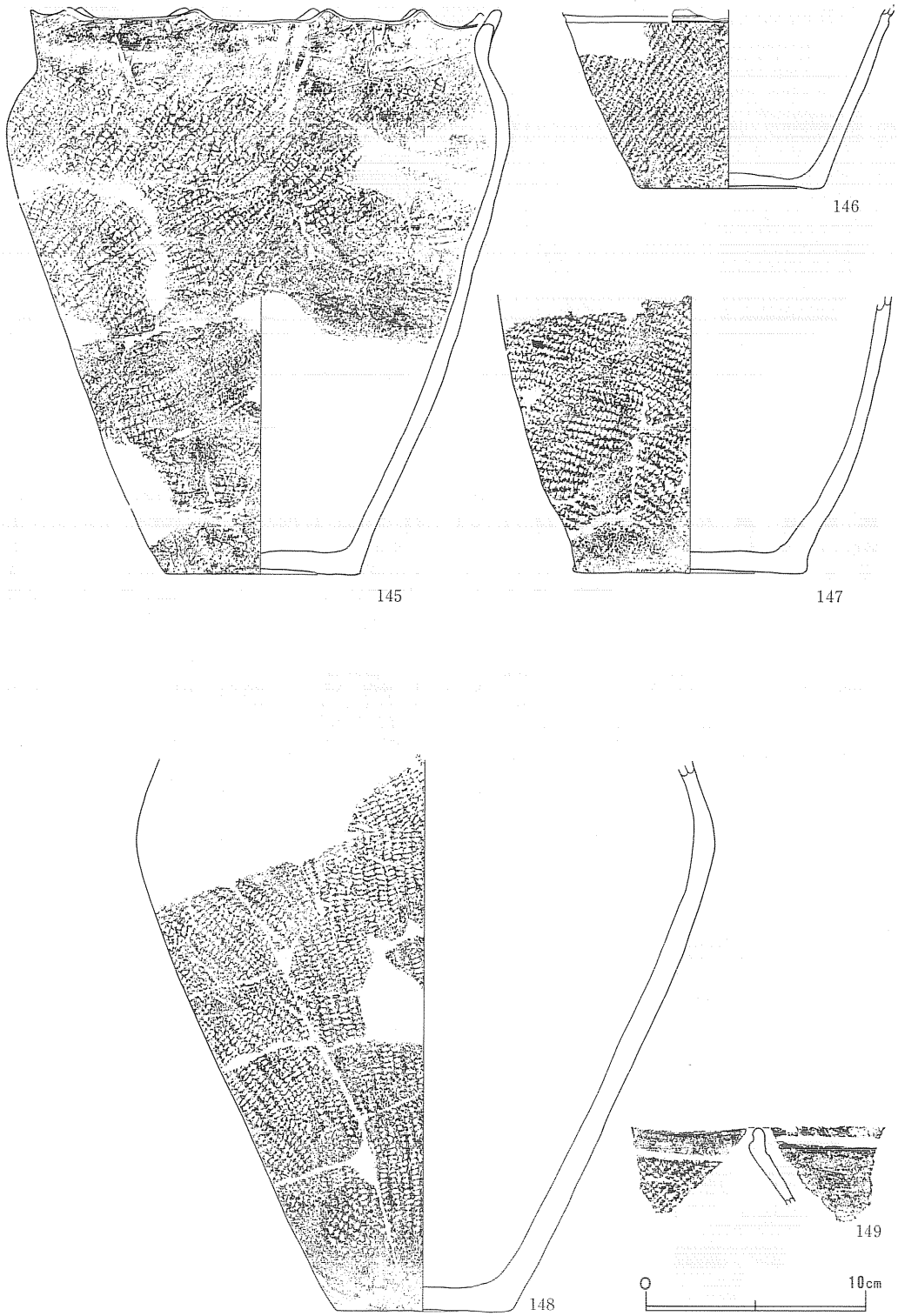
第33図　遺構内出土遺物(7)　ＳＫ58・69・70・79



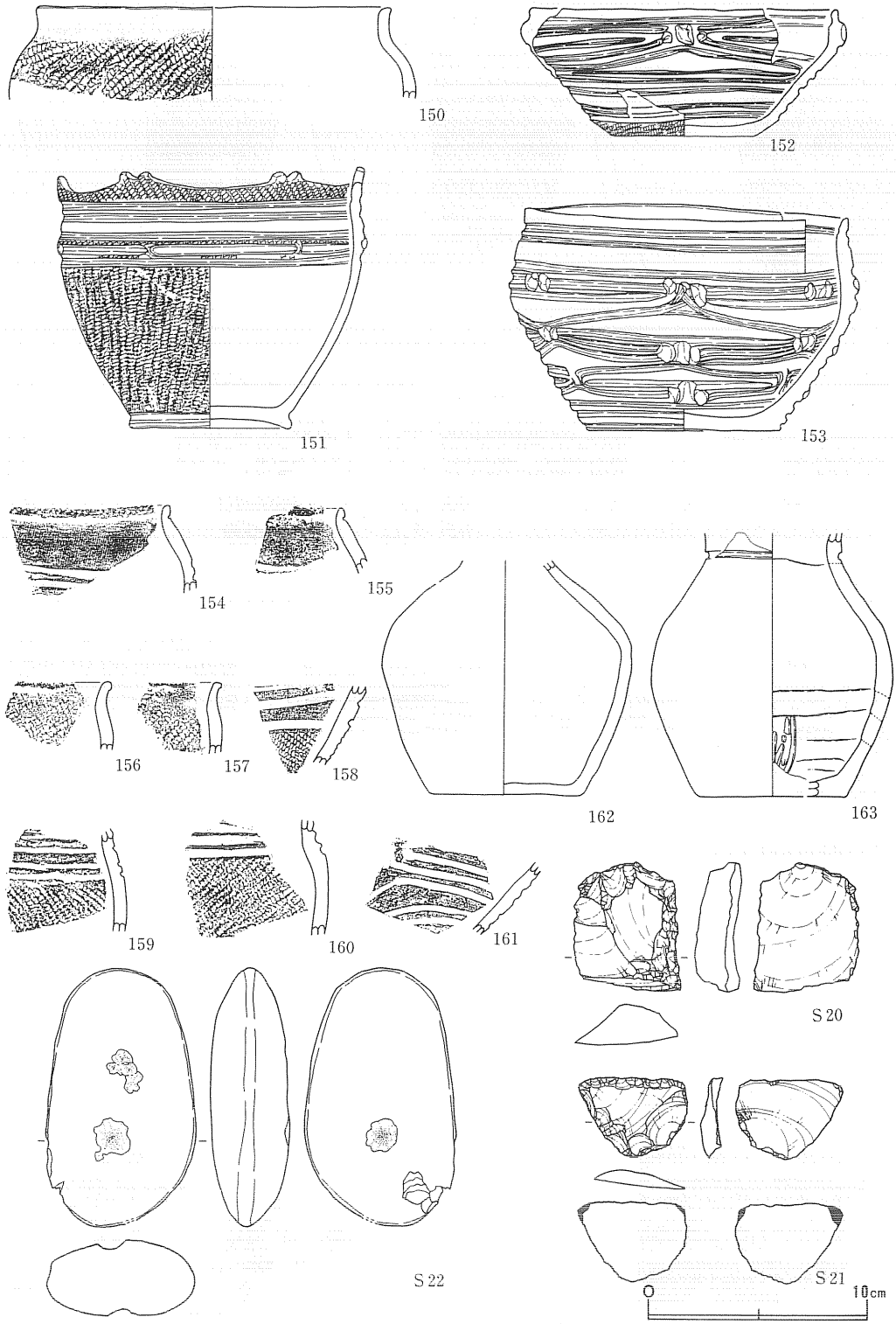
第34図　遺構内出土遺物(8)　ＳＩ28・33



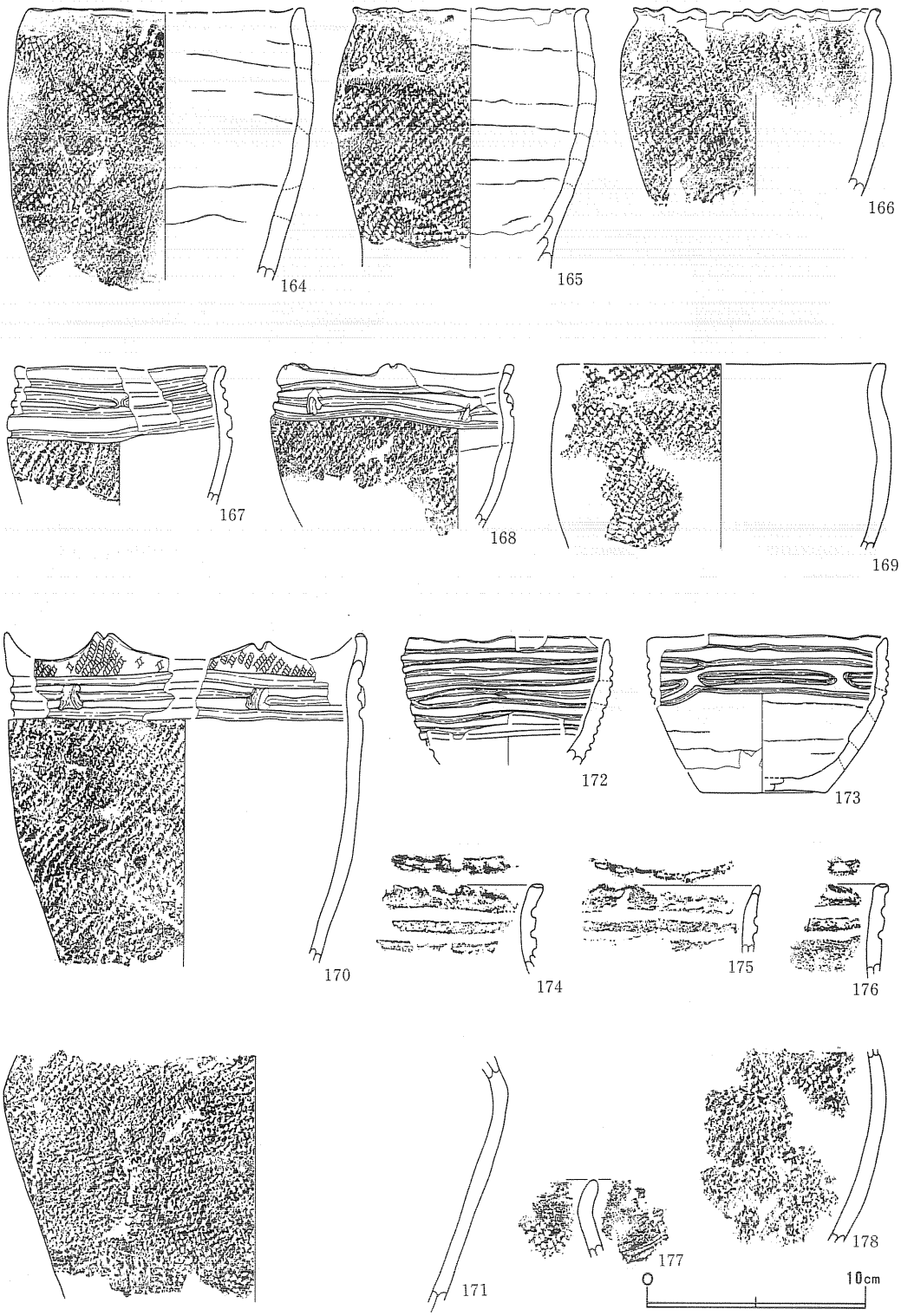
第35図　遺構内出土遺物(9)　ＳＩ34・60



第36図　遺構内出土遺物(10)　ＳＩ60

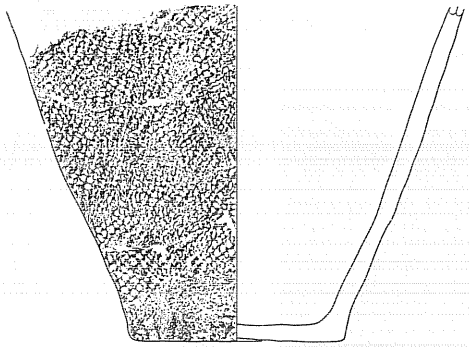


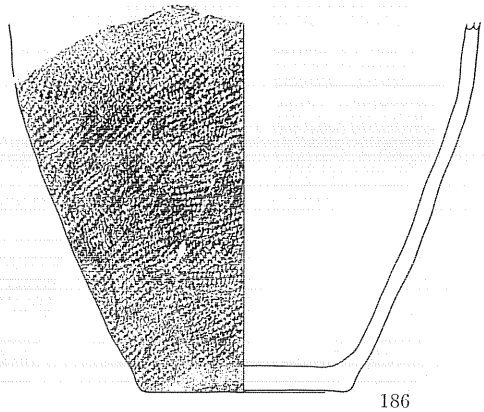
第37図　遺構内出土遺物(11)　S I 60

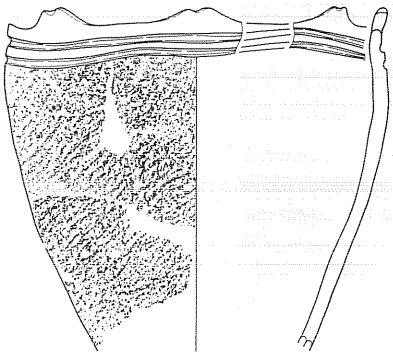


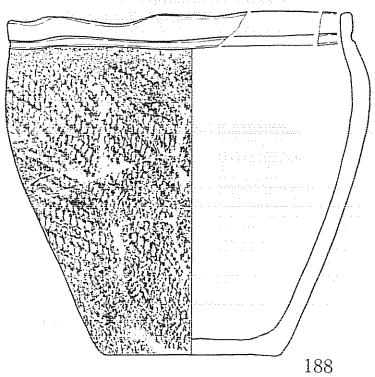
第38図　遺構内出土遺物(12)　ＳＩ61

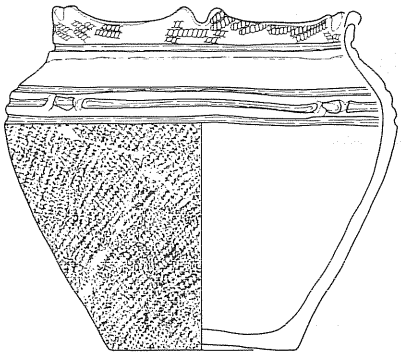
第39図　遺構内出土遺物(13)　ＳＩ61

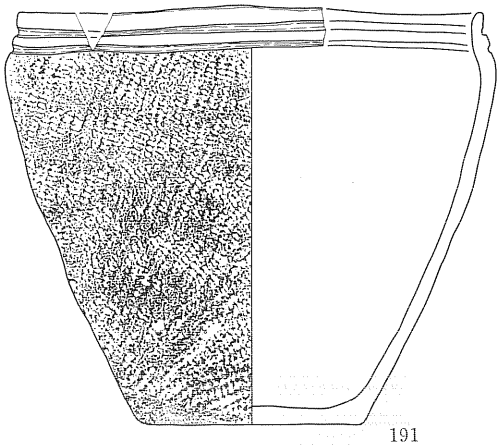


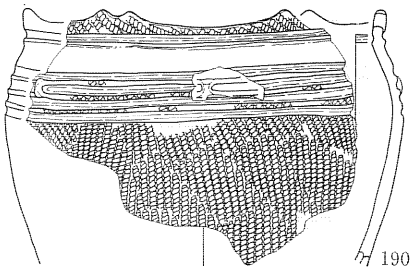


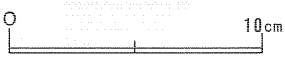




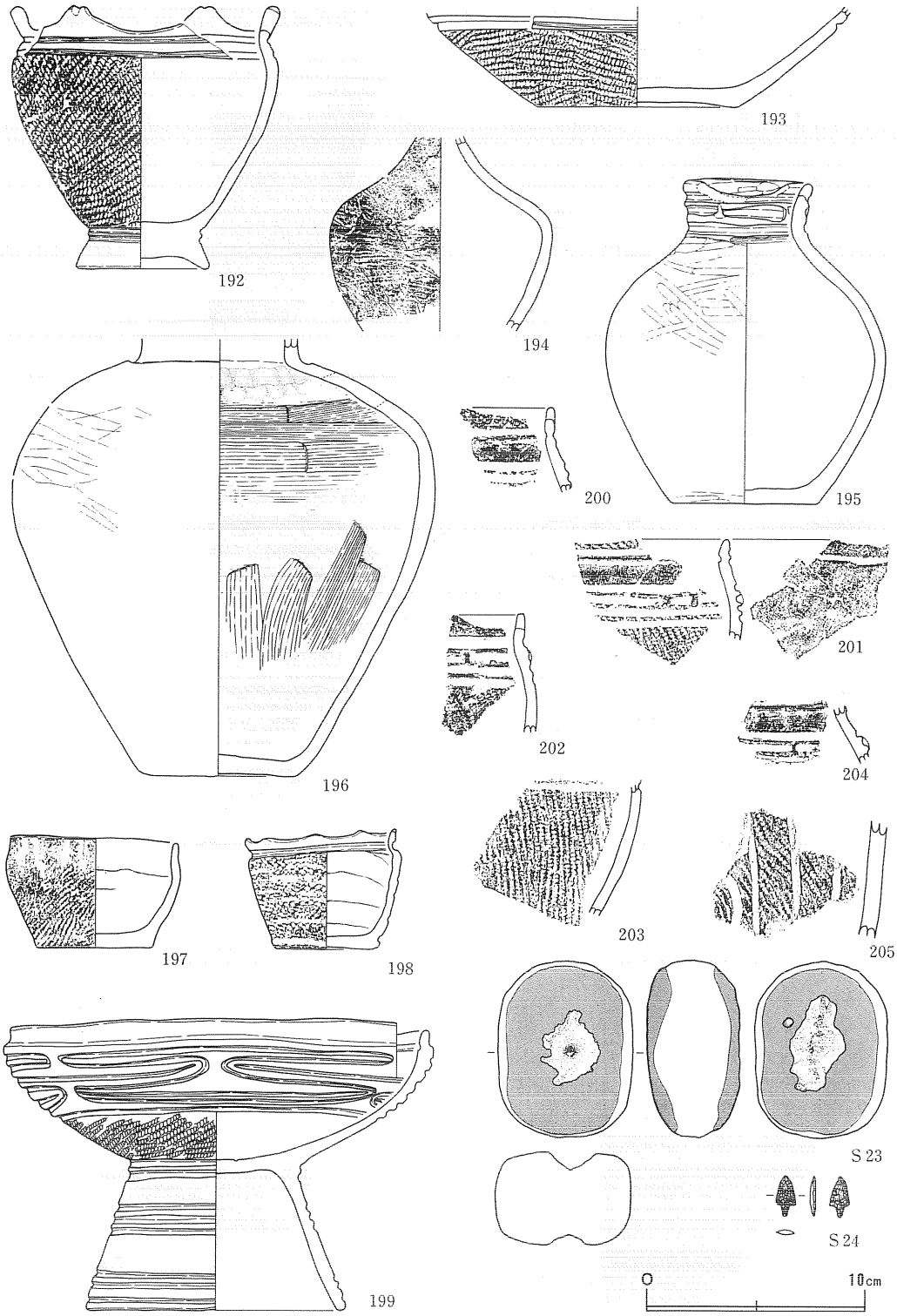




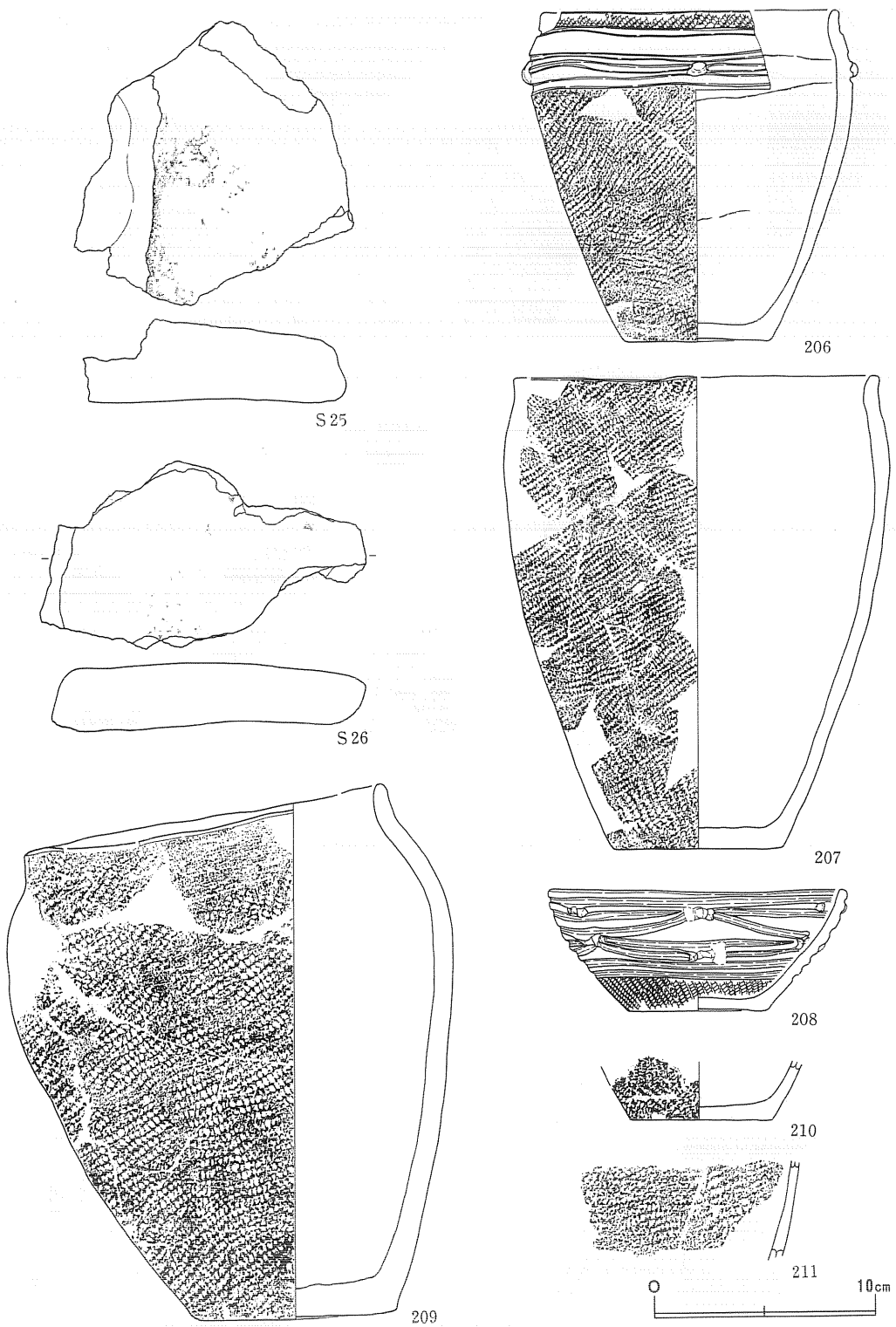




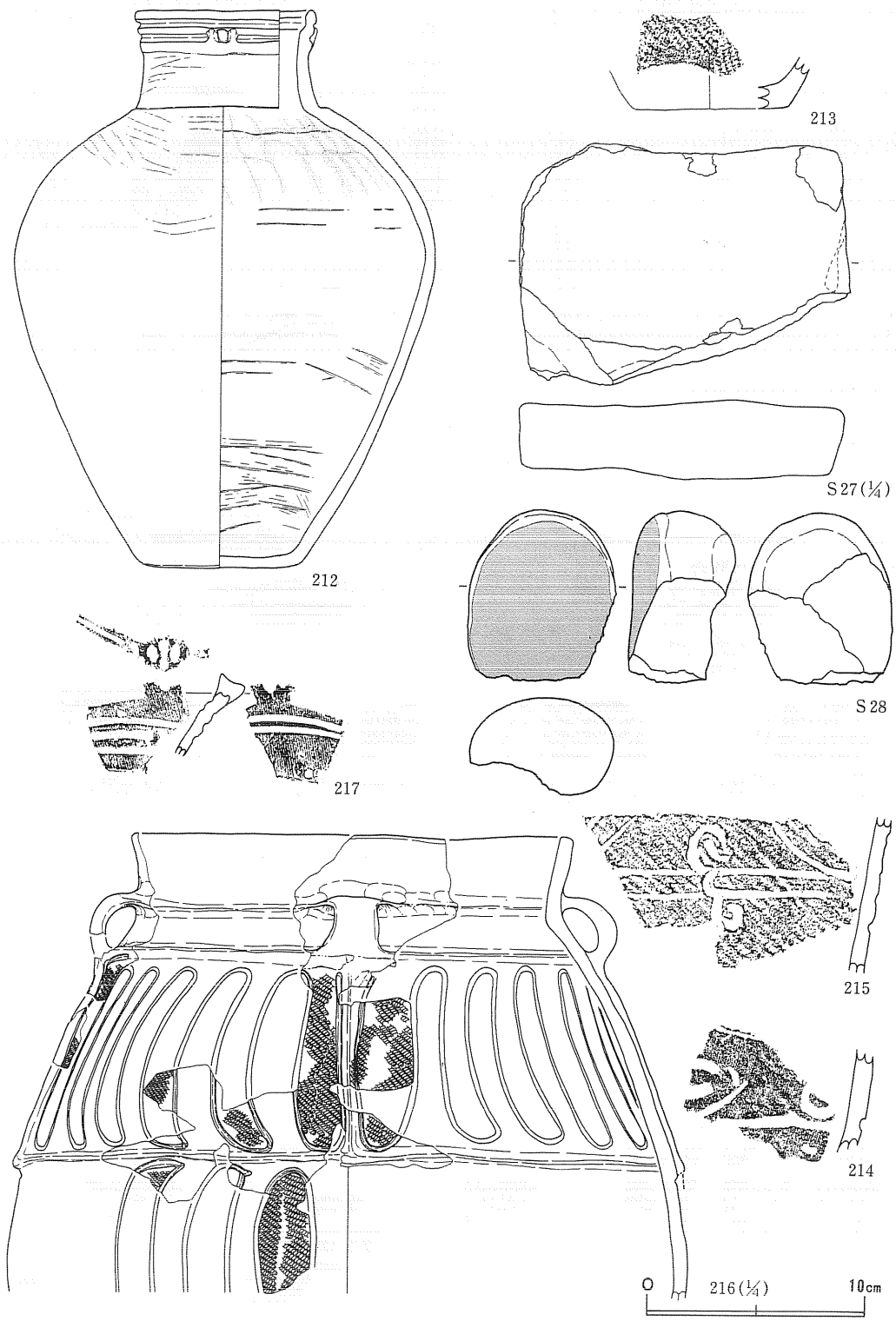
第40図　遺構内出土遺物(14)　ＳＩ61



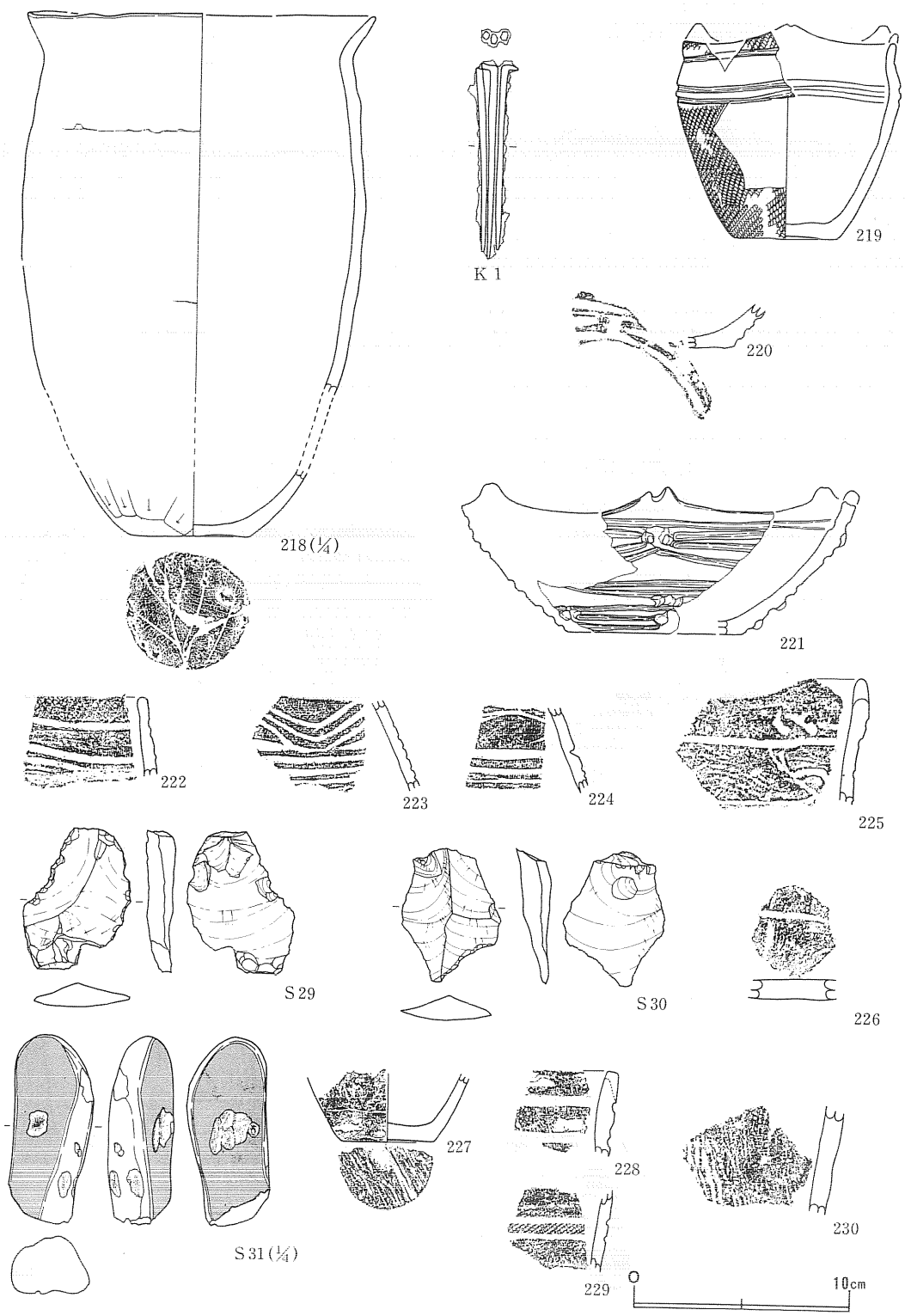
第41図　遺構内出土遺物(15)　ＳＩ61



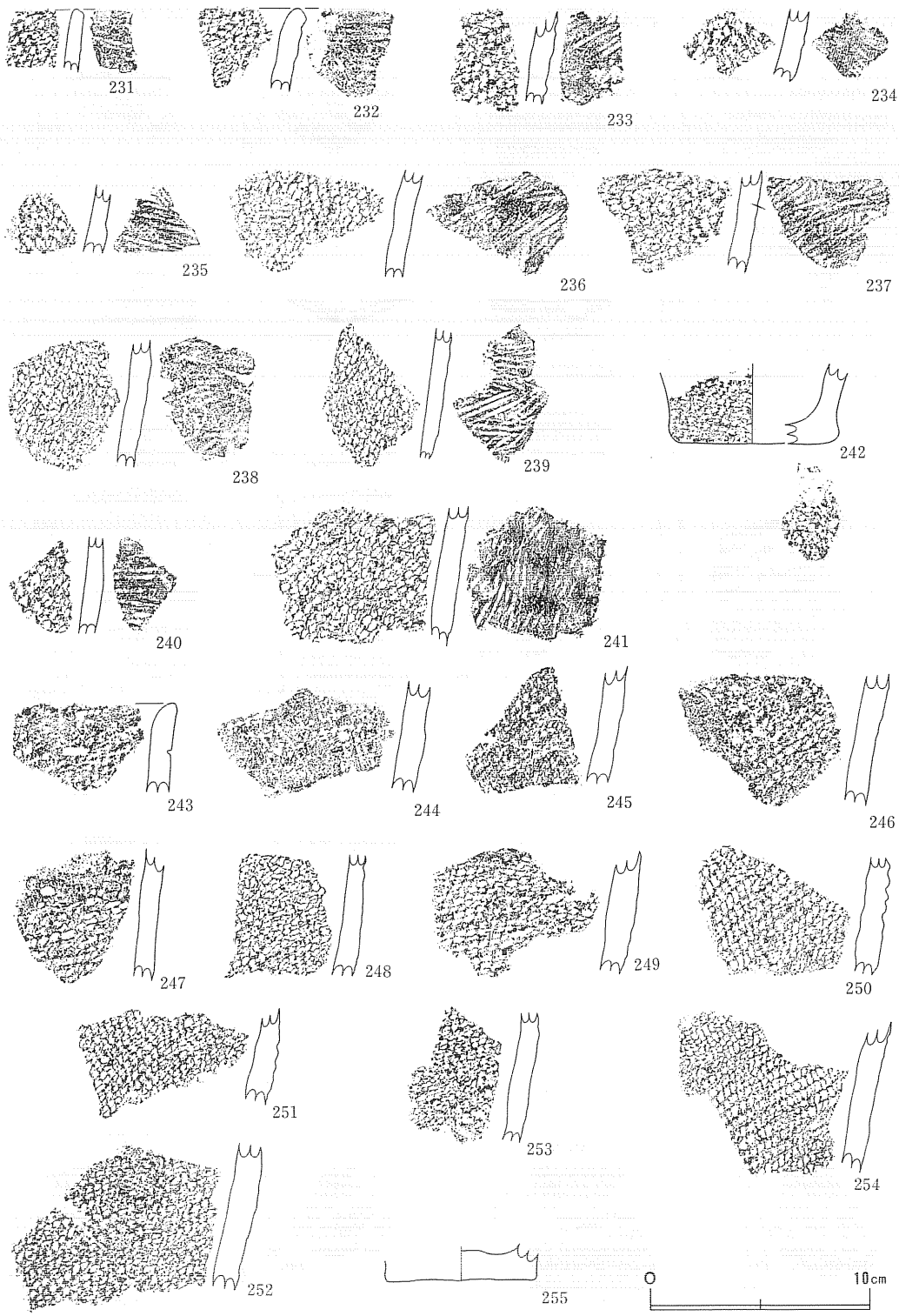
第42図　遺構内出土遺物(16)　ＳＮ46・47・52



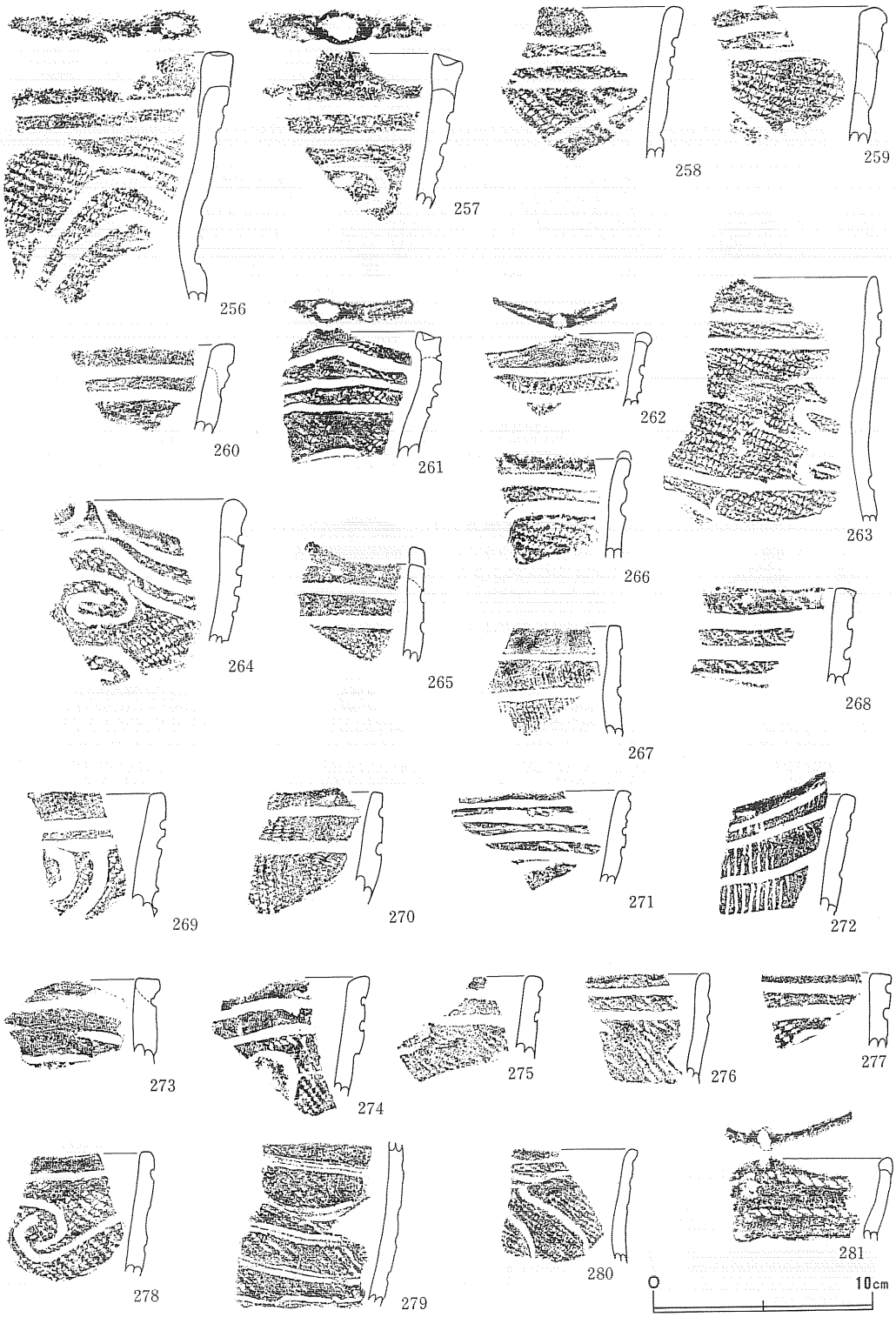
第43図　遺構内出土遺物(17)　ＳＮ52・56　ＳＱ43・49・50



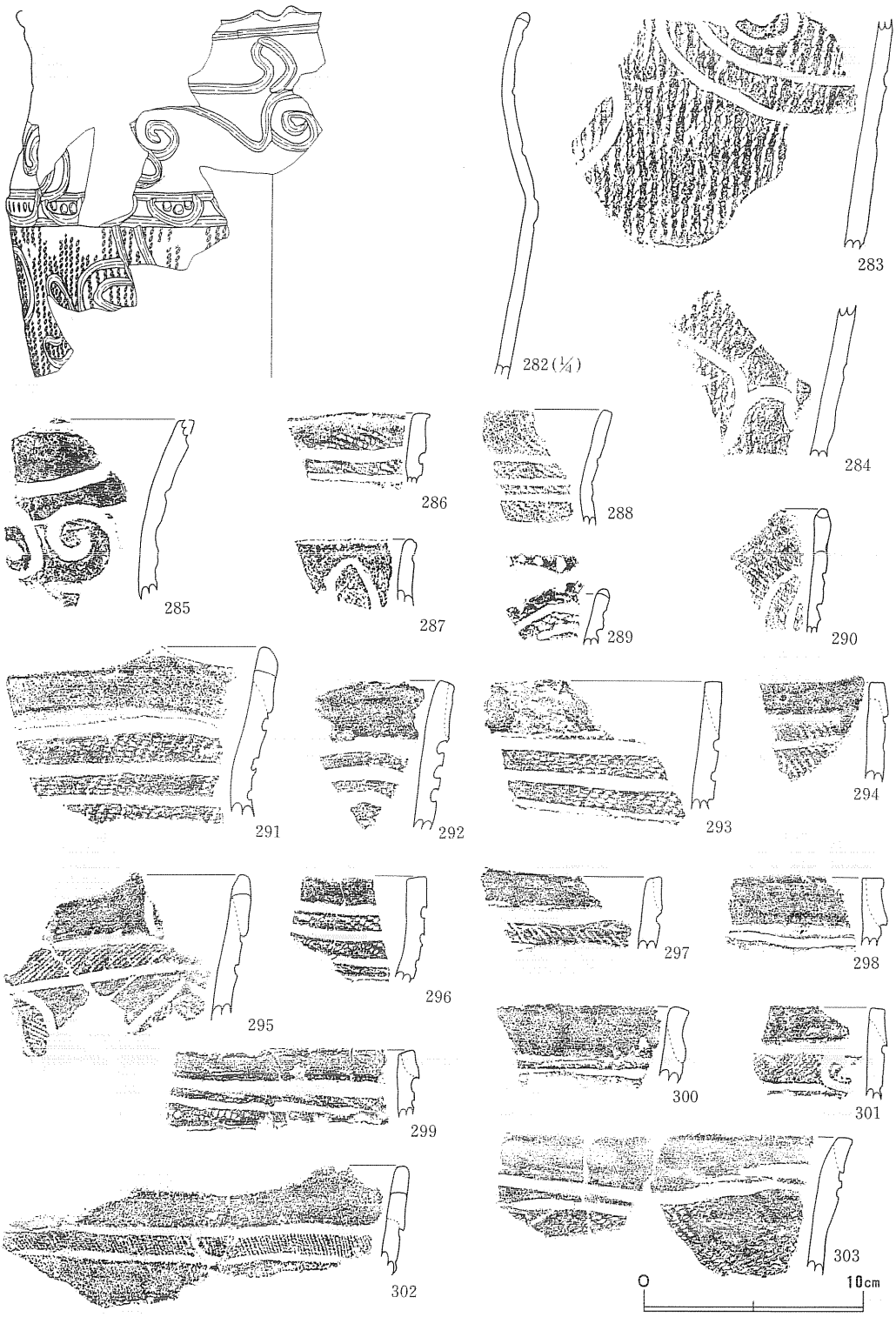
第44図　遺構内出土遺物(18)　ＳＩ18・32　ＳＸ51



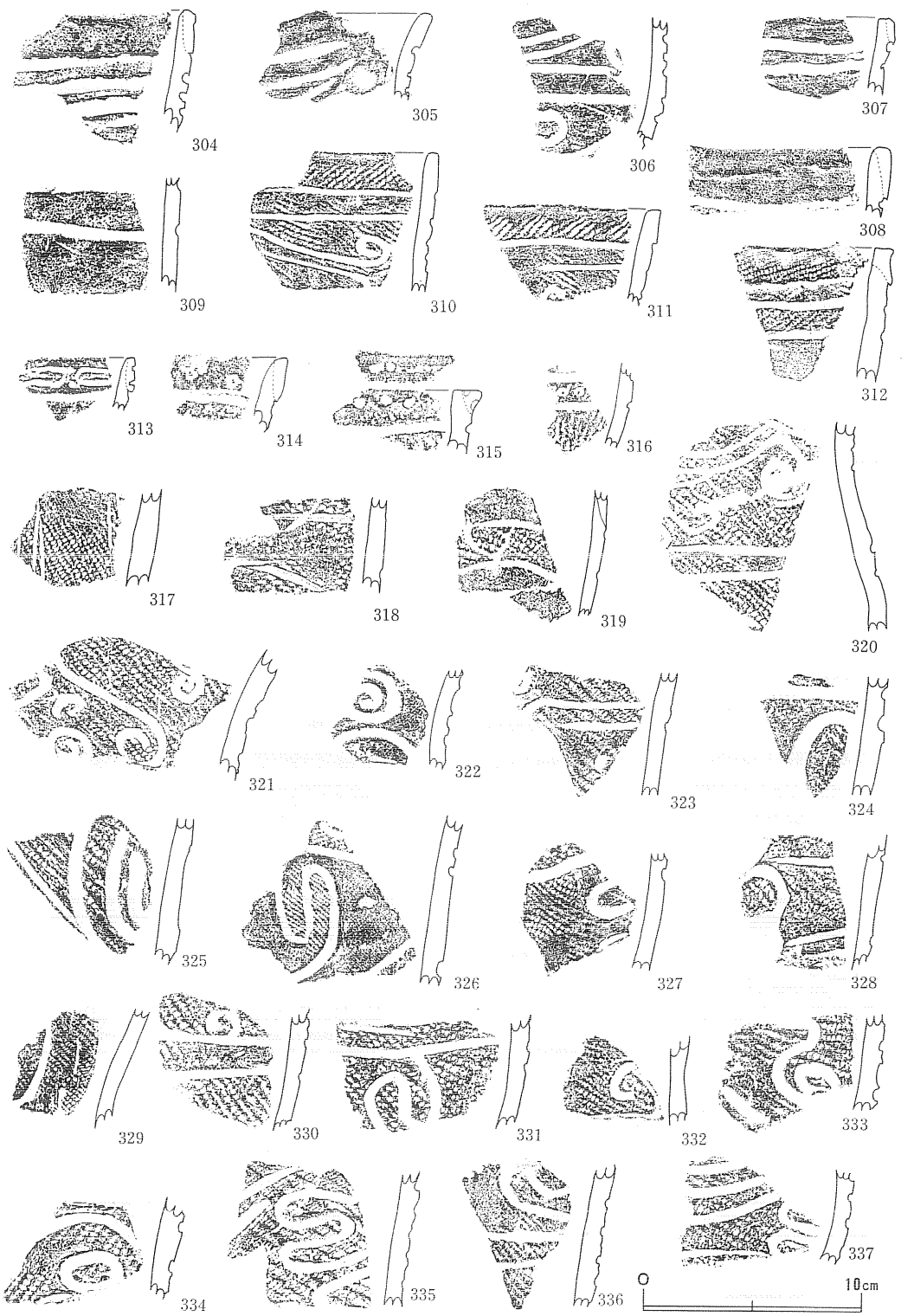
第45図　遺構外出土土器(1)



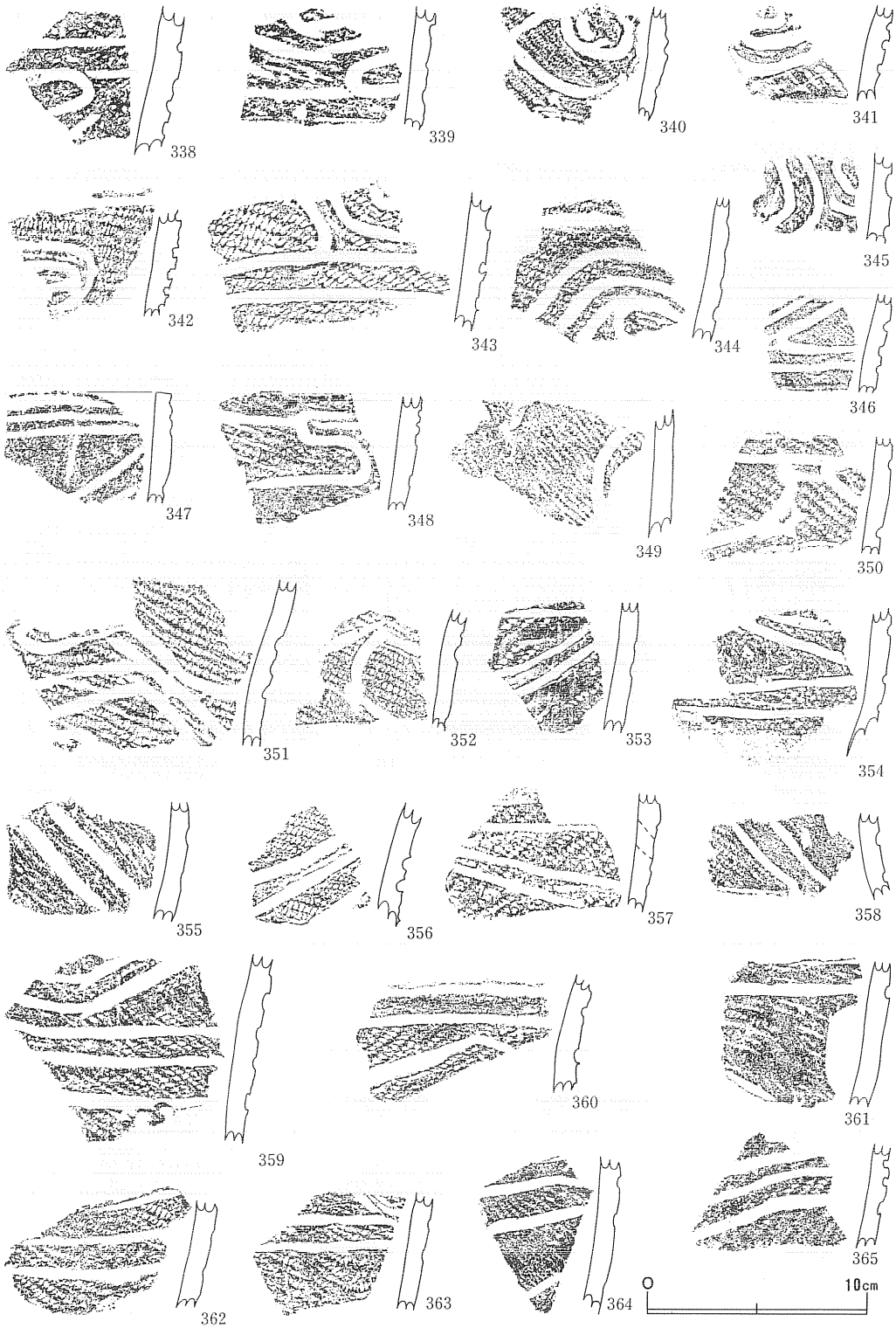
第46図　遺構外出土土器(2)



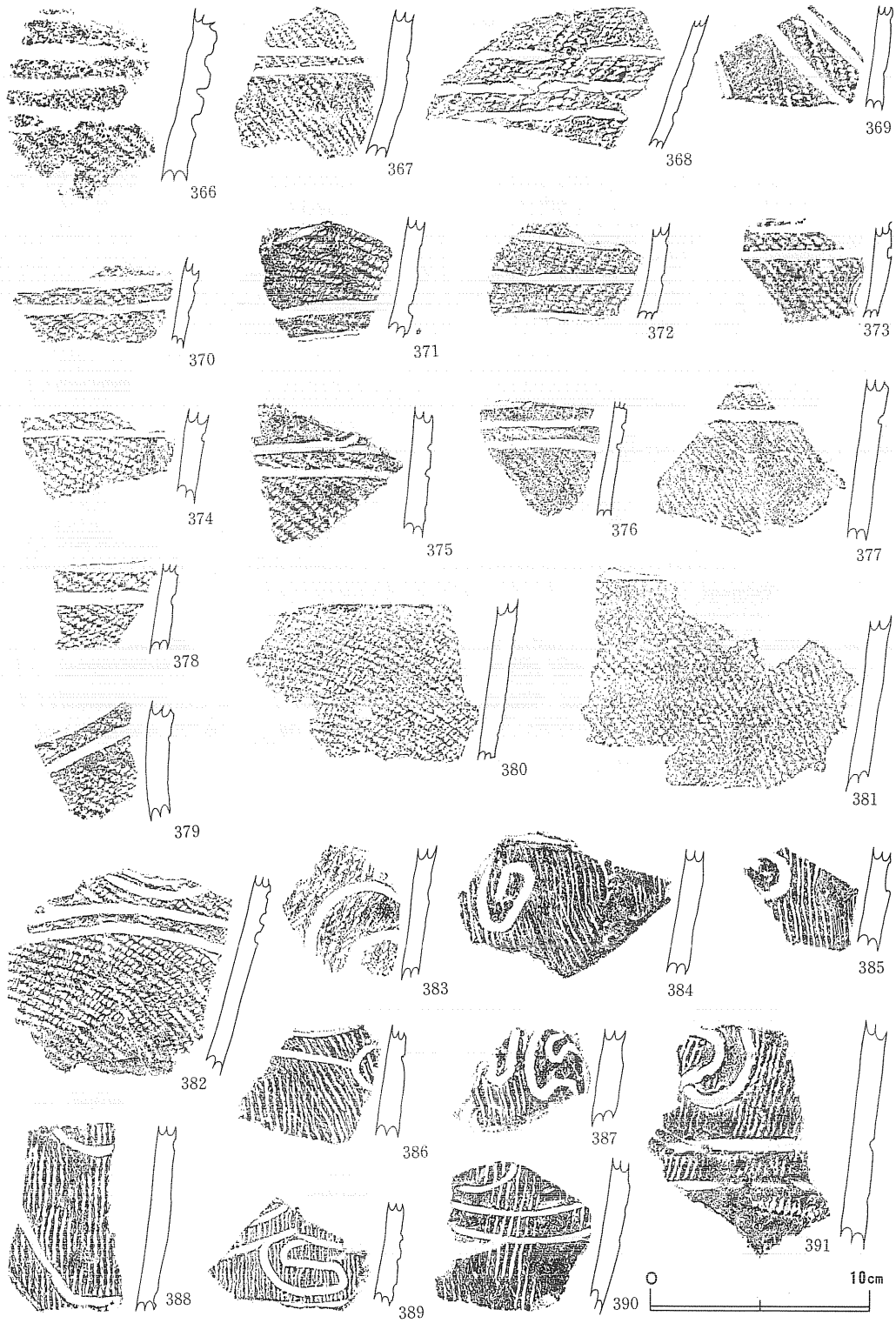
第47図　遺構外出土土器(3)



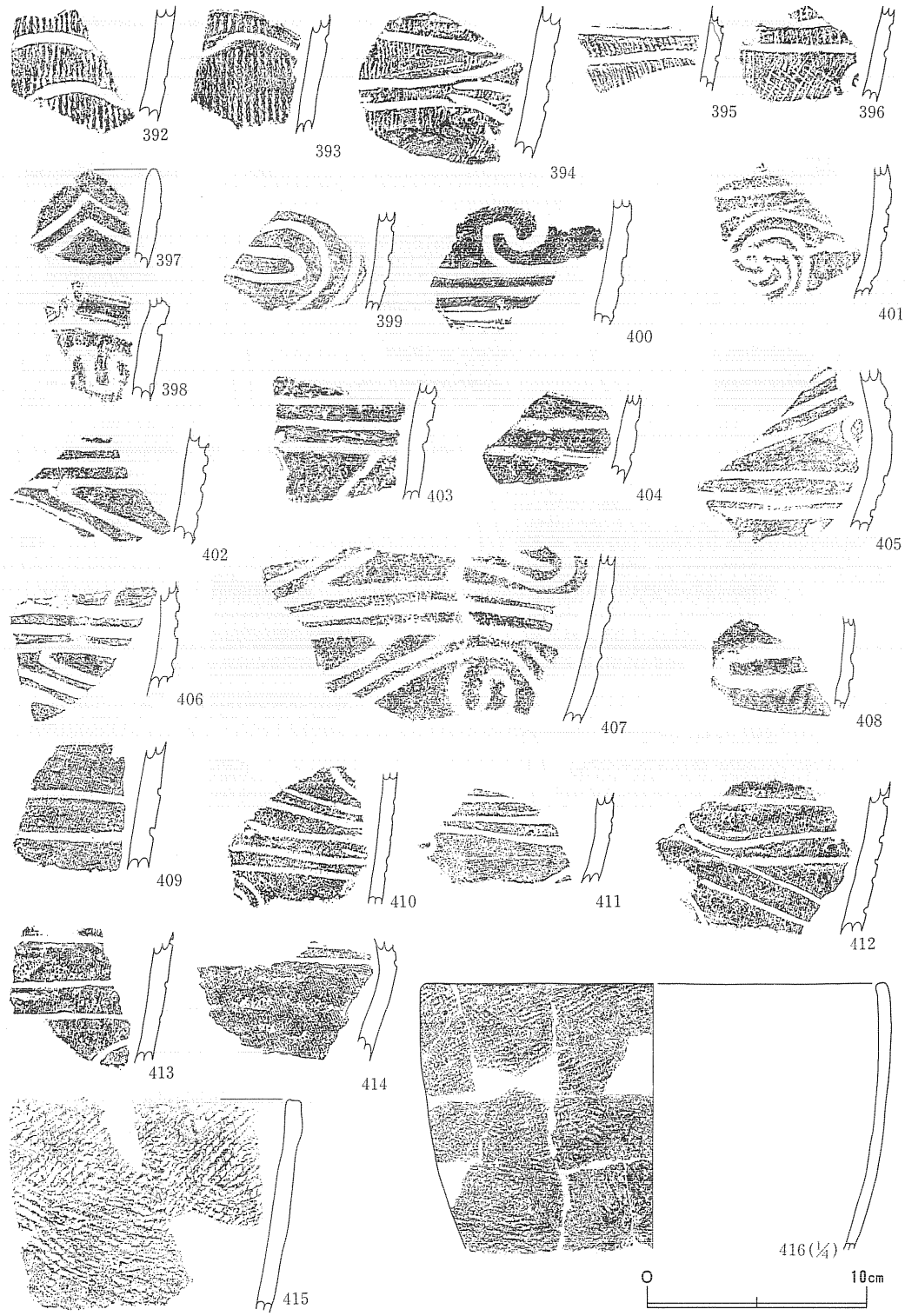
第48図　遺構外出土土器(4)



第49図　遺構外出土土器(5)

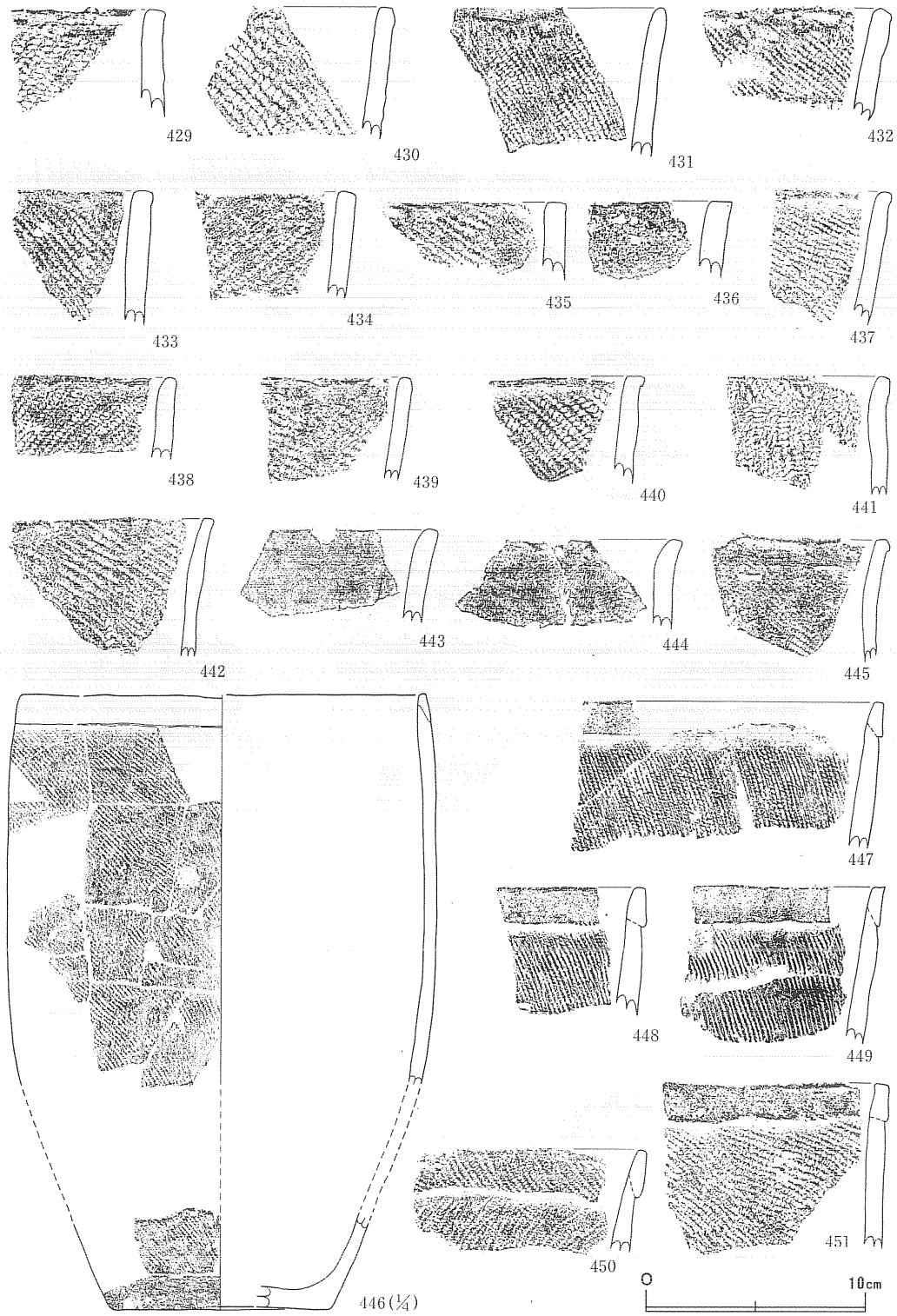


第50図　遺構外出土土器(6)

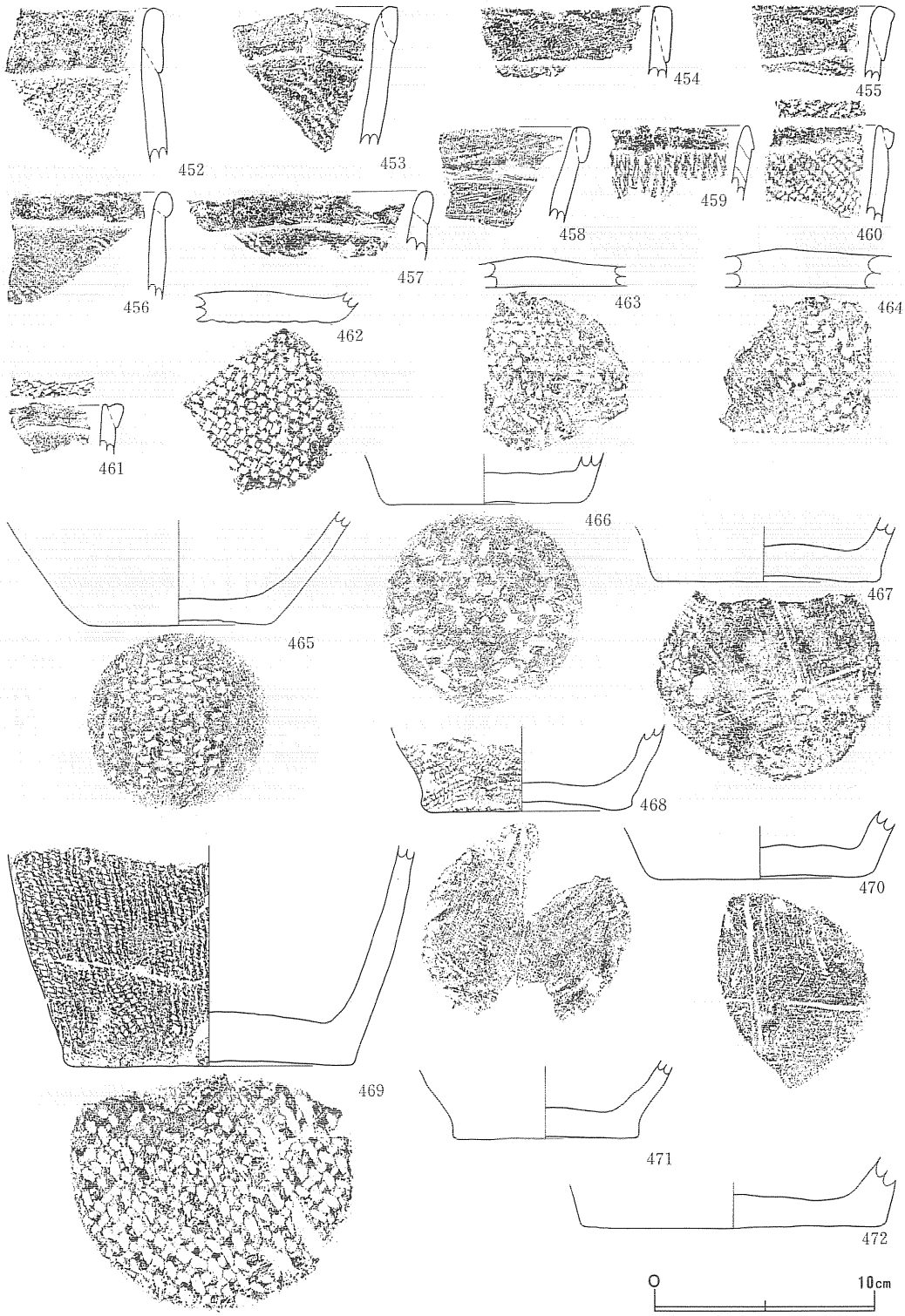


第51図　遺構外出土土器(7)

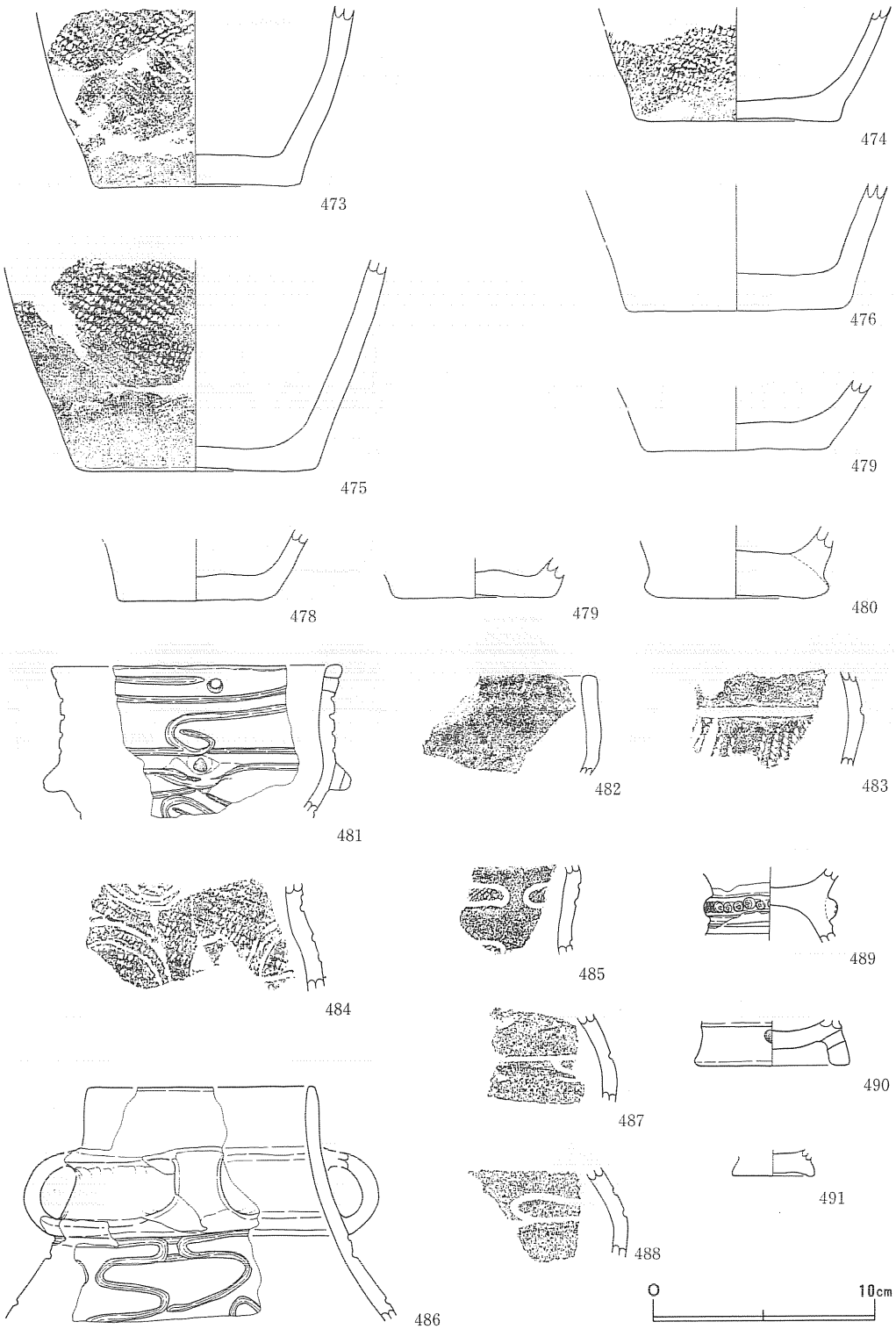
第52図　遺構外出土土器(8)



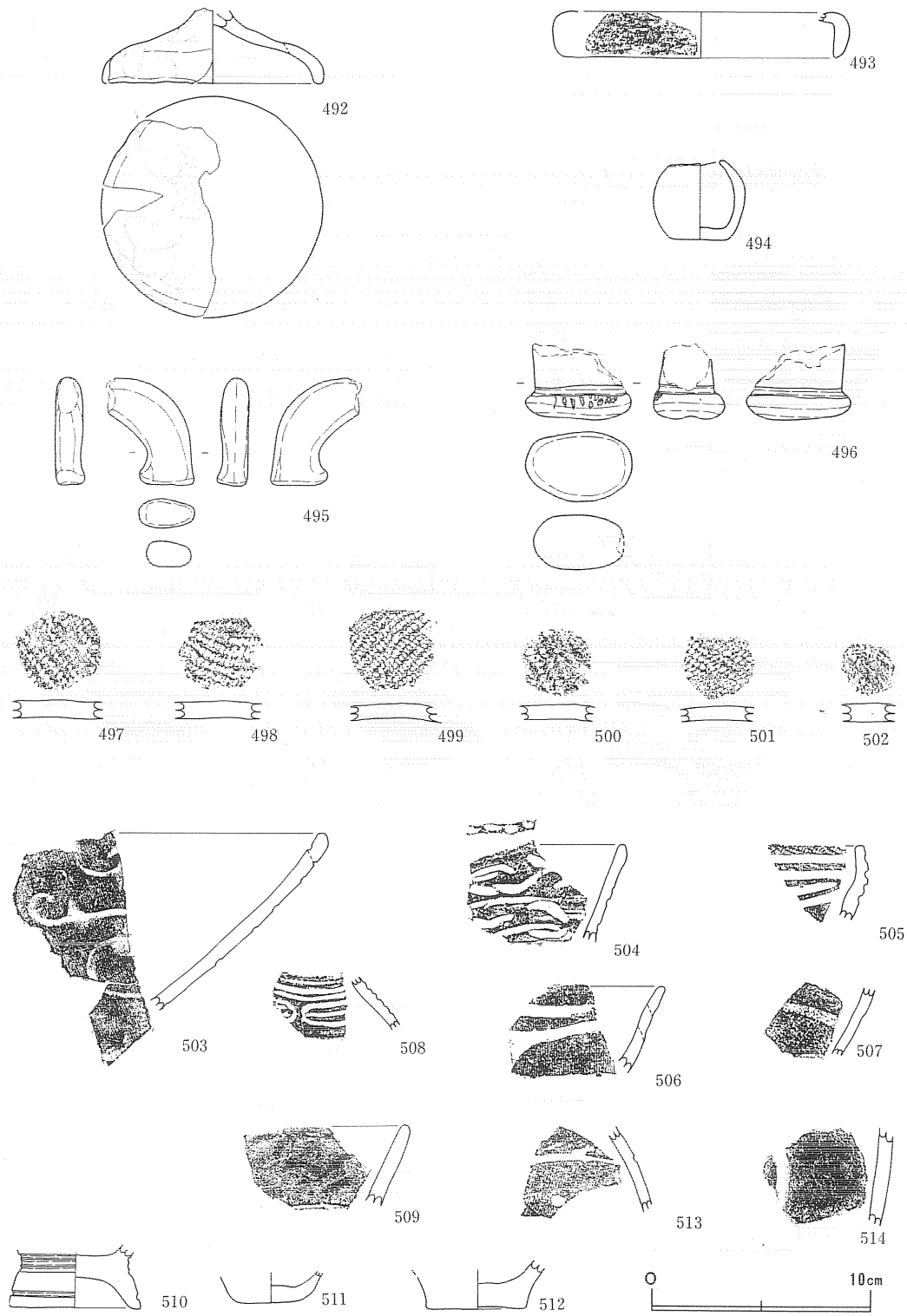
第53図　遺構外出土土器(9)



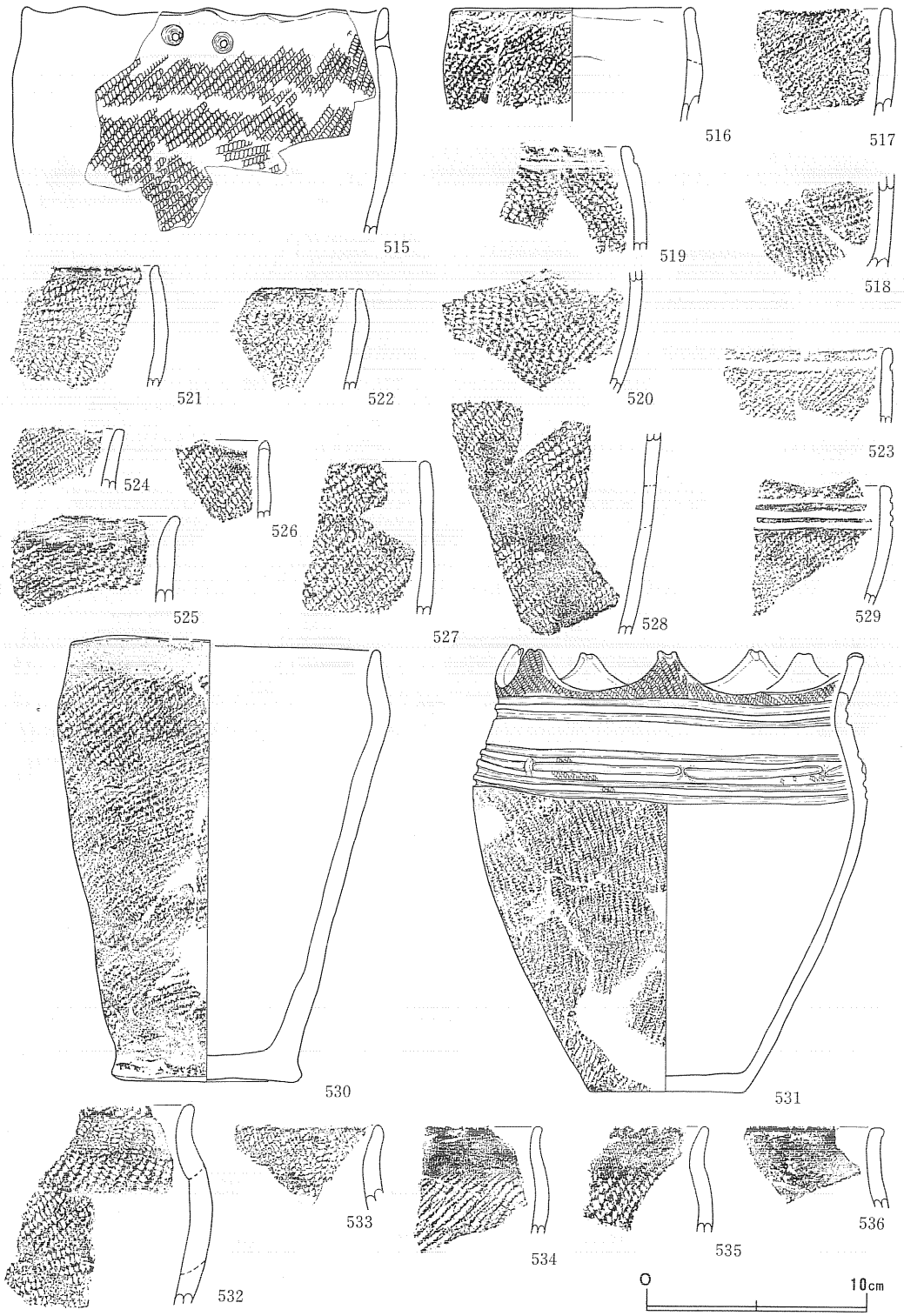
第54図　遺構外出土土器(10)



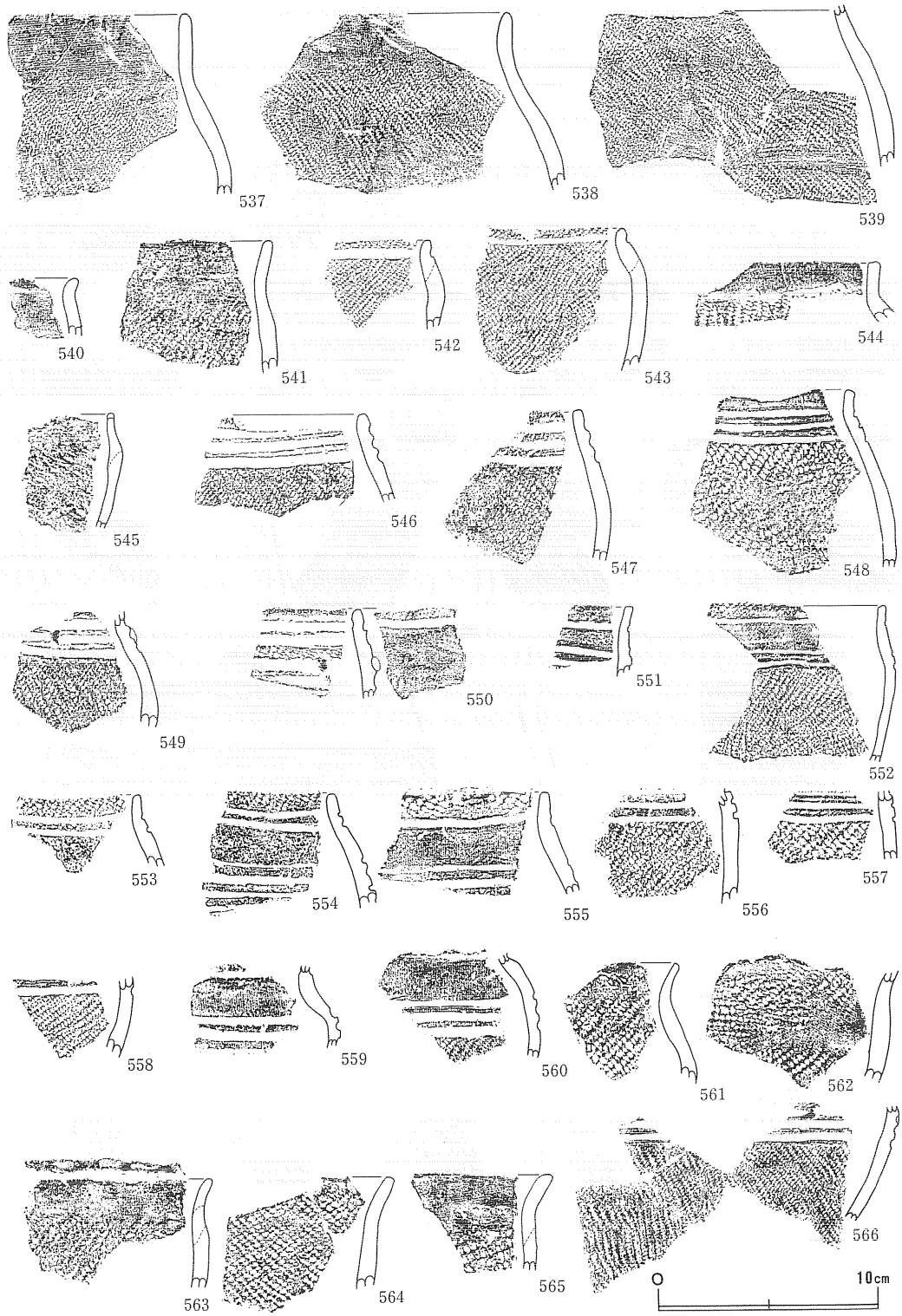
第55図　遺構外出土土器(11)



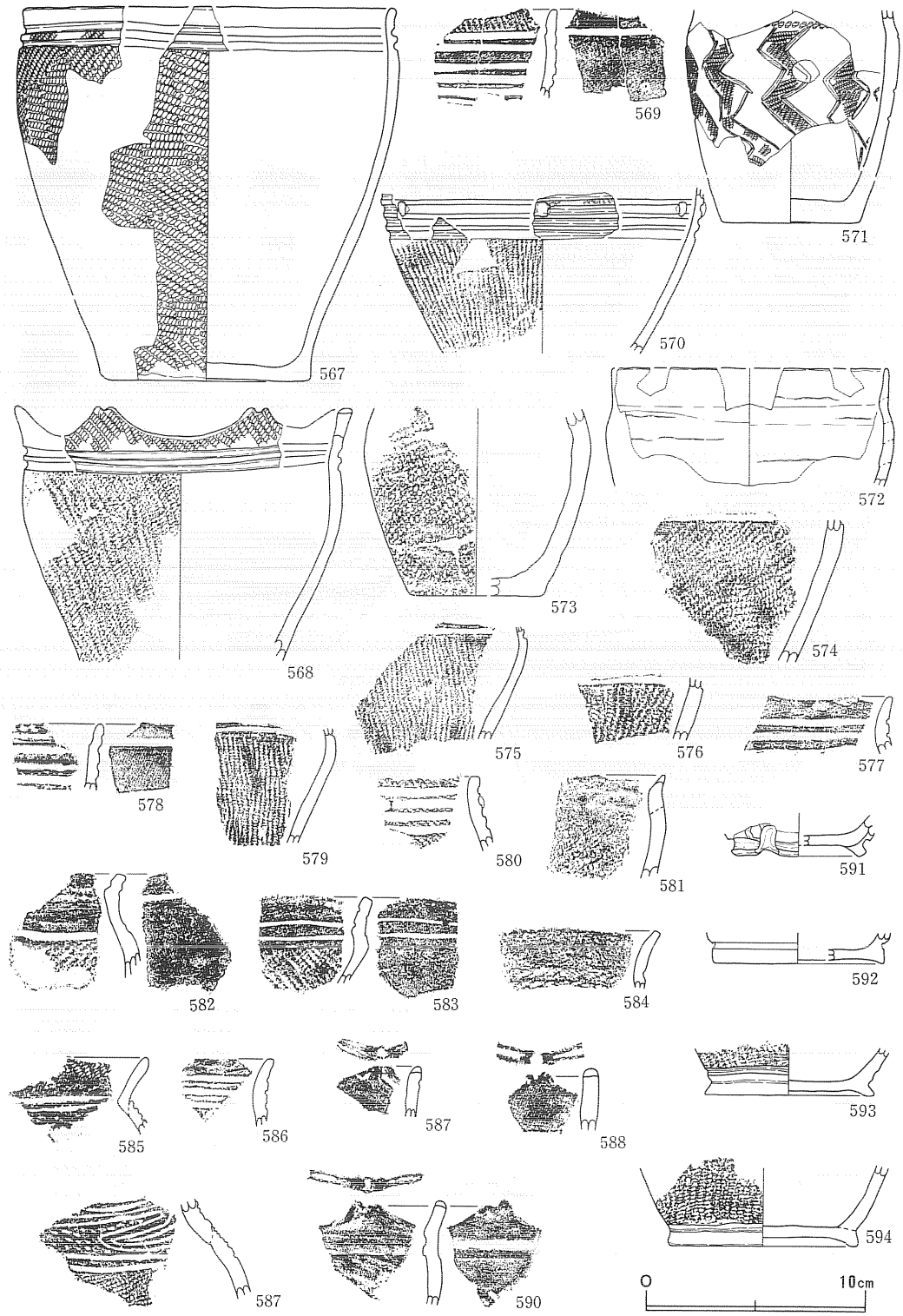
第56図　遺構外出土土器(12)



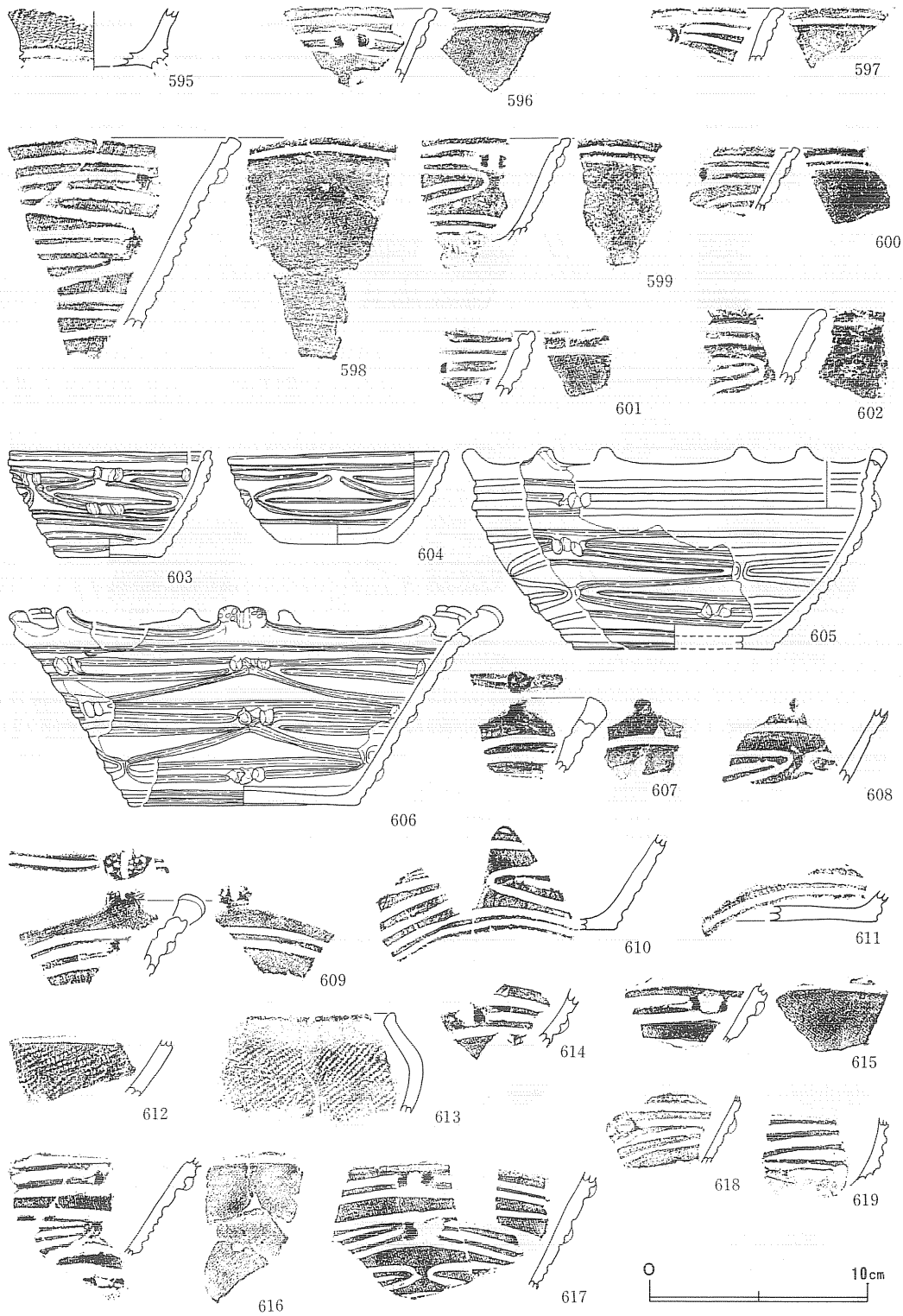
第57図　遺構外出土土器(13)



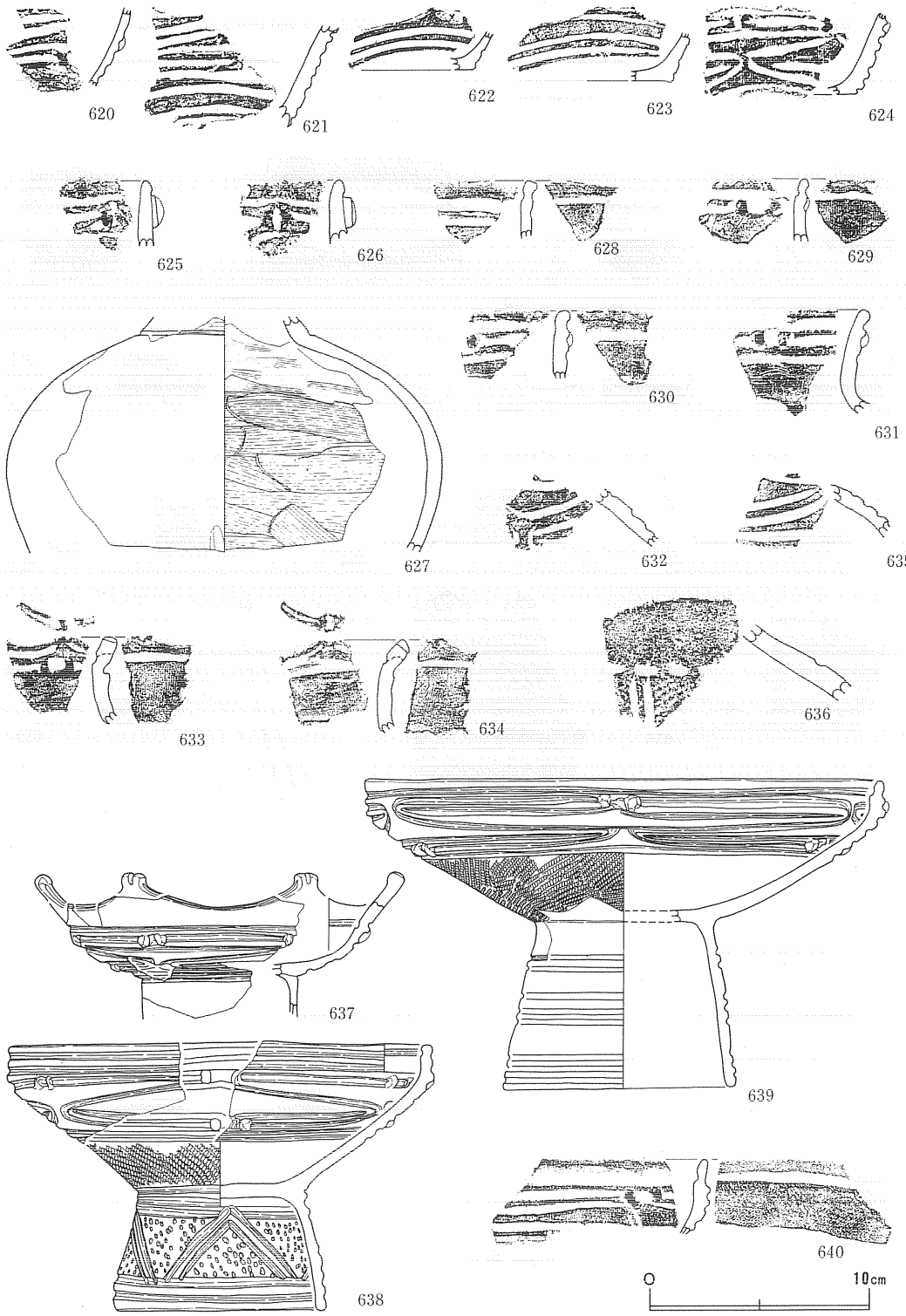
第58図　遺構外出土土器(14)



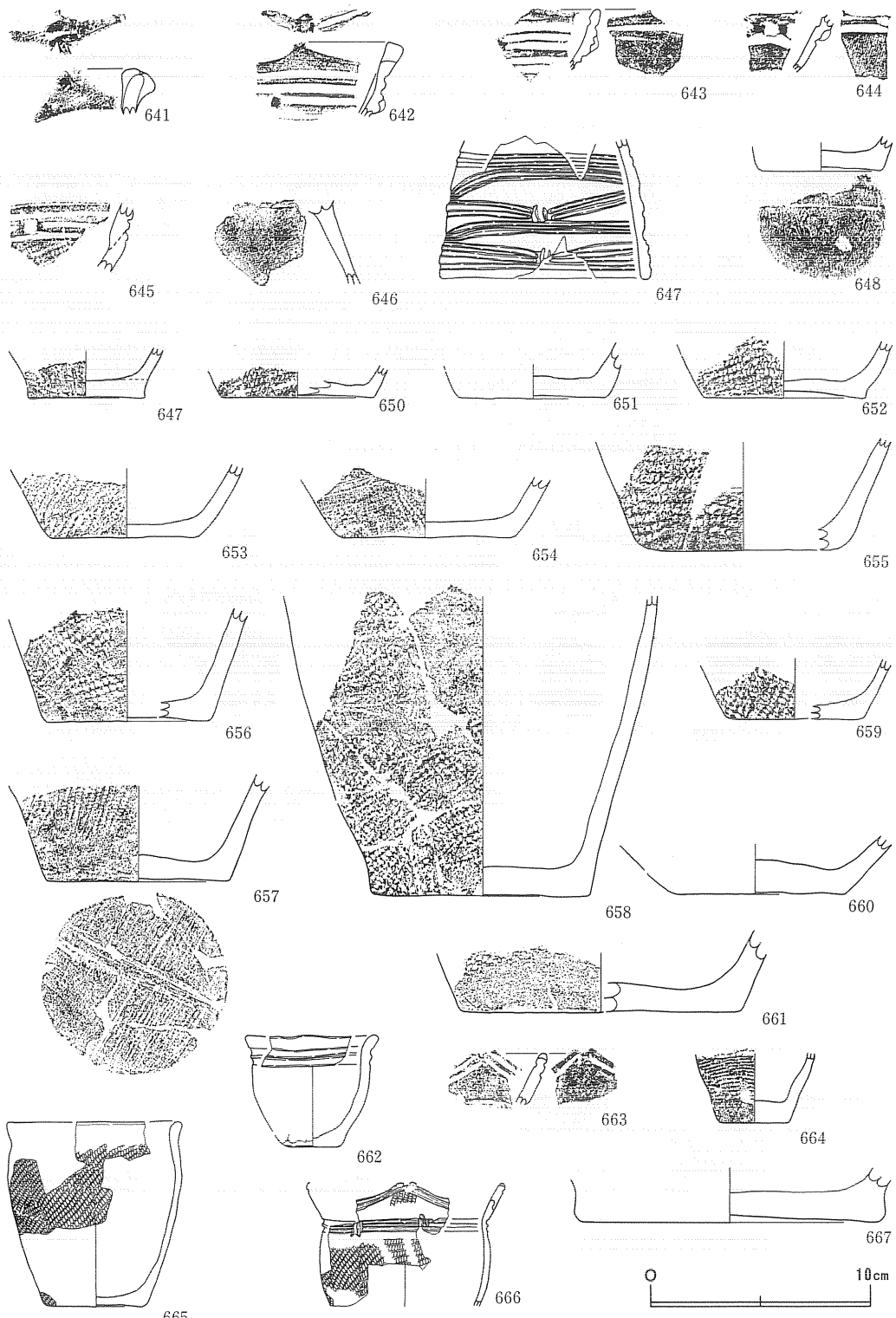
第59図　遺構外出土土器(15)



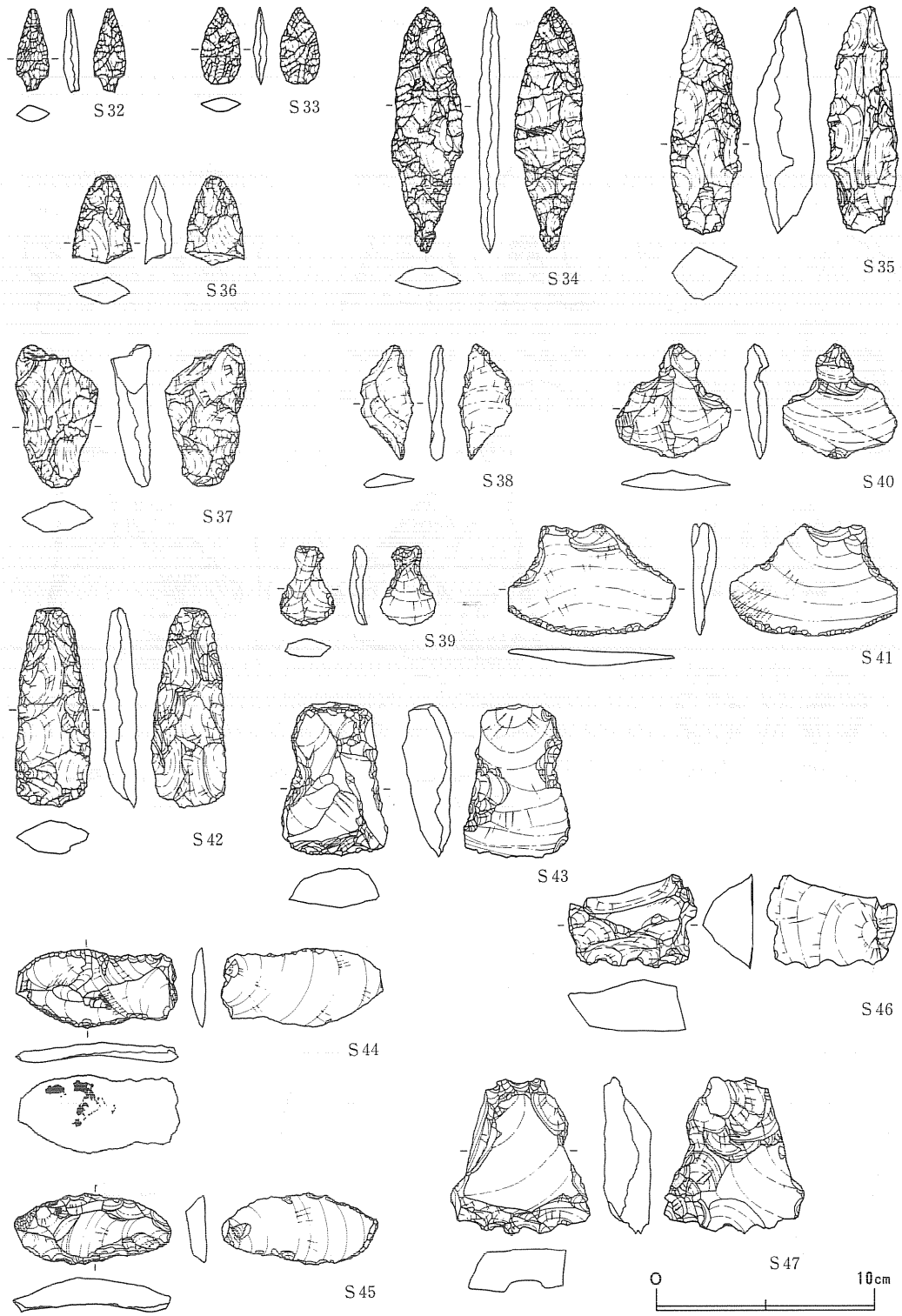
第60図　遺構外出土土器(16)



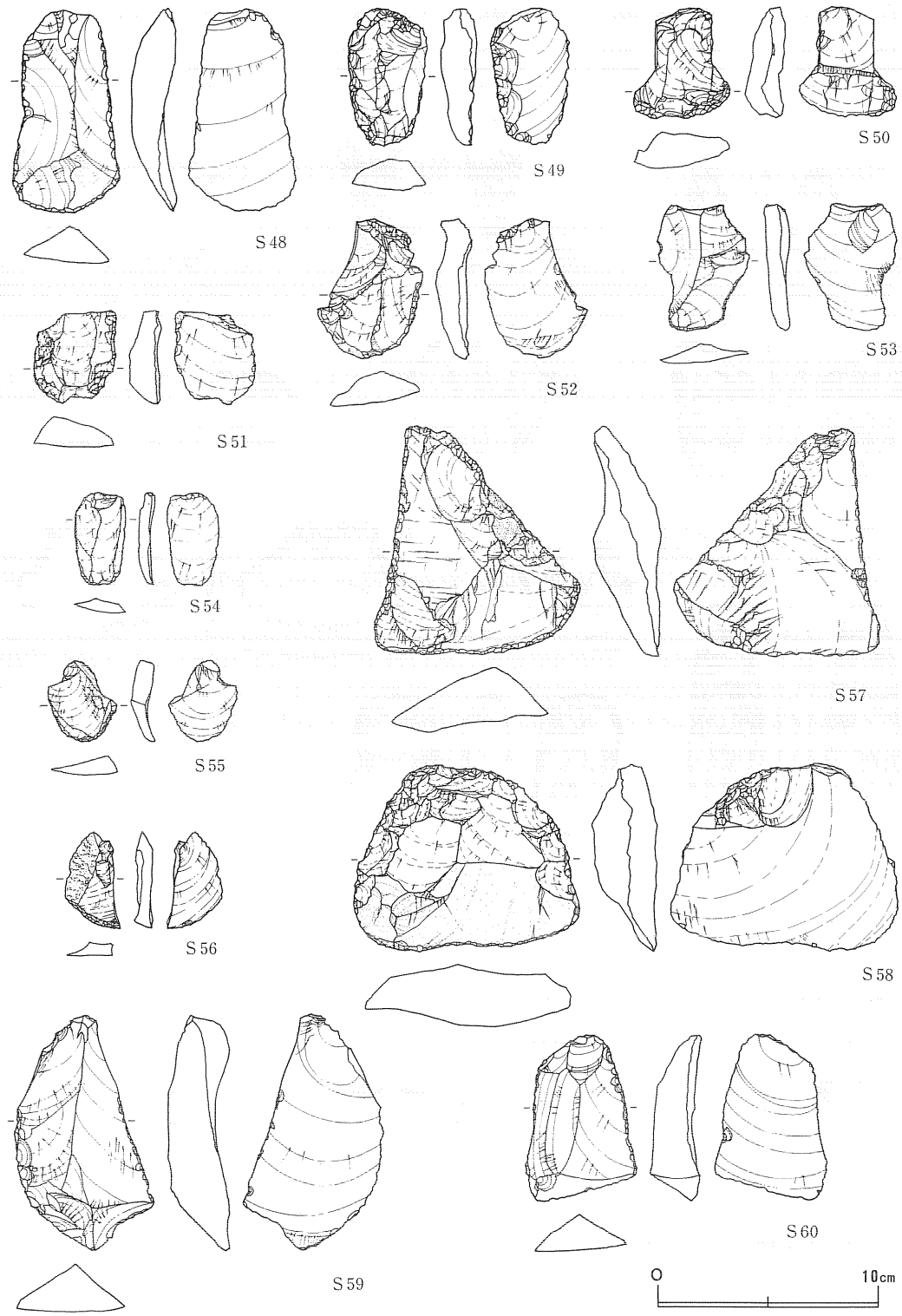
第61図　遺構外出土土器(17)



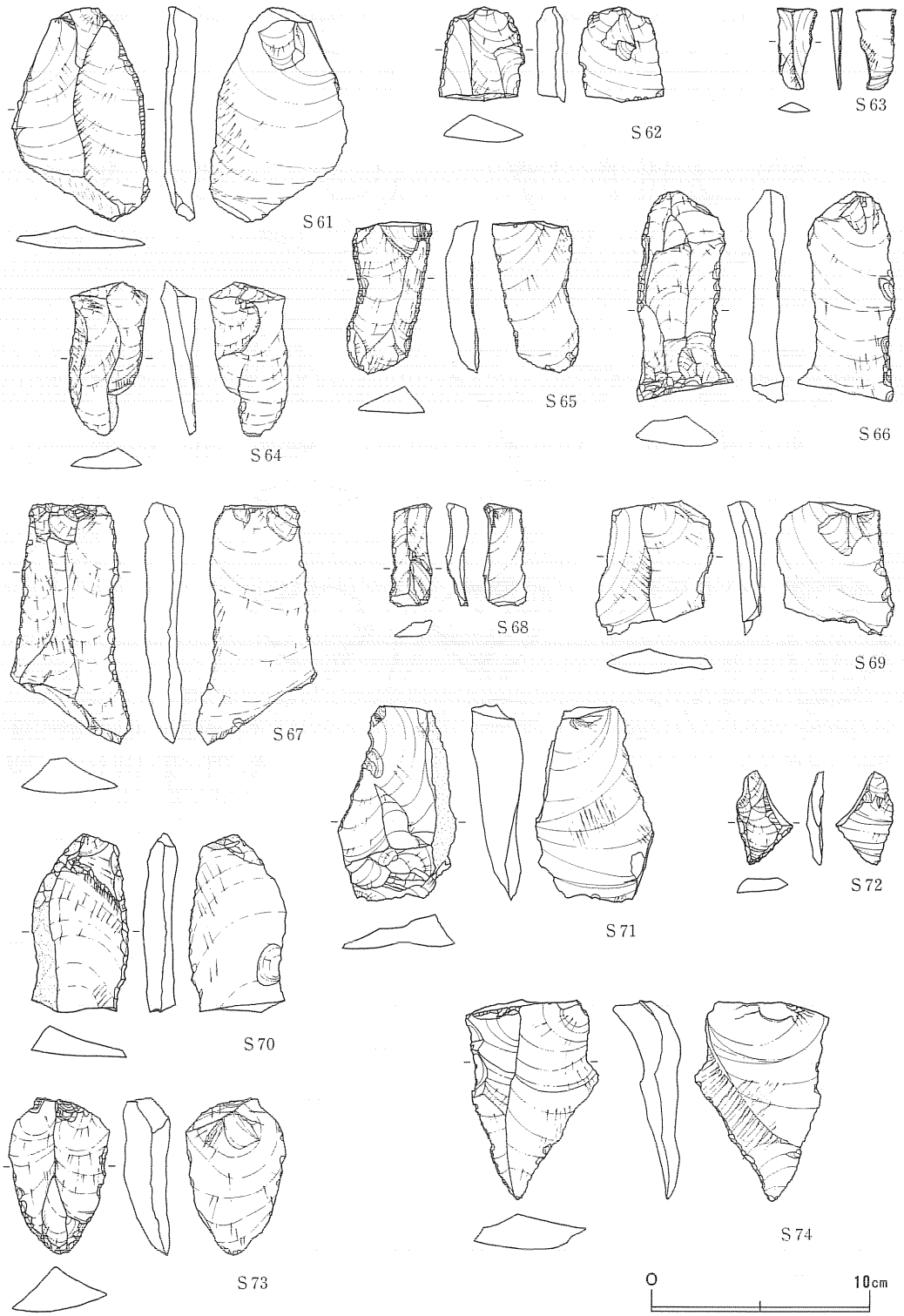
第62図　遺構外出土土器(18)



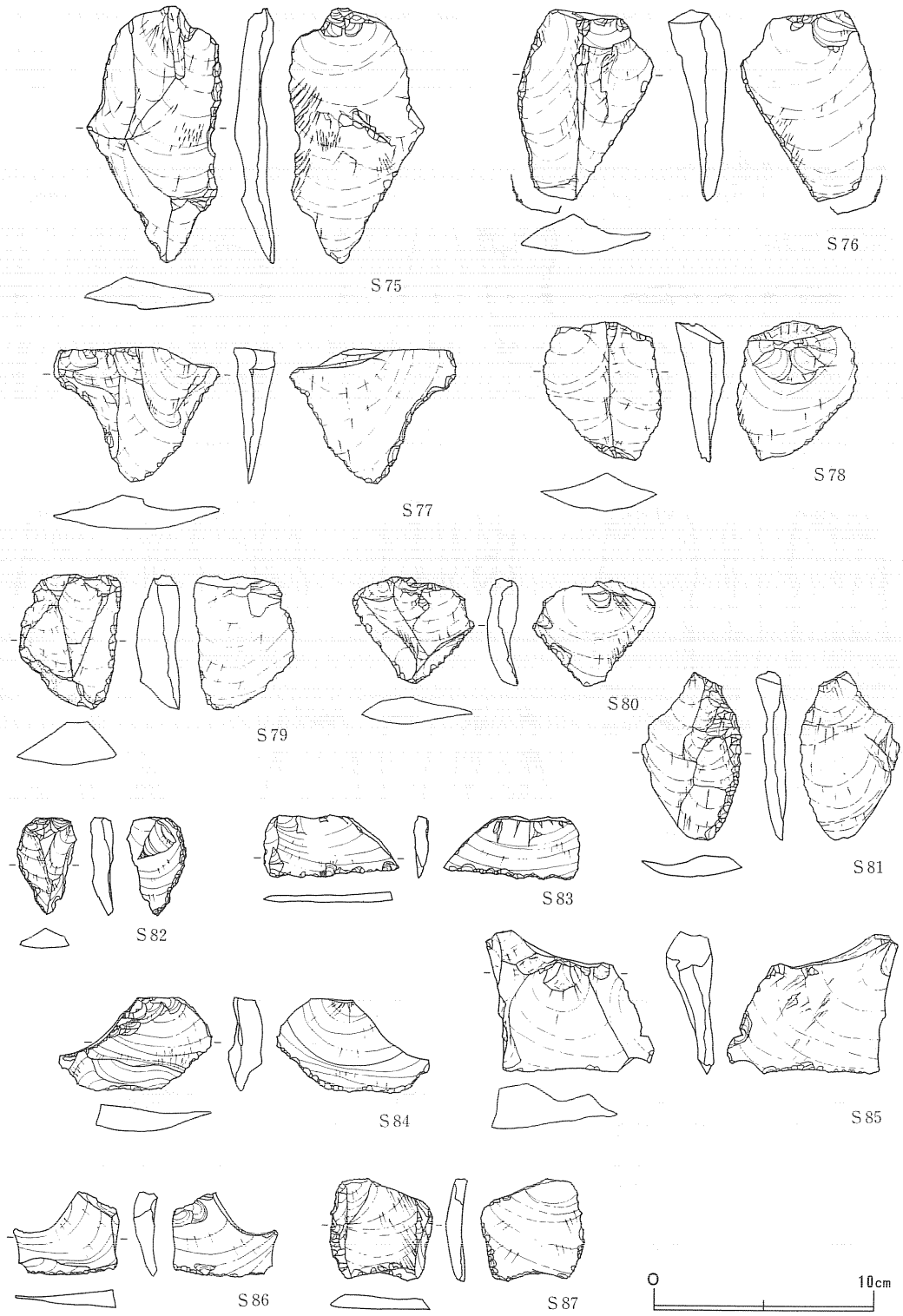
第63図　遺構外出土石器(1)



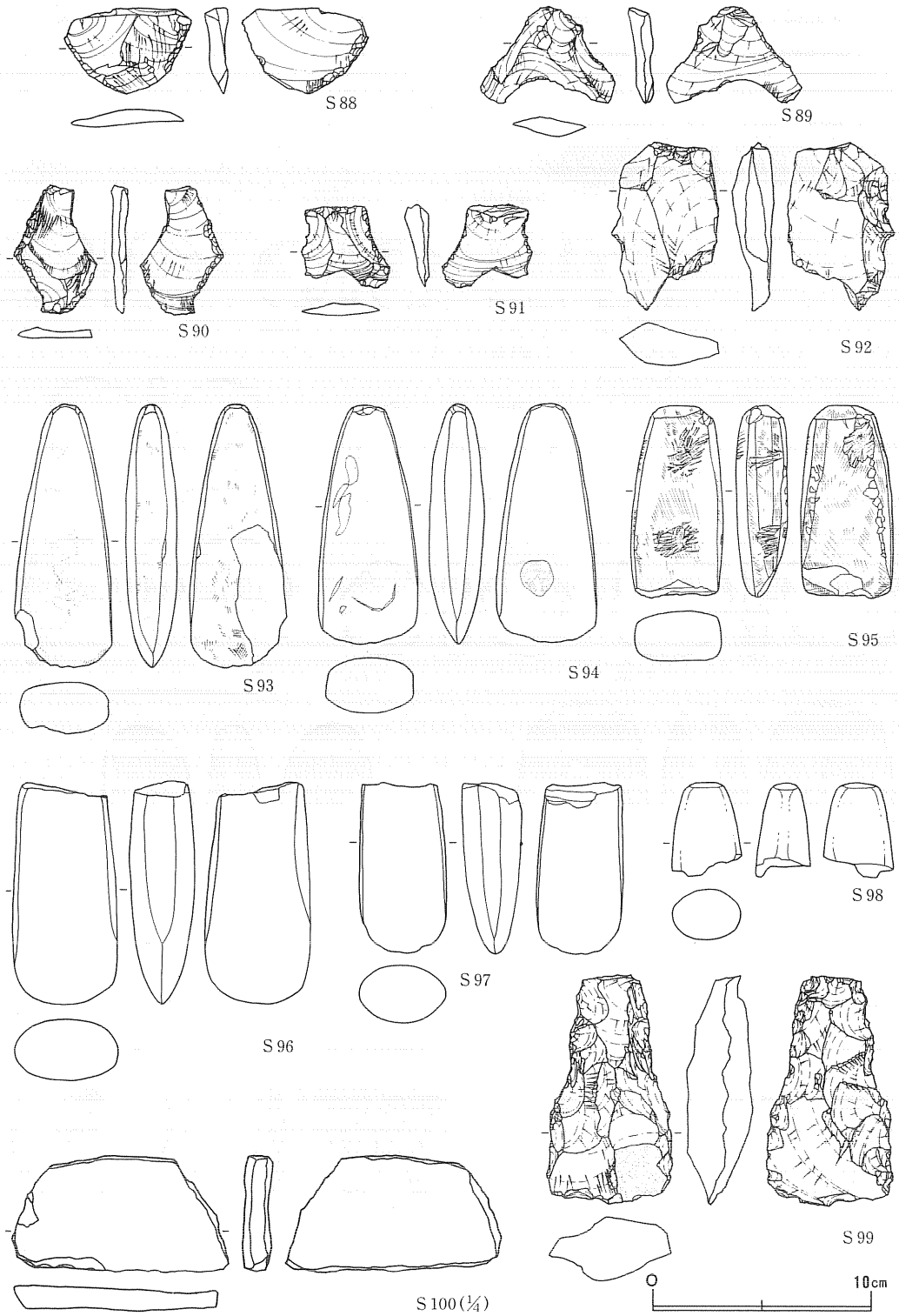
第64図　遺構外出土石器(2)



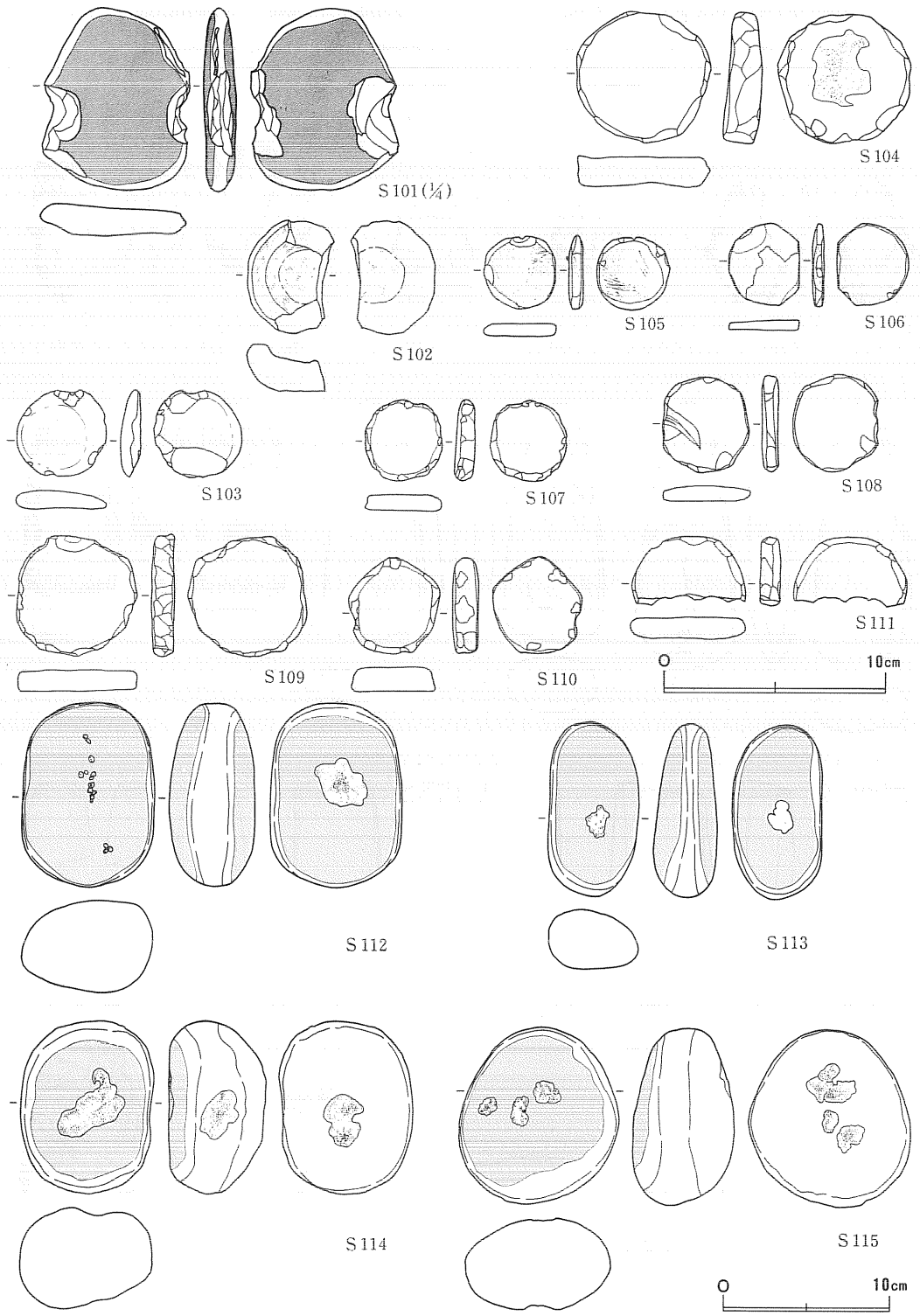
第65図　遺構外出土石器(3)



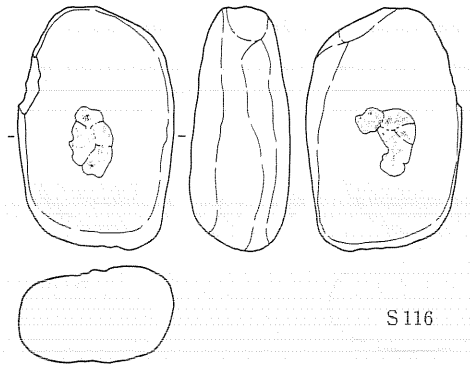
第66図　遺構外出土石器(4)

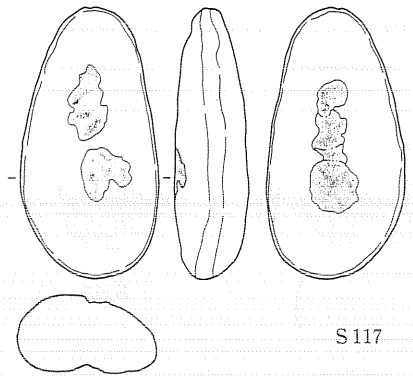


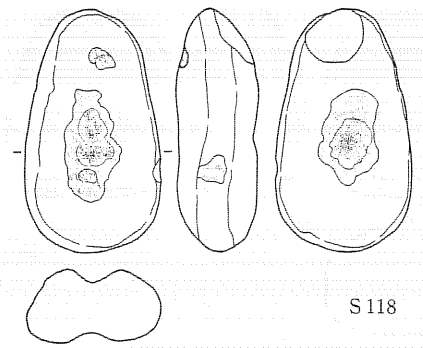
第67図　遺構外出土石器(5)

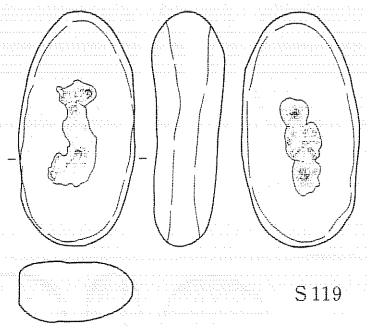


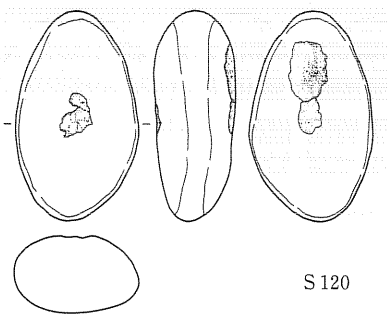
第68図　遺構外出土石器(6)

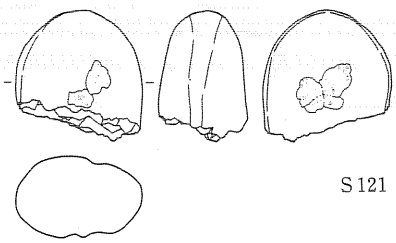


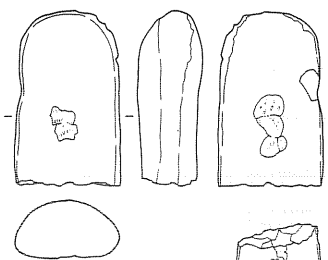


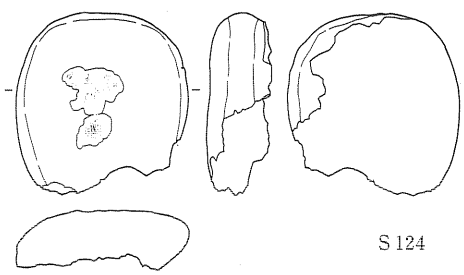


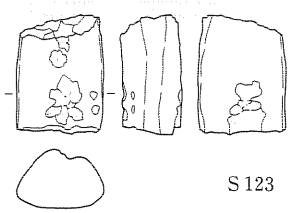


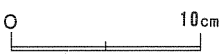




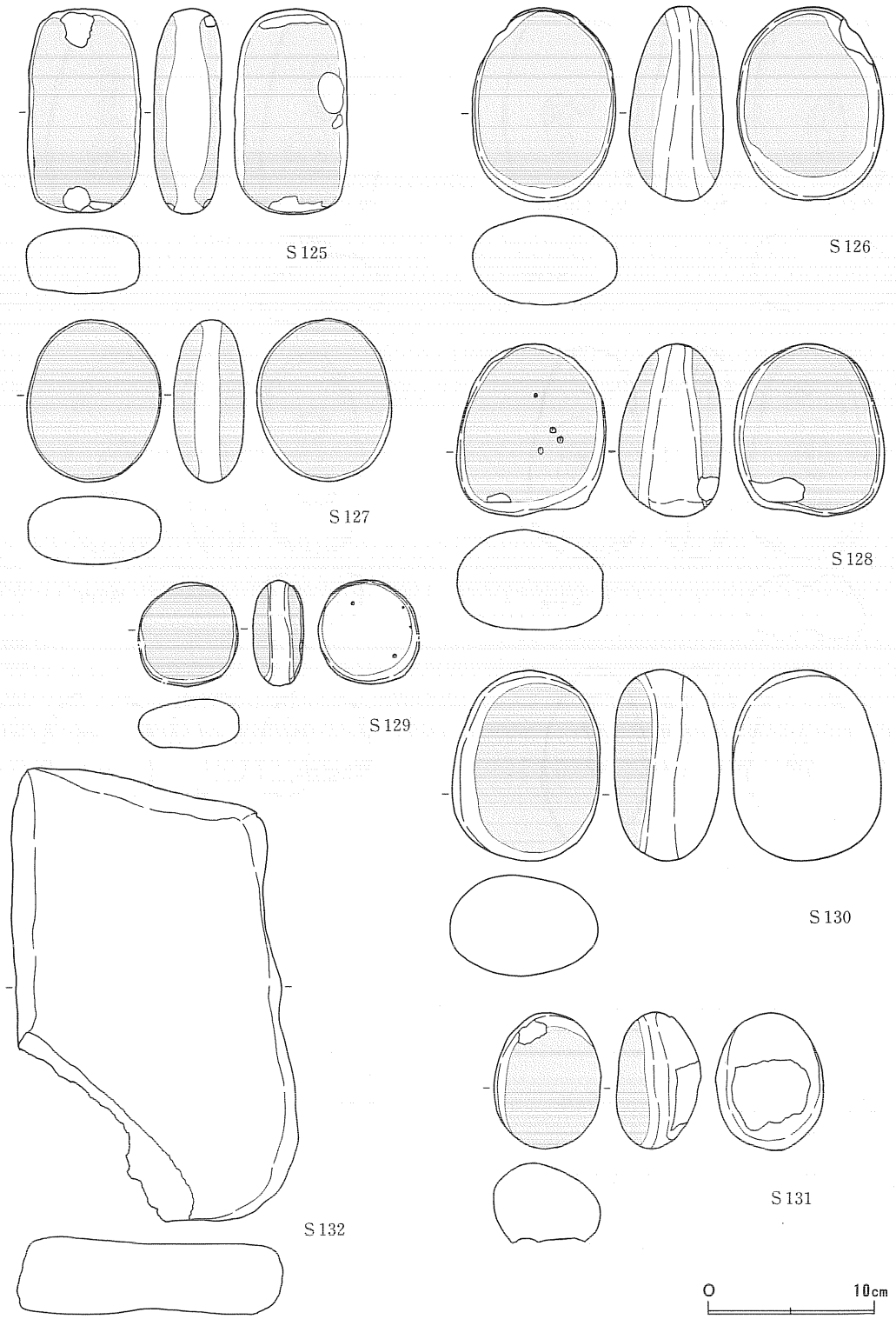








第69図　遺構外出土石器(7)



第70図　遺構外出土石器(8)

第２表　土器観察表(1)

法量（　）は推定値

挿図 図版	出土地点	層位	分類	法量(cm) 器高	最大径	底径	胎土	焼成	色調 外面 内面	文様・調整 外面 内面	備考
27－1 29－1	ＳＩ68 ピット１	埋土	ⅡＡ７				砂粒１㎜ ～２㎜	良好	10ＹＲ8/2　灰　白 10ＹＲ8/2　灰　白	縄文原体ＬＲ縦位回転施文 横位ナデ	
27－2 29－1	ＳＩ68 ピット１	埋土	ⅡＡ７				砂粒１㎜ ～３㎜	良好	7.5ＹＲ4/6　褐 10ＹＲ4/4　褐	縄文原体ＲＬ斜位回転施文 横位ナデ	
27－3 29－1	ＳＩ68 ピット１	埋土	ⅢＡ				砂粒１㎜ 多量	良好	10ＹＲ4/1　褐　灰 10ＹＲ5/2　灰黄褐	地文無文、平行沈線３条 横位ミガキ	
27－4 29－1	ＳＩ76	埋土	ⅡＡ７				砂粒１㎜	良好	10ＹＲ4/2　灰黄褐 10ＹＲ5/4　にぶい黄褐	絡条体Ｒ撚 縦位ナデ	
27－5 29－1	ＳＩ76	埋土	ⅢＡ				砂粒１㎜	良好	7.5ＹＲ6/6　橙 10ＹＲ8/4　浅黄橙	地文無文、沈線文→ミガキ 横位ナデ→ミガキ	506と同一
27－6 29－1	ＳＩ76	埋土	ⅢＡ			(8.0)	砂粒１㎜	良好	7.5ＹＲ7/6　橙 7.5ＹＲ8/4　浅黄橙	木目状圧痕 ナデ→ミガキ	５と同一
27－7 29－1	ＳＮ06	攪乱	ⅡＡ４ａ				砂粒１㎜ 多量	普通	10ＹＲ8/4　浅黄橙 10ＹＲ8/4　浅黄橙	原体ＬＲ棒巻斜位回転施文 横位ナデ	９と同一
27－8 29－1	ＳＮ06	攪乱	ⅡＡ３ａ				砂粒１㎜ 少量	良好	10ＹＲ8/3　浅黄橙 10ＹＲ8/3　浅黄橙	原体ＲＬ縦位→沈線文(太) 縦位ミガキ	
27－9 21	ＳＮ06	攪乱	ⅡＡ４ａ			10.6	砂粒１㎜ 多量	普通	10ＹＲ8/4　浅黄橙 10ＹＲ8/4　浅黄橙	原体ＬＲ棒巻斜位回転施文 横位ナデ	７と同一 網代痕
27－10 29－1	ＳＺ19	埋土	ⅡＡ４ａ				砂粒１㎜ ～２㎜	良好	10ＹＲ8/3　浅黄橙 10ＹＲ8/4　浅黄橙	縄文原体ＬＲ縦位回転施文 横位ミガキ	
27－11 21	ＳＮ22	攪乱	ⅡＡ７		胴部 23.0	9.6	砂粒１㎜ ～３㎜	普通	10ＹＲ8/4　浅黄橙 10ＹＲ8/4　浅黄橙	絡条体Ｌ撚斜位回転施文 斜位・縦位ナデ	網代痕
27－12 21	ＳＺ27	埋設	ⅡＡ６				砂粒１㎜ 多量	普通	10ＹＲ7/4　にぶい黄橙 10ＹＲ3/3　暗　褐	絡条体Ｒ撚 横位ナデ	内面炭化物付着
28－13 21	ＳＺ48	確認面	ⅡＡ５ｂ	波頂部 35.4	口縁部 26.8	11.2	砂粒１㎜ ～４㎜	良好	7.5ＹＲ5/6　明　褐 7.5ＹＲ7/4　にぶい橙	原体ＬＲ→胴上部横位ナデ 横位・縦位ミガキ	外面炭化物付着
28－14 29－1	ＳＺ48	埋土	ⅡＡ３ａ				砂粒１㎜ ～２㎜	良好	10ＹＲ4/3　にぶい黄橙 7.5ＹＲ6/6　橙	原体ＲＬ→曲線文(太) 横位ナデ	
28－15 29－1	ＳＺ53	埋土	ⅡＡ４ｄ				砂粒１㎜ 多量	良好	7.5ＹＲ4/1　褐　灰 7.5ＹＲ4/1　褐　灰	縄文原体ＲＬ縦位回転施文 横位ミガキ	山形小突起
28－16 29－2	ＳＺ53	埋土	ⅡＡ７				砂粒１㎜ ～２㎜	良好	7.5ＹＲ6/2　灰　褐 7.5ＹＲ4/1　褐　灰	原体Ｌ撚縦位回転→ナデ 縦位ミガキ	17・18・19と同一
28－17 29－2	ＳＺ53	埋土	ⅡＡ７				砂粒１㎜ ～２㎜	良好	7.5ＹＲ5/2　灰　褐 7.5ＹＲ4/2　灰　褐	絡条体Ｌ、結節縦位→ナデ 縦位ミガキ	16・18・19と同一
28－18 29－2	ＳＺ53	埋土	ⅡＡ７				砂粒１㎜ ～２㎜	良好	7.5ＹＲ6/3　にぶい褐 7.5ＹＲ5/2　灰　褐	絡条体Ｌ撚縦位回転→ナデ 縦位ミガキ	16・17・19と同一
28－19 29－2	ＳＺ53	埋土	ⅡＡ６			(8.6)	砂粒１㎜ ～２㎜	良好	7.5ＹＲ8/4　浅黄橙 7.5ＹＲ5/1　褐　灰	原体Ｌ撚縦位→ミガキ 横位ミガキ	16～18と同一
28－20 29－2	ＳＮ59	埋土	ⅡＡ２ａ				砂粒１㎜ ～２㎜	良好	５ＹＲ6/6　橙 ５ＹＲ5/6　橙	ＬＲ→沈線文(太)→磨消 横位ミガキ	山形突起
28－21 21	ＳＲ05	埋設	ⅡＡ７		胴部 23.8	9.2	砂粒１㎜ 少量	良好	10ＹＲ7/4　にぶい黄橙 10ＹＲ6/4　にぶい黄橙	縄軸絡条体Ｒ撚、軸－ＬＲ 縦位ナデ→ミガキ	胴下部横ミガキ
28－22 29－2	ＳＫＦ42	埋土	ⅡＡ４ｄ				砂粒１㎜ 多量	普通	10ＹＲ7/4　にぶい黄橙 10ＹＲ4/2　灰黄褐	縄文原体ＲＬ縦位回転施文 横位ナデ	内・外面炭化物
28－23 21	ＳＫＦ42	埋土	ⅡＡ７			(8.0)	砂粒１㎜ ～２㎜	普通	10ＹＲ6/3　にぶい黄橙 10ＹＲ5/2　灰黄褐	縄文原体ＬＲ多条→ミガキ 斜位ミガキ	内面炭化物付着
29－24 30－1	ＳＫＦ42	埋土	ＩＡｂ				砂粒１㎜ 若干	良好	10ＹＲ7/6　明黄褐 10ＹＲ7/6　明黄褐	縄文原体ＬＲＬ 横位ナデ	繊維土器
29－25 30－1	ＳＫＦ42	埋土	ＩＡｂ				砂粒１㎜ 若干	良好	10ＹＲ7/4　にぶい黄橙 10ＹＲ7/3　にぶい黄橙	縄文原体ＲＬＲ 横位ナデ	繊維土器
29－26 30－1	ＳＫＦ42	埋土	ＩＡｂ				砂粒１㎜ 少量	良好	10ＹＲ7/4　にぶい黄橙 10ＹＲ6/3　にぶい黄橙	縄文を施文(斜位回転)しているが摩滅著しい	繊維土器
29－27 30－1	ＳＫＦ42	埋土	ⅡＡ１ｂ				砂粒１㎜ 若干	良好	10ＹＲ8/3　浅黄褐 10ＹＲ8/3　浅黄褐	地文無文、沈線文(太) 横位ミガキ	山形小突起
29－28 30－1	ＳＫＦ42	埋土	ⅡＡ３ａ				砂粒１㎜ 多量	良好	10ＹＲ5/4　にぶい黄褐 10ＹＲ8/2　灰　白	原体ＬＲ→曲線文(太) 横位ナデ	
29－29 30－1	ＳＫＦ42	埋土	ⅡＡ３ａ				砂粒１㎜ ～２㎜	良好	10ＹＲ6/3　にぶい黄橙 10ＹＲ7/3　にぶい黄橙	原体ＬＲ→沈線区画文(太) 縦位ナデ	
29－30 30－1	ＳＫＦ42	埋土	ⅡＡ３ａ				砂粒１㎜ ～２㎜	良好	10ＹＲ5/3　にぶい黄褐 10ＹＲ7/3　にぶい黄橙	絡条体Ｒ撚→曲線文(太) 縦位ミガキ	
29－31 30－1	ＳＫＦ42	埋土	ⅡＡ７				砂粒１㎜ 少量	良好	10ＹＲ7/3　にぶい黄橙 10ＹＲ5/2　灰黄褐	絡条体Ｒ撚 縦位ナデ	32と同一
29－32 30－1	ＳＫＦ42	埋土	ⅡＡ７				砂粒１㎜ 少量	良好	10ＹＲ6/3　にぶい黄橙 10ＹＲ5/2　灰黄褐	絡条体Ｒ撚 縦位ナデ	内・外面炭化物
29－33 30－1	ＳＫＦ42	埋土	ⅡＡ７				砂粒１㎜ ～４㎜	良好	10ＹＲ8/3　浅黄橙 10ＹＲ8/2　灰　白	縄文原体ＬＲ縦位回転施文 縦位ナデ	
29－34 30－1	ＳＫＦ44	埋土	ⅡＡ７				砂粒１㎜ ～２㎜	良好	10ＹＲ5/2　灰黄褐 10ＹＲ6/4　にぶい黄橙	地文無文、沈線区画文(太) 横位ナデ	外面炭化物付着
29－35 30－1	ＳＫＦ44	埋土	ⅡＡ３ａ				砂粒１㎜ ～２㎜	良好	５ＹＲ8/2　灰　白 2.5ＹＲ7/3　浅　黄	縄文→曲線文(太)→磨消 横位ミガキ	原体は不明
29－36 30－1	ＳＫＦ44	埋土	ⅡＡ３ａ				砂粒１㎜ 多量	良好	10ＹＲ8/3　灰　白 2.5ＹＲ7/3　浅　黄	絡条体Ｌ撚→曲線文(太) 縦位ミガキ	
29－37 30－1	ＳＫＦ44	埋土	ⅡＡ３ａ				砂粒１㎜ ～３㎜	良好	7.5ＹＲ7/4　にぶい橙 10ＹＲ7/3　にぶい黄橙	原体ＬＲ→曲線文(太) 縦位ミガキ	外面炭化物付着
29－38 30－1	ＳＫＦ44	埋土	ⅡＡ３ａ				砂粒１㎜ 少量	良好	10ＹＲ8/3　浅黄橙 10ＹＲ7/3　にぶい黄橙	絡条体Ｒ撚→沈線文(太) 縦位ミガキ	

第３表　土器観察表(2)

法量（　）は推定値

挿図 図版	出土地点	層位	分類	法量(cm) 器高	最大径	底径	胎土	焼成	色調 外面 内面	文様・調整 外面 内面	備考
29－39 30－1	ＳＫＦ44	埋土	ⅡＡ７				砂粒１mm ～２mm	良好	7.5YR5/6 橙 7.5YR5/6 橙	内面、外面とも丁寧なミガキ (横位で単位は５mm幅)	
29－40 30－1	ＳＫＦ44	埋土	ⅡＡ６			(6.7)	砂粒１mm 少量	良好	7.5YR7/6 橙 2.5YR5/2 暗灰黄	内面、外面とも丁寧なミガキ (外－横位、内－縦位)	
29－41 21	ＳＫ04	確認面	ⅡＡ４ｄ		口縁 21.2		砂粒１mm ～２mm	良好	7.5YR7/6 橙 7.5YR6/6 橙	縄文原体ＲＬ縦位回転施文 縦位ミガキ→横位ミガキ	外面炭化物付着
29－42 30－1	ＳＫ04	埋土	ⅡＡ７				砂粒１mm ～３mm	良好	10YR7/3 にぶい黄橙 7.5YR6/6 橙	縄文原体ＬＲ縦位回転施文 斜位・縦位ミガキ	外面炭化物付着
29－43 30－2	ＳＫ04	埋土	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm 若干	良好	2.5YR8/3 淡黄 2.5YR8/4 淡黄	絡条体Ｒ撚→区画文(太) 横位ミガキ	外面炭化物付着
29－44 30－2	ＳＫ04	埋土	ⅡＡ３ａ				砂粒１mm ～２mm	良好	2.5Y8/3 淡黄 10YR7/3 にぶい黄橙	原体ＬＲ→沈線区画文(太) 縦位ミガキ	
29－45 30－2	ＳＫ04	埋土	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm 若干	良好	10YR8/2 灰白 10YR7/2 にぶい黄橙	絡条体Ｒ撚→曲線文(太) 縦位ミガキ	43と同一
29－46 30－2	ＳＫ04	埋土	ⅡＡ７				砂粒１mm ～３mm	良好	7.5YR8/4 浅黄橙 7.5YR6/4 にぶい橙	縄文原体ＬＲ縦位回転施文 斜位ミガキ	42と同一
29－47 30－2	ＳＫ04	埋土	ⅡＡ４ｄ				砂粒１mm ～２mm	良好	7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR4/4 にぶい橙	縄文原体ＲＬ縦位回転施文 縦位ミガキ	41と同一
29－48 30－2	ＳＫ04	埋土	ⅡＡ７				砂粒１mm ～２mm	良好	10YR7/3 にぶい黄橙 7.5YR8/3 浅黄橙	絡条体Ｒ撚斜位回転施文 横位ミガキ	外面炭化物付着
29－49 30－2	ＳＫ04	埋土	ⅡＡ７				砂粒１mm ～２mm	良好	10YR5/2 灰黄褐 10YR8/4 浅黄橙	絡条体Ｒ撚斜位回転施文 縦位ミガキ	48と同一
30－50 30－2	ＳＫ12	埋土	ⅡＡ３ａ				砂粒１mm ～３mm	良好	2.5Y8/3 淡黄 2.5Y8/3 浅黄	原体ＲＬ→曲線文(太) 横位ミガキ	
30－51 30－2	ＳＫ12	埋土	ⅡＦ	厚 0.7	2.7		砂粒１mm 多量	良好	10YR8/2 灰白 10YR8/2 灰白	縄文原体ＬＲ ミガキ	円盤状土製品
30－52 30－2	ＳＫ13	埋土	ⅡＡ４ｂ				砂粒１mm ～２mm	良好	10YR8/2 灰白 2.5Y8/3 淡黄	縄文原体ＬＲ→横位ナデ 横位ナデ	
30－53 30－2	ＳＫ13	埋土	ⅡＡ７				砂粒１mm ～２mm	良好	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR7/3 にぶい黄橙	地文無文、曲線文(やや太) 横位ミガキ	外面炭化物付着
30－54 30－2	ＳＫ13 ＳＫ14	埋土	ⅡＡ７				砂粒１mm 多量	良好	10YR6/2 灰黄褐 10YR6/2 灰黄褐	内面、外面とも丁寧なミガキ(縦位ミガキ)	
30－55 31－1	ＳＫ20	埋土	ⅡＡ４ｂ				砂粒１mm ～２mm	良好	10YR8/4 にぶい黄橙 10YR5/6 黄橙	縄文原体ＬＲ縦位回転施文 横位ミガキ	56～58と同一
30－56 31－1	ＳＫ20	埋土	ⅡＡ４ｂ				砂粒１mm ～２mm	良好	10YR6/3 にぶい黄橙 10YR6/4 にぶい黄橙	縄文原体ＬＲ縦位回転施文 縦位ミガキ	内面炭化物付着
30－57 31－1	ＳＫ20	埋土	ⅡＡ４ｂ				砂粒１mm ～２mm	良好	10YR5/3 にぶい黄褐 10YR5/3 にぶい黄褐	縄文原体ＬＲ縦位・斜位・ 縦位ミガキ	外面炭化物付着
30－58 31－1	ＳＫ20	埋土	ⅡＡ４ｂ				砂粒１mm ～３mm	良好	10YR5/6 黄橙 10YR5/4 にぶい黄橙	縄文原体ＬＲ縦位回転施文 横位ミガキ	外面炭化物付着
30－59 31－1	ＳＫ21	埋土	ⅡＡ５ａ				砂粒１mm 少量	良好	2.5Y8/3 淡黄 2.5Y8/3 淡黄	縄文原体ＲＬ縦位回転施文 横位ミガキ	折り返し口縁
30－60 31－1	ＳＫ23	埋土	ⅢＡ		胴部 (19.8)		砂粒１mm 多量	普通	10YR7/6 明黄褐 10YR4/4 褐灰	原体ＬＲ、平行沈線２条 横位ナデ	内・外面炭化物
30－61 21	ＳＫ23	フク土	ⅢＢｂ	10.7	胴部 10.6	4.0	砂粒１mm ～４mm	良好	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR6/2 灰黄褐	無文、内面、外面とも丁寧なミガキ	床面やや摩滅
30－62 31－1	ＳＫ23	埋土	ⅢＡ				砂粒１mm ～３mm	良好	10YR8/2 灰白 10YR7/3 にぶい黄橙	ＬＲ→区画→磨消→三叉文 横位ナデ	口唇部刻目
30－63 31－2	ＳＫ23	埋土	ⅢＡ				砂粒１mm ～２mm	普通	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR7/4 にぶい黄橙	縄文原体ＬＲ縦位回転施文 横位ナデ	内・外面炭化物
30－64 31－2	ＳＫ23	埋土	ⅡＡ４ａ				砂粒１mm ～３mm	良好	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR7/3 にぶい黄橙	縄文原体ＬＲ縦位→ナデ 横位ミガキ	
30－65 31－2	ＳＫ23	埋土	ⅢＡ				砂粒１mm ～２mm	普通	7.5YR6/6 橙 7.5YR7/6 橙	縄文原体ＬＲ縦位回転施文 摩滅著しい	63・66と同一
30－66 31－2	ＳＫ23	埋土	ⅢＡ				砂粒１mm ～２mm	普通	7.5YR6/4 橙 10YR7/4 にぶい黄橙	縄文原体ＬＲ縦位回転施文 横位ナデ	内・外面炭化物
30－67 31－2	ＳＫ23	埋土	ⅢＡ				砂粒１mm 多量	良好	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR7/3 にぶい黄橙	縄文原体ＬＲ→ゆるいナデ 横位ナデ	外面炭化物付着
30－68 31－2	ＳＫ23	埋土	ⅡＡ７				砂粒１mm ～２mm	良好	2.5Y8/3 淡黄 10YR8/3 淡黄橙	縄文原体ＬＲ縦位回転施文 縦位ナデ	外面炭化物付着
30－69 31－2	ＳＫ23	埋土	ⅢＡ				砂粒１mm 多量	普通	10YR8/4 浅黄橙 10YR8/4 浅黄橙	縄文原体ＬＲ縦位回転施文 縦位・横位ナデ	外面炭化物付着
30－70 31－2	ＳＫ23	埋土	ⅢＡ			5.2	砂粒１mm 多量	普通	7.5YR7/6 橙 7.5YR7/6 橙	縄文原体ＬＲ斜位回転施文 丁寧なミガキ	内・外面炭化物
31－71 32－1	ＳＫ23	埋土	ⅡＡ１ｂ				砂粒１mm ～２mm	良好	10YR7/4 にぶい黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	地文無文、曲線文(太) 横位ミガキ	波状口縁
31－72 32－1	ＳＫ23	埋土	ⅡＡ１ｃ				砂粒１mm 少量	良好	7.5YR7/6 橙 7.5YR6/6 橙	ＬＲ(縦位)→区画文→渦文 横位ミガキ	
31－73 32－1	ＳＫ23	埋土	ⅡＡ３ａ				砂粒１mm 少量	良好	10YR8/3 浅黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	ＬＲ(縦位)→区画文(太) 縦位ミガキ	外面炭化物付着
31－74 32－1	ＳＫ23	埋土	ⅡＡ１ｂ				砂粒１mm ～２mm	良好	10YR8/3 浅黄橙 10YR8/3 浅黄橙	地文無文、区画文、竹管文 斜位ナデ	外面炭化物付着
31－75 32－1	ＳＫ23	埋土	ⅣＢ６				砂粒１mm ～２mm	良好	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR6/2 灰黄褐	ＬＲ→沈線１条、横ナデ 横位ミガキ	

第４表　土器観察表(3)

法量（　）は推定値

挿図 図版	出土地点	層位	分類	法量(cm) 器高	最大径	底径	胎土	焼成	色調 外面 内面	文様・調整 外面 内面	備考
31－76 21	ＳＫ23	埋土	ⅡＡ６			6.6	砂粒１mm ～２mm	普通	2.5Y8/3 淡黄 2.5Y8/3 淡黄	内面、外面ナデ・ミガキ 摩滅若干(内・外面)	外面炭化物付着
31－77 21	ＳＫ24	埋土	ⅡＡ６			6.5	砂粒１mm ～２mm	普通	2.5YR7/6 橙 7.5YR7/6 橙	縄文原体ＲＬ斜位回転施文 横位・縦位ミガキ	底面炭化物付着
31－78 32－１	ＳＫ25	埋土	ⅡＡ３ａ				砂粒１mm ～２mm	良好	7.5YR7/6 橙 7.5YR7/6 橙	原体ＬＲ→曲線文(太) 縦位ミガキ	外面炭化物付着
31－79 21	ＳＫ25	埋土	ⅡＡ４ａ		胴上部 (28.0)		砂粒１mm 多量	良好	10YR8/4 浅黄橙 10YR8/3 浅黄橙	原体ＬＲ、指頭圧痕（口唇下）　横位、縦位ナデ	外面炭化物付着
31－80 21	ＳＫ29	埋土	ⅢＢａ	22.5	胴部 19.2	7.6	砂粒１mm ～２mm	良好	7.5YR7/6 橙 7.5YR7/6 橙	頸部下沈線１条胴部ＬＲ 横位ナデ、頸部横位ミガキ	外面炭化物付着
31－81 32－１	ＳＫ30	埋土	ⅡＡ１ｂ				砂粒１mm ～３mm	普通	10YR8/3 浅黄橙 10YR5/2 灰黄褐橙	原体側面圧痕(Ｌ撚)２条 横位ミガキ	山形小突起
31－82 32－１	ＳＫ30	埋土	ⅡＢ				砂粒１mm ～２mm	良好	10YR7/4 にぶい黄橙 10YR5/2 灰黄褐	内・外面横位ミガキ、口唇部平坦面形成	
31－83 32－１	ＳＫ30	埋土	ⅡＡ３ａ				砂粒１mm 多量	良好	2.5Y4/1 黄橙 2.5Y8/3 淡黄	原体ＬＲ→曲線文(太) 横位ミガキ	84と同一
31－84 32－１	ＳＫ30	埋土	ⅡＡ３ａ				砂粒１mm 多量	良好	10YR3/1 黒褐 10YR6/3 浅黄橙	原体ＬＲ→沈線文(太) 横位ミガキ	83と同一
31－85 32－１	ＳＫ30	埋土	ⅡＡ７				砂粒１mm 多量	良好	2.5Y8/3 淡黄 10YR8/3 浅黄橙	縄文原体Ｌ撚縦位回転施文 縦位ミガキ	
31－86 32－１	ＳＫ30	埋土	ⅡＡ７				砂粒１mm 少量	良好	2.5Y8/3 淡黄 2.5Y8/3 淡黄	絡条体Ｒ撚斜位回転施文 縦位ミガキ	
32－87 32－２	ＳＫ36	埋土	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm 若干	良好	10YR5/2 灰淡褐 2.5Y8/3 淡黄	絡条体Ｒ撚→沈線１条(太) 横位ミガキ	
32－88 32－２	ＳＫ36	埋土	ⅡＡ７				砂粒１mm 多量	普通	2.5Y8/3 淡黄 2.5Y8/3 淡黄	縄文原体ＬＲ縦位回転施文 横位ナデ	
32－89 32－２	ＳＫ36	埋土	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm ～２mm	良好	7.5YR7/6 橙 7.5YR7/6 橙	縄文原体ＬＲ縦位回転施文 横位ミガキ	外面炭化物付着
32－90 32－２	ＳＫ37	埋土	ⅡＡ４ｂ				砂粒１mm ～４mm	良好	10YR6/4 にぶい黄橙 10YR5/2 灰黄褐	絡条体Ｒ撚縦位回転施文 横位ナデ→縦位ミガキ	外面炭化物付着
32－91 32－２	ＳＫ36	埋土	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm 少量	良好	10YR7/4 にぶい黄橙 10YR8/4 浅黄橙	地文ＬＲ→曲線文→区画文 横位ミガキ	92と同一
32－92 21	ＳＫ36	埋土	ⅡＡ１ａ		口縁部 (15.6)		砂粒１mm 少量	良好	10YR8/2 灰白 10YR8/3 浅黄橙	地文ＬＲ→曲線文→区画文 横位ミガキ	外面炭化物付着
32－93 32－２	ＳＫ36	埋土	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm 少量	良好	10YR5/2 灰黄褐 7.5YR7/3 にぶい橙	地文ＬＲ→曲線文(太) 横位ミガキ	92と同一
32－94 32－２	ＳＫ38	埋土	ⅡＡ３ａ				砂粒１mm ～３mm	良好	2.5Y8/4 淡黄 10YR8/2 灰白	地文ＬＲ→沈線文(太) 横位ナデ	外面炭化物付着
32－95 32－２	ＳＫ38	埋土	ⅡＡ４ｂ				砂粒１mm ～２mm	良好	10YR8/3 浅黄橙 10YR8/3 浅黄橙	縄文原体ＲＬ縦位回転施文 縦位ナデ	96～98と同一
32－96 32－２	ＳＫ38	埋土	ⅡＡ４ｂ				砂粒１mm ～２mm	良好	7.5YR7/4 橙 7.5YR7/4 橙	縄文原体ＲＬ縦位回転施文 横位ミガキ	95・97・98と同一
32－97 32－２	ＳＫ38	埋土	ⅡＡ４ｂ				砂粒１mm ～２mm	良好	7.5YR7/4 橙 7.5YR7/4 橙	縄文原体ＲＬ縦位回転施文 横位ミガキ	95・96・98と同一
32－98 32－２	ＳＫ38	埋土	ⅡＡ４ｂ				砂粒１mm ～２mm	良好	7.5YR7/4 橙 7.5YR7/4 橙	縄文原体ＲＬ縦位回転施文 横位ミガキ	95～97と同一
32－99 21	ＳＫ38	埋土	ⅡＡ１ａ	15.9	胴上部 12.4	6.8	砂粒１mm 少量	良好	10YR8/4 浅黄橙 10YR8/3 浅褐橙	ＬＲ→区画→曲線文→ナデ 横位ミガキ	内・外面炭化物
32-100 22	ＳＫ38	埋土	ⅡＡ６			12.4	砂粒１mm ～２mm	良好	7.5YR8/4 浅黄橙 10YR8/2 灰白	縄文原体ＬＲ縦位回転施文 縦位ナデ	内面炭化物付着
32-101 22	ＳＫ38	埋土	ⅡＡ６			12.0	砂粒１mm ～３mm	良好	10YR8/4 浅黄橙 7.5YR7/6 橙	縄文原体Ｌ撚縦位回転施文 横位・斜位ミガキ	内・外面炭化物
32-102 32－２	ＳＫ38	埋土	ⅡＡ３ａ				砂粒１mm 少量	良好	10YR8/4 浅黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	地文Ｒ撚→沈線文(太) 斜位ミガキ	外面炭化物付着
32-103 32－２	ＳＫ38	埋土	ⅡＡ３ａ				砂粒１mm 少量	良好	7.5YR8/6 浅黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	曲線文(太)、摩滅著しい 斜位ミガキ	102と同一
32-104 32－２	ＳＫ38	埋土	ⅡＦ	厚 0.6	3.2		砂粒１mm ～３mm	良好	2.5Y8/4 淡黄 10YR7/2 にぶい黄橙	縄文原体ＬＲ ミガキ	円盤状土製品
32-105 32－２	ＳＫ40	埋土	ⅡＡ７				砂粒１mm ～５mm	良好	10YR7/3 にぶい黄橙 10YR7/3 にぶい黄橙	縄文原体ＬＲＬ 横ナデ	繊維土器
32-106 33－１	ＳＫ69	確認面	ⅡＡ２ａ				砂粒１mm 多量	良好	10YR8/4 浅黄橙 10YR8/6 黄橙	地文ＲＬ→沈線文(太) 縦位ナデ→斜位ミガキ	108と同一
32-107 33－１	ＳＫ69	確認面	ⅡＡ７				砂粒１mm ～２mm	良好	2.5Y8/4 浅黄 10YR8/3 浅黄橙	縄文原体Ｌ撚斜位回転施文 縦位ミガキ	
33-108 22	ＳＫ69	確認面	ⅡＡ２ａ		胴上部 (33.2)		砂粒１mm 多量	良好	7.5YR7/4 にぶい黄橙 10YR7/4 にぶい黄橙	地文ＲＬ→曲線文(太) 横位ミガキ	外面炭化物付着
33-109 33－１	ＳＫ69	確認面	ⅡＡ７				砂粒１mm ～２mm	普通	10YR8/3 浅黄橙 10YR8/3 浅黄橙	絡条体Ｒ撚縦位回転施文 縦位ミガキ	外面炭化物付着
33-110 33－１	ＳＫ69	確認面	ⅡＡ２ａ				砂粒１mm 多量	良好	7.5YR8/4 浅黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙	地文ＲＬ→沈線文(太) 縦位ミガキ	108と同一
33-111 22	ＳＫ58	攪乱	ⅡＡ７		胴上部 (29.0)		砂粒１mm ～３mm	良好	7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR8/3 浅黄橙	絡条体Ｒ撚縦位・斜位施文 横・縦位ナデ、横位ミガキ	
33-112 33－２	ＳＫ70	埋土	ⅡＡ３ａ				砂粒１mm ～４mm	良好	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/6 橙	ＲＬ(斜位)→沈線文(太) 横位ナデ、ミガキ	113と同一

第5表　土器観察表(4)

法量（　）は推定値

挿図 図版	出土地点	層位	分類	法量(cm) 器高	最大径	底径	胎土	焼成	色調 外面 内面	文様・調整 外面 内面	備考
33-113 33－2	SK70	埋土	ⅡA3a				砂粒1mm ～3mm	良好	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/6 橙	RL(斜位)→沈線文(太) 横位ナデ	112と 同一
33-114 33－2	SK70	埋土	ⅡA3a				砂粒1mm ～3mm	良好	10YR8/2 灰白 10YR7/2 にぶい黄橙	縄文原体LR縦位回転施文 縦位ナデ	内・外面 炭化物
33-115 33－2	SK79	埋土	ⅡA7				砂粒1mm ～4mm	良好	7.5YR7/6 橙 7.5YR7/6 橙	縄文原体LR縦位回転施文 横位ナデ	
33-116 33－2	SK79	埋土	ⅡA3a				砂粒1mm 少量	良好	10YR8/4 浅黄橙 10YR8/3 浅黄橙	地文L撚→沈線文(太) 横位ミガキ	
33-117 33－2	SK79	埋土	ⅡA6			(7.2)	砂粒1mm ～4mm	普通	5YR8/4 淡橙 7.5YR7/3 にぶい橙	地文無文、摩滅著しい ミガキ	
34-118 22	SI28	床直	ⅣE2	波頂部 19.7	口縁部 20.5	台部 9.0	砂粒1mm 若干	良好	5YR7/6 橙 10YR8/2 灰白	RL(縦位)、変形工字文→ 刻目　横位ナデ	内・外面 炭化物
34-119 22	SI28	床直	ⅣF7		胴部 (26.0)		砂粒1mm ～3mm	良好	10YR7/4 にぶい黄橙 10YR5/2 灰黄褐	縄文原体LR斜位回転施文 3mm～5mmの横位ミガキ	
34-120 22	SI28	埋土	ⅣI			5.0	砂粒1mm ～3mm	良好	10YR8/2 灰白 10YR7/3 にぶい黄橙	縄文原体LR縦位回転施文 横位ナデ	内・外面 炭化物
34-121 34－1	SI28	床直	ⅡF	厚 0.6	3.2		砂粒1mm ～2mm	良好	10YR8/3 浅黄橙 10YR7/1 灰白	ミガキ ナデ	円盤状土 製品
34-122 22	SI33	床直	ⅣH6		胴部 4.8		砂粒1mm 若干	良好	10YR8/3 浅黄橙 2.5Y7/3 浅黄	地文無文、工字文 指頭圧痕、ナデ	外面赤色 顔料
34-123 34－1	SI33	埋土	ⅣB6				砂粒1mm 少量	良好	10YR8/3 浅黄橙 10YR8/3 浅黄橙	沈線1条、ミガキ 横位ナデ	
34-124 34－1	SI33	床直	ⅣC11				砂粒1mm 若干	良好	10YR8/4 浅黄橙 10YR8/4 浅黄橙	LR(斜走)、工字文 横位ナデ	
34-125 22	SI33	床直	ⅣB5		胴部 (16.4)		砂粒1mm ～2mm	良好	7.5YR6/3 にぶい橙 10YR3/2 灰黄褐	RL→平行沈線→撚糸→ナデ　横位・斜位ミガキ	
34-126 22	SI33	埋土	ⅣH7	(9.6)	胴上部 (9.2)	4.3	砂粒2mm 多量	良好	10YR8/6 黄橙 7.5YR6/6 橙	地文無文、沈線1条→ナデ 横位ナデ	外面赤色 顔料
34-127 22	SI33	埋設	ⅣF8		胴部 21.8	3.8	砂粒 金雲母	良好	5YR6/6 橙 5YR6/6 橙	地文縄文原体RL→ミガキ 横位・斜位ナデ	黒塗→赤 色痕有
34-128 34－1	SI33	埋土	ⅣC11				砂粒1mm 多量	良好	7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR7/4 にぶい橙	地文無文、平行沈線3条 横位ナデ	
34-129 34－1	SI33	床直	ⅣI			5.4	砂量1mm 若干	良好	10YR8/4 浅黄橙 10YR6/2 灰黄褐	縄文原体RL縦位回転施文 底面丁寧なミガキ	外面赤色 顔料
34-130 34－1	SI33	埋土	ⅣI				砂量1mm 若干	良好	7.5YR7/6 橙 10YR7/6 明黄褐	縄文原体RL縦位回転施文 横位ナデ	129と 同一
34-131 22	SI33	埋土	ⅣI			7.4	砂量1mm ～3mm	良好	7.5YR7/6 橙 7.5YR6/6 橙	縄文原体RL(縦走) 横位ミガキ	内・外面 炭化物
34-132 22	SI33	埋土	ⅣG5			脚部 (6.4)	砂粒1mm ～2mm	良好	7.5YR7/6 橙 7.5YR7/6 橙	3条1単位の平行沈線2段 横位ナデ→横位ミガキ	外面赤色 顔料
35-133 22	SI34	床直	ⅣB4	19.8	胴上部 17.5	7.5	砂粒1mm ～2mm	良好	7.5YR7/4 にぶい橙 7.5YR7/4 にぶい橙	口縁LR横位、胴部縦位 横位・縦位ミガキ	内・外面 炭化物
35-134 34－1	SI34	埋土	ⅣB6				砂粒1mm ～4mm	良好	10YR8/3 浅黄橙 10YR8/3 浅黄橙	縄文原体RL(縦走) 3mm～5mmの横位ミガキ	
35-135 34－1	SI34	埋土	ⅣC11				砂粒1mm ～2mm	良好	10YR8/4 浅黄橙 10YR8/4 浅黄橙	沈線2条、口唇下刻目 横位ミガキ	
35-136 34－1	SI34	埋土	ⅡA4b				砂粒1mm ～3mm	良好	7.5YR5/2 灰褐 7.5YR3/1 黒褐	縄文原体LR縦位回転施文 横位ナデ	141と 同一
35-137 34－1	SI34	埋土	ⅡA2a				砂粒1mm ～2mm	良好	10YR8/3 浅黄橙 2.5Y8/3 淡黄	地文LR→沈線文(太) 横位ナデ	口唇下指 頭圧痕
35-138 34－1	SI34	埋土	ⅣC11				砂粒1mm ～2mm	良好	7.5YR5/2 灰褐 7.5YR6/3 にぶい褐	縄文原体LR斜位回転施文 横位ナデ→横位ミガキ	外面炭化 物付着
35-139 34－1	SI34	埋土	ⅡA7				砂粒1mm 多量	良好	10YR8/4 浅黄橙 10YR8/3 浅黄橙	縄文原体LR縦位回転施文 縦位ナデ	外面炭化 物付着
35-140 34－1	SI34	埋土	ⅡA7				砂粒1mm ～2mm	良好	10YR6/2 灰黄褐 10YR7/4 にぶい黄橙	縄文原体RL縦位回転施文 縦位ミガキ	
35-141 34－1	SI34	埋土	ⅡA4b				砂粒1mm ～4mm	良好	7.5YR7/4 にぶい橙 7.4YR6/4 にぶい橙	縄文原体LR縦位回転施文 縦位ミガキ	136と 同一
35-142 34－1	SI34	埋土	ⅡA6			(8.2)	砂粒1mm ～3mm	良好	10YR8/3 浅黄橙 10YR8/3 浅黄橙	縦位ナデ ナデ	
35-143 34－1	SI34	床直	ⅡA6			(8.2)	砂粒1mm ～2mm	良好	10YR8/3 浅黄橙 10YR7/2 にぶい黄橙	横位ナデ 横位ナデ	
35-144 22	SI60	埋土	ⅣB6		胴上部 20.4	7.6	砂粒1mm ～2mm	良好	5YR6/6 橙 5YR5/4 にぶい赤褐	沈線1条、LR横位、斜位 横位ナデ→横位ミガキ	内・外面 炭化物
36-145 22	SI60	床直	ⅣB3	波頂部 25.9	胴上部 25.1	8.8	砂粒1mm ～4mm	良好	2.5Y8/3 淡黄 10YR6/3 にぶい黄橙	口縁無文、胴部原体LR 横位ナデ	炭化物赤 色顔料
36-146 23	SI60 炉	埋土	ⅣI			8.3	砂粒2mm 多量	良好	10YR7/6 明黄褐 10YR7/6 明黄褐	縄文原体LR横位回転施文 横位ナデ、摩滅著しい	
36-147 23	SI60 炉	埋設	ⅣI			10.2	砂粒1mm ～5mm	良好	10YR7/6 明黄褐 7.5YR7/6 橙	縄文原体LR縦位回転施文 横位ナデ、摩滅著しい	
36-148 23	SI60	埋土	ⅣB6		胴上部 (26.4)	8.0	砂粒1mm 砂質強	良好	5YR6/6 橙 5YR5/6 明赤褐	縄文原体RL横位・斜位 横位ナデ	内・外面 炭化物
36-149 35－1	SI60	床直	ⅣB6				砂粒1mm ～2mm	良好	2.5Y8/4 淡黄 10YR7/3 にぶい黄橙	口縁無文、沈線1条、LR 沈線1条→横位ミガキ	

第６表　土器観察表(5)

法量（　）は推定値

挿図 図版	出土地点	層位	分類	法量(cm) 器高	最大径	底径	胎土	焼成	色調 外面 内面	文様・調整 外面 内面	備考
37-150 23	ＳＩ60	床直	Ⅳ B 6		胴上部 (18.4)		砂粒１mm 多量	良好	５ＹＲ7/4 にぶい橙 ５ＹＲ7/4 にぶい橙	口縁無文、ＬＲ横位縄文 横位・斜位ミガキ	炭化物赤色顔料
37-151 23	ＳＩ60	攪乱	Ⅳ C 10	波頂部 11.9	胴上部 14.0	7.4	砂粒１mm 若干	良好	10ＹＲ8/3 浅黄橙 10ＹＲ8/3 浅黄橙	ＲＬ→沈線→貼瘤→沈線→ ミガキ　沈線１条→ミガキ	黒塗(？) 赤色顔料
37-152 23	ＳＩ60	床直	Ⅳ D 1	5.8	胴上部 (14.8)	6.4	砂粒１mm ～４mm	良好	10ＹＲ6/2 灰黄褐 7.5ＹＲ7/2 明褐灰	ＬＲ→変形工字文→貼瘤→ 沈線→ミガキ　沈線１条	内・外面炭化物
37-153 23	ＳＩ60	床直	Ⅳ D 2	10.3～ 9.6	胴上部 15.8	8.8	砂粒１mm 若干	良好	10ＹＲ8/3 浅黄橙 10ＹＲ7/4 にぶい黄橙	変形工字文→貼瘤→沈線→ ミガキ　沈線１条→ミガキ	黒塗(？) 赤色顔料
37-154 35－１	ＳＩ60	埋土	Ⅳ B 6				砂粒１mm 若干	良好	10ＹＲ7/3 にぶい黄橙 10ＹＲ7/3 にぶい黄橙	沈線文４条、ＲＬ充塡→ミ ガキ　横位ミガキ	内・外面炭化物
37-155 35－１	ＳＩ60	埋土	Ⅳ B 6				砂粒１mm 若干	良好	10ＹＲ4/2 灰黄褐 10ＹＲ5/2 灰黄褐	沈線文２条、ＲＬ充塡→ミ ガキ　横位ミガキ	154と 同一
37-156 35－１	ＳＩ60	埋土	Ⅳ C 11				砂粒１mm ～２mm	良好	7.5ＹＲ7/4 にぶい橙 7.5ＹＲ7/4 にぶい橙	地文ＬＲ、口唇部肥厚 横位ミガキ	157と 同一
37-157 35－１	ＳＩ60	埋土	Ⅳ C 11				砂粒１mm ～２mm	良好	7.5ＹＲ7/4 にぶい橙 7.5ＹＲ7/4 にぶい橙	口唇部を平坦に整形したた め外面に粘土が肥厚	156と 同一
37-158 35－１	ＳＩ60	埋土	Ⅳ C 11				砂粒１mm 多量	良好	10ＹＲ4/1 褐灰 10ＹＲ4/1 褐灰	ＲＬ、沈線３条→ミガキ 横位ミガキ	
37-159 35－１	ＳＩ60	フク土	Ⅳ C 11				砂粒１mm 多量	良好	7.5ＹＲ7/4 にぶい橙 7.5ＹＲ5/3 にぶい褐	ＲＬ、沈線４条→ミガキ 横位ミガキ	
37-160 35－１	ＳＩ60	フク土	Ⅳ C 11				砂粒１mm ～２mm	良好	10ＹＲ3/1 黒褐 7.5ＹＲ5/3 にぶい褐	ＲＬ→沈線３条→ミガキ 横位ミガキ	外面炭化物付着
37-161 35－１	ＳＩ60	フク土	Ⅳ G 5				砂粒１mm 多量	良好	7.5ＹＲ8/3 浅黄橙 10ＹＲ8/3 浅黄橙	変形工字文→貼瘤→沈線→ ミガキ　ミガキ	
37-162 23	ＳＩ60	床直	Ⅳ F 2		胴部 11.3	6.7	砂粒１mm 若干	良好	10ＹＲ8/4 浅黄橙 10ＹＲ8/3 浅黄橙	無文、黒塗→赤色顔料 ナデ、赤色顔料	
37-163 23	ＳＩ60	攪乱	Ⅳ F 3		胴部 (11.0)	(6.8)	砂粒１mm 若干	良好	10ＹＲ8/4 浅黄橙 10ＹＲ7/2 にぶい黄橙	頸部沈線１条、黒塗 横位ナデ、頸部ミガキ	赤色顔料 可能性有
38-164 23	ＳＩ61	床直	Ⅳ A 1		胴上部 13.9		砂粒１mm 多量	普通	10ＹＲ8/2 灰白 10ＹＲ6/2 灰黄橙	口縁ナデ(指)、ＬＲ横位・ 斜位回転　横位ナデ	
38-165 23	ＳＩ61	床直	Ⅳ A 2		胴上部 11.9		砂粒１mm 多量	普通	10ＹＲ8/3 浅黄橙 10ＹＲ8/3 浅黄橙	口縁横位ナデ(指)、ＬＲ横 位回転　横位ナデ	口唇部小 波状
38-166 23	ＳＩ61	床直	Ⅳ A 2		胴上部 (12.3)		砂粒１mm 多量	普通	10ＹＲ8/3 浅黄橙 10ＹＲ7/2 にぶい黄橙	口縁横位ナデ(指)、ＬＲ横 位回転　横・斜位ナデ	口唇部小 波状
38-167 23	ＳＩ61	床直	Ⅳ C 11		胴上部 10.2		砂粒１mm 多量	普通	10ＹＲ7/4 にぶい黄橙 10ＹＲ6/3 にぶい黄橙	Ｔ字文→ＬＲ横位、ナデ 横位ナデ→ミガキ	
38-168 23	ＳＩ61	床直	Ⅳ C 11		胴上部 11.0		砂粒１mm 多量	普通	10ＹＲ7/3 にぶい黄橙 10ＹＲ8/4 浅黄橙	沈線→貼瘤→沈線→ＬＲ→ ミガキ　横位ナデ→ミガキ	突起６単 位、刻目
38-169 35－２	ＳＩ61	床直	Ⅳ C 11		胴上部 (15.6)		砂粒１mm 多量	普通	10ＹＲ7/4 にぶい黄橙 10ＹＲ8/4 浅黄橙	原体ＬＲ横位、頸部無文 横位ナデ	
38-170 23	ＳＩ61	床直	Ⅳ A 5		口縁部 16.4		砂粒１mm 多量	普通	10ＹＲ8/2 灰白 10ＹＲ7/2 にぶい黄橙	沈線→貼瘤→沈線→ＬＲ→ ミガキ　横位ナデ→ミガキ	
38-171 23	ＳＩ61	床直	Ⅳ C 11		胴上部 (23.0)		砂粒１mm 多量	普通	10ＹＲ5/3 にぶい黄褐 10ＹＲ7/3 にぶい黄橙	縄文原体ＬＲ横位回転施文 横ナデ	174・175 と同一
38-172 23	ＳＩ61	床直	Ⅳ C 1 b		胴上部 9.6		砂粒１mm 多量	普通	10ＹＲ8/3 浅黄橙 10ＹＲ8/3 浅黄橙	地文無文、平行沈線文 横位ナデ	
38-173 24	ＳＩ61	床直	Ⅳ C 1 a	7.0	胴上部 10.5	2.8	砂粒１mm 多量	普通	10ＹＲ8/4 浅黄橙 10ＹＲ8/4 浅黄橙	地文無文、工字文４単位 横位ナデ	
38-174 35－２	ＳＩ61	床直	Ⅳ C 11				砂粒１mm 多量	普通	10ＹＲ5/2 灰黄褐 10ＹＲ6/3 にぶい黄橙	口唇部小波状、平行沈線 横位ナデ	171と 同一
38-175 35－２	ＳＩ61	床直	Ⅳ C 11				砂粒１mm 多量	普通	10ＹＲ7/4 にぶい黄橙 10ＹＲ7/4 にぶい黄橙	山形小突起、平行沈線 横位ナデ	171と 同一
38-176 35－２	ＳＩ61	床直	Ⅳ C 11				砂粒１mm 多量	普通	10ＹＲ7/3 にぶい黄橙 10ＹＲ7/4 にぶい黄橙	口唇部小波状、平行沈線２ 条、ＬＲ縦位　横位ナデ	
38-177 35－２	ＳＩ61	床直	Ⅳ B 6				砂粒１mm 多量	普通	10ＹＲ8/4 浅黄橙 10ＹＲ7/3 にぶい黄橙	口縁無文ナデ、ＬＲ横位 横位ナデ	
38-178 35－２	ＳＩ61	床直	Ⅳ C 11				砂粒１mm 多量	普通	10ＹＲ6/4 にぶい黄橙 10ＹＲ6/4 にぶい黄橙	縄文原体ＬＲ横位回転施文 横位ナデ	
39-179 24	ＳＩ61	床直	Ⅳ C 11		胴上部 (13.4)		砂粒１mm 多量	普通	10ＹＲ8/3 浅黄橙 10ＹＲ7/2 にぶい黄橙	原体ＬＲ横位→口縁ナデ 横位ナデ	
39-180 24	ＳＩ61	埋土	Ⅳ C 2		胴上部 (12.0)	5.4	砂粒１mm 多量	普通	10ＹＲ8/3 浅黄橙 10ＹＲ7/3 にぶい黄橙	地文無文、平行沈線文 沈線１条、横位ミガキ	
39-181 24	ＳＩ61 石囲炉	埋土	Ⅳ I			10.2	砂粒１mm ～４mm	良好	7.5ＹＲ6/6 橙 10ＹＲ8/3 浅黄橙	ＬＲ横位・斜位回転施文 横位ナデ、摩滅著しい	
39-182 24	ＳＩ61	床直	Ⅳ B 2 a	27.3～ 28.7	胴上部 23.5	8.8	砂粒１mm ～４mm	良好	7.5ＹＲ6/6 橙 7.5ＹＲ6/3 橙	突起７単位、原体ＬＲ斜位 (縦走)　横位ナデ、ミガキ	内・外面 炭化物
39-183 24	ＳＩ61	床直	Ⅳ A 4 a	24.2～ 25.1	胴上部 18.6	8.2	砂粒１mm ～２mm	良好	10ＹＲ8/4 浅黄橙 10ＹＲ8/4 浅黄橙	原体ＬＲ→口縁ナデ、ミガ キ(無文)　横・斜位ミガキ	底面ミガ キ
39-184 24	ＳＩ61	床直	Ⅳ A 4 a	22.7	胴上部 18.0	8.3	砂粒１mm ～２mm	良好	10ＹＲ8/2 灰白 10ＹＲ8/3 浅黄橙	原体ＬＲ→口縁ナデ、ミガ キ(無文)　横・斜位ミガキ	底面ミガ キ
40-185 24	ＳＩ61 炉	埋設	Ⅳ I			8.2	砂粒１mm ～３mm	良好	7.5ＹＲ6/6 橙 7.5ＹＲ6/6 橙	縄文原体ＬＲ横位回転施文 横位ナデ、摩滅著しい	
40-186 24	ＳＩ61	床直	Ⅳ I			8.2	砂粒１mm ～２mm	良好	５ＹＲ6/6 橙 7.5ＹＲ7/6 橙	縄文原体ＬＲ横位回転施文 横位ミガキ	外面炭化 物付着

第7表　土器観察表(6)

法量（　）は推定値

挿図 図版	出土地点	層位	分類	法量(cm) 器高	最大径	底径	胎土	焼成	色調	外面 内面	文様・調整	外面 内面	備考
40-187 24	S I 61	床直	Ⅳ C 6		胴上部 15.4		砂粒1mm ～2mm	良好	7.5YR6/6 10YR6/6	橙 明黄褐	LR、平行沈線2条→ミガキ 横位ミガキ		7単位の小突起
40-188 24	S I 61	床直	Ⅳ C 9	波頂部 13.5	胴部 15.6	7.3	砂粒1mm ～2mm	良好	10YR7/6 10YR7/4	明黄褐 にぶい黄橙	LR充填、沈線→貼瘤→沈線→ミガキ 横位ミガキ		外面赤色顔料
40-189 24	S I 61	床直	Ⅳ B 6		胴部 (15.8)		砂粒1mm 多量	良好	10YR6/4 7.5YR7/6	にぶい黄橙 橙	RL(縦走)→沈線→貼瘤→沈線→ミガキ 沈線1条		6単位の小突起
40-190 24	S I 61	床直	Ⅳ C 3	13.6	胴上部 (14.2)	7.0	砂粒1mm ～2mm	良好	5YR5/6 5YR5/6	明赤褐 明赤褐	RL→ナデ(口縁)→沈線1条 横位ナデ、ミガキ		
40-191 24	S I 61	埋土	Ⅳ C 4	16.4	胴上部 19.4	8.5	砂粒1mm ～2mm	良好	10YR7/4 10YR7/4	にぶい黄橙 にぶい黄橙	LR充填、平行沈線2条→ナデ 横位ナデ、ミガキ		底面ミガキ
41-192 24	S I 61	埋土	Ⅳ E 1	波頂部 12.0	胴上部 12.2	台部 6.0	砂粒1mm 少量	良好	7.5YR7/6 10YR6/6	橙 橙	LR→平行沈線2条→ミガキ 横位・斜位ミガキ		
41-193 25	S I 61	埋土	Ⅳ D 8			9.0	砂粒1mm 金雲母	良好	5YR6/6 5YR6/6	橙 橙	LR→平行沈線→ミガキ 横位ミガキ		底面ミガキ
41-194 25	S I 61	埋土	Ⅳ F 1		胴部 10.0		砂粒1mm 少量	良好	10YR6/4 7.5YR5/4	にぶい黄橙 にぶい褐	ハケ目状→黒塗→赤色顔料 横位ナデ		
41-195 25	S I 61	床直	Ⅳ F 4	14.7	胴部 12.9	6.4	砂粒1mm 少量	良好	10YR8/4 10YR8/4	浅黄橙 浅黄橙	沈線→掻瘤→ミガキ ナデ→ミガキ		瘤5単位
41-196 25	S I 61	床直	Ⅳ F 5		胴部 19.3	6.4	砂粒1mm ～3mm	良好	10YR8/3 10YR7/3	浅黄橙 にぶい黄褐	頸部沈線1条→ミガキ 横位・縦位ナデ、指頭圧痕		
41-197 25	S I 61	床直	Ⅳ H 4	5.0	胴上部 8.0	5.2	砂粒1mm 多量	良好	10YR8/4 10YR7/6	浅黄橙 明黄褐	R撚横位回転→口縁ナデ 横位ナデ		
41-198 25	S I 61	床直	Ⅳ H 5	波頂部 5.5	胴上部 7.0	4.5	砂粒1mm 多量	良好	7.5YR7/6 10YR7/4	橙 にぶい黄褐	LR→平行沈線5条→ナデ 横位ナデ		成形巻き上げ
41-199 25	S I 61	床直	Ⅳ G 2	12.8	胴上部 19.6	脚部 10.9	砂粒1mm 金雲母	良好	7.5YR5/6 10YR5/6	明褐 黄褐	LR充填、変形工字文→ミガキ　沈線1条、底面円文		内・外面赤色塗料
41-200 35－2	S I 61	埋土	Ⅳ B 6				砂粒1mm 多量	良好	5YR6/6 10YR6/6	橙 明黄褐	RL→沈線→ミガキ 横位ナデ		189と同一
41-201 35－2	S I 61	埋土	Ⅳ B 6				砂粒1mm 多量	良好	5YR6/6 7.5YR7/4	橙 にぶい橙	RL→沈線→貼瘤→沈線→ミガキ 沈線1条		189と同一
41-202 35－2	MA52	I	Ⅳ B 6				砂粒1mm 多量	良好	7.5YR8/4 10YR7/4	浅黄橙 にぶい黄橙	RL、沈線→貼瘤→沈線→ナデ 横位ナデ、ミガキ		遺構外
41-203 35－2	S I 61	埋土	Ⅳ C11				砂粒1mm 多量	良好	5YR6/6 7.5YR7/4	橙 にぶい橙	RL(縦走)→沈線 横位ナデ、ミガキ		189と同一
41-204 35－2	S I 61	埋土	Ⅳ B 6				砂粒1mm 多量	良好	5YR6/6 10YR2/1	橙 黒	沈線→貼瘤→沈線→ミガキ 横位ナデ		189と同一
41-205 35－2	S I 61	床直	Ⅱ A 3 a				砂粒1mm ～3mm	良好	10YR7/3 10YR7/3	にぶい黄橙 にぶい黄橙	地文原体LR→沈線文(太) 縦位ナデ		
42-206 25	S N47	焼土下	Ⅳ B 1 b	15.1	胴上部 (14.8)	6.6	砂粒1mm 多量	良好	10YR7/6 10YR7/4	明黄褐 にぶい黄橙	平行沈線→貼瘤→LR充填→ミガキ 横位ミガキ		213と同一
42-207 25	S N47	焼土下	Ⅳ A 4 b	21.5	胴上部 (17.6)	7.6	砂粒1mm ～2mm	良好	10YR8/4 10YR8/4	浅黄橙 浅黄橙	縄文原体LR横位回転施文 横位ミガキ		底面ミガキ
42-208 25	S N47	確認面	Ⅳ D 4 a	5.5	口縁部 13.6	6.4	砂粒1mm ～2mm	良好	7.5YR6/6 7.5YR6/6	橙 橙	RL充填、沈線→貼瘤→沈線→ミガキ 沈線1条		
42-209 25	S N52	確認面	Ⅳ B 1 a	21.2～ 24.4	胴部 20.2	9.0	砂粒1mm 多量	良好	2.5Y8/3 2.5Y8/3	淡黄 淡黄	LR→口縁ナデ(無文) 横位ナデ、ミガキ		
42-210 36－1	S N52	確認面	Ⅳ I			6.4	砂粒1mm ～2mm	良好	7.5YR6/6 7.5YR6/6	橙 橙	縄文原体RL横位回転施文 ミガキ		底面ミガキ
42-211 36－1	S N52	確認面	Ⅳ A 7				砂粒2mm 多量	良好	7.5YR6/6 7.5YR6/6	橙 橙	縄文原体LR横位回転施文 横位ナデ		
43-212 25	S N52	確認面	Ⅳ F 5	25.6	胴部 19.0	6.0	砂粒1mm 少量	良好	10YR8/4 10YR7/3	浅黄橙 にぶい黄橙	沈線→貼瘤→沈線→ミガキ 沈線1条、横位ナデ		内面指頭圧痕有
43-213 36－1	S N56	焼土下	Ⅳ B 1 b			(7.0)	砂粒1mm ～2mm	良好	10YR5/2 7.5YR5/4	灰黄褐 にぶい褐	縄文原体LR横位回転施文 横位ミガキ		内面炭化物付着
43-214 36－1	S Q49	埋土	Ⅱ A 3 a				砂粒1mm ～2mm	良好	7.5YR7/6 10YR8/4	橙 浅黄橙	地文無文、曲線文(太) 縦位ミガキ		外面炭化物付着
43-215 36－1	S Q49	埋土	Ⅱ A 3 a				砂粒1mm 多量	良好	10YR8/3 10YR8/3	浅黄橙 浅黄橙	LR→平行沈線→曲線文 縦位ミガキ		外面炭化物付着
43-216 25	S Q49	埋土	Ⅱ C a		胴部 (41.0)		砂粒1mm ～3mm	良好	10YR8/4 10YR8/4	浅黄橙 浅黄橙	隆帯貼付(方形区画)→曲線文→LR充填　横位ナデ		橋状把手4単位
43-217 36－1	S Q50	埋土	Ⅳ D 8				砂粒1mm 若干	良好	10YR7/4 10YR7/4	にぶい黄橙 にぶい黄橙	沈線→貼瘤→沈線→ミガキ 口唇1条、内面2条の沈線		突起刻目
44-218 26	S I 18 カマド	埋土	V A 1	(32.2)	口縁部 21.3	7.0	砂粒1mm ～5mm	良好	7.5YR8/4 7.5YR7/6	浅黄橙 橙	粗いケズリ→横ナデ(口縁) 横位ハケ目、横ナデ(口縁)		底面木葉痕
44-219 26	S I 32	埋土	Ⅳ C 8	波底部 9.1	胴部 10.4	4.4	砂粒1mm 多量	良好	10YR7/6 10YR6/4	明黄橙 にぶい黄橙	平行沈線→LR充填→ミガキ 横位ナデ、ミガキ		
44-220 36－1	S I 32	埋土	Ⅳ D 8				砂粒1mm 若干	良好	10YR7/4 10YR7/4	にぶい黄橙 にぶい黄橙	沈線→貼瘤→沈線→ミガキ ミガキ		底面ミガキ
44-221 26	S I 32	埋土	Ⅳ D 5	波頂部 6.8	口縁部 (18.0)	(8.0)	砂粒1mm 若干	良好	7.5YR6/6 7.5YR6/6	橙 橙	沈線→貼瘤→沈線→ミガキ 口唇1条、内面1条沈線		内・底面ミガキ
44-222 36－1	S I 32	埋土	Ⅳ C11				砂粒1mm 多量	良好	10YR6/4 10YR4/2	にぶい黄橙 灰黄褐	平行沈線→LR充填→ミガキ 横位ナデ、ミガキ		外面炭化物付着
44-223 36－1	S I 32	埋土	Ⅳ G 5				砂粒1mm ～2mm	良好	7.5YR6/6 10YR6/4	橙 にぶい黄橙	沈線3条1単位の波状文 斜位ナデ、ミガキ		内面赤色顔料

第８表　土器観察表(7)

法量（　）は推定値

挿図 図版	出土地点	層位	分類	法量(cm) 器高	最大径	底径	胎土	焼成	色調 外面 内面	文様・調整 外面 内面	備考
44-224 36－2	ＳＩ32	埋土	ⅣＧ5				砂粒１mm ～２mm	良好	7.5ＹＲ6/6 10ＹＲ6/4	橙 にぶい黄橙	沈線３条１単位の波状文 斜位ナデ、ミガキ	223と同一
44-225 36－2	ＳＩ32	埋土	ⅡＡ1ｃ				砂粒１mm ～３mm	良好	10ＹＲ6/4 2.5ＹＲ8/3	にぶい黄橙 淡黄	地文原体ＬＲ→沈線文(太) 横位ミガキ	外面炭化物付着
44-226 36－2	ＳＩ32	埋土	ⅡＦ	厚 1.0	3.8		砂粒１mm ～２mm	良好	10ＹＲ6/3 10ＹＲ7/4	にぶい黄橙 にぶい黄橙	沈線状圧痕→ミガキ ミガキ	円盤状土製品
44-227 36－2	ＳＸ51	埋土 下	ⅣＩ			4.4	砂粒１mm ～３mm	良好	7.5ＹＲ7/4 10ＹＲ6/3	にぶい橙 にぶい黄橙	木目状圧痕、横位ミガキ 横位ミガキ	
44-228 36－2	ＳＸ51	埋土 下	ⅡＡ1ａ				砂粒１mm ～２mm	良好	10ＹＲ7/3 10ＹＲ6/2	にぶい黄橙 灰黄褐	地文Ｌ撚→沈線文(太) 横位ミガキ	
44-229 36－2	ＳＸ51	埋土 下	ⅡＡ3ａ				砂粒１mm 多量	良好	2.5Ｙ8/3 2.5Ｙ8/3	淡黄 淡黄	平行沈線→原体ＬＲ充填 横位ナデ	
44-230 36－2	ＳＸ51	埋土 下	ⅡＡ7				砂粒１mm ～４mm	良好	10ＹＲ7/4 7.5ＹＲ5/4	にぶい黄橙 にぶい褐	絡条体Ｒ撚縦位回転施文 縦位ミガキ	外面炭化物付着
45-231 37－1	ＭＡ59	Ⅳ	ⅠＡａ				砂粒１mm 少量	良好	10ＹＲ6/2 10ＹＲ6/3	灰黄褐 にぶい黄橙	原体ＬＲＬ横位回転施文 横位条痕	繊維土器
45-232 37－1	ＭＡ58	Ⅳ	ⅠＡａ				砂粒１mm 少量	良好	10ＹＲ7/4 10ＹＲ7/3	にぶい黄橙 にぶい黄橙	原体ＬＲＬ横位回転施文 横位条痕	繊維土器
45-233 37－1	ＭＡ58	Ⅳ	ⅠＡａ				砂粒１mm ～２mm	良好	10ＹＲ6/2 10ＹＲ5/2	灰黄橙 灰黄橙	原体ＬＲＬ横位回転施文 斜位条痕	繊維土器
45-234 37－1	ＭＡ58	Ⅳ	ⅠＡａ				砂粒１mm ～２mm	良好	10ＹＲ6/3 10ＹＲ5/2	にぶい黄橙 灰黄橙	原体ＬＲＬ横位回転施文 斜位条痕	繊維土器
45-235 37－1	ＭＡ59	Ⅳ	ⅠＡａ				砂粒１mm 少量	良好	10ＹＲ6/4 10ＹＲ7/3	にぶい黄橙 にぶい黄橙	縄文原体ＬＲＬ 斜位条痕	繊維土器
45-236 37－1	ＭＡ56	Ⅳ	ⅠＡａ				砂粒１mm ～２mm	良好	10ＹＲ6/4 2.5Ｙ7/3	にぶい黄橙 浅黄	原体ＬＲＬ横位回転施文 斜位条痕	繊維土器
45-237 37－1	ＭＡ58	Ⅳ	ⅠＡａ				砂粒１mm ～２mm	良好	10ＹＲ7/3 10Ｙ7/3	にぶい黄橙 にぶい黄橙	原体ＬＲＬ横位回転施文 斜位条痕	繊維土器
45-238 37－1	ＭＡ58	Ⅳ	ⅠＡａ				砂粒１mm 若干	良好	7.5ＹＲ7/6 10Ｙ7/3	橙 にぶい黄橙	原体ＬＲＬ横位回転施文 横位条痕	繊維土器
45-239 37－1	ＭＡ58	Ⅳ	ⅠＡａ				砂粒２mm 若干	良好	7.5ＹＲ7/4 2.5Ｙ7/4	にぶい橙 浅黄	原体ＬＲＬ横位回転施文 横位・斜位条痕	繊維土器
45-240 37－1	ＭＡ58	Ⅳ	ⅠＡａ				砂粒１mm ～２mm	良好	10ＹＲ6/4 10ＹＲ5/2	にぶい黄橙 灰黄褐	原体ＬＲＬ横位回転施文 横位条痕	繊維土器
45-241 37－1	ＭＡ59	Ⅳ	ⅠＡａ				砂粒１mm 若干	良好	7.5ＹＲ6/3 10ＹＲ7/3	にぶい褐 にぶい黄褐	原体ＬＲＬ横位回転施文 斜位条痕	繊維土器
45-242 37－1	ＬＴ62	Ⅳ	ⅠＡａ			(7.2)	砂粒１mm ～２mm	良好	7.5ＹＲ7/4 10ＹＲ4/2	にぶい橙 灰黄褐	ＬＲＬ横位・斜位回転施文 縦位条痕	繊維土器
45-243 37－1	ＭＡ56	Ⅳ	ⅠＡｂ				砂粒１mm ～３mm	良好	10ＹＲ7/4 10ＹＲ7/4	にぶい黄橙 にぶい黄橙	原体ＬＲＬ横位回転施文 横位ナデ	244～246と同一
45-244 37－1	ＭＡ56	Ⅳ	ⅠＡｂ				砂粒１mm 少量	良好	10ＹＲ7/4 10ＹＲ7/4	にぶい黄橙 にぶい黄橙	原体ＬＲＬ斜位回転施文 縦位ナデ	繊維土器
45-245 37－1	ＭＡ56	Ⅳ	ⅠＡｂ				砂粒１mm ～２mm	良好	10ＹＲ7/4 10ＹＲ8/4	にぶい黄橙 浅黄橙	原体ＬＲＬ横位回転施文 斜位ナデ	繊維土器
45-246 37－2	ＭＡ56	Ⅳ	ⅠＡｂ				砂粒１mm 若干	良好	10ＹＲ7/4 10ＹＲ7/4	にぶい黄橙 にぶい黄橙	原体ＬＲＬ横位回転施文 横位ナデ	繊維土器
45-247 37－2	ＬＴ46	Ⅳ	ⅠＡｂ				砂粒１mm ～３mm	良好	7.5ＹＲ7/6 7.5ＹＲ7/4	橙 にぶい黄褐	原体ＬＲＬ斜位回転施文 縦位ナデ	繊維土器
45-248 37－2	ＭＡ58	Ⅳ	ⅠＡｂ				砂粒１mm ～２mm	良好	10ＹＲ7/4 10ＹＲ6/4	にぶい黄橙 にぶい黄橙	原体ＬＲＬ横位回転施文 横位ナデ	繊維土器
45-249 37－2	ＭＢ57	Ⅳ	ⅠＡｂ				砂粒１mm ～３mm	良好	10ＹＲ8/4 10ＹＲ7/2	浅黄橙 にぶい黄褐	原体ＬＲＬ斜位回転施文 横位ナデ	繊維土器
45-250 37－2	ＬＴ58	Ⅳ	ⅠＡｂ				砂粒１mm ～４mm	良好	2.5Ｙ8/3 2.5Ｙ6/2	淡黄 灰黄	原体ＬＲＬ横位回転施文 横位ナデ	252と同一
45-251 37－2	ＭＡ56	Ⅳ	ⅠＡｂ				砂粒１mm ～２mm	良好	7.5ＹＲ6/4 10Ｙ5/3	にぶい橙 にぶい黄橙	原体ＬＲＬ横位回転施文 横位ナデ	繊維土器
45-252 37－2	ＬＴ58	Ⅳ	ⅠＡｂ				砂粒１mm ～５mm	良好	10ＹＲ7/3 10ＹＲ7/3	にぶい黄橙 にぶい黄橙	原体ＬＲＬ横位回転施文 横位ナデ	繊維土器
45-253 37－2	ＭＡ57	Ⅳ	ⅠＡｂ				砂粒１mm ～２mm	良好	10ＹＲ7/3 10ＹＲ7/3	にぶい黄橙 にぶい黄橙	原体ＬＲＬ横位回転施文 横位ナデ	繊維土器
45-254 37－2	ＭＡ57	Ⅳ	ⅠＡｂ				砂粒１mm 少量	良好	10ＹＲ7/3 10ＹＲ6/3	にぶい黄橙 にぶい黄橙	原体ＬＲＬ横位回転施文 横位ナデ	繊維土器
45-255 37－2	ＭＡ47	Ⅳ	ⅠＡｂ			(6.8)	砂粒１mm ～３mm	良好	7.5ＹＲ7/6 7.5ＹＲ6/4	橙 にぶい橙	底面丁寧なミガキ	繊維土器
46-256 38－1	ＬＴ62	Ⅳ	ⅡＡ1ａ				砂粒１mm ～３mm	普通	10ＹＲ8/4 10ＹＲ8/4	浅黄橙 浅黄橙	地文ＬＲ→曲線文(太) 横位ナデ、ミガキ	
46-257 38－1	ＬＴ63	Ⅳ	ⅡＡ1ａ				砂粒１mm 多量	普通	10ＹＲ8/4 10ＹＲ7/4	浅黄橙 にぶい黄橙	地文ＬＲ→曲線文(太) 横位ミガキ	突起頂部に刺突文
46-258 38－1	ＬＴ62	Ⅳ	ⅡＡ1ａ				砂粒１mm ～２mm	普通	10ＹＲ8/4 10ＹＲ8/4	浅黄橙 浅黄橙	地文ＬＲ→曲線文(太) 横位ナデ	
46-259 38－1	ＬＳ63	Ⅳ	ⅡＡ1ａ				砂粒１mm ～３mm	普通	10ＹＲ8/4 10ＹＲ8/4	浅黄橙 浅黄橙	地文ＬＲ→沈線文(太) 横位ナデ	
46-260 38－1	ＬＴ42	Ⅳ	ⅡＡ1ａ				砂粒１mm 多量	普通	10ＹＲ8/4 10ＹＲ8/4	浅黄橙 浅黄橙	地文ＬＲ→沈線文(太) 横位ナデ	

第９表　土器観察表(8)

法量（　）は推定値

挿図 図版	出土地点	層位	分類	法量(cm) 器高	最大径	底径	胎土	焼成	色調 外面 内面	文様・調整 外面 内面	備考
46-261 38－1	ＬＳ51 ＬＴ51	Ⅳ	ⅡＡ１ｃ				砂粒１mm 少量	良好	10ＹＲ6/2 灰黄褐 10ＹＲ6/3 にぶい黄橙	地文ＬＲ→沈線文(太) 横位ナデ、ミガキ	突起頂部 刺突
46-262 38－1	ＭＡ51	Ⅰ	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm 少量	良好	7.5ＹＲ4/4 褐 7.5ＹＲ5/4 にぶい黄橙	地文ＬＲ→沈線文(太)→ミガキ 横位ミガキ	小突起上 刻目
46-263 38－1	ＬＴ62	Ⅳ	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm ～２mm	良好	10ＹＲ8/4 浅黄橙 2.5Ｙ8/4 淡黄	地文原体ＬＲ→沈線・曲線文(太) 横位ナデ	
46-264 38－1	ＬＳ38	Ⅰ	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm 多量	良好	10ＹＲ8/3 浅黄橙 10ＹＲ5/4 にぶい黄褐	地文ＲＬ→曲線文(太) 横位ナデ	内面炭化 物付着
46-265 38－1	ＭＡ45	Ⅰ	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm ～２mm	良好	10ＹＲ7/4 にぶい黄橙 7.5ＹＲ6/4 にぶい橙	沈線文(太)→ＬＲ充塡 横位ミガキ	
46-266 38－1	ＬＴ62	Ⅳ	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm 多量	良好	7.5ＹＲ6/4 にぶい黄橙 5ＹＲ4/2 灰褐	地文ＬＲ→沈線文(太) 横位ミガキ	
46-267 38－2	ＭＡ39	Ⅰ	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm 少量	良好	7.5ＹＲ6/4 にぶい黄橙 7.5ＹＲ6/4 にぶい橙	絡条体Ｒ撚→沈線文(太) 横位ミガキ	
46-268 38－2	ＭＡ46	Ⅳ	ⅡＡ１ａ				砂粒２mm ～３mm	良好	10ＹＲ7/3 にぶい黄橙 10ＹＲ8/4 浅黄橙	地文ＬＲ→沈線文(太) 横位ミガキ	
46-269 38－2	ＭＡ42	Ⅳ	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm ～３mm	良好	7.5ＹＲ5/3 にぶい褐 7.5ＹＲ7/4 にぶい橙	地文ＲＬ→曲線(太) 横位ミガキ	外面炭化 物付着
46-270 38－2	ＭＡ46	Ⅰ	ⅡＡ１ａ				砂粒２mm ～４mm	普通	2.5Ｙ8/3 淡黄 2.5Ｙ8/3 淡黄	地文ＲＬ→沈線文(太) 縦位ナデ、ミガキ	
46-271 38－2	ＬＳ57	Ⅳ	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm 多量	良好	10ＹＲ7/2 にぶい黄橙 7.5ＹＲ6/3 にぶい褐	地文ＬＲ→沈線文(太) 縦位ミガキ	内面炭化 物付着
46-272 38－2	ＬＴ40	Ⅳ	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm 少量	良好	2.5Ｙ8/3 淡黄 2.5Ｙ8/3 淡黄	絡条体Ｒ撚→沈線文(太) 縦位ミガキ	
46-273 38－2	ＬＳ48	Ⅳ	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm ～３mm	良好	7.5Ｙ6/4 にぶい橙 7.5Ｙ6/4 にぶい橙	少波状、沈線文(太) 横位ミガキ	外面炭化 物付着
46-274 38－2	ＬＳ51	Ⅳ	ⅡＡ１ａ				砂粒２mm 多量	良好	10ＹＲ8/3 浅黄橙 2.5Ｙ8/3 淡黄	地文ＬＲ→曲線文(太) 横位ミガキ	外面炭化 物付着
46-275 38－2	ＬＳ51	Ⅳ	ⅡＡ１ａ				砂粒２mm 多量	良好	10ＹＲ8/3 浅黄橙 2.5Ｙ8/3 淡黄	地文ＬＲ→曲線文(太) 横位ミガキ	274と 同一
46-276 38－2	ＬＲ51	Ⅳ	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm ～２mm	良好	10ＹＲ7/3 にぶい黄橙 10ＹＲ7/3 にぶい黄橙	地文Ｌ撚→沈線文(太) 横位ミガキ	外面炭化 物付着
46-277 38－2	ＬＳ60	Ⅳ	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm 多量	良好	10ＹＲ8/3 浅黄橙 2.5Ｙ8/3 淡黄	地文ＬＲ→沈線文(太) 横位ナデ	
46-278 38－2	ＬＴ50	Ⅳ	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm ～３mm	良好	7.5ＹＲ7/4 にぶい橙 7.5ＹＲ7/4 にぶい橙	地文ＬＲ→入組状文(太) 横位・斜位ミガキ	
46-279 38－2	ＬＴ62	Ⅳ	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm 少量	良好	10ＹＲ8/3 浅黄橙 7.5ＹＲ6/3 にぶい褐	地文ＬＲ→沈線文(太) 縦位ナデ	内・外面 炭化物
46-280 38－2	ＭＡ46	Ⅰ	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm 少量	良好	5ＹＲ6/6 橙 10ＹＲ8/4 浅黄褐	地文ＬＲ→曲線文(太) 横位ミガキ	外面炭化 物付着
46-281 38－2	ＬＳ57	Ⅳ	ⅡＡ１ａ				砂粒１mm 多量	良好	2.5ＹＲ8/3 淡黄 7.5ＹＲ7/3 にぶい橙	ＬＲ原体側面圧痕、無文帯 胴部ＬＲ 横位ミガキ	小突起上 刻目
47-282 26	ＭＡ56 ＭＡ59	Ⅳ	ⅡＡ１ｂ		胴部 (32.4)		砂粒１mm ～２mm	良好	7.5ＹＲ7/4 にぶい橙 7.5ＹＲ7/4 にぶい橙	口縁無文、曲線文(太)、胴部ＬＲ絡条体状→曲線文	文様区画 帯竹管文
47-283 26	ＭＡ56	Ⅳ	ⅡＡ１ｂ				砂粒１mm ～２mm	良好	7.5ＹＲ7/4 にぶい橙 7.5ＹＲ7/4 にぶい橙	ＬＲ絡条体状→曲線文 縦位ミガキ	282と 同一
47-284 26	ＬＳ59 ＬＲ51	Ⅳ	ⅡＡ１ｂ				砂粒１mm ～２mm	良好	7.5ＹＲ7/4 にぶい橙 7.5ＹＲ7/4 にぶい橙	ＬＲ絡条体状→曲線文 縦位ミガキ	282と 同一
47-285 26	ＭＡ56 ＭＡ59	Ⅳ	ⅡＡ１ｂ				砂粒１mm ～２mm	良好	7.5ＹＲ7/4 にぶい橙 7.5ＹＲ7/4 にぶい橙	無文→曲線文(太) 横位、縦位ミガキ	282と 同一
47-286 39－1	ＭＢ50	Ⅳ	ⅡＡ１ｃ				砂粒１mm 少量	良好	7.5ＹＲ4/3 灰橙 7.5ＹＲ6/3 にぶい褐	地文ＬＲ→沈線文(太) 横位ミガキ	口縁部ま で縄文
47-287 39－1	ＬＴ60	Ⅳ	ⅡＡ１ｃ				砂粒１mm 多量	良好	10ＹＲ8/4 浅黄橙 10ＹＲ5/2 灰黄褐	曲線状文→ＬＲ充塡 横位ミガキ	
47-288 39－1	ＬＲ51	Ⅳ	ⅡＡ１ｃ				砂粒１mm ～３mm	良好	7.5ＹＲ6/2 灰褐 7.5ＹＲ6/3 にぶい褐	地文ＬＲ→沈線文(太) 横位ミガキ	口縁部ま で縄文
47-289 39－1	ＬＳ57	Ⅳ	ⅡＡ１ｃ				砂粒１mm 少量	良好	10ＹＲ8/3 浅黄橙 7.5ＹＲ6/3 にぶい褐	地文ＬＲ→沈線文(太) 横位ミガキ	口唇竹管 と刻目
47-290 39－1	ＭＡ53	Ⅳ	ⅡＡ１ｃ				砂粒１mm ～２mm	良好	7.5ＹＲ7/4 にぶい橙 7.5ＹＲ7/4 にぶい橙	絡条体Ｌ撚→曲線文、原体ＬＲ側面圧痕２本	内面横位 ナデ
47-291 39－1	ＭＡ50	Ⅳ	ⅡＡ２ａ				砂粒１mm ～３mm	良好	10ＹＲ8/3 浅黄橙 10ＹＲ8/3 浅黄橙	地文ＬＲ→沈線文(太) 横位ミガキ	外面炭化 物付着
47-292 39－1	ＭＡ58	Ⅳ	ⅡＡ２ａ				砂粒１mm ～３mm	良好	7.5ＹＲ7/4 にぶい橙 7.5ＹＲ7/4 にぶい橙	地文ＬＲ→沈線文(太) 横位ナデ	291と 同一
47-293 39－1	ＭＡ56	Ⅳ	ⅡＡ２ａ				砂粒１mm ～３mm	良好	7.5ＹＲ7/4 にぶい橙 7.5ＹＲ7/4 にぶい橙	地文ＲＬ→沈線文(太) 横位ナデ	291と 同一
47-294 39－1	ＬＳ52	Ⅳ	ⅡＡ２ａ				砂粒１mm ～２mm	良好	7.5ＹＲ6/4 にぶい橙 5ＹＲ6/6 橙	地文ＬＲ→沈線文(太) 横位ミガキ	外面炭化 物付着
47-295 39－1	ＭＡ42	Ⅳ	ⅡＡ２ａ				砂粒１mm 多量	良好	10ＹＲ8/3 浅黄橙 10ＹＲ8/3 浅黄橙	沈線文(太)→ＲＬ充塡 縦位ミガキ	
47-296 39－1	ＭＡ53	Ⅴ	ⅡＡ２ａ				砂粒１mm 少量	良好	7.5ＹＲ6/4 にぶい橙 10ＹＲ8/4 浅黄橙	地文ＬＲ→沈線文(太) 横位ナデ	
47-297 39－1	ＭＡ58	Ⅳ	ⅡＡ２ａ				砂粒１mm 少量	良好	7.5ＹＲ7/4 にぶい橙 7.5ＹＲ7/4 にぶい橙	地文ＬＲ→沈線文(太)→ミガキ 横位ミガキ	